SICATFUNCTION

SICAT FUNCTION *バージョン 2.0.40*

取扱説明書 | 日本語 | Standalone

目次

1 使用目的と適応症 7

2 臨床的有用性 8

3 バージョン履歴 9

4 システム要件 11

5 安全に関する情報 14

5.1 危険レベルの定義 15

5.2 オペレーターの資格 16

6 使用するアイコンおよび強調 17

7 取扱説明書の概要 18

8 SICAT Suiteの概要 19

9 インストールの概要 21

10 SICATSuiteのセットアップを開始する 22

10.1 シングルユーザーのインストールとしてのローカルな患者データ管理を使用したインストール 24

10.2 サーバーおよびワークステーションのインストールとしてのサーバーに基づく患者データバンクを使用したインストール 26

10.3 SICAT Suite患者データベースをインストールする 30

10.3.1 シングルユーザーのインストールとしてのローカルな患者データ管理を使用したインストール 31

10.3.2 サーバーのインストールとしてのサーバーに基づく患者データバンクを使用したインストール 34

10.4 SICAT Suiteのインストール 39

11 OSアップデートの確認手順を実行する 42

12 SICAT Suiteの更新、修復 48

13 このバージョンでの特徴 49

14 SICAT Functionの標準ワークフロー 52

15 SICAT Suite をスタートする 57

16 SICAT Suiteのユーザーインターフェース 58

16.1 「SICAT Suiteホーム」ウインドウの概要 60

17 SICATのアプリケーションを相互に切り替える 62

18 取扱説明書を開く 63

19 ライセンス 64

19.1 「ライセンス」のウィンドウを開く 67

19.2 インターネット接続を使用してワークステーションライセンスを有効にする 68
19.3 ワークステーションライセンスを手動またはインターネットに接続せずに有効にする 70
19.4 ワークステーションライセンスをライセンスプールへ返却する 72
19.5 ネットワークライセンスを有効にする 74
20 患者データバンク 76
20.1 「患者データバンク」ウィンドウを開く 78
20.2 患者データバンクへの接続を追加する 79
20.2.1 ローカル接続を追加する 81
20.2.2 サーバーへの接続を追加する 82
20.3 別の患者データバンクを有効にする 84
20.4 患者データバンクへの接続を削除する 86
20.5 SICAT Suiteバージョン2.0.20以前からの患者ファイルの適用 87
21 データインポート 89
21.1 対応しているDICOMフォーマット 92
21.2 インポートするデータを選択する 93
21.3 インポートオプションの選択 95
21.4 データインポートによる新しい患者ファイルの作成 96
21.5 既存の患者ファイルにデータを割り当てる 97
22 患者ファイル 100
22.1 「患者ファイル概要」ウインドウを開く 101
22.2 患者ファイルを検索して並べ替える 102
22.3 患者ファイルを扱う 104
22.4 患者ファイルの特性を変更する 106
22.5 患者ファイル概要から3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開く 108
22.6 SICAT FunctionでのSICAT Air撮影結果 111
22.7 患者ファイルを閉じ、それに含まれる計画プロジェクトを保存する 114
22.8 患者ファイルを削除する 115
22.9 患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除 117
22.10 Abgelaufene Sperre einer Patientenakte aufheben 119
23 SICAT Functionのユーザーインターフェース 120
23.1 ワークフローのツールバー 122
23.2 オブジェクトバー 124
23.3 オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 126
23.4 オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 128
23.5 SICAT Functionオブジェクト 130

24 ワークスペース 132
24.1 パノラマワークスペースの概要 133
24.2 TMJワークスペースに関する概要 135
24.3 MPR/放射性ワークスペースの概要 137
24.4 ワークスペースを切り替える 138
24.5 アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット 139
24.6 ワークスペースのスクリーンショットを作成する 140
25 ビュー 141
25.1 ビューの調整 142
25.2 アクティブなビューの切り替え 144
25.3 ビューの最大化および復元 145
25.4 2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット 146
25.5 ビューのズームおよび切り抜きの移動 148
25.6 レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール 149
25.7 十字線およびフレームの移動、非表示、表示 150
25.8 検査ウィンドウの移動、非表示、表示、および最大化 151
25.9 ビューの傾斜 153
25.10ビューをリセットする 154
25.11画像のスクリーンショットを作成する 155
26 3Dビューの調整 156
26.1 3Dビューの目線を変更する 157
26.2 3Dビューの表示タイプ 159
26.3 3Dビューの表示タイプを切り替える 162
26.4 3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する 163
26.5 切り抜きを移動する 165
26.6 光学印象のカラー表示をオフ、およびオンにする 167
27 グレースケール値 168
27.1 グレースケール値を調整する 170
28 ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する 172
28.1 ボリュームの配置を調整する 174
28.2 パノラマ エリアを調整する 179
29 顎運動データ 183
29.1 互換性のある顎運動撮影機器 184
29.2 顎運動データをインポートして記録する 185
30 セグメンテーション 190
30.1 下顎骨をセグメントする 191

30.2 窩をセグメントする ... 194

31 光学印象 ... 197

31.1 光学印象をインポートする ... 199

31.1.1 Hubから光学印象をダウンロードする ... 200

31.1.2 ファイルから光学印象をインポートする ... 204

31.1.3 SICATアプリケーションからの光学印象を再使用する ... 207

31.2 光学印象の記録と確認 ... 209

32 解剖学的な咬合 ... 213

32.1 顎運動と連携する ... 214

32.2 3Dビューで運動の軌跡を表示する ... 217

32.3 検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する ... 218

32.4 レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する ... 219

33 TMJワークスペースの各種機能 ... 220

33.1 軌跡点を移動する ... 221

33.2 上下顎中切歯の交点をセットする ... 222

33.3 Bonwillの三角を利用する ... 223

33.4 セグメンテーション限度の表示 ... 224

33.5 下顎頭方向の運動を表示する ... 225

34 咬合器値 ... 226

34.1 下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む ... 230

34.2 下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む ... 232

35 距離/角度測定 ... 234

35.1 距離測定を追加する ... 235

35.2 角度測定を追加する ... 236

35.3 測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する ... 238

36 データエクスポート ... 240

36.1 「データの転送」ウィンドウを開く ... 241

36.2 データのエクスポート ... 242

37 注文プロセス ... 244

37.1 治療位置の設定 ... 245

37.2 スプリントをショッピングカートに入れる ... 247

37.3 カートを開く ... 251

37.4 カートをチェックして、注文プロセスを完了する ... 252

37.5 インターネット接続を使用した注文の終了 ... 253

37.6 SICATポータルでの注文手順 ... 254

37.7 SICAT WebConnector ... 255

37.8 インターネット接続を使用しない注文の終了 ... 257

38 設定 ... 261

38.1 一般設定の使用 ... 262

38.2 SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション ... 264

38.3 歯科医院情報の使用 ... 266

38.4 Hubの使用を有効または無効にする ... 267

38.5 可視化設定の変更 ... 269

38.6 SICAT Function設定の変更 ... 271

39 サポート ... 272

39.1 サポート態勢のページを開く ... 273

39.2 連絡先情報およびサポートツール ... 274

39.3 インフォメーション ... 275

40 データを書き込み禁止で開く ... 276

41 SICAT Functionを閉じる ... 277

42 SICAT Suiteを閉じる ... 278

43 ショートカットキー ... 279

44 SICAT Suiteのアンインストール ... 280

45 SICAT Suite患者データベースをアンインストールする ... 281

46 安全に関する注意事項 ... 283

47 精度 ... 290

用語集 ... 291

索引 ... 293

1 使用目的と適応症

使用目的

SICAT Functionは口腔顎顔面領域の画像情報の視覚化とセグメンテーションと顎運動の表示を行うソフトウェアです。画像情報は医療スキャナ（CT/CBCT/光学印象システムスキャナなど）で取得します。運動情報はコンダイログラフ装置などで取得します。SICAT Functionは、口腔顎顔面外科（MKG）領域における評価、診断、治療計画および咀嚼器官の問題の治療計画を行う資格のある歯科医をサポートするものです。計画データはSICAT Functionからエクスポートすることができ、治療の実施のために使用されます。

適応症

SICAT Functionは、次の診断や計画に使用するソフトウェアアプリケーションです。

- 口腔顎顔面領域における歯科診断のサポート
- 顎関節機能障害の場合の診断と治療計画のサポート
- スプリントによる診断と治療計画のサポート
- 機能回復のための診断と治療計画のサポート

禁忌

禁忌はありません。

ただし、SICAT Functionは、さまざまな医療用製品の使用を必要とする治療ワークフロー内で使用されます。これらの製品については、製造元の取扱説明書に従った禁忌を遵守する必要があります。

患者の対象グループ

患者の対象グループの除外基準はありません。

ただし、SICAT Functionは、さまざまな医療用製品の使用を必要とする治療ワークフロー内で使用されます。これらの製品については、製造元の取扱説明書に従った患者の対象グループを含む適応症を遵守する必要があります。

対象ユーザー

対象ユーザーは専門知識のある有資格者です。SICAT Functionでは、これらは歯科医です。

2 臨床的有用性

SICAT Functionの使用により、統合されたCTデータ、光学印象データ、および顎の動きのデータに基づいて、口腔顎顔面領域の診断/治療をサポートできます。測定された顎の動きと顎の位置は、CTデータと光学印象データに転送できます。患者ごとに異なる顎の位置、顎の動きと軌跡、および顎関節の位置などの診断/治療関連の情報を視覚化してエクスポートできます。

用途に即したSICAT Functionの使用によって、患者様が、様々なモダリティからの解剖学的な情報を個別に使用する代わりにそれらを組み合わせて使用することで、包括的な情報に基づく治療を可能にします。モダリティは、患者様固有の顎運動からの動的情報も含めた、正しい空間アライメントです。

3 バージョン履歴

バージョン2.0.40

- SICAT Suiteは、ローカルまたはサーバーに基づく患者データバンク（スタンドアロンバージョン）で操作できます。

バージョン2.0.20

- 自動データインポートによるパラメータ経由の呼出し（スタンドアロンバージョン）

バージョン2.0

- Hubは、光学印象をインポートおよび記録するための追加オプションとして利用できます。
- Sidexis 4にインポートされたSTLファイルは、光学印象のインポートと記録に使用できます。
- Hubからロードした場合、もしくはSIXDファイルからインポートした場合は、光学印象を色付けできます。
- アプリケーションごとに、ボリューム調整の修正とパノラマ曲線の調整を別々に設定できます。
- パノラマビューでは、検査ウィンドウを最大化することができます。
- パノラマワークスペースの横方向と縦方向のビューは傾斜させることができます。
- SICATアプリケーションは、ワークステーションライセンスまたはネットワークライセンスのどちらでもオプションで使用できます。
- SICAT Suiteは、Sidexis 4またはスタンドアロンと共に使用できます。

バージョン1.4

- SICATアプリケーションには登録要件の理由により、ビューアモードでもライセンスが必要です。アプリケーションをライセンスなしで使用することはできません。SICATは使用国で許可されているアプリケーションのビューアライセンスを顧客アクティベーションキーに自動的に追加します。任意のライセンスを無効にして再度有効にすることにより、ビューアライセンスを有効にすることができます。これに関する情報は*ライセンス [▶ページ 64]*を参照してください。
- 取扱説明書はスタンドアロン版内でもSIDEXIS XGプラグイン形式の使用時でもPDFファイルとして参照可能です。
- SICAT Functionで顎運動データから顎関節の仮想蝶番軸を算出することができます。
- SICAT Functionはボンウィル三角の辺の長さを表示し、バルクウィル角を計算します。

VERSION 1.3

- SIDEXIS 4のモジュールを追加
- 表記言語をイタリア語、スペイン語、ポルトガル語、オランダ語、ロシア語でサポート
- このバージョンより、SICAT FunctionのバージョンがSICAT Suiteのバージョン番号と一致
- 顎関節症治療用スプリントについて、石膏模型を製作してからの注文を選択可能とする
- **TMJ**- セグメント化した下顎頭の運動を表示するワークスペース
- セグメント化のウィンドウを閉じた後でも、セグメント化の編集を続行可能とする

バージョン1.1

- 表記言語をフランス語と日本語でサポート
- ボリュームの配置の補正機能を追加
- OPTIMOTION スプリントの注文
- 顎運動データのフォーマットを.jmt形式のファイルに変更
- 顎運動の軌跡とまとめて光学印象をエキスポートする機能を追加

バージョン1.0

- 初版発行
- 表記言語を英語とドイツ語でサポート

4 システム要件

⚠ **注意**

お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。

プロセッサー	クアッドコア 2.3 GHz（x64）以上
メインメモリ	8 GB
グラフィックカード	専用* DirectX 11以上 ビデオメモリ：2 GB 現行のドライバで、ウィンドウズ・ディスプレイ・ドライバ・メモリWDDM1.0以降のバージョンを使用できること
ディスプレイ	画面解像度：画素密度が100%～125%のとき、1920×1080ドット以上** 画面解像度：画素密度が100%～200%のとき、3840×2160ドット以下**
ハードディスクの空き容量	40 GB
記憶媒体	インストールファイルが保存された外部記憶媒体へのアクセス
入力装置	キーボード、マウス
ネットワーク	イーサネット、1 Gbit/s
患者教化用プリンター	300 dpi以上 紙形式はDIN A4またはUSレターサイズ
オペレーティングシステム	Windows 10（64ビット版、デスクトップ） Windows 11以上（アップデートを含む） これらのオペレーティングシステムは、マイクロソフト社がサポートを継続する期間内でサポートされます。

ウェブブラウザ	Microsoft Edge Mozilla Firefox Google Chrome JavaScriptが有効になっていること。 標準のブラウザに設定しておいてください。
PDFビューア	例えば、Adobe Reader DC以降のバージョン
Hub	バージョン2.X、バージョン2.1以降

データバンクサーバー	SQL Server Express 2019
ハードディスクの空き容量（サーバーに基づく患者データバンク）	1 TB、SSDを推奨
ハードディスクの空き容量（ローカルな患者データ管理）	100 GB

＊SICAT Suiteでご使用いただけるグラフィックカードは、パフォーマンスレベルがNVIDIA GeForce 960 GTXと同等か、または、それを上回る専用のものに限ります。統合グラフィックカードには対応していません。

**画面を低解像度にして画素密度を大きくとると、それが原因で、ユーザーインターフェースのある一部で、ソフトウェアの表示が不完全になることがあります。

ディスプレイは、SMPTEテスト画像が正確に表示されるように調整する必要があります。この調整に関する内容は、*SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション [▶ページ 264]*をご覧ください。

ソフトウェア要件

SICAT Suiteは、以下のソフトウェア・コンポーネントを必要としますが、これらコンポーネントが未インストールのときは、SICAT Suiteがインストールを行います：

- CodeMeterライセンス管理ソフト7.21a
- SQL Server Compact Edition 4.0
- SICAT WebConnector

SICAT WebConnectorはSICATサーバーとの通信用に特定のポートを必要とします。このポートはファイアウォール内でも有効にされている必要があります。

プロトコル	接続方向	ポート
HTTP	送信	80
HTTPS	送信	443

プロトコル	接続方向	ポート
FTPS管理	送信	21
FTPSデータ転送	送信	49152～65534

SICAT WebConnectorがなくても注文を実行することができます。これに関する情報は*注文プロセス [▶ページ 244]*を参照してください。

5 安全に関する情報

安全関連の章節を以下に挙げますが、お読みいただくことが大切です。

- *危険レベルの定義 [▶ページ 15]*
- *オペレーターの資格 [▶ページ 16]*
- *安全に関する注意事項 [▶ページ 283]*

本製品に関連して重大な事故（重傷など）が発生した場合は、製造元および管轄当局に報告する必要があります。

5.1 危険レベルの定義

この取扱説明書では、オペレータ要員の皆様や患者様が負傷しないようにすること、および、物的損害を予防することの両者を目的として、安全にかかわる識別表示として以下のものを使用しています。

⚠ **注意**	**この表示は、回避しなかった場合に、比較的、軽度の負傷を招く原因になりうる、危険な状況であることを示します。**

注記	**重要であるが、安全に関連していると見なされない情報を示しています。**

5.2 オペレーターの資格

⚠ **注意**	**資格のない者が本ソフトウェアを使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。** ソフトウェアの使用は、必ず専門の知識のある有資格者が行ってください。

ソフトウェアの使用には、以下の条件が揃っている必要があります。

- 本取扱説明書を読んでいること。
- ソフトウェアの基本構造および機能に習熟していること。

6 使用するアイコンおよび強調

アイコン

この取扱説明書では、以下の記号を使用しています。

この注意アイコンは、例えば代替手順のような追加情報を示しています。

強調

SICAT Suiteに表示される要素のテキストおよび記号は、**太字**で強調されています。これに含まれるユーザーインターフェースのオブジェクト：

- 範囲の記号
- ボタンの記号
- アイコンの記号
- 画面に表示される注意およびメッセージのテキスト

取扱説明

取扱説明は番号付きリストで記載されています。

☑ 前提条件にはこのアイコンが付けられています。

1. 手順には番号が付けられています。

   ▶ 中間結果はこのアイコンが付けられ、挿入されています。

2. 中間結果の後、それ以降の手順が続きます。

3. **オプションまたは条件付きステップ：**オプションまたは条件付きステップでは、ステップの目標または条件の前にコロンが付きます。

▶ 最終条件にはこのアイコンが付けられています。

- 一つの手順のみで構成される指示にはこのアイコンが付けられています。

患者情報

表示されている例の患者名は架空のものです。したがって、実在の人物との類似点はまったく偶然の一致です。特に、例の患者名と表示された患者データとの間に相関関係はありません。

7 取扱説明書の概要

SICAT Functionは、他の各種アプリケーションとともに、SICAT Suiteの一部を構成します。SICAT Suiteは、SICATの各種アプリケーションを実行させる環境を提供します。したがって、各種アプリケーションのインストールは、SICAT Suiteにより行います。これに関する情報は*SICAT Suiteのインストール [▶ページ 39]*を参照してください。

インストール後、SICAT Suiteは二つの方法で使用できます：

- スタンドアロン版
- SIDEXIS 4のモジュールを追加

SICAT Suiteをインストールすると、1つのバージョンのみを使用する場合でも、両方のバージョンが常にインストールされます。

一部の操作手順がバージョンによって異なるため、2つのバージョンには個別の取扱説明書が用意されています。使用するSICAT Suiteバージョンの使用に適切な取扱説明書を必ず使用してください。

各種アプリケーションのアンインストールも同様に、SICAT Suiteにより行います。これに関する情報は*SICAT Suiteのアンインストール [▶ページ 280]*を参照してください。

8 SICAT SUITEの概要

SICAT Suiteは以下のアプリケーションを含みます。

- SICAT Implant - SICAT Implantの使用目的については、SICAT Implantの取扱説明書をご参照ください。
- SICAT Function - SICAT Functionの使用目的については、SICAT Functionの取扱説明書をご参照ください。
- SICAT Air - SICAT Airの使用目的については、SICAT Airの取扱説明書をご参照ください。
- SICAT Endo - SICAT Endoの使用目的については、SICAT Endoの取扱説明書をご参照ください。

言語

SICAT Suiteのユーザーインターフェースは以下の言語に対応しています。

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 日本語
- スペイン語
- イタリア語
- オランダ語
- ポルトガル語
- ロシア語
- デンマーク語
- スウェーデン語

ライセンス認証

SICATアプリケーションまたは各機能のライセンスを取得するには以下の手順が必要となります。

- その場で販売担当者にご連絡ください。
- バウチャーコードを受け取ることができます。
- SICATポータルでバウチャーコードからライセンスキーが生成されます (SICATホームページからアクセス可能)。
- SICATがお客様のアクティベーションキーにライセンスキーを追加します。
- アクティベーションキーでSICATアプリケーションまたはSICAT Suiteの各機能を有効化します。SICAT Suiteのワークステーションのライセンス、およびローカルクリニックネットワークのライセンスサーバーのネットワークライセンスに対して有効になります。

お住まいの国でSuite製品のサブスクリプションが利用できる場合は、その設定方法や利用方法に関する個別の情報を入手できます。

フルバージョンおよびビューアモード

SICAT Suiteは2種類のモードでスタートすることができます。

- 少なくとも一つのSICATアプリケーションのフルバージョンライセンスを有効にしている場合、SICAT Suiteはフルバージョンで起動します。
- SICATアプリケーションのライセンスまたはビューアライセンスがアクティベートされていない場合、SICAT Suiteがビューアモードで起動します。

原則として以下のルールを適用しています。

- SICAT Suiteをインストールするときに、1つのモードに決定する必要はありません。
- 有効なフルバージョンライセンスのあるアプリケーションはフルバージョンでスタートします。
- ライセンスがなく、有効なビューアライセンスのあるアプリケーションはビューアモードでスタートします。

9 インストールの概要

SICAT Suiteは、使用場所の要件とインフラストラクチャに応じて、単一のワークステーションでのさまざまなアプリケーションシナリオ、または複数のワークステーションと共有患者データ管理を備えたネットワーク環境で使用できます。

選択したインストールのタイプに応じて、SICAT Suiteセットアップは、必要なすべてのソフトウェアコンポーネントを備えたSICAT Suiteを、単一のワークステーションまたはサーバー上のネットワーク環境とネットワーク内のそれぞれのワークステーションにインストールします。

SICAT Suiteセットアップは、それぞれのソフトウェアコンポーネントに必要なインストーラーを自動的に次々と呼び出します。

- SICAT Suite患者データベース
- すべてのアプリケーション（SICAT Implant、SICAT Function、SICAT Air、SICAT Endo）を備えたSICAT Suite
- SICAT Implantデータベース

患者データは、インストールタイプの選択に応じて、ローカルコンピュータまたは別のサーバー上のSICAT Suite患者データベースに保存されます。

SICAT Suiteのバージョン2.0.40以降、既存のデータをさらに使用する場合は、以前の患者ファイリングをSICAT Suite患者データベースに転送する必要があります。これに関する情報は*患者データバンク [▶ ページ 76]*を参照してください。

アプリケーションシナリオ：ローカルな患者データ管理

SICAT Suiteを単一のワークステーションで使用する場合、すべてのコンポーネントがワークステーションにインストールされます。患者データは、ワークステーション上でローカルにSICAT Suite患者データベースで管理されます。ワークステーションは、1人または複数のユーザーがそれぞれの設定で使用することができます。

アプリケーションシナリオ：サーバーに基づく患者データバンク

SICAT Suiteをネットワーク内の複数のワークステーションで使用する場合は、SICAT Suite患者データベースを搭載したサーバーコンポーネントをサーバーに、SICAT Suiteをそれぞれのワークステーションにインストールする必要があります。患者データはサーバー上のSICAT Suite患者データベースで管理され、ワークステーションはネットワークを介して一元管理された患者データにまとめてアクセスします。複数のユーザーが、共有患者データ管理を使って同時に作業することができます。利用可能なライセンス（フルバージョンまたはビューア）に応じて、ワークステーションは患者データの編集または閲覧のいずれかに使用できます。これに関する情報は*ライセンス [▶ ページ 64]*を参照してください。

SICAT Implantデータベースは、各ワークステーションのサーバー環境にもローカルにインストールされます。

10 SICATSUITEのセットアップを開始する

⚠ 注意	**ソフトウェアに改変を加えると、結果として、このソフトウェアが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。** 1. ソフトウェアのインストールに変更を加えないでください。 2. ソフトウェアのインストールディレクトリにあるコンポーネントを削除または変更しないでください。

⚠ 注意	**お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。** ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。

⚠ 注意	**不十分な承認は、ソフトウェアインストールまたはソフトウェアアップデートが失敗する原因になる場合があります。** ソフトウェアをインストールまたはアップデートする場合、使用するシステムに十分な承認があることを確認してください。

SICAT Suiteのセットアップは、必要なすべてのソフトウェアコンポーネントを次々にインストールします。

☑ お手元のコンピュータでは、システムの要件が満たされているようにしておいてください。これに関する情報は*システム要件 [▶ページ 11]*を参照してください。

☑ SICAT Suiteは、SICATのウェブサイトからダウンロードできます。

1. SICATのウェブサイトからZIPファイルをダウンロードしてください。

2. SICAT Suiteをインストールするコンピュータで**ZIP**ファイルを解凍します。
3. 解凍した**SICAT Suite**のフォルダをWindowsのエクスプローラで開きます。
4. **Setup.exe**ファイルを起動します。

▶ SICAT Suiteのセットアップが起動し、**はじめに**のウィンドウが開きます。

5. SICAT Suiteのセットアップで使用する言語は、お好みのものを、**はじめに**ウィンドウの右上隅から選択したら、**次へ**をクリックします。

   ▶ 選択された言語は、インストール全体で使用されます。**アンインストールの種類**のウィンドウが開きます。

セットアップでは、SICAT Suiteをさらにインストールするために次のオプションが提供されます。

- *シングルユーザーのインストールとしてのローカルな患者データ管理を使用したインストール [▶ページ 24]*
- *サーバーおよびワークステーションのインストールとしてのサーバーに基づく患者データバンクを使用したインストール [▶ページ 26]*

10.1 シングルユーザーのインストールとしてのローカルな患者データ管理を使用したインストール

ローカルで患者データが管理されたSICAT Suiteをシングルユーザーのセットアップとしてインストールするには、インストールの際にシングルユーザーを選択します。

☑ SICAT Suiteは、単一のワークステーションにインストールされます。

☑ SICAT Suiteのセットアップが開始されました。これに関する情報は*SICATSuiteのセットアップを開始する [▶ページ 22]*を参照してください。

1. **アンインストールの種類**ウィンドウで、**シングルユーザーのインストール**オプション欄を**ローカルな患者データ管理**エリアで選択し、**次へ**をクリックします。

▶ **進捗状況**のウィンドウが開きます。

▶ インストールするソフトウェアコンポーネントが表示されます。

2. **インストールする**のボタンをクリックします。
   ▶ インストールプロセスが開始されます。インストール中は、アイコンが表示されます。
   ▶ シングルユーザーのインストールに必要なソフトウェアコンポーネントのそれぞれのインストーラーが、次々と呼び出されます。
   SICAT Suite患者データベースをインストールする [▶ページ 30]
   SICAT Suiteのインストール [▶ページ 39]
   SICAT Implantデータベースのインストール
   ▶ インストールが完了すると、**要約**のウィンドウが開きます：
   ▶ ソフトウェアコンポーネントが正常にインストールされると、✔アイコンが表示されます。

3. **終了する**のボタンをクリックします。
   ▶ SICAT Suiteのセットアップが終了します。SICAT Suiteを初めて起動すると、ローカルの患者データバンクへの接続が自動的に確立されます。

10.2 サーバーおよびワークステーションのインストールとしてのサーバーに基づく患者データバンクを使用したインストール

複数のワークステーションが存在するネットワーク環境にSICAT Suiteをインストールするには、サーバーと各ワークステーションでSICAT Suiteのセットアップを起動し、適切なインストールを選択する必要があります。

- SICAT Suite患者データベースをインストールするためのサーバーのインストールは、サーバー上で実行する必要があります。
- ワークステーションのインストールは、SICAT Suiteを使用するすべてのワークステーションで行う必要があります。

サーバーのインストール

☑ SICAT Suiteはサーバー環境にインストールされます。

☑ SICAT Suite患者データベースは、サーバーコンピュータにインストールされます。

☑ SICAT Suiteのセットアップが開始されました。これに関する情報は*SICATSuiteのセットアップを開始する [▶ページ 22]*を参照してください。

1. **アンインストールの種類**ウィンドウで、**サーバーのインストール**オプション欄を**サーバーに基づく患者データバンク**エリアで選択し、**次へ**をクリックします。

▶ **進捗状況**のウィンドウが開きます。

▶ インストールするソフトウェアコンポーネントが表示されます。

2. **インストールする**のボタンをクリックします。
   ▶ インストールプロセスが開始されます。インストール中は、アイコンが表示されます。
   ▶ サーバーのインストールのインストーラーが呼び出されます：
   SICAT Suite患者データベースをインストールする [▶ページ 30]
   ▶ インストールが完了すると、**要約**のウィンドウが開きます。
   ▶ インストールが正常に行われると、✔アイコンが表示されます。
3. **終了する**のボタンをクリックします。
   ▶ SICAT Suiteのセットアップが終了します。

ワークステーションのインストール

☑ SICAT Suiteはサーバー環境にインストールされます。

☑ SICAT Suiteは、ワークステーションにインストールされます。

☑ SICAT Suiteのセットアップが開始されました。これに関する情報は*SICATSuiteのセットアップを開始する [▶ページ 22]*を参照してください。

1. **アンインストールの種類**ウィンドウで、**ワークステーションのインストール**オプション欄を**サーバーに基づく患者データバンク**エリアで選択し、**次へ**をクリックします。

▶ **進捗状況**のウィンドウが開きます。

▶ インストールするソフトウェアコンポーネントが表示されます。

2. **インストールする**のボタンをクリックします。
   ▶ インストールプロセスが開始されます。インストール中は、▶アイコンが表示されます。
   ▶ ワークステーションのインストールに必要なソフトウェアコンポーネントのそれぞれのインストーラーが、次々と呼び出されます。
   SICAT Suiteのインストール [▶ページ 39]
   SICAT Implantデータベースのインストール
   ▶ インストールが完了すると、**要約**のウィンドウが開きます。
   ▶ ソフトウェアコンポーネントが正常にインストールされると、✔アイコンが表示されます。

3. **終了する**のボタンをクリックします。
   ▶ SICAT Suiteのセットアップが終了します。

10.3 SICAT SUITE患者データベースをインストールする

SICAT Suite患者データベースのインストールは、SICAT Suiteのセットアップ中に自動的に開始されます。

SICAT Suiteのセットアップで選択したインストールの種類に応じて、SICAT Suite患者データベースは次のようにインストールされます。

- *シングルユーザーのインストールとしてのローカルな患者データ管理を使用したインストール [▶ページ 31]*
- *サーバーのインストールとしてのサーバーに基づく患者データバンクを使用したインストール [▶ページ 34]*

10.3.1 シングルユーザーのインストールとしてのローカルな患者データ管理を使用したインストール

☑ SICAT Suite患者データベースがインストールされていません。

☑ SICAT Suite患者データベースインストーラーは、シングルユーザーのインストールとしてSICAT Suiteのセットアップによって開始されました。

注記

標準のインストールパスを変更すると、SICAT Suite患者データベースが意図したとおりに機能しなくなる可能性があります。

SQLデータベースのインストールに精通していない場合、インストールパスを変更しないでください。インストールパスのカスタマイズの詳細については、サポートにお問い合わせください。

1. SICAT Suite患者データベースインストーラーで使用する言語は、お好みのものを、**はじめにウィンドウ**の右上隅から選択したら、**次へ**をクリックします。

▶ **オプション**のウィンドウが開きます。

▶ **データルートディレクトリ**欄には、患者データを含むデータバンクが作成されるパスが表示されます。

2. 別の場所を選択したい場合は、**データルートディレクトリ**欄の横にあるのボタンをクリックします。選択した保管場所に十分な空き容量があることを確認してください。これに関する情報は*システム要件 [▶ページ 11]*を参照してください。

   ▶ **フォルダを選択する**のウィンドウが開きます。

3. SICAT Suite患者データベースインストーラーに「Microsoft SQL Server」ディレクトリを作成させたいフォルダを参照し、**OK**をクリックしてください。

   ▶ フォルダを選択すると、SICAT Suite患者データベースインストーラーが、そのフォルダへのパスを**データルートディレクトリ**ボックス内に貼り付けます。

4. SICAT Suite患者データベースをインストールするための個々のパスを選択する場合は、**SQL Serverの拡張オプションを表示します**ボタンをクリックして詳細オプションを表示し、それぞれのSQLデータに必要なディレクトリを選択します。

▶ 個々のパスとデータベースプロパティの詳細オプションが表示されます。

5. データベースのプロパティを変更する場合は、**インスタンス**および**データバンク**入力欄の内容に注意してください。

6. **インストールする**のボタンをクリックします。

   ▶ インストールドライブの空き容量が不足している場合は、実際のおよび推奨される空き容量の情報を表示するのウィンドウが開きます。この場合、**それにもかかわらず、インストールします**をクリックしてインストールを続行するか、**中止する**をクリックしてキャンセルできます。

   ▶ **進捗状況**のウィンドウが開きます。

   ▶ SICAT Suite患者データベースがインストールされます。

   ▶ インストールが完了すると、**要約**のウィンドウが開きます。

7. **終了する**のボタンをクリックします。

   ▶ SICAT Suite患者データベースインストーラーが閉じます。

10.3.2 サーバーのインストールとしてのサーバーに基づく患者データバンクを使用したインストール

☑ SICAT Suite患者データベースがインストールされていません。

☑ SICAT Suite患者データベースインストーラーは、サーバーのインストールとしてSICAT Suiteのセットアップによって開始されました。

注記	**標準のインストールパスを変更すると、SICAT Suite患者データベースが意図したとおりに機能しなくなる可能性があります。** SQLデータベースのインストールに精通していない場合、インストールパスを変更しないでください。インストールパスのカスタマイズの詳細については、サポートにお問い合わせください。

注記	**患者データバンクは、自分で選択したパスワードで保護する必要があります。パスワードを忘れると、患者データバンクに接続して患者ファイルにアクセスできなくなります。** 患者データバンクに接続するためのパスワードは慎重に保管し、いつでも見つけられるようにしてください。

1. SICAT Suite患者データベースインストーラーで使用する言語は、お好みのものを、**はじめにウィンドウの右上隅から選択したら、次へをクリックします。**

▶ **オプション**のウィンドウが開きます。

▶ **データルートディレクトリ**欄には、患者データを含むデータバンクが作成されるパスが表示されます。

2. 別の場所を選択したい場合は、**データルートディレクトリ**欄の横にあるのボタンをクリックします。選択した保管場所に十分な空き容量があることを確認してください。これに関する情報は*システム要件 [▶ページ 11]*を参照してください。

   ▶ **フォルダを選択する**のウィンドウが開きます。

3. SICAT Suite患者データベースインストーラーに「Microsoft SQL Server」ディレクトリを作成させたいフォルダを参照し、**OK**をクリックしてください。

   ▶ フォルダを選択すると、SICAT Suite患者データベースインストーラーが、そのフォルダへのパスを**データルートディレクトリ**ボックス内に貼り付けます。

4. SICAT Suite患者データベースをインストールするための個々のパスを選択する場合は、**SQL Serverの拡張オプションを表示します**ボタンをクリックして詳細オプションを表示し、それぞれのSQLデータに必要なディレクトリを選択します。

▶ 個々のパスとデータベースプロパティの詳細オプションが表示されます。

5. データベースのプロパティを変更する場合は、**インスタンス**、**ポート**および**データバンク**入力欄の内容に注意してください。

6. **次へ**のボタンをクリックします。

▶ **接続設定**のウィンドウが開きます。

▶ データベースのプロパティを変更した場合は、変更されたデータベースのプロパティが一覧表示されます。

7. **パスワード**入力欄に、SICAT Suite患者データベースへの接続に使用される安全なパスワードを入力します。

8. 選択したパスワードを**パスワードを繰り返します**入力欄に再度入力します。チェックボックス**プレーンテキストの表示**を有効にして、割り当てられたパスワードを表示します。

9. パスワードをメモします。ワークステーション上のSICAT Suite患者データベースに接続するために必要です。パスワードがないと患者データバンクにアクセスできません。

10. **インストールする**のボタンをクリックします。

▶ インストールドライブの空き容量が不足している場合は、実際のおよび推奨される空き容量の情報を表示するのウィンドウが開きます。この場合、**それにもかかわらず、インストールします**をクリックしてインストールを続行するか、**中止する**をクリックしてキャンセルできます。

▶ **進捗状況**のウィンドウが開きます。

▶ SICAT Suite患者データベースがインストールされます。

▶ インストールが完了すると、**要約**のウィンドウが開きます：

▶ SICAT Suite患者データベースのアクセスデータは、下部のウィンドウ領域に表示されます。

11. **プレーンテキストの表示**のチェックボックスを有効にします。

    ▶ パスワードが表示されます。

12. **サーバー**項目の背後にあるサーバーの名前と**パスワード**項目の背後にあるパスワードをメモし、両方とも安全に保管し、権限のない人がアクセスできないようにしてください。

13. **私は、この情報を保存しました。**チェックボックスを有効にして、アクセスデータを書き留めたことを確認します。

14. **終了する**のボタンをクリックします。

    ▶ SICAT Suite患者データベースインストーラーが閉じます。

10.4 SICAT SUITEのインストール

SICAT Suiteのインストールは、SICAT Suiteのセットアップ中に自動的に開始されます。

☑ SICAT Suiteがインストールされていません。

☑ SICAT Suiteのインストーラーは、SICAT Suiteのセットアップによって開始されました。

1. SICAT Suiteのインストーラーで使用する言語は、お好みのものを、**はじめに**ウィンドウの右上隅から選択したら、**次へ**をクリックします。

► **使用許諾契約書**のウィンドウが開きます。

2. エンドユーザー使用許諾契約書をもれなく通読し、**使用許諾契約書に同意します。**オプション欄を選択して、**次へ**をクリックします。

▶ **オプション**のウィンドウが開きます。

3. SICAT Suiteのインストーラーにより、SICAT Suiteをインストールする先のフォルダが、ハードディスク上にありますが、このフォルダを変更するときは、**検索する**のボタンをクリックします。

   ▶ **フォルダを選択する**のウィンドウが開きます。

4. ご希望のフォルダが見つかったら、**OK**をクリックします。

   ▶ フォルダを選択すると、SICAT Suiteインストーラーが、そのフォルダへのパスを**ソフトウェアをどこにインストールしますか？**ボックス内に貼り付けます。

5. 入力が可能な場合は、**デスクトップにショートカットを作成します**チェックボックスにチェックマークを入れるか外すかのいずれかを行います。

6. **インストールする**のボタンをクリックします。

   ▶ **進捗状況**のウィンドウが開きます。

   ▶ SICAT Suiteと残りのソフトウェア要件をインストールします。

   ▶ インストールが完了すると、**確認**のウィンドウが開きます。

7. **終了する**のボタンをクリックします。

   ▶ SICAT Suiteインストーラーが閉じます。

11 OSアップデートの確認手順を実行する

⚠ **注意**

OSに改変を加えると、結果として、SICATアプリケーションが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. SICATアプリケーションを起動する前に、必ずお手元のコンピュータのオペレーションシステムが前回SICATアプリケーションを使用してからアップデートやセキュリティアップデートをインストールしたかを確認してください。
2. お手元のコンピュータのオペレーションシステムに更新プログラムまたは背級レティアップデートがインストールされている場合、取扱説明書に記載されている必要手順でSICATアプリケーションのチェックを実行してください。
3. SICATアプリケーションの動作が取扱説明書に記載されている動作と異なる場合、ソフトウェアをそれ以上使用せず、直ちにSICATサポートまでお問い合わせください。

お使いのコンピュータのオペレーションシステムに更新プログラムがインストールされている場合、SICAT Functionが正常に動作しているか確認します。適切な点検手順を実行してください。点検中に異常を発見した場合は影響を受けるコンピュータ上のSICAT Functionの使用を中止し、SICATサポートまでお問い合わせください。

準備

☑ SICAT Suite患者データベースがインストールされます。

☑ 患者データバンクへの接続が追加され、有効になっています。これに関する情報は*患者データバンクへの接続を追加する [▶ページ 79]*を参照してください。

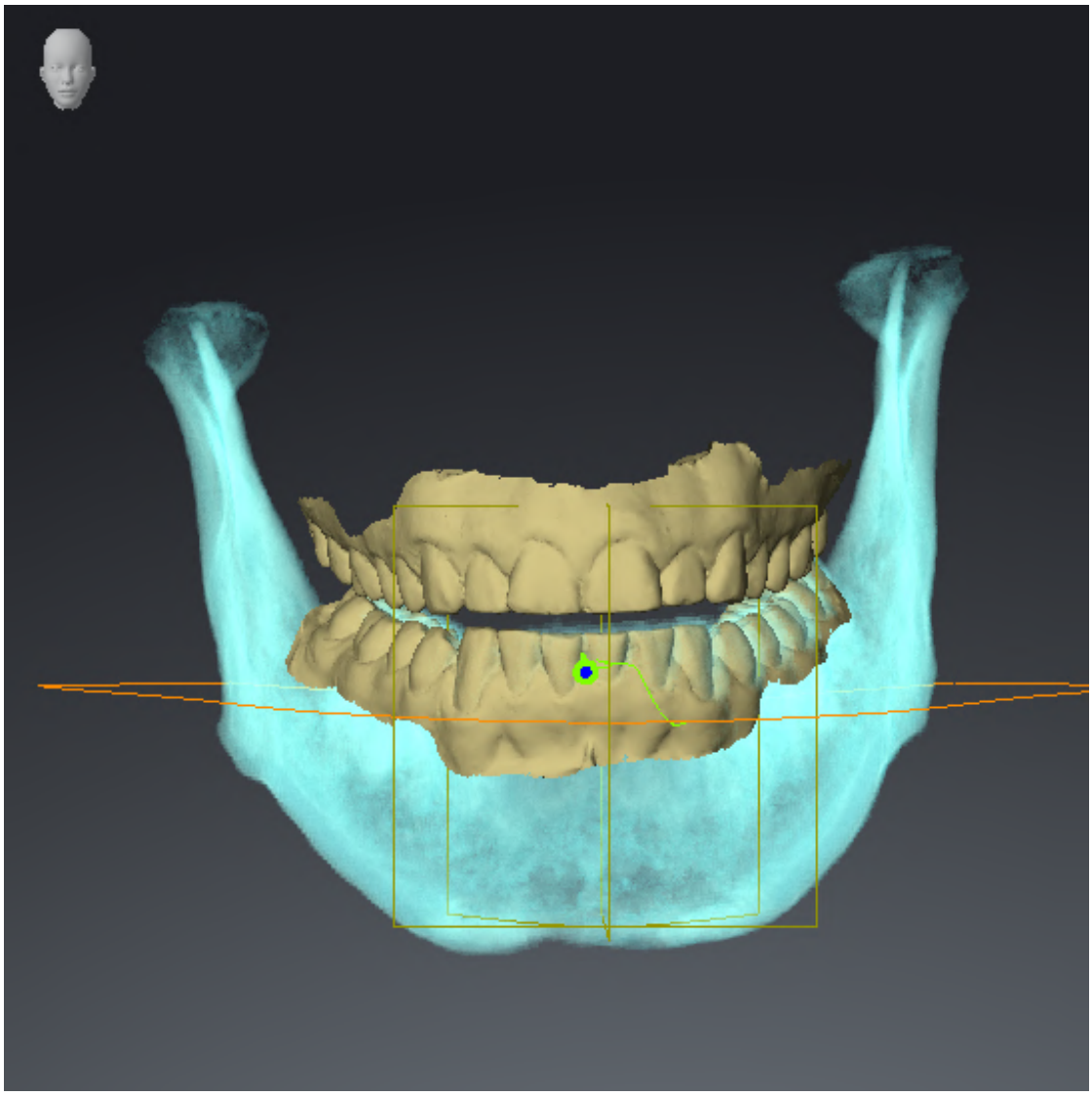
1. **Windows**ボタンを押し、**SICAT Suite**と入力して、**SICAT Suite**アイコンをクリックすることによって、SICAT Suiteをスタンドアロンバージョンでスタートします。
2. ファイル「SICATSuite_ReferenceDataset_2.0.40.zip」から基準データセットをインポートします。データセットは、インストールに使用したSICAT SuiteのZIPファイルに含まれています。これに関する情報は*データインポート [▶ページ 89]*を参照してください。
3. 患者ファイル「Patient Axx」をSICAT Functionで開きます。

下顎骨セグメンテーション

1. **パノラマ**ワークスペースが有効であることを確認してください。
2. ビューを標準値に戻します。
3. **3D**ビューが3D X線撮影画像を前方から示しているか確認してください。

4. **3D**ビューの**画像のツールバー**の**アクティブな表示モードを設定する**アイコンにマウスポインタを重ねます。

5. **詳細設定**の横にある矢印アイコンをクリックします。
6. **背景領域を非表示にする**のチェックボックスを有効にします。
7. **アクティブな顎関係：**リストから要素「lateral_lt.1」を選択してください。
8. 以下のスクリーンショットで**3D**ビューを比較してください。特に、下顎骨セグメンテーションと光学印象の表示をチェックします。



顎運動データ

1. **TMJ**ワークスペースが有効であることを確認してください。
2. **輝度**と**コントラスト**に対する値がそれぞれ基準値の50%に一致していることを確認してください。
3. **アクティブな顎関係：**リストから要素「lateral_lt.1」を選択してください。

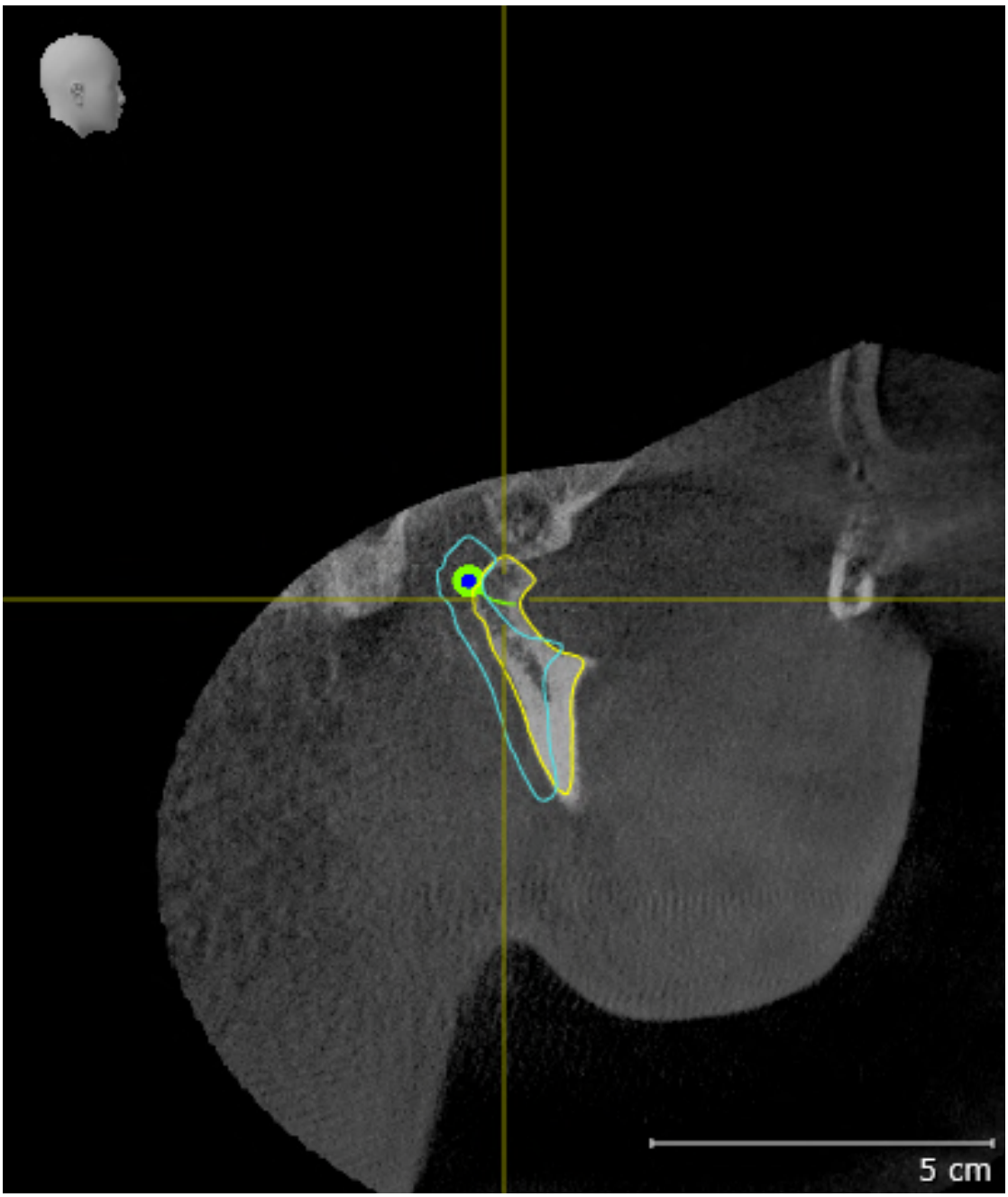
4. **オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位>下顎骨**の要素**下顎の右側**を選択し、その要素に焦点を合わせてください。

5. **オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位>下顎骨**の要素**下顎の左側**を選択し、その要素に焦点を合わせてください。

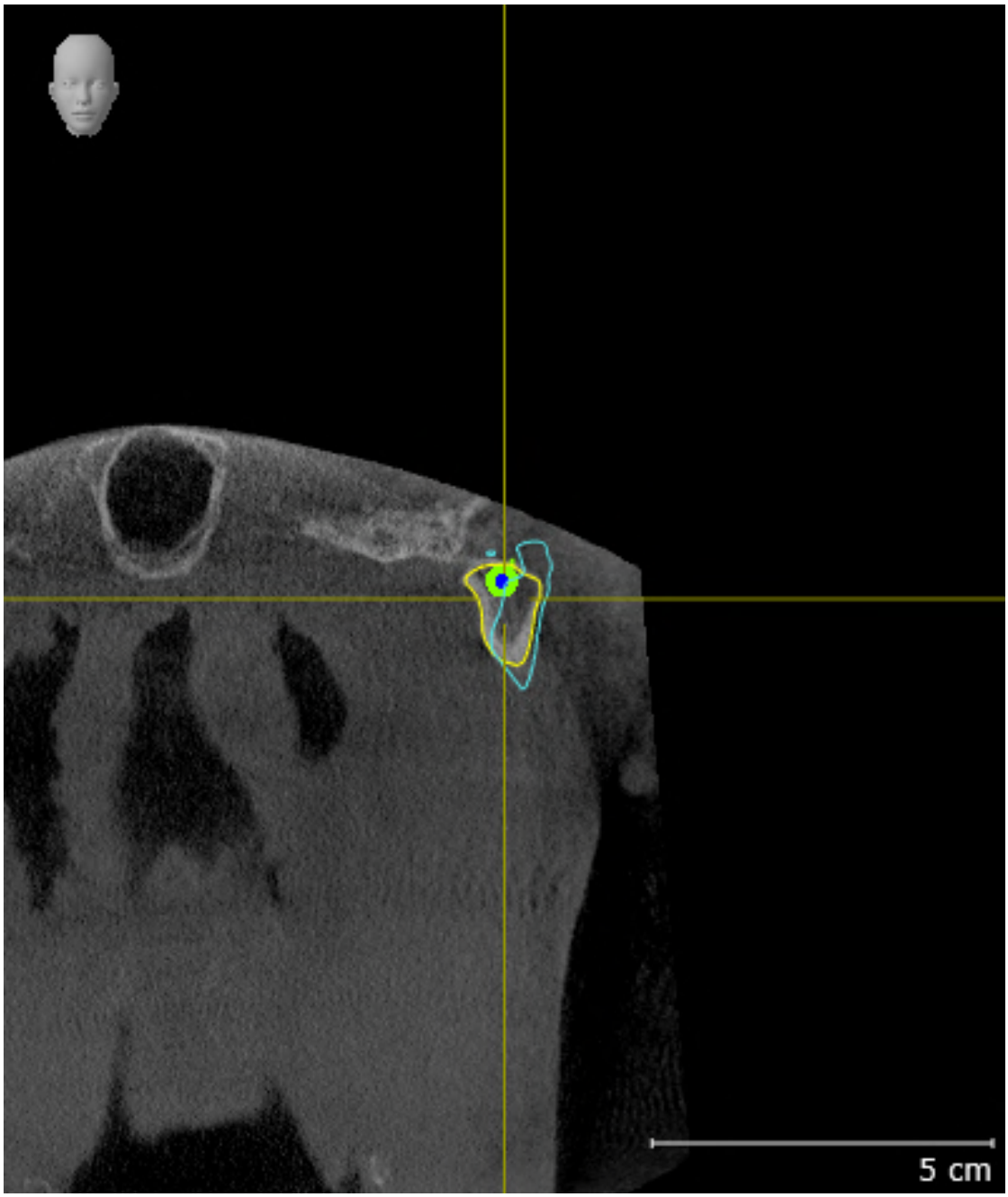
6. **オブジェクトブラウザ**で要素**ボリューム-部位**を選択してください。

7. **プロパティ**エリアでオプション**セグメンテーション限度の表示**を有効化してください。

8. 以下のスクリーンショットで**右顆状突起 矢状方向**ビューを比較してください。



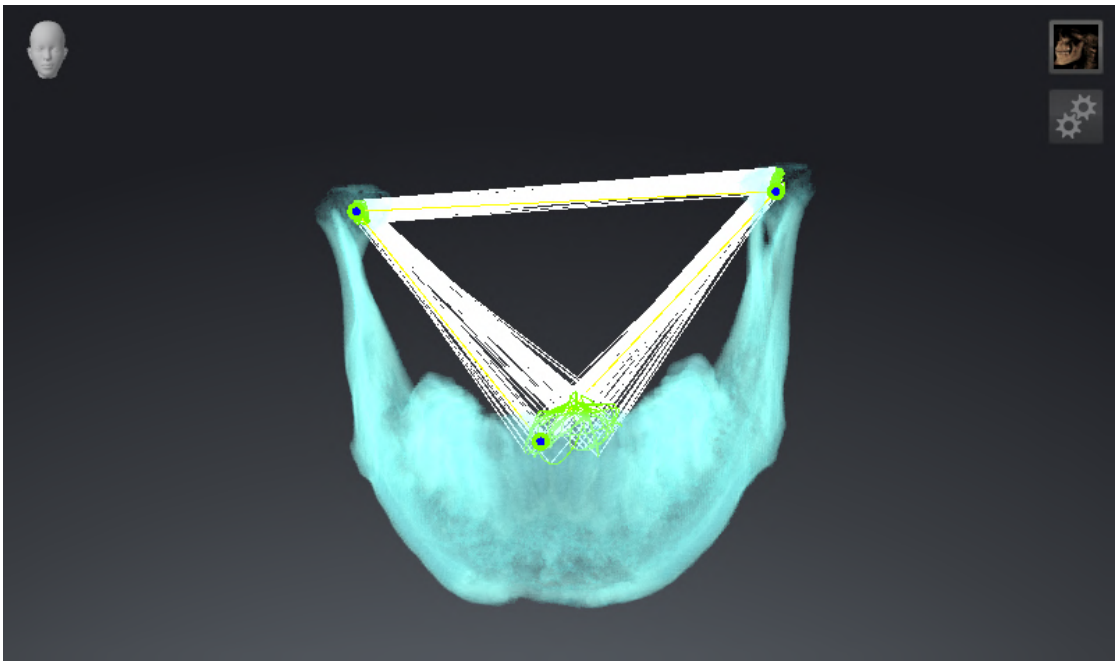
9. 以下のスクリーンショットで**左顆状突起 冠状**ビューを比較してください。



BONWILLの三角

1. **TMJ**ワークスペースが有効であることを確認してください。
2. **3D**ビューが3D X線撮影画像を前方から示しているか確認してください。
3. **オブジェクトブラウザ**で要素**顎運動データ**を選択してください。
4. **プロパティ**エリアでオプション**Bonwillの三角**を有効化してください。**ステップ幅**に対する値が「5」であることを確認してください。
5. **アクティブな顎関係：**リストから要素「chewing.1」を選択してください。

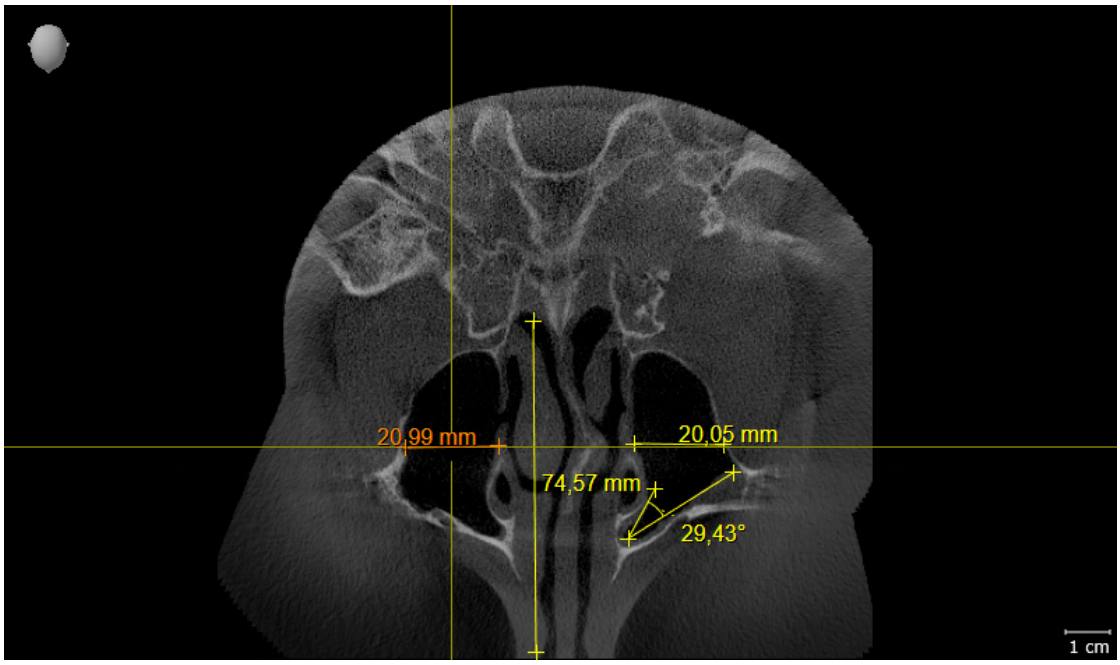
6. **3D**ビューの表示モードを**背景領域を非表示にする**にセットしてください。
7. 光学印象を非表示にします。
8. 以下のスクリーンショットで**3D**ビューを比較してください。特に、ボンウィル三角の描画と使用可能なトラッキングポイントをチェックします。



測定

1. **MPR/放射性**ワークスペースが有効であることを確認してください。
2. **軸方向**ビューで**輝度**と**コントラスト**に対する値がそれぞれ基準値の50%に一致していることを確認してください。
3. **オブジェクトブラウザ**で**測定**の要素「20,99 mm」を選択し、その要素に焦点を合わせてください。

4. 以下のスクリーンショットで**軸方向**ビューを比較してください。測定オブジェクトの表示を特にチェックしてください(20,99 mm、 20,05 mm、 74,57 mmおよび29,43°)。

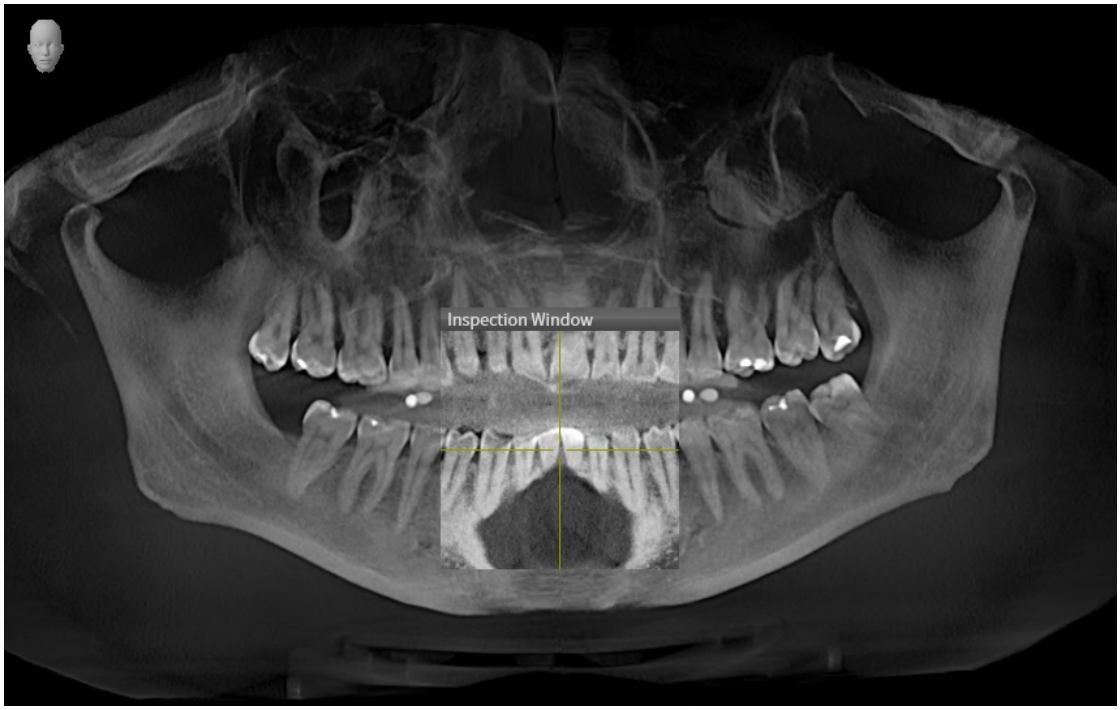


パノラマビュー

1. **パノラマ**ワークスペースが有効であることを確認してください。

2. ビューを標準値に戻します。

3. 以下のスクリーンショットで**パノラマ**ビューを比較してください。特に**パノラマ**ビューと検査ウィンドウの表示を確認してください。



12 SICAT SUITEの更新、修復

SICAT SUITEの更新

⚠ **注意**	**不十分な承認は、ソフトウェアインストールまたはソフトウェアアップデートが失敗する原因になる場合があります。** ソフトウェアをインストールまたはアップデートする場合、使用するシステムに十分な承認があることを確認してください。

SICAT Suiteインストーラーを起動し、**更新する**をクリックすると、SICATSuiteを更新できます。 更新にあたって、インストーラーは、最初にSICAT Suiteの旧バージョンをアンインストールします。データと設定内容は、いずれももれなく保持されます。

ℹ	SICAT Suiteのバージョン2.0.40以降、既存のデータをさらに使用する場合は、以前の患者ファイリングをSICAT Suite患者データベースに転送する必要があります。接続の設定時に、患者ファイリングからのデータを患者データバンクに転送できます。患者ファイリングをSICAT Suite患者データベースに転送する方法に関する情報は、対応する個別のクイックガイドに記載されています。

SICAT SUITEを修理する

SICAT Suiteを修理することができます。データと設定内容は、いずれももれなく保持されます。

☑ SICAT Suiteはすでにインストールされています。

☑ SICAT Suiteは起動していません。

1. Windows**コントロールパネル**で**プログラムおよび機能**をクリックします。
   ▶ **プログラムおよび機能**のウィンドウが開きます。
2. **SICAT Suite**項目をクリックします。
3. **変更**のボタンをクリックします。
   ▶ SICAT Suiteインストーラーが起動します。
   ▶ **オプション**のウィンドウが開きます。
4. **修理する**のボタンをクリックします。
   ▶ 修理が完了すると、**確認**のウィンドウが開きます。
5. **終了する**のボタンをクリックします。
   ▶ SICAT Suiteインストーラーが閉じます。

13 このバージョンでの特徴

SICAT Functionを単独で使用するか、他のソフトウェアと併用するかに応じて、特定のエリアに違いがあります。

患者データ、立体画像のデータ

SICAT Suiteのスタンドアロンバージョンには、ボリュームデータおよび患者の固有の中央管理が含まれます。SICAT Suiteのスタンドアロンバージョンの患者ファイルのコンセプトは、標準的な患者ファイルに例えることができます。

- 患者ファイルは、書類保管庫に例えることのできる患者データバンクに保存されます。
- 患者ファイルの選択は、患者ファイルを書類保管庫から取り出してテーブルに置くことに例えることができます。
- 患者ファイルからの患者データをSICATアプリケーションで開くことは、患者ファイルから書類を取り出すことに例えることができます。
- 3D X線撮影画像を患者ファイルに追加することは、標準的な患者ファイルの2D X線撮影画像を追加することに例えることができます。
- 3D X線撮影画像は、複数のプロジェクトの基礎となり得ます。プロジェクトは患者ファイルの一部でもあります。
- 付属のプロジェクトを含む3D X線撮影画像はスタディと呼ばれます。

患者データバンクへの接続を管理する方法については、*患者データバンク [▶ページ 76]*をご覧ください。患者ファイルの管理に関する内容は、*患者ファイル [▶ページ 100]*をご覧ください。

SICAT Suite患者データベースに患者ファイルを保存する方法については、別途用意されている説明書を参照してください。

患者データに加えて、SICATの各種アプリケーションのユーザー設定内容についても、バックアップ保存を行っておくのがよいでしょう。ユーザー設定内容は、各ユーザー別に2つのディレクトリに分割して保存されています。これら2つのディレクトリを開くときは、Windowsのエクスプローラで、アドレスバーに **%appdata%\SICAT GmbH & Co. KG**と **%localappdata%\SICAT GmbH & Co. KG** を入力してください。

設定

スタンドアロン版では、SICAT Suite自体が設定内容のすべてを管理します。これに関する情報は*設定 [▶ページ 261]*を参照してください。

ライセンス

スタンドアロン版と、別のソフトウェアに結合した、SICAT Suiteのバージョンは、いずれも共通のライセンスで使用できます。SICAT Suiteをインストールするときに、一つのバージョンに決定する必要はありません。

スタディで、書込権限のあるものとないものを開く

SICAT Functionスタディに対して変更を行い、その変更内容を保存するときは、以下の各条件を満たしておいてください。

- SICAT Functionフルバージョンライセンスのアクティベーションを完了してください。
- 患者データバンクへの接続が有効になっている必要があります。
- サーバーに基づく患者データバンクを備えたネットワーク環境では、患者ファイルを他のユーザーが編集することはできません。

ライセンスのアクティベーションが完了していなければ、SICAT Functionスタディでは、変更と変更内容の保存がいずれもできません。SICAT Functionビューアライセンスをアクティベーション済みの場合、3D X線撮影画像およびSICAT Functionスタディを表示することができます。

次の表は、患者データバンクへの接続が有効になっているときに、ライセンスに応じてどのような機能が利用できるかを示しています。

機能	アプリケーションのフルバージョンライセンス	アプリケーションのビューアライセンス	アプリケーションライセンスなし
サポート領域	有	有	有
一般設定	有	有	有
データエクスポート	有	無	無
患者データバンクへの接続を管理する	有	有	有
患者ファイルの管理	有	有	有
データインポート	有	有	有
ヘルプ	有	有	有

次の表は、患者データバンクへの接続が有効になっているときに、SICAT Functionライセンスに応じてどのような機能が利用できるかを示しています。

機能	SICAT FUNCTIONフルバージョンライセンス	SICAT FUNCTIONアプリケーションのビューアライセンス	SICAT FUNCTIONライセンスなし
SICAT Function設定	有	有	無
SICAT Functionスタディに変更を加える	有	無	無
データをビューアモードで開く	有、患者記録がロックされている場合	有	有、SICATデータ用

アプリケーションのライセンスに対して、アクティベーションが完了していても、条件によっては、SICAT Functionのスタディで変更を行ったり、変更内容を保存したりが、いずれもできないときがあります。その原因として、例えば注文プロセス実行中の場合が考えられます。

スタンドアロンバージョンでは、ライセンスステータスは**SICAT Suiteホーム**ウインドウで使用できる機能にも影響します。これに関する情報は*「SICAT Suiteホーム」ウインドウの概要 [▶ページ 60]*を参照してください。

詳細は*データを書き込み禁止で開く [▶ページ 276]*を参照してください。

14 SICAT FUNCTIONの標準ワークフロー

⚠ 注意

情報システムにあるセキュリティの脆弱性は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

1. 情報処理のシステム環境において、セキュリティ上の脅威を発見し、それらを回避するために、組織内部で指針を定めて周知するよう、徹底してください。
2. 最新のウィルススキャナをインストールし、ウィルススキャンを実行してください。
3. ウィルススキャナの定義ファイルを定期的に更新してください。

⚠ 注意

ワークステーションへの不正なアクセスは、患者データの秘密情報およびインテグリティに関するリスクにつながるおそれがあります。

ワークステーションへのアクセスは資格のある人に限定してください。

⚠ 注意

サイバーセキュリティの問題は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

お手元のSICATアプリケーションにおいて、サイバーセキュリティにかかわるトラブルの疑いがあるときは、直ちにテクニカルサポートまで、ご連絡ください。

⚠ 注意

SICATアプリケーションデータを信頼できないネットワークファイルシステムに保存すると、データの損失につながるおそれがあります。

ネットワーク管理者と共に、SICATアプリケーションデータを希望のネットワークファイルシステムに保存できるようにしてください。

⚠ 注意

SICAT Suiteおよび付属のSICATアプリケーションを他の機器と一つのコンピューターネットワークまたはメモリーネットワーク内で供用すると、患者、ユーザー、その他の人に未知の危険が及ぶおそれがあります。

ネットワークに関連する危険を特定、分析、判断するため、各組織内で規則を作成してください。

⚠ 注意

ネットワーク環境を変更すると、新しい危険につながるおそれがあります。例えば、ネットワーク構成の変更、追加機器またはコンポーネントのネットワークへの接続、機器またはコンポーネントのネットワークからの分離、ネットワーク機器またはコンポーネントのアップデートまたはアップグレードなどです。

ネットワークを変更する度に、新たなネットワークリスク分析を実施してください。

SICAT Suiteを使った作業を始める前に、本取扱説明書および、特にすべての安全上の注意事項をよくお読みください。後で情報を調べる時のため、本取扱説明書は手元に置いてください。

データセット

SICAT Functionでは、以下に挙げる、3種類の異なるデータセットを結合します。

- 3D X線撮影画像。例として、Dentsply Sirona GALILEOSによるものがあります
- 顎運動データ。例として、SICAT JMT⁺システムによるものがあります
- デジタル光学印象。例として、Dentsply Sirona CERECによるものがあります

インストール

SICAT Suiteをインストールする手順は、*SICAT Suiteのインストール [▶ページ 39]*をご覧ください。

フルバージョンで使用可能にする

1. SICAT Functionのライセンスが取得済みのときは、ライセンスのアクティベーションを行って、フルバージョンで使用できるようにします。これに関する情報は*ライセンス [▶ページ 64]*を参照してください。

2. データを保存できるようにするには、患者データバンクへの接続を少なくとも1つ作成し、それを有効にします。これに関する情報は*患者データバンク [▶ページ 76]*を参照してください。

SICAT Functionのライセンスを取得していない場合は、3D X線撮影画像をビュアーモードで個別に開いてください。ビュアーモードに関する内容は、*データを書き込み禁止で開く [▶ページ 276]*の節をご覧ください。

開始

SICAT Suiteの起動手順は、*SICAT Suite をスタートする [▶ページ 57]*の節をご覧ください。

設定

各種設定について、お好みの内容に変更するときは、**設定**のコーナーから行ってください。これに関する情報は*設定 [▶ページ 261]*を参照してください。

データセットを収集する

1. 患者の3D X線撮影画像は、患者がSICAT Fusion Biteを咬合している間に作成します。この手順に関する内容は、SICAT JMT⁺のクイックガイドをご覧ください。

2. 患者専用の顎運動データを撮影します。この手順に関する内容は、SICAT JMT⁺の取扱説明書をご覧ください。

3. 上顎骨と下顎骨のデジタル光学印象を作成します。この手順に関する内容は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

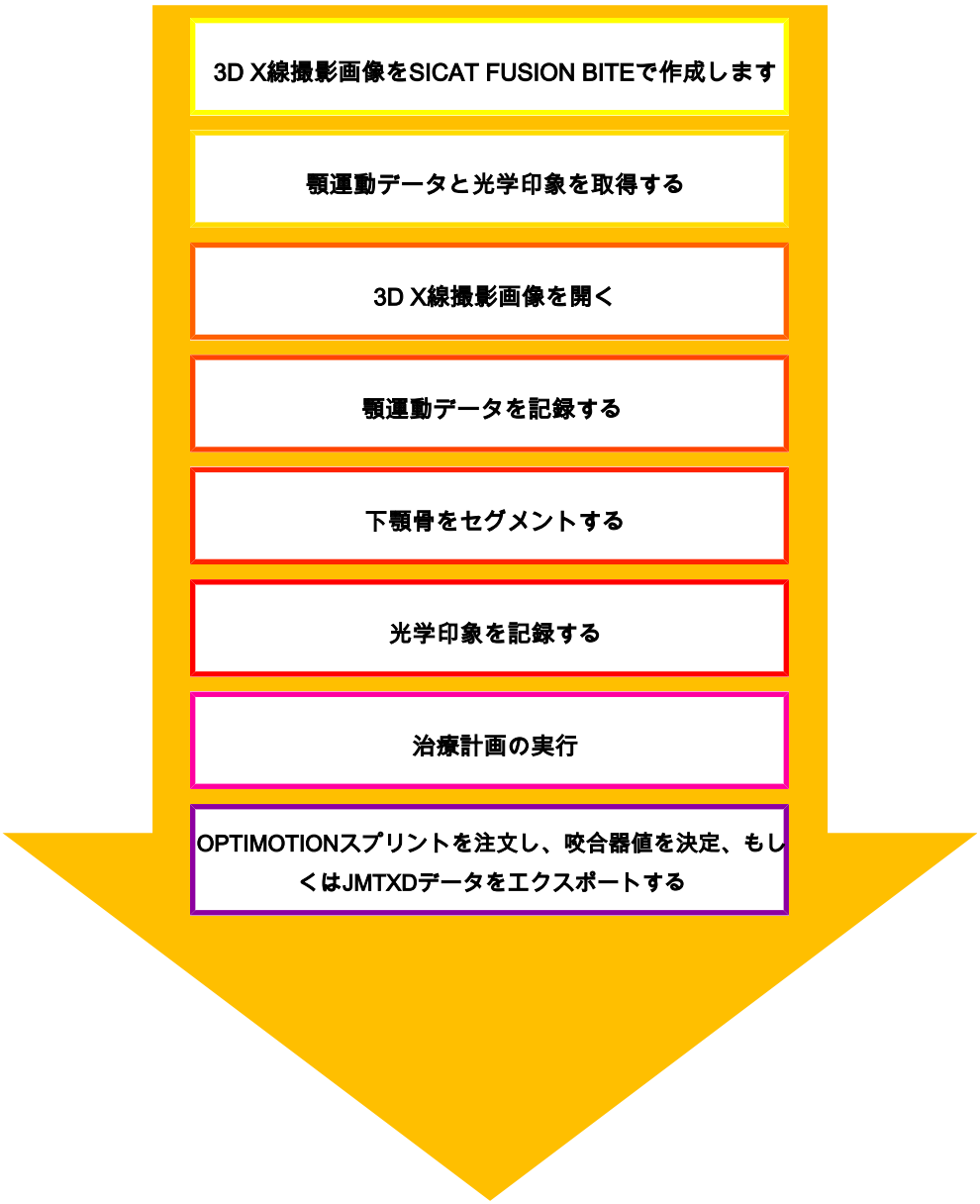
データセットを開く

1. 3D X線撮影画像を患者データバンクにインポートします。これに関する情報は*データインポート [▶ページ 89]*を参照してください。

2. 患者ファイルを検索し、インポートしたデータを管理する手順は、*患者ファイル [▶ページ 100]*に記載の手順に従ってください。

3. 患者ファイルのデータで作業するには、SICAT Functionで患者ファイルを開きます。これに関する情報は*患者ファイル概要から3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開く [▶ページ 108]*を参照してください。

SICAT FUNCTIONの処理手順



SICAT FUNCTIONでデータセットを編集する

1. 必要に応じて、ボリュームの配置とパノラマ エリアを調整します。これに関する情報は*ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する [▶ページ 172]*を参照してください。

2. SICAT Functionで、顎運動データをインポートして記録します。これに関する情報は*顎運動データをインポートして記録する [▶ページ 185]*を参照してください。

3. 下顎骨、さらに必要に応じて、切歯窩をセグメント化します。これに関する情報は*下顎骨をセグメントする [▶ページ 191]*と*窩をセグメントする [▶ページ 194]*を参照してください。

   ▶ SICAT Functionでは、インポートした、顎運動データを、**3D**画像としてビジュアル化します。

4. 3D X線撮影画像のデータとともに、光学印象をインポートして記録します。これに関する情報は*光学印象 [▶ページ 197]*を参照してください。

5. **TMJ**ワークスペースで、顎運動を評価します。これに関する情報は*TMJワークスペースに関する概要 [▶ページ 135]*と*TMJワークスペースの各種機能 [▶ページ 220]*を参照してください。セグメンテーションが行われない場合は特に、解剖学的な運動経路を補助ツールとして使用してください。これに関する情報は*3Dビューで運動の軌跡を表示する [▶ページ 217]*、*検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する [▶ページ 218]*、*レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する [▶ページ 219]*および*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。

6. OPTIMOTIONのスプリント用に、治療位置を決定してください。これに関する情報は*治療位置の設定 [▶ページ 245]*を参照してください。

7. OPTIMOTIONのスプリントを注文してください。これに関する情報は*注文プロセス [▶ページ 244]*を参照してください。

8. 例えば、セカンドオピニオンを求める場合、データをエクスポートします。これに関する情報は*データエクスポート [▶ページ 240]*を参照してください。

データセットを使用する作業を終了する、中断する

- 作業を終了または中断する時は、アクティブな患者ファイルを閉じて、これを保存してください。これに関する情報は*SICAT Suiteを閉じる [▶ページ 278]*を参照してください。

取扱説明書、サポート

取扱説明書は、**SICAT Suite ヘルプ**のウィンドウからご覧ください。これに関する情報は*取扱説明書を開く [▶ページ 63]*を参照してください。

それ以降のサポートは、**サポート**のページをご覧ください。これに関する情報は*サポート [▶ページ 272]*を参照してください。

15 SICAT SUITE をスタートする

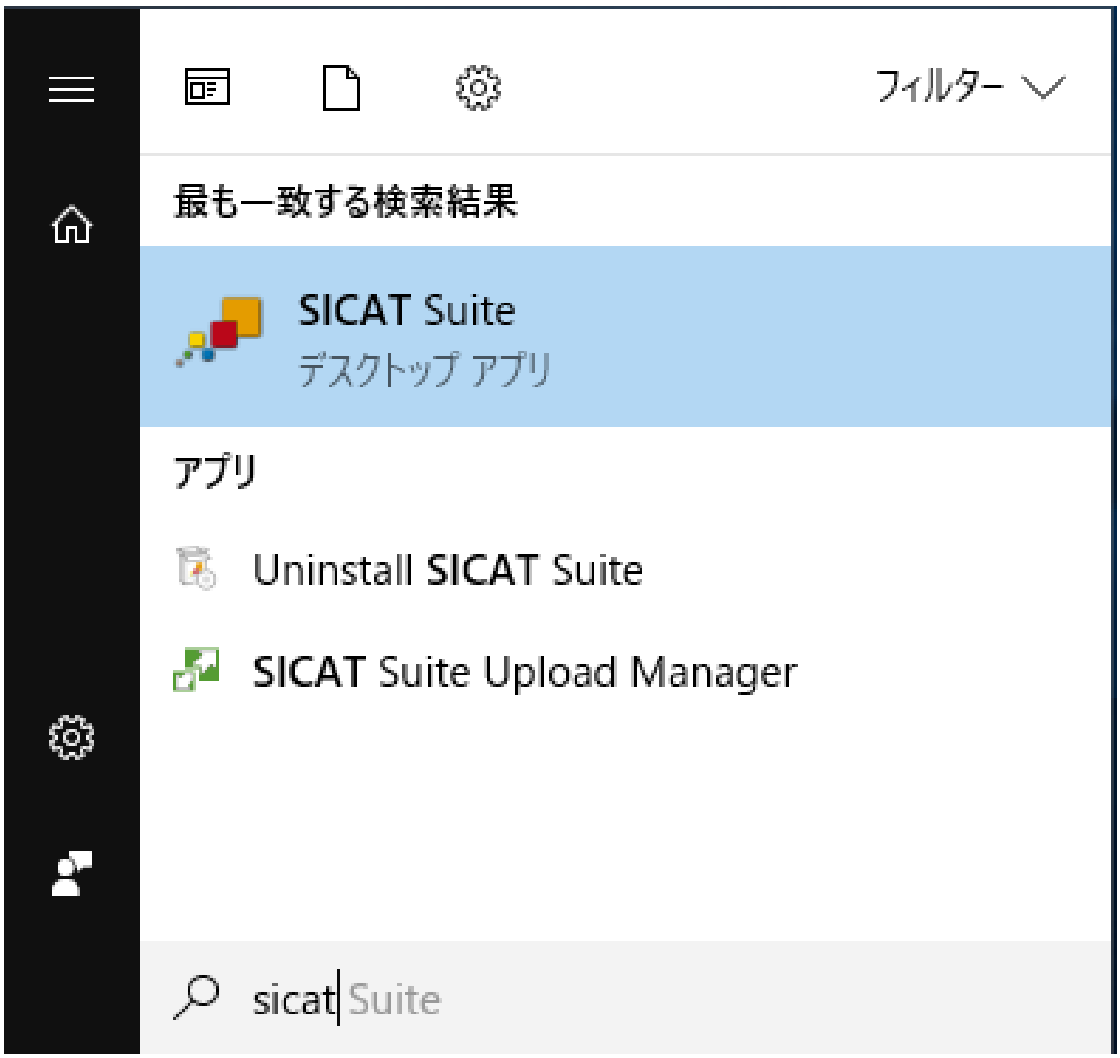
SICAT Suiteを起動するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Suiteを正常にインストールします。これに関する情報は*SICAT Suiteのインストール [▶ページ 39]*を参照してください。

- インストール時にデスクトップアイコンを作成した場合、Windowsのデスクトップにある**SICAT Suite**アイコンをクリックします。

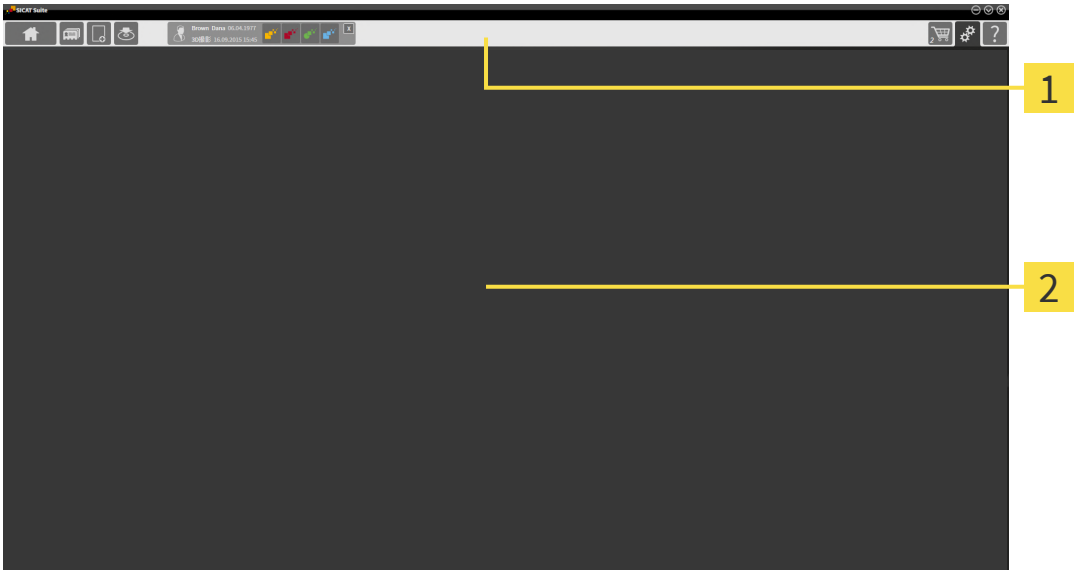
▶ SICAT Suiteがスタートし、**SICAT Suiteホーム**ウィンドウが開きます。これに関する情報は*「SICAT Suiteホーム」ウインドウの概要 [▶ページ 60]*を参照してください。

Windowsボタンを押し、**SICAT Suite**と入力して、**SICAT Suite**アイコンをクリックすることによってSICAT Suiteをスタートすることもできます。



16 SICAT SUITEのユーザーインターフェース

SICAT Suiteのユーザーインターフェースは、以下のアイテムから構成されています。



1 **ナビゲーションバー**

2 **アプリケーション領域**

- SICAT Suite 上端のナビゲーションバーは、各種ウインドウとアプリケーション間で切り替えるためのタブが表示されます。
- **アプリケーション領域**は、SICAT Suiteの上記以外の部分にあって、SICATのアプリケーションのうち、開いているもののユーザーインターフェースを表示します。

ナビゲーションバーは3つのエリアで構成されています。左側のエリアと右側のエリアは常に表示されています。SICAT Suiteでは、一つの患者ファイルがアクティブになっている場合のみ、そのエリアが中央に表示されます。

左側のエリアには次のタブがあります。

- **SICAT Suiteホーム** - これに関する情報は*「SICAT Suiteホーム」ウインドウの概要 [▶ページ 60]*を参照してください。

- **患者ファイル** - これに関する情報は*患者ファイル [▶ページ 100]*を参照してください。

- **新規データを追加する** - これに関する情報は*データインポート [▶ページ 89]*を参照してください。

- **データを共有する** - これに関する情報は*データエクスポート [▶ページ 240]*を参照してください。

中央のエリアには次のタブがあります。

- **患者ファイルの管理** - これに関する情報は*患者ファイルを扱う [▶ページ 104]*を参照してください。

- **アプリケーション** - これに関する情報は*SICATのアプリケーションを相互に切り替える [▶ページ 62]*を参照してください。

右側のエリアには次のタブがあります。

- **カート** - これに関する情報は*注文プロセス [▶ページ 244]*を参照してください。

- **設定** - これに関する情報は*設定 [▶ページ 261]*を参照してください。

- **サポート** - これに関する情報は*サポート [▶ページ 272]*を参照してください。

16.1 「SICAT SUITEホーム」ウインドウの概要

SICAT Suiteのスタンドアロンバージョンを起動すると、**SICAT Suiteホーム**ウインドウが表示されます。

1 **何がしたいですか？**エリア

2 **最後の患者ファイル**エリア

SICAT Suiteホームアイコンをクリックすると、いつでもこのウインドウに戻ることができます。**SICAT Suiteホーム**ウインドウの内容は、以下のパラメータによって異なります。

- アクティベーションの状態とライセンスの種類
- 患者データバンクへの接続

SICAT Suiteを使用できるようにするには、患者データバンクへの接続を設定する必要があります。これに関する情報は*患者データバンク [▶ページ 76]*を参照してください。

アクティベート済みのライセンスがない場合、メッセージとボタン**ライセンスを有効にする**だけの**SICAT Suiteホーム**ウィンドウが表示されます。

最低一つのSICATアプリケーションのビューアライセンスが有効で、SICATアプリケーションのフルバージョンライセンスがない場合はSICAT Suiteがビューアモードで起動します。このモードでは、患者データを編集および保存する機能は使用できません。

フルバージョンライセンスがアクティブで、SICAT Suiteで患者ファイリングが作成され、アクティブになっている場合、**SICAT Suiteホーム**ウインドウの領域**何がしたいですか？** に次のボタンが表示されます。

- **開く** - これに関する情報は*患者ファイル [▶ページ 100]*を参照してください。

- **新規データを追加する** - これに関する情報は*データインポート [▶ページ 89]*を参照してください。

- **カート** - これに関する情報は*注文プロセス [▶ページ 244]*を参照してください。

- さらに、**最後の患者ファイル**エリアに、直近に開いた患者ファイルのリストが表示されます。これらの患者ファイルをダブルクリックすると、**患者ファイルの概要**ウィンドウに切り替わり、患者ファイルを表示することができます。

患者情報を匿名で表示するがアクティブになっている場合、**SICAT Suiteホーム**ウインドウに**最後の患者ファイル**エリアが表示されます。

を参照してください

▶ データエクスポート [▶ 240]

17 SICATのアプリケーションを相互に切り替える

SICATアプリケーションを相互に切り替えるには、次のように行います。

- **ナビゲーションバー**から、SICATのアプリケーションで、切替をご希望のものが表示されている方のボタンをクリックしてください。

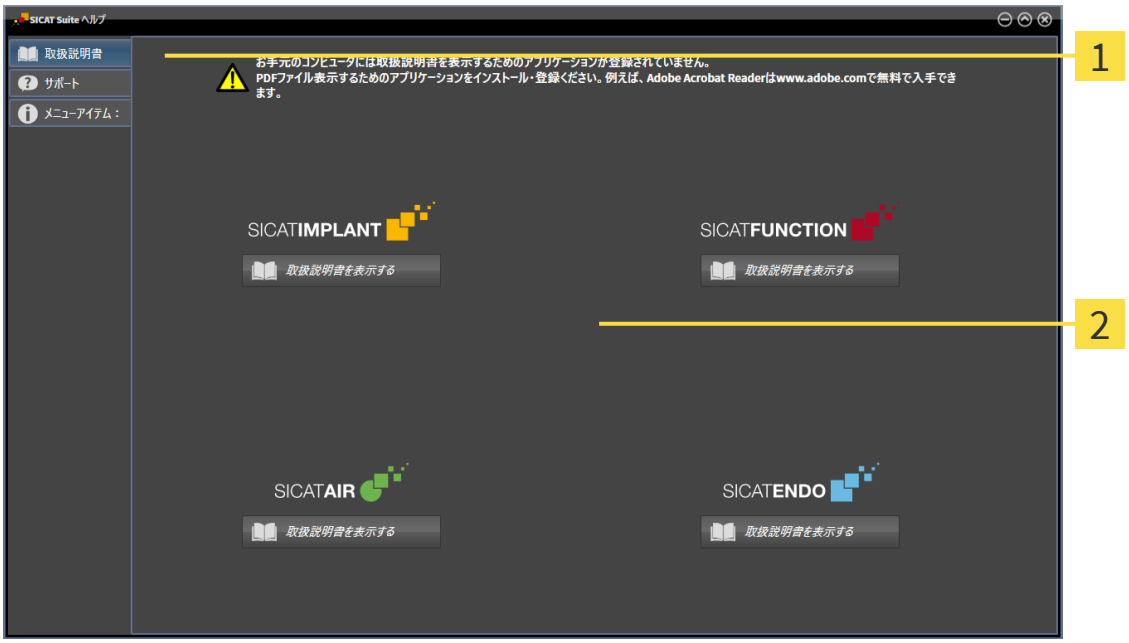
▶ SICAT Suiteは、選択したアプリケーションに切り替わります。

18 取扱説明書を開く

SICAT Suite ヘルプウィンドウを経由することで、SICATアプリケーションの取扱説明書をPDFファイル形式で参照可能です。

SICAT Suite ヘルプウィンドウは、**サポート**のアイコンを**ナビゲーションバー**でクリック、またはF1ボタンを押すことによって開くことができます。

SICAT Suite ヘルプウィンドウは、以下に示す外観です。



1 **取扱説明書**のタブ

2 **取扱説明書**のウィンドウ

取扱説明書タブをクリックして、目的の**取扱説明書を表示する**ボタンをクリックすると、取扱説明書を開くことができます。

19 ライセンス

SICAT Suiteはライセンスが有効化済みのSICATアプリケーションのみ表示します。

SICAT Suiteで機能 **新規データを追加する** または **新規データを見る** が有効なライセンスに基づき使用できる場合、以前エクスポートしたデータセットを有効なSICAT Functionライセンスなしで表示することができます。

ネットワークライセンスを使用するには、まずローカルクリニックネットワークにライセンスサーバーをセットアップし、SICAT Suiteをライセンスサーバーに接続する必要があります。

練習用ネットワークでのライセンスサーバーの設定方法については、製造元であるWIBU-SYSTEMS AG社のライセンス管理ソフトウェア「CodeMeter」の取扱説明書と、*SICAT Suite Version 2.0 ライセンスサーバーをインストールする*に関するクイックガイドを参照してください。

以下の種類のライセンスがあります。

- ビューアライセンスがあればアプリケーションをビューアモードで無期限使用することができます。
- デモライセンスでは一つまたは複数のSICATアプリケーションのフルバージョンに期間限定でアクセスすることができます。
- フルバージョンライセンスでは一つまたは複数のSICATアプリケーションのフルバージョンに無期限でアクセスすることができます。

これらのライセンスは、ワークステーションライセンスとネットワークライセンスの両方として取得できます。

- ワークステーションライセンスを使うと、定義済みのコンピュータでSICATアプリケーションを使用できます。
- ネットワークライセンスを使えば、ローカルクリニックネットワーク内の複数のコンピュータでSICATアプリケーションを使用できます。

ライセンスを取得する

SICATアプリケーションまたは各機能のライセンスを取得するには以下の手順が必要となります。

- その場で販売担当者にご連絡ください。
- バウチャーコードを受け取ることができます。
- SICATポータルでバウチャーコードからライセンスキーが生成されます (SICATホームページからアクセス可能)。
- SICATがお客様のアクティベーションキーにライセンスキーを追加します。
- アクティベーションキーでSICATアプリケーションまたはSICAT Suiteの各機能を有効化します。SICAT Suiteのワークステーションのライセンス、およびローカルクリニックネットワークのライセンスサーバーのネットワークライセンスに対して有効になります。

お住まいの国でSuite製品のサブスクリプションが利用できる場合は、その設定方法や利用方法に関する個別の情報を入手できます。

ライセンスの有効化と無効化

以下は、ワークステーションライセンスとネットワークライセンスに適用されます。

- お客様が受け取るSICATアプリケーションのライセンスキーはお使いの国で許可されているものだけです。
- フルバージョンライセンスを有効化すると、自動的にお使いの国で許可されている全てのアプリケーション用のビューアライセンスを受け取ります。
- SICATアプリケーションのフルバージョンライセンスを返却した場合、お使いの国で許可されている限り、自動的にビューアライセンスを受け取ります。

以下はワークステーションライセンスにのみ適用されます。

- ワークステーションライセンスのアクティベーションキーを1台のコンピュータで有効にすると、含まれているライセンスはそのコンピュータに割り当てられ、別のコンピュータでのアクティベーションには使用できなくなります。アクティベーションキーには、SICATのアプリケーションまたは機能に対する複数のライセンスが含まれる場合があります。
- ワークステーションライセンスは、各SICATアプリケーションまたは各機能ごとに無効化することができます。ワークステーショライセンスを返却すると、そのライセンスは同一または別のコンピューターで再度アクティベーションすることができます。

以下はネットワークライセンスにのみ適用されます。

- ネットワークライセンスを使用すると、SICAT Suiteを使用している間、付属のSICATアプリケーションまたは付属の機能の各ネットワークライセンスをコンピュータ上のユーザーが利用できます。ネットワークライセンスは現在他のユーザーによる使用のためにロックされています。
- ネットワークライセンスを使用している場合、SICAT Suiteを終了すると、ネットワークライセンスはクリニックネットワークのライセンスサーバーに自動的に返されます。
- ネットワークライセンスからワークステーションライセンスに切り替えると、ネットワークライセンスはクリニックネットワークのライセンスサーバーに自動的に返されます。
- SICAT Suiteを正しく終了せずにクリニックネットワーク内のライセンスサーバーへの接続が失われた場合、ネットワークライセンスは一定期間後に他のユーザーが使用するために自動的に解放されます。

次に続くアクション

お手元のコンピューターでアクティベーションが完了しているライセンスについては、**ライセンス**のウィンドウで概要をご覧ください。デモライセンス使用時はSICAT Suiteは有効期限を表示します。これに関する情報は*「ライセンス」のウィンドウを開く [▶ページ 67]*を参照してください。

ワークステーションライセンスは次の2通りの方法で有効にすることができます。

- SICAT Suiteが作動しているコンピューターがインターネットに接続されている場合、ライセンスのアクティベーションは自動で行うことができます。これに関する情報は*インターネット接続を使用してワークステーションライセンスを有効にする [▶ページ 68]*を参照してください。
- 希望に応じて、またはSICAT Suiteが作動しているコンピューターがインターネットに接続されていない場合、ライセンス要求ファイルを使用することにより、ライセンスのアクティベーションを手動で行うことができます。ライセンス要求ファイルをSICATのインターネットページにアップロードする必要があります。これで、ライセンスアクティベーションファイルを取得でき、これをSICAT Suiteで有効にしてください。これに関する情報は*ワークステーションライセンスを手動またはインターネットに接続せずに有効にする [▶ページ 70]*を参照してください。

各アプリケーションまたは機能のワークステーションライセンスを個別に無効にすることができます。ワークステーションライセンスを無効にした後、同じ、または別のアクティベーションキーを入力することができます。返却されたワークステーションライセンスは、同一または別のコンピューターでのアクティベーションに使用することができます。これに関する情報は*ワークステーションライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ページ 72]*を参照してください。

ネットワークライセンスを有効にする方法は、*ネットワークライセンスを有効にする [▶ページ 74]*をご覧ください。

19.1 「ライセンス」のウィンドウを開く

1. **ナビゲーションバー**で、**設定**のアイコンをクリックします。
   ▶ **設定**のウィンドウが開きます。

2. **ライセンス**のタブをクリックします。
   ▶ **ライセンス**のウィンドウが開きます。

1 **ライセンス**のタブ

2 **ライセンス**のウィンドウ

以下の操作を続行します：

- *インターネット接続を使用してワークステーションライセンスを有効にする [▶ページ 68]*
- *ワークステーションライセンスを手動またはインターネットに接続せずに有効にする [▶ページ 70]*
- *ネットワークライセンスを有効にする [▶ページ 74]*
- *ワークステーションライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ページ 72]*

19.2 インターネット接続を使用してワークステーションライセンスを有効にする

注記	**患者ファイルが閉じている必要があります** ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

注記	**カートが空になっている必要があります** ライセンスの変更を可能にする前にカートを空にしておく必要があります。

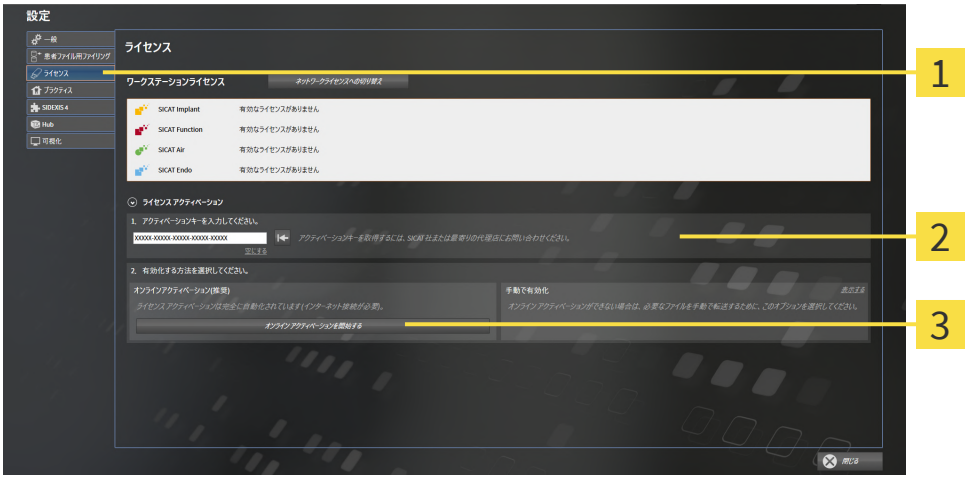
アクティベーションの手順を開始するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 少なくとも一つのSICATアプリケーションまたは個々の機能に有効なワークステーションライセンスが欠けています。

☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。

☑ **ライセンス**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「ライセンス」のウィンドウを開く [▶ページ 67]*を参照してください。

1. **ライセンス**のウィンドウで、**ライセンス アクティベーション**のボタンをクリックします。
   ▶ **ライセンス アクティベーション**エリアが開きます。



1 **ライセンス アクティベーション**のボタン

2 エリア

3 **オンライン アクティベーションを開始する**のボタン

2. 欄にアクティベーションキーを入力します。

3. **オンライン アクティベーションを開始する**のボタンをクリックします。

4. **Windows ファイヤーウォール**のウィンドウが開いたら、SICAT Suiteをインターネットへ接続します。

▶ 取得されてインストールされているアプリケーションまたは個々の機能のためのライセンスは、ライセンスプールから取り除かれ、使用中のコンピューター上のSICAT Suiteで有効になります。

▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常に有効化されました。**。

SICATアプリケーションのライセンスのアクティベーションをあらためて行うときは、エリアにあるボタン**顧客のアクティベーションキーを使用する**をクリックすると、アクティベーションキーが使用できるようになります。現時点のライセンスキーが入力されているボックスを空欄にするときは、ボタン**空にする**をクリックしてください。

19.3 ワークステーションライセンスを手動またはインターネットに接続せずに有効にする

注記	**患者ファイルが閉じている必要があります** ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

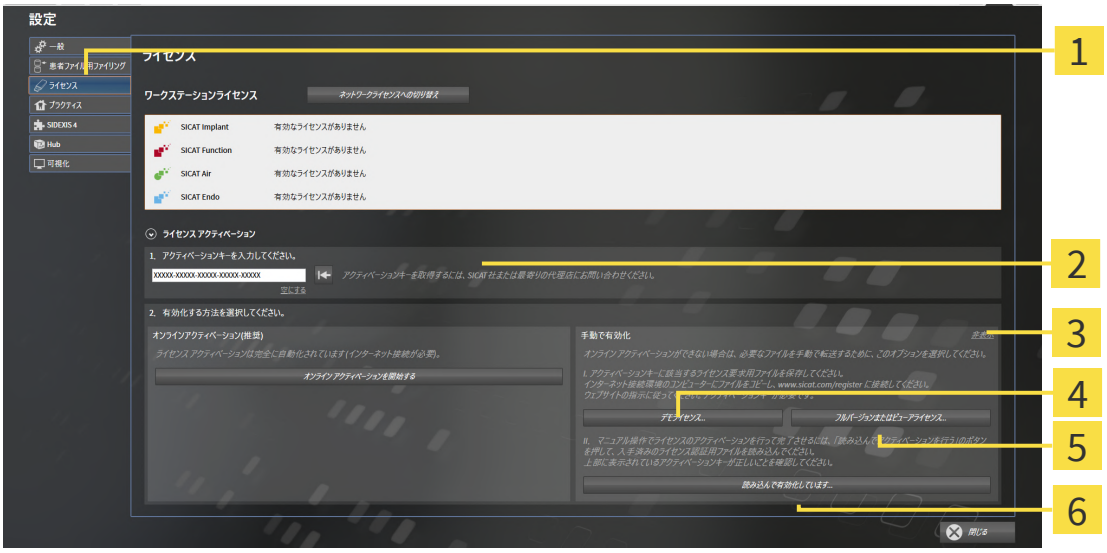
注記	**カートが空になっている必要があります** ライセンスの変更を可能にする前にカートを空にしておく必要があります。

ライセンスを手動、またはアクションなインターネット接続なしで有効にするには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 少なくとも一つのSICATアプリケーションまたは個々の機能に有効なワークステーションライセンスが欠けています。

☑ **ライセンス**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は *「ライセンス」のウィンドウを開く [▶ページ 67]*を参照してください。

1. **ライセンス**ウィンドウの**ライセンス アクティベーション**をクリックします。
   ▶ **ライセンス アクティベーション**エリアが開きます。
2. **手動アクティブ化**エリアの**表示する**をクリックします。
   ▶ **手動アクティブ化**エリアが開きます。



1	**ライセンス アクティベーション**	4	**デモライセンス**のボタン
2	エリア	5	**フルバージョンまたはビューアライセンス**のボタン
3	**表示する**	6	**読み込んで有効化しています**のボタン

3. フルバージョンライセンスのアクティベーションをご希望の場合は、**フルバージョンまたはビューアライセンス**のボタンをクリックします。

4. デモライセンスのアクティベーションをご希望の場合は、**デモライセンス**のボタンをクリックします。

   ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。

5. ライセンス要求用のファイルを保存する目的で、お好みのフォルダを選択したら、**OK**をクリックします。

   ▶ ファイル拡張子を**WibuCmRaC**として、ライセンス要求用のファイルが作成され、選択しておいたフォルダに保存されます。

6. USBスティックなどの補助ツールを使用して、インターネットに接続しているコンピューターにライセンス要求ファイルをコピーします。

7. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページhttp://www.sicat.com/registerを開きます。

8. インターネットのアクティベーションページに表示される指示に従ってください。

   ▶ インストールしたアプリケーションや個別の機能のために取得してあるライセンスが、お持ちのライセンスプールからピックアップされます。

   ▶ SICATのライセンスサーバーは、ファイル拡張子を**WibuCmRaU**として、ライセンスのアクティベーション用ファイルを作成しますので、このファイルをお手元のコンピュータへダウンロードしてください。

9. ダウンロードしたライセンスアクティベーションファイルをSICAT Suiteが作動しているコンピューターにコピーします。

10. アクティベーションキーが正確に欄に入力されていることをチェックします。

11. **ライセンス**のウィンドウで、**読み込んで有効化しています**のボタンをクリックします。

    ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。

12. ライセンスのアクティベーション用ファイルを探して見つかったら、そのファイルをハイライト表示にして、**OK**をクリックします。

▶ ライセンスアクティベーションファイルのライセンスは、SICAT Suiteでは現在のコンピューターにインストールされます。

▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常に有効化されました。**。

19.4 ワークステーションライセンスをライセンスプールへ返却する

注記	**患者ファイルが閉じている必要があります** ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

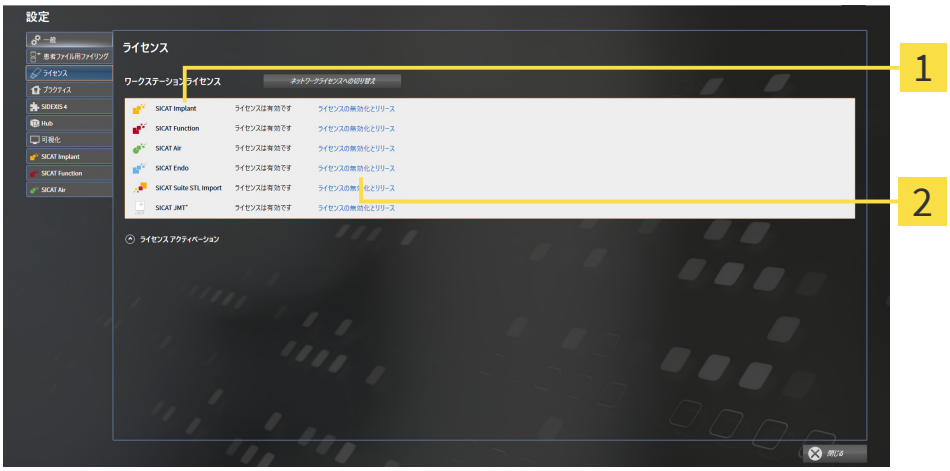
注記	**カートが空になっている必要があります** ライセンスの変更を可能にする前にカートを空にしておく必要があります。

フルバージョンライセンスのアクティベーションを解除して、そのライセンスをライセンスプールに返却するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ SICATアプリケーションのフルバージョンライセンスはすでに有効になっています。

☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。

☑ **ライセンス**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「ライセンス」のウィンドウを開く [▶ページ 67]*を参照してください。



1 SICATアプリケーションおよび個々の機能のライセンスステータス

2 **ライセンスの無効化とリリース**のボタン

- **ライセンス**のウィンドウから、SICATのアプリケーションで返却をご希望のものか、または、個別の機能の列にある**ライセンスの無効化とリリース**のボタンをクリックします。

▶ 選択したライセンスはライセンスプールに返却され、再びアクティベーションのために使用できる状態になります。

▶ 通知ウィンドウが開き、次のメッセージが表示されます。**ライセンスは正常にライセンスプールに返却されました。**。

▶ ライセンスがない場合、アプリケーションはビューアモードでしか使用できません。全てのSICATアプリケーションのライセンスがライセンスプールに返却されると、SICAT Suiteは完全にビューアモードになります。

インターネット接続のないコンピューターでライセンスを無効化したい場合はSICATサポートまでお問い合わせください。

19.5 ネットワークライセンスを有効にする

注記	**患者ファイルが閉じている必要があります** ライセンスで変更を加えるときは、開いている患者ファイルを事前に閉じてください。

注記	**カートが空になっている必要があります** ライセンスの変更を可能にする前にカートを空にしておく必要があります。

アクティベーションの手順を開始するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 少なくとも1つのSICATアプリケーションまたは個々の機能に有効なネットワークライセンスが欠けています。

☑ ライセンスサーバーを設定しました。

☑ SICAT Suiteを実行しているコンピューターは、ライセンスサーバーが存在するネットワークへのアクティブなネットワーク接続を行っています。

☑ **ライセンス**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「ライセンス」のウィンドウを開く [▶ページ 67]*を参照してください。

1. **ライセンス**のウィンドウで、**ネットワークライセンスへの切り替え**のボタンをクリックします。

   ▶ SICAT Function はネットワークライセンスに関する情報を表示し、**ライセンスサーバー**エリアが開きます。

1 **ライセンス**のウィンドウ

2 **ワークステーションライセンスへの切り替え**のボタン

3 **IPアドレス**エリア

4 **利用可能なライセンスの要求**のボタン

5 状態表示

2. **IPアドレス**エリアに、クリニックネットワーク内のライセンスサーバーのIPアドレスを入力します。

3. **利用可能なライセンスの要求**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteはライセンスサーバーに接続します。

▶ アプリケーション用または個々の機能用に取得されたライセンスは、ライセンスプールから取り除かれ、使用中のコンピューター上のSICAT Suiteで使用されます。

▶ ステータス表示が赤から緑に変わります。

▶ **ライセンスサーバー**エリアが閉じます。

20 患者データバンク

ヒューズ

⚠ **注意**

患者ファイリングのデータバックアップシステムが故障すると、患者データが完全に消失するおそれがあります。

定期的に全ての患者ファイリングのデータバックアップを取ってください。

選択したインストールの種類に応じて、患者データはローカルまたはサーバーに基づいてSICAT Suite患者データベースに保存されます。患者データを保護する責任はユーザー自身にあります。

患者データに加えて、SICATの各種アプリケーションのユーザー設定内容についても、バックアップ保存を行っておくのがよいでしょう。ユーザー設定内容は、各ユーザー別に2つのディレクトリに分割して保存されています。これら2つのディレクトリを開くときは、Windowsのエクスプローラで、アドレスバーに **%appdata%\SICAT GmbH & Co. KG**と **%localappdata%\SICAT GmbH & Co. KG** を入力してください。

データのセキュリティ

⚠ **注意**

SICATアプリケーションデータを信頼できないネットワークファイルシステムに保存すると、データの損失につながるおそれがあります。

ネットワーク管理者と共に、SICATアプリケーションデータを希望のネットワークファイルシステムに保存できるようにしてください。

⚠ **注意**

SICAT Suiteおよび付属のSICATアプリケーションを他の機器と一つのコンピューターネットワークまたはメモリーネットワーク内で供用すると、患者、ユーザー、その他の人に未知の危険が及ぶおそれがあります。

ネットワークに関連する危険を特定、分析、判断するため、各組織内で規則を作成してください。

⚠ **注意**

ネットワーク環境を変更すると、新しい危険につながるおそれがあります。例えば、ネットワーク構成の変更、追加機器またはコンポーネントのネットワークへの接続、機器またはコンポーネントのネットワークからの分離、ネットワーク機器またはコンポーネントのアップデートまたはアップグレードなどです。

ネットワークを変更する度に、新たなネットワークリスク分析を実施してください。

一般的なお知らせ

患者データバンクの管理は、SICAT Suiteでアプリケーションのライセンスが有効になっている場合にのみ完全に利用できます。

SICAT Suiteのバージョン2.0.40以降、既存のデータをさらに使用する場合は、以前の患者ファイリングをSICAT Suite患者データベースに転送する必要があります。接続の設定時に、患者ファイリングからのデータを患者データバンクに転送できます。患者ファイリングをSICAT Suite患者データベースに転送する方法に関する情報は、対応する個別のクイックガイドに記載されています。

SICAT Suiteは患者データを次のように管理します。

- 一人の患者の全3D撮影画像と付属する全ての計画プロジェクトが患者ファイルに整理されています。
- 患者ファイルは、ローカルまたはSICAT Suite患者データベースのサーバーに保存されます。

SICAT Suiteをフルバージョンとして実行するには、**患者データバンク**への接続が少なくとも1つ必要です。患者データバンクへの複数の接続を管理できます。ただし、ある時点で有効にできる患者データバンクは、常に一つだけです。

患者ファイルは特定のアクション中にブロックされ、サーバーに基づく患者データバンクを備えたネットワーク環境でブロックされている間のみ他のユーザーが表示できます。これに関する情報は*患者ファイル [▶ページ 100]*を参照してください。

サーバーに基づく患者データバンクの場合、特定の最小帯域幅のネットワーク接続が必要です。これに関する情報は*システム要件 [▶ページ 11]*を参照してください。

患者データバンクへの接続を確立するには、次のアクションを使用できます。

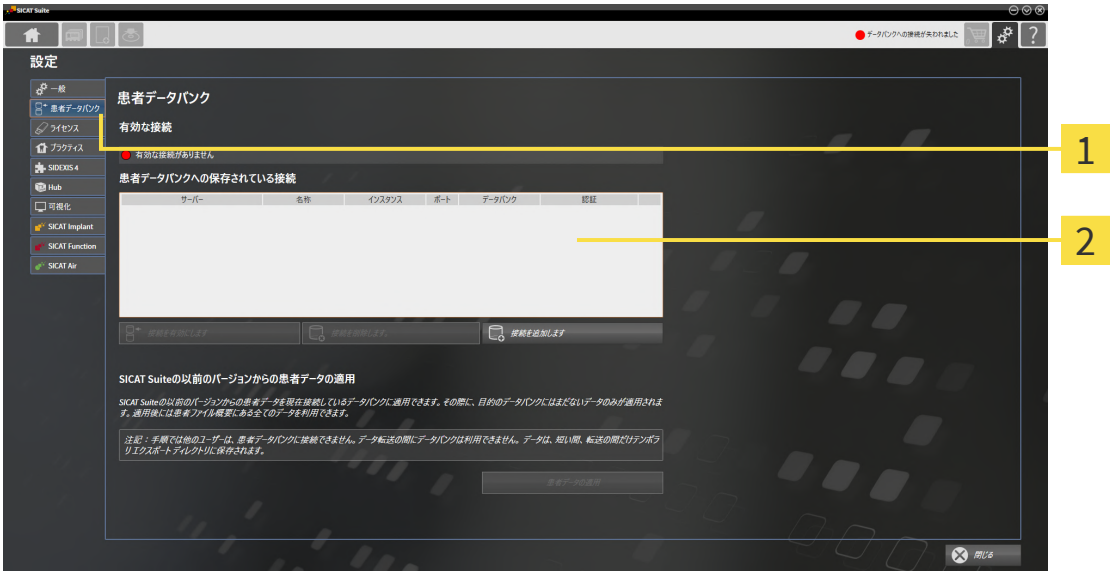
- *「患者データバンク」ウィンドウを開く [▶ページ 78]*
- *患者データバンクへの接続を追加する [▶ページ 79]*
- *別の患者データバンクを有効にする [▶ページ 84]*
- *患者データバンクへの接続を削除する [▶ページ 86]*

20.1 「患者データバンク」ウィンドウを開く

患者データバンクウィンドウを開くには、次の手順で行います。

1. **ナビゲーションバー**で、**設定**アイコンをクリックします。
   ▶ **設定**のウィンドウが開きます。

2. **患者データバンク**のタブをクリックします。
   ▶ **患者データバンク**のウィンドウが開きます。



1 **患者データバンク**のタブ

2 **患者データバンクへの保存されている接続**のリスト

以下の操作を続行します：

- *患者データバンクへの接続を追加する [▶ページ 79]*
- *別の患者データバンクを有効にする [▶ページ 84]*
- *患者データバンクへの接続を削除する [▶ページ 86]*

20.2 患者データバンクへの接続を追加する

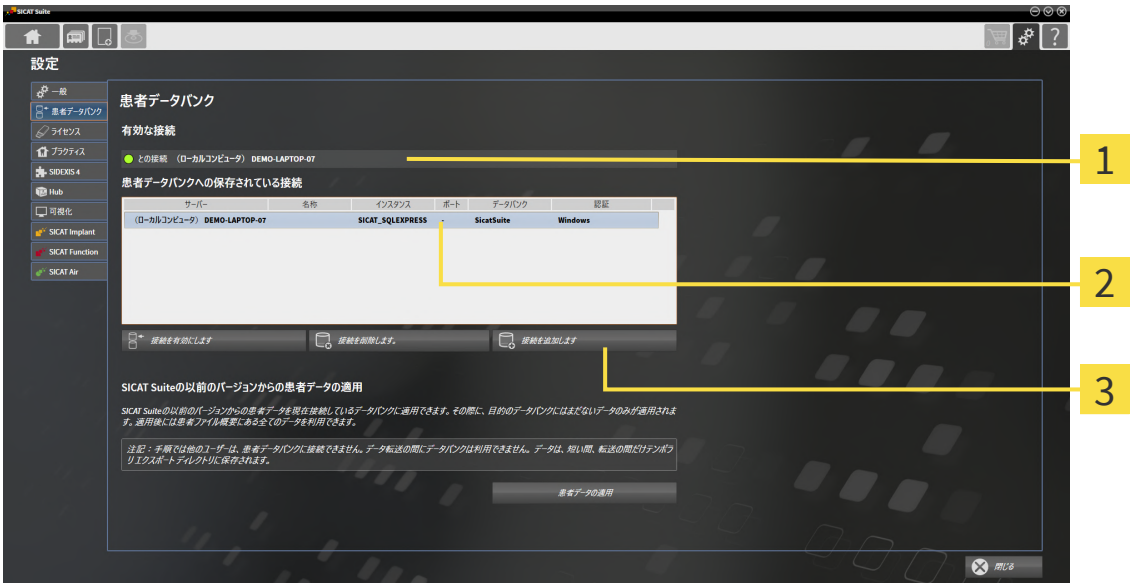
患者データバンクを使用するためには、SICAT Suite患者データベースへの接続を確立する必要があります。単一のワークステーションのローカル接続、またはネットワーク内のワークステーションのサーバーへの接続を追加できます。

SICAT Suiteがローカルな患者データ管理とともにインストールされている場合、ローカルな患者データバンクへの接続はすでに設定され、有効になっています。

患者データバンクに接続を追加するには、次の手順で行います：

☑ SICAT Suite患者データベースは、ローカルまたはサーバーにインストールされます。これに関する情報は*SICAT Suite患者データベースをインストールする [▶ページ 30]*を参照してください。

☑ **患者データバンク**のウィンドウはすでに開いています。



1 有効な接続

2 **患者データバンクへの保存されている接続**のリスト

3 **接続を追加します**のボタン

1. **患者データバンク**のウィンドウで、**接続を追加します**のボタンをクリックします。
   ▶ **患者データバンクへの接続を追加します**のウィンドウが開きます。

2. インストールの種類に応じて接続の種類を選択します。

接続を追加するには、次のオプションを使用できます：

- *ローカル接続を追加する [▶ページ 81]*
- *サーバーへの接続を追加する [▶ページ 82]*

20.2.1 ローカル接続を追加する

シングルユーザーコンピュータのSICAT Suite患者データベースへのローカル接続を確立するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Suite患者データベースは、シングルユーザーコンピュータにローカルにインストールされ、*シングルユーザーのインストールとしてのローカルな患者データ管理を使用したインストール [▶ページ 31]*。

1. **患者データバンクへの接続を追加します**ウィンドウで**ローカルな接続**オプション欄を選択します。
   ▶ 接続の詳細が表示されます。
   ▶ 入力欄には、インストール中に使用される標準値が事前に入力されています。
2. SICAT Suite患者データベースのインストール時に異なる名前を割り当てた場合は、**インスタンス**および**データバンク**入力欄に割り当てた名前を入力してください。
3. **接続（オプション）の名称**入力欄に、接続用に選択した名前を入力して、後で複数の患者データバンクを使用してそれらを切り替えた場合に接続を明確に識別できるようにします。
4. **保存と接続**のボタンをクリックします。
   ▶ 接続が追加されます。
   ▶ 以前、別の接続が有効になっていた場合は、**患者データバンクへの接続を有効にします**確認メッセージが開きます。
5. 確認メッセージにある**接続を有効にします**のボタンをクリックします。
   ▶ 新しい接続が有効になります。
   ▶ **患者データバンク**ウィンドウでは、追加された接続が**患者データバンクへの保存されている接続**エリアに太字のフォントスタイルで表示されます。

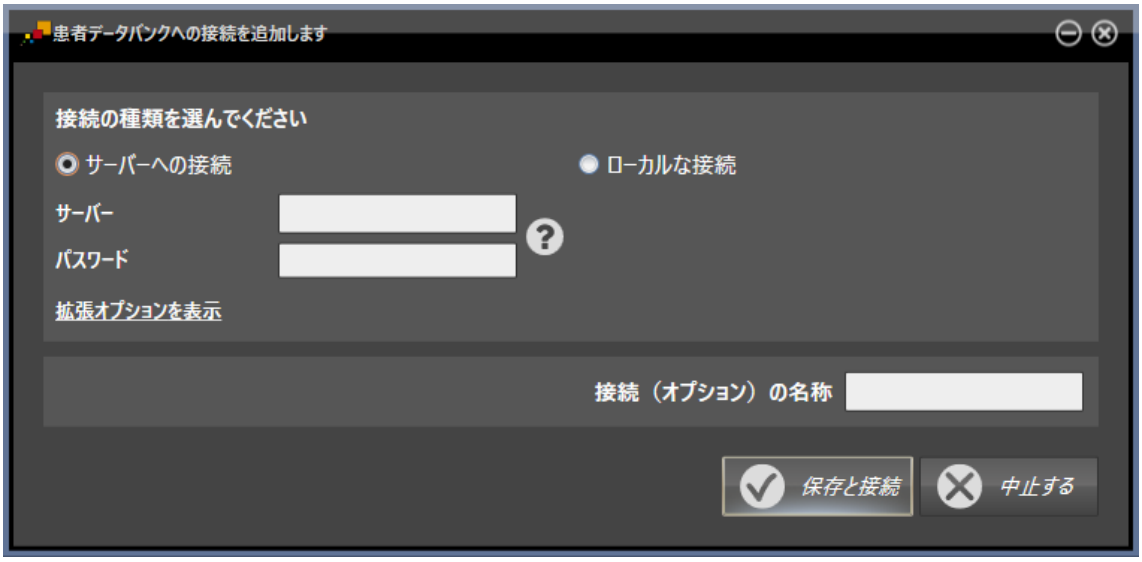
▶ SICAT Suiteは、ローカルな患者データバンクに接続されています。有効な接続は、**有効な接続**エリアに表示されます。

20.2.2 サーバーへの接続を追加する

ワークステーションのSICAT Suite患者データベースへのローカル接続を確立するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Suite患者データベースは、ネットワーク内のサーバーにインストールされ、*サーバーのインストールとしてのサーバーに基づく患者データバンクを使用したインストール [▶ページ 34]*。

☑ ワークステーションとサーバーにはネットワーク接続があります。



1. **患者データバンクへの接続を追加します**ウィンドウでオプション欄**サーバーへの接続**を選択します。

   ▶ サーバー接続の詳細が表示されます。

2. **サーバー**および**パスワード**入力欄に、インストール時に表示されたサーバー名と、選択したパスワードを入力します。

3. インストール時にデフォルト値を変更した場合は、**拡張オプションを表示**のボタンをクリックします。

▶ 詳細オプションが表示されます。

4. インストール時に使用したパラメータを入力欄に入力してください。

5. **保存と接続**のボタンをクリックします。

   ▶ 接続が追加されます。

   ▶ 以前、別の接続が有効になっていた場合は、**患者データバンクへの接続を有効にします**確認メッセージが開きます。

6. 確認メッセージにある**接続を有効にします**のボタンをクリックします。

   ▶ 新しい接続が有効になります。

   ▶ **患者データバンク**ウィンドウでは、追加された接続が**患者データバンクへの保存されている接続**エリアに太字のフォントスタイルで表示されます。他の接続では、フォントスタイルが通常のものに変わります。

▶ SICAT Suiteは、サーバー上の患者データバンクに接続されています。有効な接続は、**有効な接続**エリアに表示されます。

20.3 別の患者データバンクを有効にする

患者データバンクへの有効な接続を変更すると、次のような場合に役立ちます：

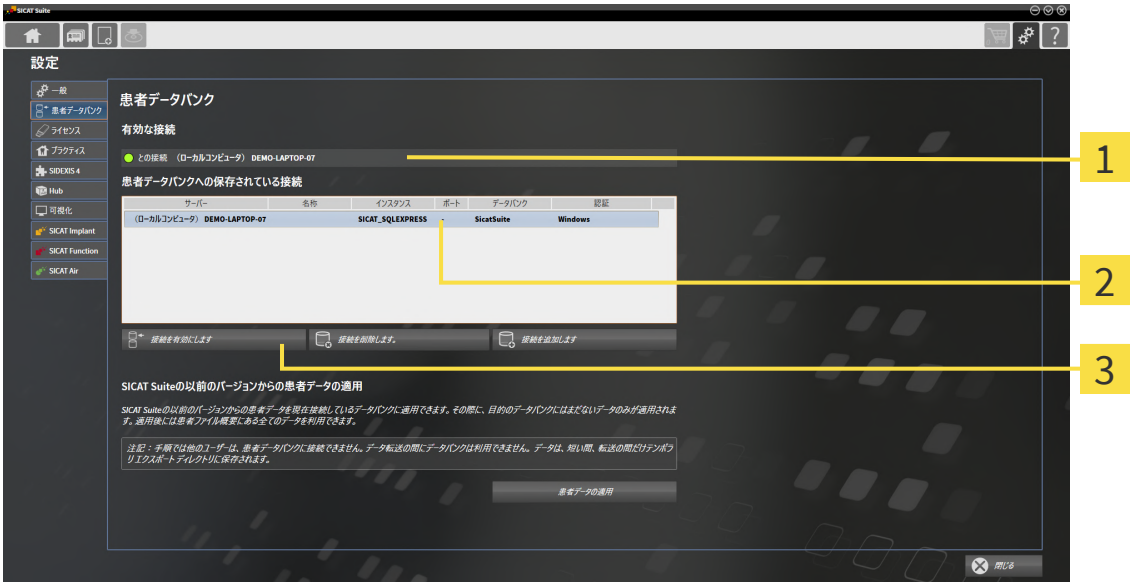
- 施設のネットワーク内の患者データバンクとノートブック上のローカル患者データバンクを切り替えたい場合。
- 別の患者データバンクに匿名で保存されている患者データを、たとえば、研修などの目的で公開したい場合。

別の患者データバンクを開くときは、次の手順で行います。

☑ SICAT Suite患者データベースは、ローカルまたはサーバーにインストールされます。

☑ 必要な患者データバンクへの接続はすでに追加されています。これに関する情報は*患者データバンクへの接続を追加する [▶ページ 79]*を参照してください。

☑ **患者データバンク**のウィンドウはすでに開いています。



1 有効な接続

2 **患者データバンクへの保存されている接続**のリスト

3 **接続を有効にします**のボタン

1. **患者データバンク**ウィンドウの**患者データバンクへの保存されている接続**エリアで、リスト内の希望する患者データバンクがある行をクリックします。

2. **接続を有効にします**のボタンをクリックします。

   ▶ 以前、別の接続が有効になっていた場合は、**患者データバンクへの接続を有効にします**確認メッセージが開きます。

3. 確認メッセージにある**接続を有効にします**のボタンをクリックします。

   ▶ 選択した接続が有効になります。

► **患者データバンク**ウィンドウでは、追加された接続が**患者データバンクへの保存されている接続**エリアに太字のフォントスタイルで表示されます。他の接続では、フォントスタイルが通常のものに変わります。

► SICAT Suiteは選択した患者データバンクを有効にします。有効な接続は、**有効な接続**エリアに表示されます。

20.4 患者データバンクへの接続を削除する

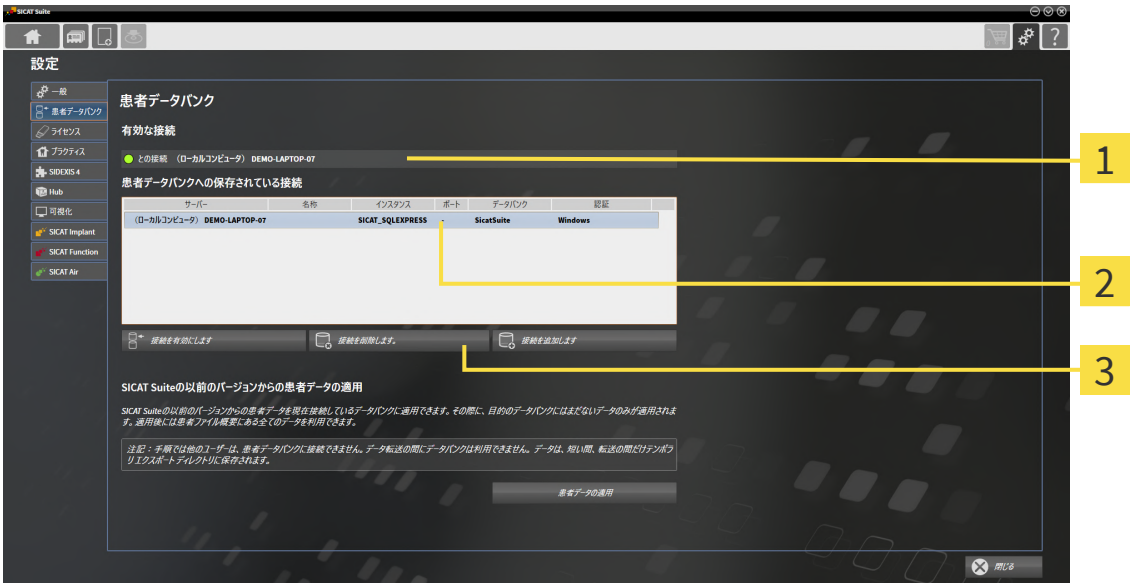
SICAT Suiteは、**患者データバンクへの保存されている接続**接続リストから患者データバンクのみを削除します。患者データバンクは削除されません。患者データベースへの接続を再度追加できます。これに関する情報は*患者データバンクへの接続を追加する [▶ページ 79]*を参照してください。

患者データバンクへの保存されている接続接続リストから患者データバンクを削除するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Suite患者データベースは、ローカルまたはサーバーにインストールされます。

☑ **患者データバンクへの保存されている接続**エリアには、患者データバンクへの少なくとも1つの接続が表示されます。

☑ **患者データバンク**のウィンドウはすでに開いています。



1 有効な接続

2 **患者データバンクへの保存されている接続** のリスト

3 **接続を削除します。**のボタン

1. **患者データバンク**ウィンドウの**患者データバンクへの保存されている接続**エリアで、リスト内の希望する患者データバンクがある行をクリックします。

2. **接続を削除します。**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteは、**患者データバンクへの保存されている接続**エリアで選択された患者データバンクがリストから削除されます。

20.5 SICAT SUITEバージョン2.0.20以前からの患者ファイルの適用

SICAT Suiteの以前バージョンでは、患者ファイルをワークステーションのファイルシステムやネットワークに保存していました。旧バージョンの患者データを引き続き使用する場合は、それらをSICAT Suite患者データベースに転送する必要があります。転送時は、患者データバンクでまだ利用できない患者データのみが転送されます。

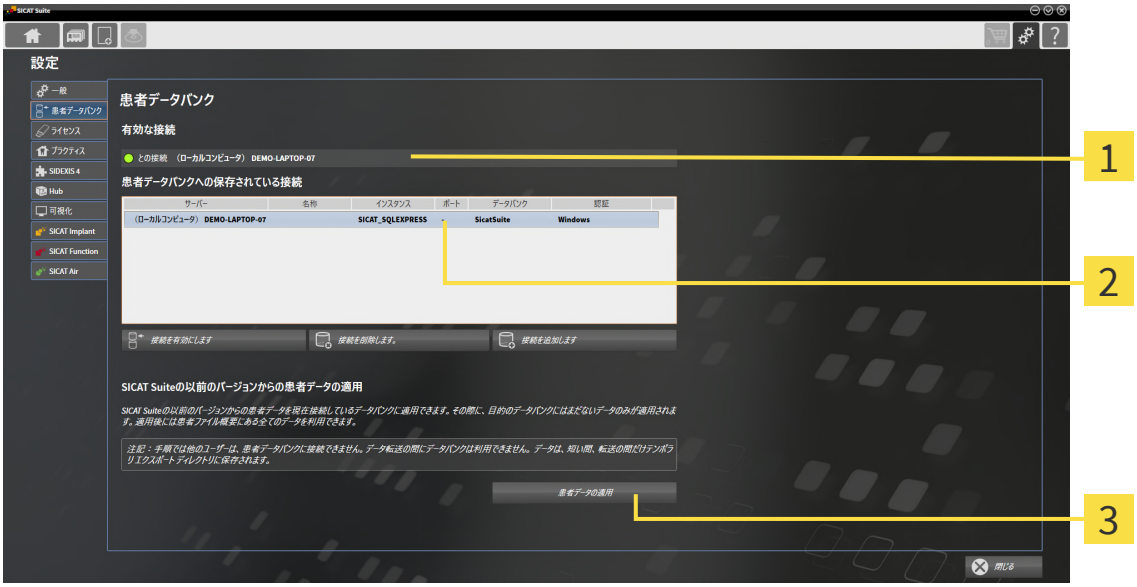
以前のSICAT Suiteバージョンから患者データバンクに患者データを適用するには、次の手順に従います。

☑ SICAT Suite患者データベースは、ローカルまたはサーバーにインストールされます。

☑ 患者データバンクへの接続が追加され、有効になっています。これに関する情報は*患者データバンクへの接続を追加する [▶ページ 79]*を参照してください。

☑ 他のユーザーはアクティブな患者データバンクに接続されていません。

☑ **患者データバンク**のウィンドウはすでに開いています。



1 有効な接続

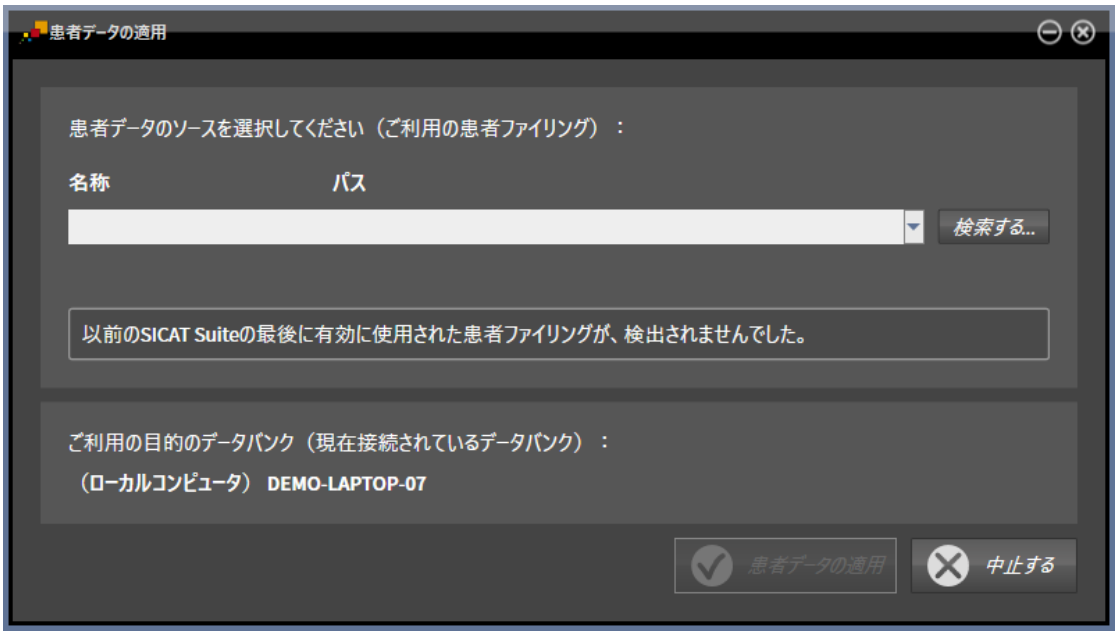
2 **患者データバンクへの保存されている接続** のリスト

3 **患者データの適用**のボタン

1. 複数の患者データバンクを使用している場合は、以前のSICAT Suiteバージョンから患者ファイリングを適用したい目的の患者データバンクを有効にします。これに関する情報は*別の患者データバンクを有効にする [▶ページ 84]*を参照してください。

2. **患者データバンク**のウィンドウで、**患者データの適用**のボタンをクリックします。

▶ **患者データの適用**のウィンドウが開きます。



3. **検索する**のボタンをクリックします。
   ▶ **フォルダを選択する**のウィンドウが開きます。
4. 患者ファイリングがある目的のフォルダを参照します。
5. 目的のファイルを選択し、**開く**をクリックします。
   ▶ 選択されたファイルのパスは、**名称**欄に表示されます。
6. **患者データの適用**のボタンをクリックします。
   ▶ 進捗状況のウィンドウが開きます。
   ▶ 患者ファイリングは、有効な患者データバンクに保存されます。
   ▶ 転送中、他のユーザーは患者データバンクを利用できません。

▶ 患者ファイルが正常に適用されると、**データ適用が成功しました。**確認メッセージが表示されます。データの適用が完了しました。

21 データインポート

⚠ 注意

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。

⚠ 注意

オリジナルデータを削除すると、データを消失するおそれがあります。

インポートした後にオリジナルデータを削除しないでください。

SICAT Suiteは、以下のデータショーマットの3D X線撮影画像をインポートすることができます。

- SICAT Suite DICOMデータ
- 3D X線撮影画像（DICOM、これに関する情報は*対応しているDICOMフォーマット [▶ページ 92]*を参照してください）
- SICATインプラントデータ
- SICATドリルテンプレート注文データ
- GALILEOS Wrap&Goデータ

次の二つの設定で、SICAT Suite 3D X線撮影画像を使用中の患者データバンクにインポートする方法を規定します。

- インポート設定は、SICAT Suiteが3D X線撮影画像をインポートするか、インポートしないか、既存の3D X線撮影画像に上書きするか、コピーを作成するか規定します。
- 割り当て設定は、SICAT Suiteがインポートした3D X線撮影画像を割り当てる患者ファイルを規定します。

1件のデータセットに、SICATのアプリケーションで作成した3D治療計画スタディが複数、含まれているときは、SICAT Suiteでは、3D治療計画スタディを、それら含まれる3D X線撮影画像と併せてインポートを行います。

3D X線撮影画像のインポートに適用する設定内容

アクティブな患者データバンクに患者ファイルが含まれている場合、3D X線撮影画像用に異なるインポート設定を選択することができます。使用可能なインポート設定は、インポートするデータのIDがアクティブな患者データバンク内の患者ファイルのIDと一致するかどうかによって異なります。

各3D X線撮影画像に対して、それぞれインポート設定を選択することができます。

データタイプ	IDが一致する	IDが一致しない	常に使用可能
SICAT Suite DICOMデータ SICATインプラントデータ SICATドリルテンプレート注文データ	**既存に上書きする** – SICAT Suiteは3D X線撮影画像をインポートし、同じIDを持つ既存のデータセットに上書きします。	**追加する** – SICAT Suiteは3D X線撮影画像をインポートし、同じIDを持つ既存のデータセットに上書きします。	**追加しないでください** – SICAT Suiteは3D X線撮影画像をインポートしません。
第三者のDICOMデータ Galileos Wrap&Goデータ	**さらに追加する** – SICAT Suiteは3D X線撮影画像を既存のデータセットのコピーとしてインポートします。	**追加する** – SICAT Suiteは3D X線撮影画像をインポートし、同じIDを持つ既存のデータセットに上書きします。	**追加しないでください** – SICAT Suiteは3D X線撮影画像をインポートしません。

患者ファイル割り当て用の特性比較

SICAT Suiteはインポートするデータの様々な特性を分析します。特性の種類：

- 姓
- 名
- 誕生日
- 患者ID、社会保険番号、施設の内部患者IDなど

患者ファイル割り当て用の設定

次のリストは、SICAT Suiteが特性比較に基づいて提案するインポートオプションを示しています。

- インポートするデータの全特性がアクティブな患者データバンクにある患者ファイルの特性と一致しています。SICAT Suiteは、**既存の患者ファイルに追加する**オプションと対応する患者ファイルを提案します。
- インポートするデータの特性の一部がアクティブな患者データバンクにある患者ファイルの特性と一致しています。SICAT Suiteは、**新規患者ファイルを作成する**オプションを提案します。

どちらの場合も、データを手動で別の患者ファイルに割り当てることができます。

データをインポートするには、次の操作を規定の手順で実行します。

- *インポートするデータを選択する [▶ページ 93]*
- *インポートオプションの選択 [▶ページ 95]*
- *既存の患者ファイルにデータを割り当てる [▶ページ 97]*

あるいは

- *データインポートによる新しい患者ファイルの作成 [▶ページ 96]*

21.1 対応しているDICOMフォーマット

DICOMデータセットをインポートする場合、SICAT Suiteは次の基準を満たしているデータセットに対応しています。

- データセットのフォーマットがDICOM 3.0である。
- データセットにパラレルレイヤーしか含まれない。
- データセットが圧縮されていない、JPEG形式またはJPEG 2000形式で圧縮されている。
- データセットが次のリストの対応しているタイプのいずれかと一致する。

対応しているデータセットタイプ：

- CT画像
- デジタルX線画像
- デジタル口内X線画像
- X線3D頭蓋顔面画像
- セカンダリーキャプチャー画像（グレースケール）（モダリティCT用のみ）
- マルチフレームグレースケールワードセカンダリーキャプチャー画像（モダリティCT用のみ）

その他の基準については、DICOM適合性宣言を参照してください。この宣言書は、ご要望に応じてSICATからご提供させていただきます。お問い合わせ先がご必要のときは、裏面をご覧ください。

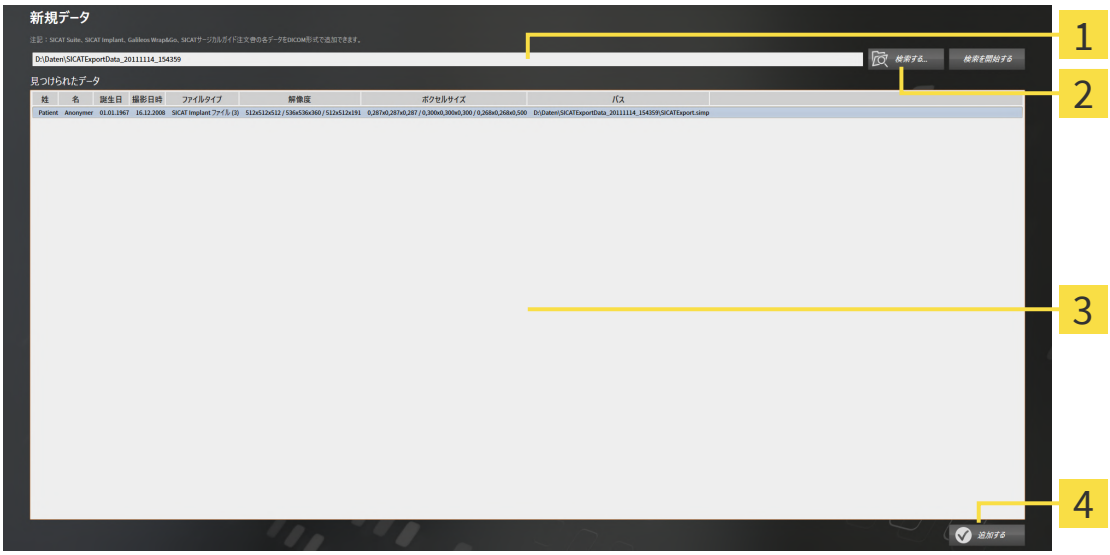
21.2 インポートするデータを選択する

> ⚠ **注意**
>
> **不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。**
>
> 利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

> ⚠ **注意**
>
> **DICOMに適合していないX線機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。**
>
> 利用する3D X線撮影画像は、DICOM規格に適合することが証明されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

アクティブな患者データバンクのデータをインポートするには、次の手順で行います。

1. **ナビゲーションバー**で、**新規データ**アイコンをクリックします。
   ▶ **新規データ**のウィンドウが開きます。



1 **データはどこにあるのですか？**欄	3 **見つけられたデータ**のリスト
2 **検索する**のボタン	4 **追加する**のボタン

2. **検索する**のボタンをクリックします。
   ▶ **ファイルまたはディレクトリを選択する**のウィンドウが開きます。

3. **ファイルまたはディレクトリを選択する**ウインドウで任意のファイルまたはフォルダを選択し、**OK**をクリックします。

▶ SICAT Suiteは**ファイルまたはディレクトリを選択する**ウィンドウが閉じ、ファイルかフォルダで選択したものへのパスを**データはどこにあるのですか？**欄に転記します。

▶ SICAT Suiteは、検索したフォルダのいずれかに含まれている互換性のあるファイルを**見つけられたデータ**リストにファイルの内容を表示します。

▶ フォルダを選択した場合、SICAT Suiteはそのフォルダおよび全てのサブフォルダを検索します。SICAT Suiteは、検索したフォルダのいずれかに含まれている互換性のあるファイルを**見つけられたデータ**リストに表示します。

SICAT Suiteにデータをインポートする際に、ドラッグ＆ドロップを利用することもできます。

説明されている手順を利用する場合、検索は自動で開始します。検索は、**検索を停止する**ボタンをクリックして中断することができます。ファイルまたはフォルダへのパスを手動で**データはどこにあるのですか？**欄に入力する場合、**検索を開始する**ボタンをクリックします。フォルダの内容が変わった、または誤って検索を終了した場合、検索を新たに開始するには、これが役に立つこともあります。

互換性があるにもかかわらず、SICAT Suiteが特定のファイルを検出しない場合、そのファイルへのパスが長過ぎることが原因の可能性があります。それらのファイルをファイルシステムの一つ上の階層にコピーし、改めて検索を開始してください。

*インポートオプションの選択 [▶ ページ 95]*で続行してください。

21.3 インポートオプションの選択

各スタディのインポートオプションを選択するには、次の手順で行います。

1. **見つけられたデータ**リストから希望のスタディを選択し、**追加する**ボタンをクリックします。

   ▶ **追加する** のウィンドウが開きます。

1 列 **アクション**

2. **追加する**ウィンドウで**アクション**列から各スタディ用に以下のエントリを選択します。**追加しないでください**、 **さらに追加する**、 **追加する** または **既存に上書きする**。オプションに関する詳細な説明は、*データインポート [▶ページ 89]*の節をご覧ください。

▶ これらをインポートするかどうかについては、全てのスタディに対して個別に設定します。

以下の操作を続行します：

- *既存の患者ファイルにデータを割り当てる [▶ページ 97]*
- *データインポートによる新しい患者ファイルの作成 [▶ページ 96]*

21.4 データインポートによる新しい患者ファイルの作成

アクティブな患者データバンクに同じ特性の組み合わせを持つ患者ファイルがない場合、データインポートによって新しい患者ファイルを作成することができます。

1 オプション **新規患者ファイルを作成する**

2 ボタン **続行する**

インポートするデータを新しい患者ファイルに割り当てるには、次の手順で行います。

- **患者リストへの割り当て**エリアで**新規患者ファイルを作成する**オプションを選択し、**続行する**ボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteは、選択したデータの特性を持つ新しい患者ファイルを作成します。

▶ SICAT Suiteは、選択したデータをインポートし、これらを新しい患者ファイルに割り当てます。

▶ **患者ファイルの概要**ウインドウが開き、SICAT Suiteでインポートされた患者ファイルが**患者ファイル**リスト内で強調されます。この表示に関する内容は、*患者ファイル [▶ページ 100]* の節をご覧ください。

21.5 既存の患者ファイルにデータを割り当てる

注意

患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読込済みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。

SICAT Suiteでは、次の条件に該当する場合、**既存の患者ファイルに追加する**オプションが、対応する患者ファイルとともに自動的に選択されます：インポートするデータのすべての属性が、アクティブな患者データバンクの患者ファイルの属性に対応しています。

1 **既存の患者ファイルに追加する**オプション

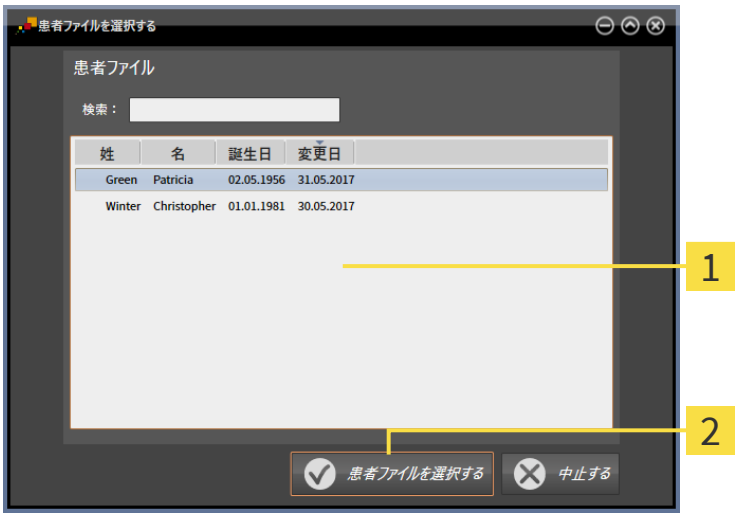
2 **患者ファイルを選択する**のボタン

インポートするデータを既存の患者ファイルに手動で割り当てるには、次の手順で行います。

☑ アクティブな患者データバンクには、最低一つの患者ファイルが含まれます。

1. **患者リストへの割り当て**エリアで**既存の患者ファイルに追加する**オプションを選択し、**患者ファイルを選択する**のボタンをクリックします。

► **患者ファイルを選択する**ウィンドウが開き、既存の患者ファイルのリストが表示されます。



1 **患者ファイル**のリスト

2 **患者ファイルを選択する**のボタン

2. 希望する患者ファイルをクリックし、**患者ファイルを選択する**のボタンをクリックします。

► **患者ファイルを選択する**ウイドウが閉じます。

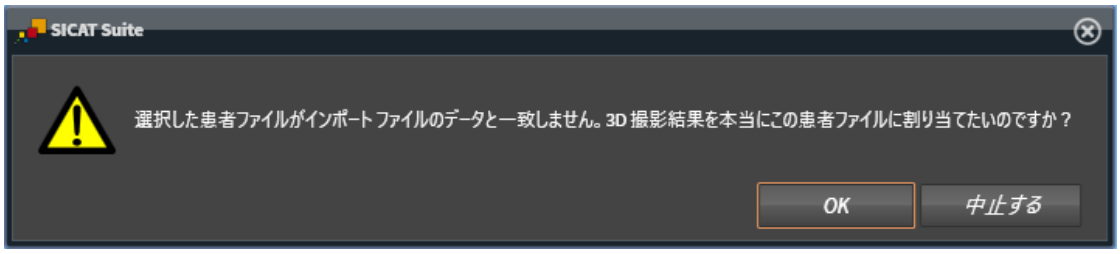
► **追加する**ウインドウに選択した患者ファイルの特性が表示されます。

1 選択した患者ファイルの特性

2 **続行する**のボタン

3. **追加する**のウィンドウで、**続行する**のボタンをクリックします。

4. インポートするデータの特性が選択した患者ファイルの特性と一致しない場合、次の警告メッセージが表示されます。



5. それでもデータをインポートする場合、**OK**をクリックします。

▶ SICAT Suiteは、選択したデータをインポートし、これらを既存の患者ファイルに割り当てます。

▶ **患者ファイルの概要**ウインドウが開き、SICAT Suiteでインポートされた患者ファイルが**患者ファイル**リストで強調されます。これに関する情報は*患者ファイル [▶ページ 100]*を参照してください。

22 患者ファイル

患者ファイルには複数の3D撮影結果が含まれる可能性があります。スタディは3D X線撮影画像と付属の計画プロジェクトで構成されています。さらに、患者ファイルには計画中に作成された文書が含まれる場合があります。

ネットワーク内の複数のユーザーによる患者ファイルへのアクセス

患者ファイルは、SICAT Suite患者データベースに保存されます。患者ファイルは、ユーザーが編集できるように開くとロックされます。ロックされた患者ファイルは、サーバーに基づく患者データバンクを備えたネットワーク環境で他のユーザーが表示するためにのみ開くことができ、計画のために変更したり開いたりすることはできません。

ロックは、患者ファイルが次の目的でユーザーによって使用されている期間に適用されます。

- 計画プロジェクトの編集
- 患者ファイルの属性の変更
- 患者ファイルに新しい患者データを追加する
- ショッピングカートの編集
- 患者データのエクスポート（Export）
- 患者ファイルの削除

患者ファイルが閉じられるとすぐにロックは解除され、患者ファイルは再び別のユーザーが処理できるようになります。

ロックされた患者ファイルは、**患者ファイルの概要**ウィンドウにロックアイコンが表示されます。患者ファイルを編集するためのボタンはグレーアウトされています。

患者ファイルを管理するために使用できる操作：

- *「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*
- *患者ファイルを検索して並べ替える [▶ページ 102]*
- *患者ファイル概要から3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開く [▶ページ 108]*
- *患者ファイルを扱う [▶ページ 104]*
- *患者ファイルの特性を変更する [▶ページ 106]*
- *患者ファイルを削除する [▶ページ 115]*
- *患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除 [▶ページ 117]*
- *Abgelaufene Sperre einer Patientenakte aufheben [▶ページ 119]*

さらに、患者ファイルへのデータのインポートおよび患者ファイルからのデータのエクスポートを行うことができます。

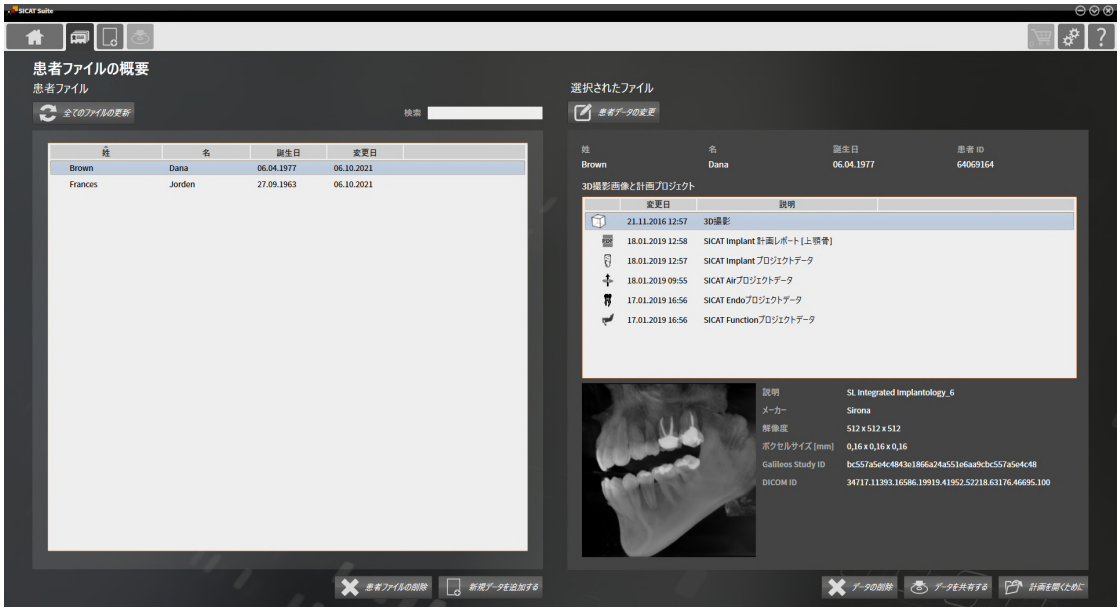
- *データインポート [▶ページ 89]*
- *データエクスポート [▶ページ 240]*

22.1 「患者ファイル概要」ウインドウを開く

患者ファイルの概要ウィンドウを開くには、次の手順で行います。

- **ナビゲーションバー**で、**患者ファイル**アイコンをクリックします。

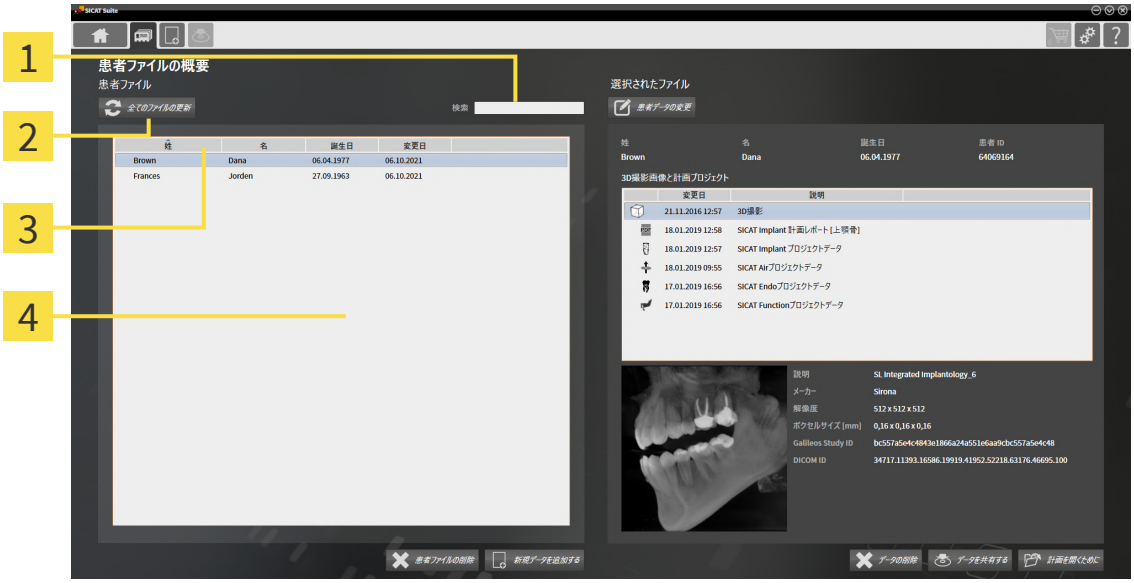
► **患者ファイルの概要**のウィンドウが開きます。



以下の操作を続行します：

- *患者ファイルを検索して並べ替える [▶ページ 102]*
- *患者ファイルを扱う [▶ページ 104]*
- *患者ファイルの特性を変更する [▶ページ 106]*
- *患者ファイル概要から3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開く [▶ページ 108]*
- *患者ファイルを削除する [▶ページ 115]*
- *患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除 [▶ページ 117]*
- *Abgelaufene Sperre einer Patientenakte aufheben [▶ページ 119]*

22.2 患者ファイルを検索して並べ替える



1 **検索**欄

2 **全てのファイルの更新**のボタン

3 列のタイトル（特性を含む）

4 **患者ファイル**のリスト

患者ファイルの概要ウィンドウで患者の記録を選択して管理できます。

患者ファイルリストには、患者データバンクに保存されているすべての患者ファイルが表示されます。

他のユーザーによってブロックされた患者ファイルには、ロックアイコンが表示されています。詳細は*患者ファイル [▶ページ 100]*を参照してください。

患者ファイルを更新する

複数のユーザーが患者データバンクにアクセスできるため、他のユーザーによって新しく作成または変更された患者ファイルが、**患者ファイル**リストにまだ表示されていない可能性があります。

患者ファイルを更新するには、次の手順で行います：

☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*を参照してください。

- **全てのファイルの更新**のボタンをクリックします。

▶ **患者ファイル**リストが更新され、患者データバンクに存在するすべての患者ファイルが表示されます。

サーバーに基づく患者データバンクを備えたネットワーク環境で、ネットワークの問題のために患者ファイルへのアクセスが制限されたり、または患者ファイルのロックステータスを更新する必要がある場合は、**患者ファイル**リストを更新することで、ネットワークの問題が解決した後にSICAT Suiteと患者データバンク間の適切な通信を回復することができます。

患者ファイルの検索

SICAT Suiteは、入力した検索テキストに従って全ての患者ファイルの特性を検索します。

患者ファイルを検索するには、次のように行います。

☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*を参照してください。

- **検索**欄に目的の検索テキストを入力します。

▶ **患者ファイル**リストに、入力した検索テキストが特性に含まれる全患者ファイルが表示されます。

SICAT Suiteは、入力を始めると直ちに検索を開始します。

特性に基づく患者ファイルの並べ替え

以下の特性に基づいて、患者ファイルを並べ替えることができます。

- **姓**
- **名**
- **誕生日**
- **変更日**

患者ファイルを特性に基づいて並べ替えるには、次のように行います。

☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*を参照してください。

1. **患者ファイル**リストで希望の特性の列のタイトルをクリックします。
   ▶ SICAT Suiteは、**患者ファイル**リストを目的の属性の順序で並べ替えます。
2. **患者ファイル**リストで希望の特性の列のタイトルをもう一度クリックします。
   ▶ SICAT Suiteは、**患者ファイル**リストを希望の特性で逆の順序に並べ替えます。

通常、患者ファイルは変更日の降順に並べ替えられています。

22.3 患者ファイルを扱う

注意

削除した患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトは元に戻すことができません。

患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトの削除は、これらのデータが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

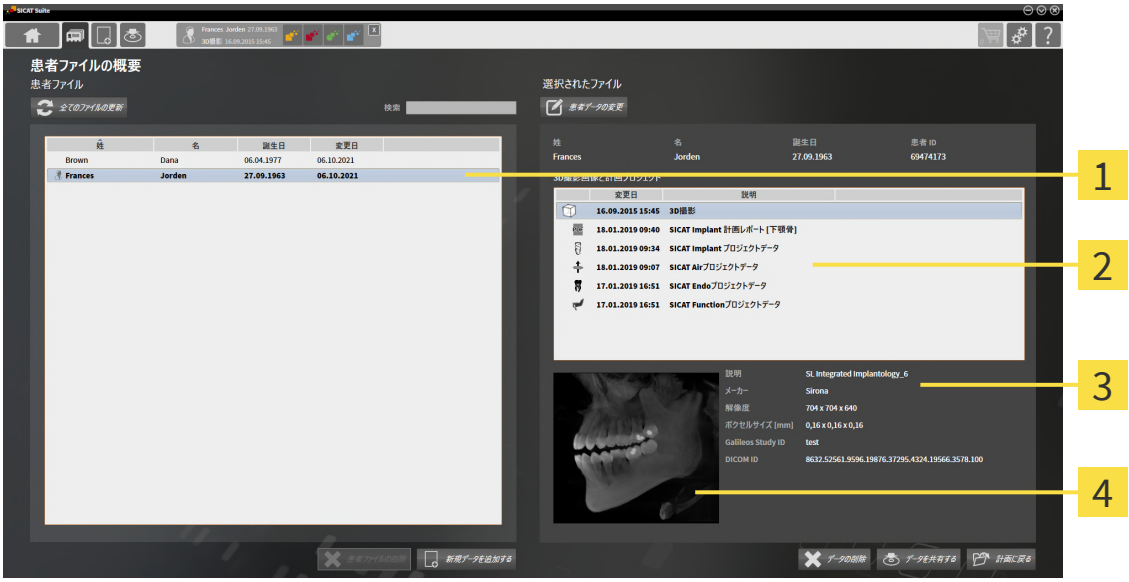
注意

3D X線撮影画像を削除すると、それに依存する計画プロジェクトも全て削除されます。

3D X線撮影画像の削除は、それに依存する全計画プロジェクトが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

患者ファイルを扱うには、次の手順で行います。

☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*を参照してください。



1 **患者ファイル**のリスト

2 **3D撮影図と計画プロジェクト**のリスト

3 **詳細**エリア

4 **概要**エリア

1. **患者ファイルの概要**ウィンドウで**患者ファイル**リストから希望の患者ファイルを選択します。

   ▶ **選択されたファイル**エリアで**3D撮影図と計画プロジェクト**リストに選択した患者ファイルの全ての3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが表示されます。

2. **3D撮影図と計画プロジェクト**リストから希望の3D X線撮影画像または希望の計画プロジェクトまたは希望の計画プロジェクトを選択します。

   ▶ **概要**エリアに、選択した3D X線撮影画像または選択した計画プロジェクトのプレビューが表示されます。

▶ **詳細**エリアに、DICOMメタデータや計画データの詳細など、選択した3D X線撮影画像または選択した計画プロジェクトの詳細が表示されます。

他のユーザーによってブロックされた患者ファイルには、ロックアイコンが表示されています。これに関する情報は*患者ファイル [▶ページ 100]*を参照してください。

自分で編集した患者ファイルには、人物のアイコンが付いています。

患者ファイルを扱う際に、次のオプションが利用できるようになりました。

- *患者ファイルの特性を変更する [▶ページ 106]*
- *患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除 [▶ページ 117]*
- *患者ファイルを削除する [▶ページ 115]*
- *データエクスポート [▶ページ 240]*
- *Abgelaufene Sperre einer Patientenakte aufheben [▶ページ 119]*

22.4 患者ファイルの特性を変更する

アクティブな患者データバンク内にある各患者ファイルの特性の組み合わせは明確である必要があります。

患者ファイルの以下の特性を変更することができます。

- **姓**
- **名**
- **誕生日**
- **患者 ID**

患者ファイルの特性を変更するには、次の手順で行います。

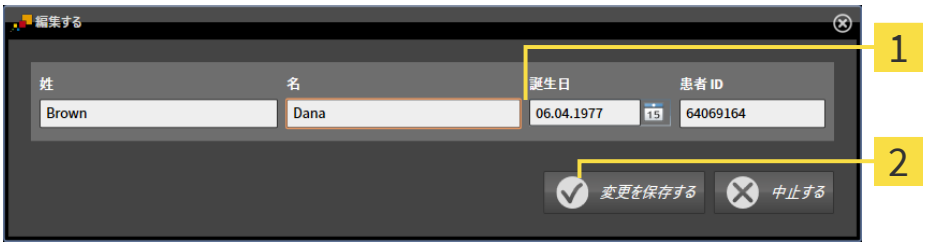
☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*を参照してください

☑ 患者ファイルは他のユーザーによってロックされていません。

1. **患者ファイルの概要**ウィンドウで**患者ファイル**リストから希望の患者ファイルを選択します。

2. **患者データの変更**のボタンをクリックします。

   ▶ **編集する**のウィンドウが開きます。



1 特性欄

2 **変更を保存する**のボタン

3. **編集する**ウインドウで特性欄に希望の値を入力します。

4. **変更を保存する**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteが変更内容を保存します。

患者データが匿名化されていても、患者IDは表示されたままであり、いつでも患者を識別するために使用できます。

患者IDはDICOM IDと一致しません。任意の各IDを患者IDとして入力することができます（社会保険番号、施設の内部患者IDなど）。

22.5 患者ファイル概要から3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開く

注意

患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読込済みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。

注意

不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

注意

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

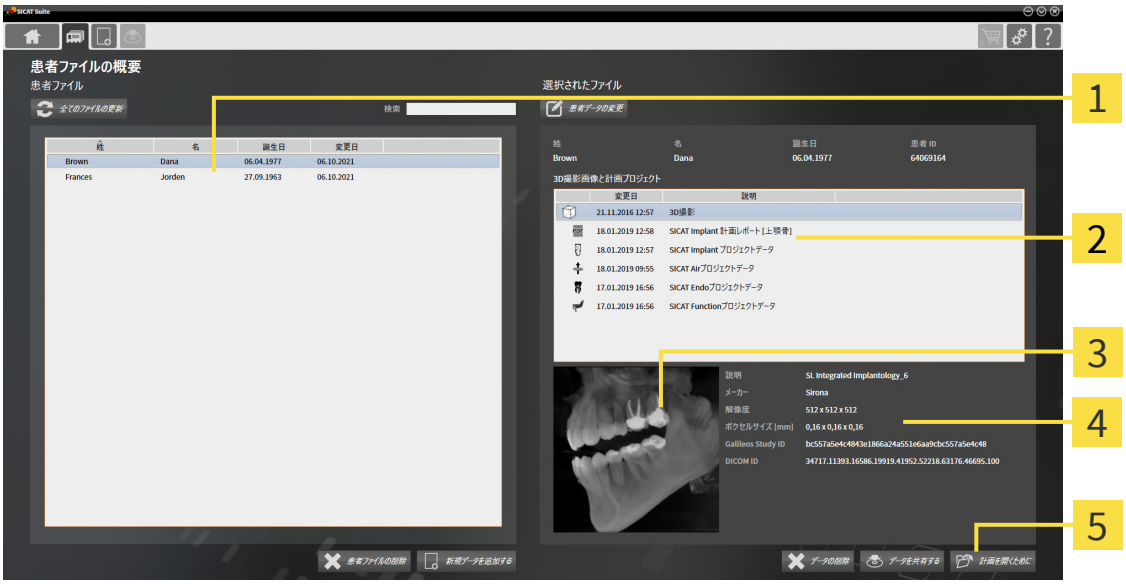
3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。

使用するライセンスと患者ファイルのロック状態に応じて、3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開いて表示または計画することができます。

3D X線撮影画像または計画プロジェクトを計画用に開くことができるか、または単に表示するために開くことができるかは、使用しているライセンスと、患者ファイルが他のユーザーによってブロックされているかどうかによって異なります。これに関する情報は、*データを書き込み禁止で開く [▶ページ 276]*、*患者ファイル [▶ページ 100]*および*患者ファイルを扱う [▶ページ 104]*を参照してください。

3D X線撮影画像または計画プロジェクトを開くには、次の手順で行います。

☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*を参照してください。



1 **患者ファイル**のリスト

2 **3D撮影図と計画プロジェクト**のリスト

3 **概要**エリア

4 **詳細**エリア

5 **計画を開くために**または**ビューを開くために**ボタン

1. **患者ファイルの概要**ウィンドウで**患者ファイル**リストから希望の患者ファイルを選択します。

   ▶ **選択されたファイル**エリアで**3D撮影図と計画プロジェクト**リストに選択した患者ファイルの全ての3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが表示されます。

2. **3D撮影図と計画プロジェクト**リストから希望するデータセットまたは希望するドキュメントを選択します。

   ▶ **概要**エリアと**詳細**エリアに、選択したデータセットまたはドキュメントに関する情報が表示されます。

3. **計画を開くために**または**ビューを開くために**ボタンをクリックして、選択したデータセットを開きます。

   ▶ 選択したデータセットは、計画または表示のためにSICATアプリケーションで開かれます。

4. **データを共有する**ボタンをクリックして、選択したPDFを保存します。

   ▶ Windowsファイルエクスプローラウィンドウが開き、そのドキュメントを任意のディレクトリに保存できます。その後、デフォルトのPDFビューアでドキュメントを表示できます。

3D X線撮影画像を、それが関係するスタディなしに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが1つのみのときは、そのSICATのアプリケーションが起動します。3D X線撮影画像を、それが関係する、複数のスタディとともに開き、かつ、ライセンスのアクティベーションを完了している、SICATのアプリケーションが複数あるときは、前回、スタディに変更を加えたアプリケーションが起動します。

22.6 SICAT FUNCTIONでのSICAT AIR撮影結果

⚠ **注意**

DICOMに適合していないX線機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、DICOM規格に適合することが証明されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

⚠ **注意**

不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

⚠ **注意**

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。

⚠ **注意**

表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。

⚠ **注意**

環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

注記

正確な診断、正確な治療、顎運動データの正確な記録を確実にするため、SICATは次のパラメーターを含む3D X線データを使用することを推奨します。

1. レイヤーの厚さ：0.7mm以下
2. ボクセルサイズ：全3次元で0.7mm以下

以下の条件が満たされた場合、**患者ファイルの概要**は、SICAT Function - スタディの情報を表示します：

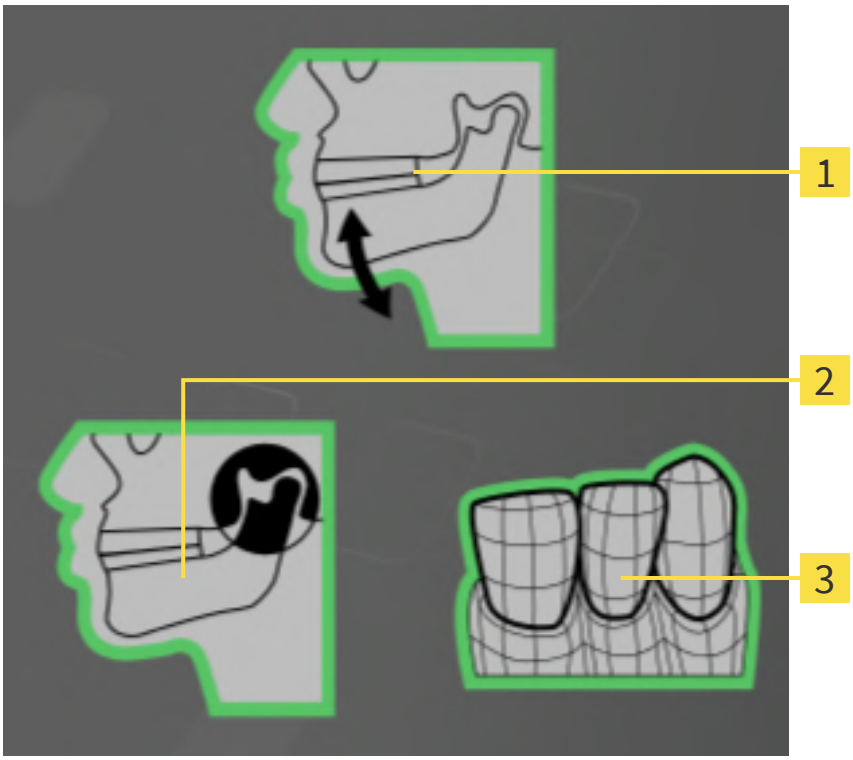
- SICAT Suiteをスタンドアロンバージョンとして使用します。
- **3D撮影図と計画プロジェクト**のエリアからSICAT Functionスタディを選択しました。

1 選択したSICAT Functionスタディ

2 エリア **概要**

3 エリア **詳細**

概要エリアに次の情報が表示されます：



1 顎運動データ

2 セグメンテーション

3 光学印象

緑色の囲みは、各要素がスタディに存在していることを意味しています。

詳細エリアに次の情報が表示されます：

- 光学印象の可用
- 撮影日時の入った顎運動データの可用
- 作成日が入った顎関節のセグメンテーションの可用
- ステータスと日付が入った注文の可用

22.7 患者ファイルを閉じ、それに含まれる計画プロジェクトを保存する

編集用に開いた患者ファイルを閉じるために、それに含まれる計画プロジェクトを保存するには、次の手順で行います。

- 開いている患者ファイルエリアで**閉じる**のボタンをクリックします。

► SICAT Suiteは患者ファイルを閉じ、計画プロジェクトで実行した変更内容を保存します。患者ファイルのロックが解除されます。

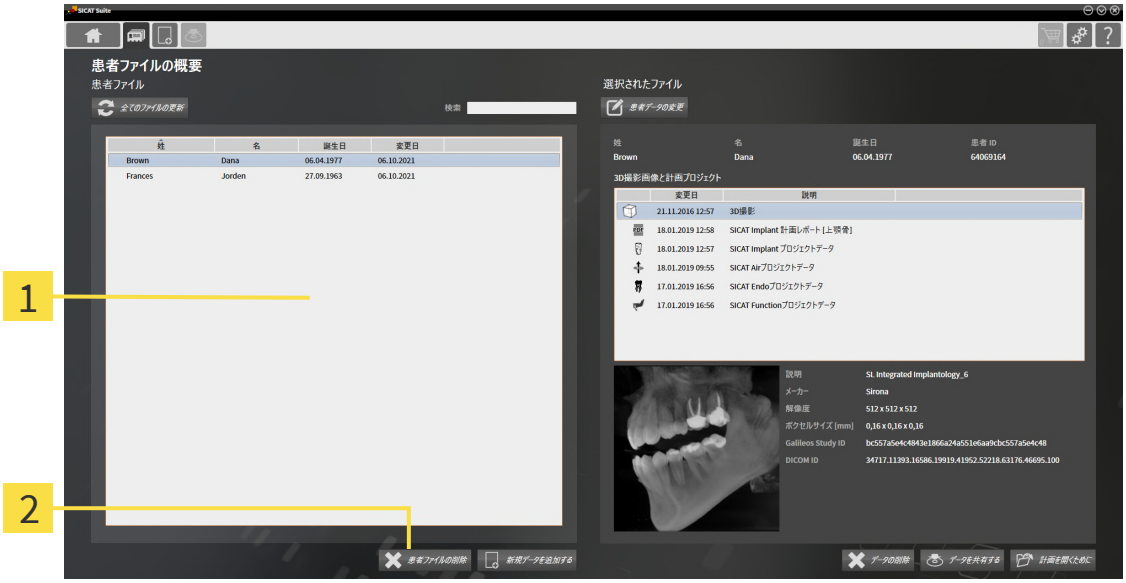
22.8 患者ファイルを削除する

> ⚠ **注意**
>
> **患者ファイルを削除すると、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルも全て削除されます。**
>
> 患者ファイルの削除は、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが全て再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

患者ファイルおよびそれに含まれる全ての3D X線撮影画像および計画プロジェクトを削除するには、次の手順で行います。

☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*を参照してください。

☑ 患者ファイルは他のユーザーによってロックされていません。



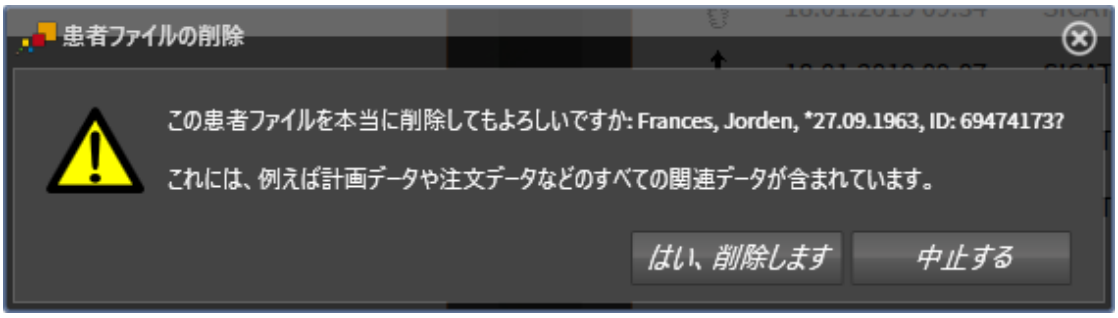
1 **患者ファイル**のリスト

2 **患者ファイルの削除**のボタン

1. **患者ファイルの概要**ウィンドウで**患者ファイル**リストから希望の患者ファイルを選択します。

2. **患者ファイルの削除**のボタンをクリックします。

► 確認メッセージが開きます。



3. 選択したデータを削除する場合、**はい、削除します**確認メッセージをクリックします。

► SICAT Suiteは選択した患者ファイル、それに含まれる全ての3D X線撮影画像および計画プロジェクトをアクティブな患者データバンクから削除し、**患者ファイル**リストから除去します。

22.9 患者ファイルからの3D X線撮影画像または計画プロジェクトの削除

⚠ **注意**

削除した患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトは元に戻すことができません。

患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトの削除は、これらのデータが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

⚠ **注意**

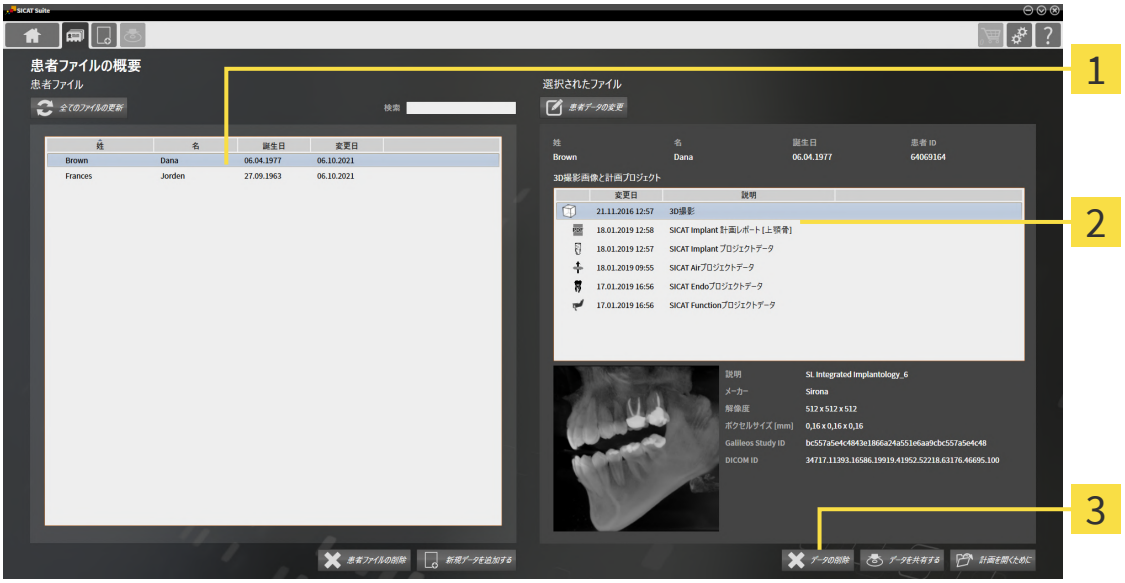
3D X線撮影画像を削除すると、それに依存する計画プロジェクトも全て削除されます。

3D X線撮影画像の削除は、それに依存する全計画プロジェクトが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

3D X線撮影画像および計画プロジェクトを患者ファイルから削除するには、次の手順で行います。

☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*を参照してください。

☑ 患者ファイルは他のユーザーによってロックされていません。



1 **患者ファイル**のリスト

2 **3D撮影図と計画プロジェクト**のリスト

3 **データの削除**のボタン

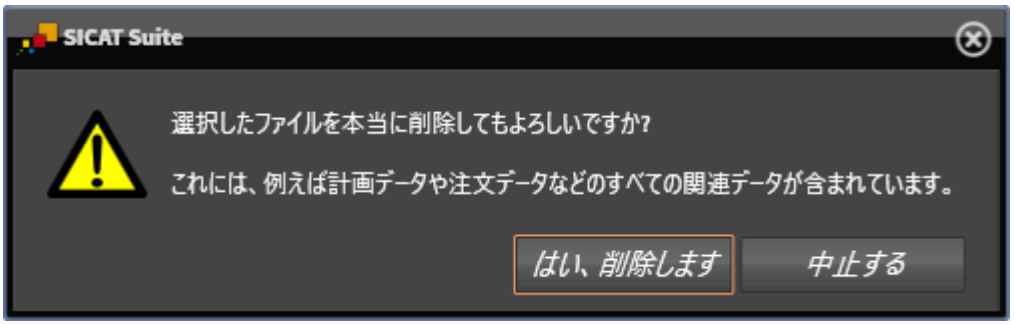
1. **患者ファイルの概要**ウィンドウで**患者ファイル**リストから希望の患者ファイルを選択します。

► **選択されたファイル**エリアで**3D撮影図と計画プロジェクト**リストに選択した患者ファイルの全ての3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが表示されます。

2. **3D撮影図と計画プロジェクト**リストから希望するデータセットまたは希望するドキュメントを選択します。

3. **データの削除**のボタンをクリックします。

► 確認メッセージが開きます。



4. 選択したデータを削除する場合、**はい、削除します**確認メッセージをクリックします。

► SICAT Suiteは、選択した3D X線撮影画像または計画プロジェクトを患者ファイルおよび**3D撮影図と計画プロジェクト**リストから削除します。

22.10 ABGELAUFENE SPERRE EINER PATIENTENAKTE AUFHEBEN

ネットワークの問題により、まれに、ネットワーク内のユーザーが患者ファイルを適切に閉じず、ユーザーが患者ファイルを開いていなくてもロックされている可能性があります。

長期間更新されていないロックされた患者ファイルは、**選択されたファイル**エリアにロックアイコンと感嘆符が表示されます。

開いていないロックされた患者ファイルのロックを解除するには、次の手順で行います。

☑ **患者ファイルの概要**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*「患者ファイル概要」ウインドウを開く [▶ページ 101]*を参照してください

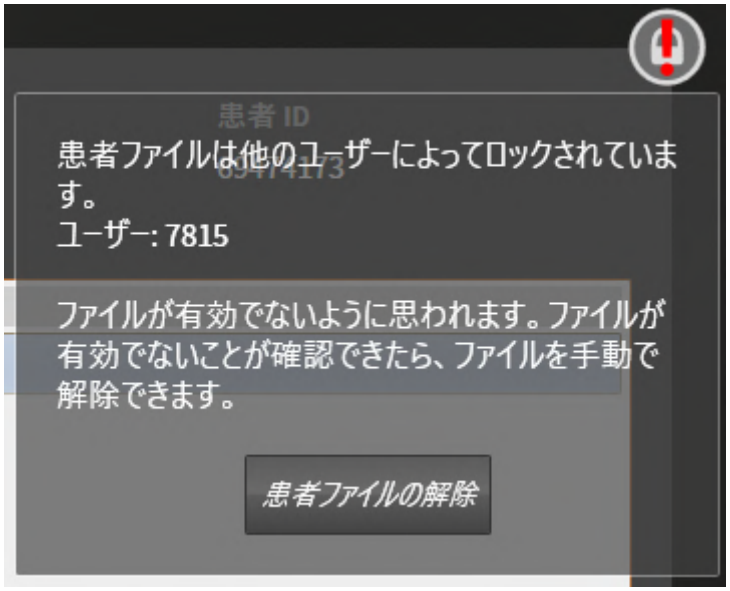
☑ 患者レコードはロックされたものとして表示され、表示用にのみ開くことができます。

1. **患者ファイルの概要**ウィンドウで**患者ファイル**リストからロックされた患者ファイルを選択します。

   ▶ **選択されたファイル**エリアで**3D撮影図と計画プロジェクト**リストに選択した患者ファイルの全ての3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが表示されます。

2. マウスポインタをロックアイコンに合わせます。

   ▶ 情報のウィンドウが開きます：



   ▶ 現在、患者ファイルをブロックしているユーザーの名前が表示されます。

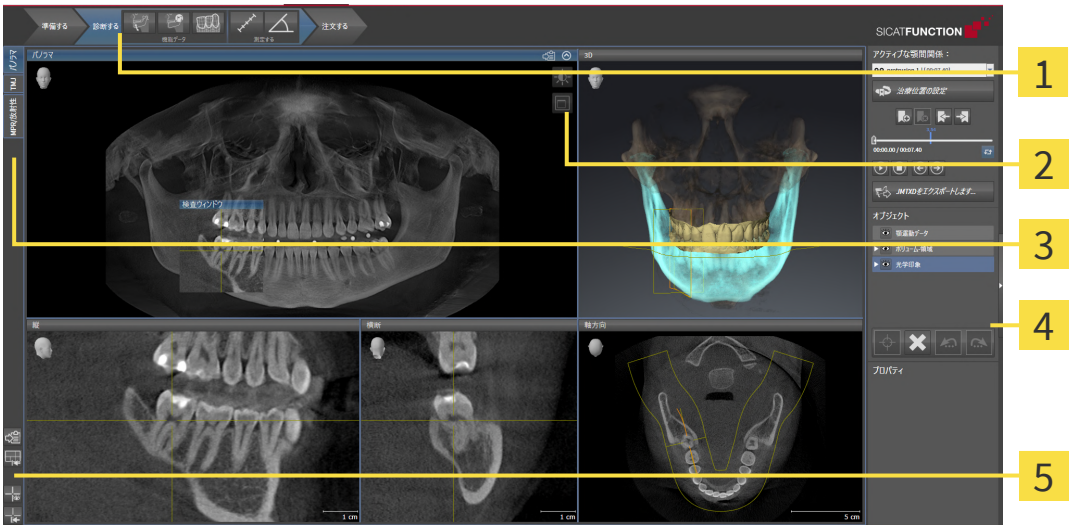
3. ユーザーに連絡して、実際にまだ患者ファイルを開いているかどうかを尋ねます。

4. 指定されたユーザーが患者記録を開いていないことが確認されたら、**患者ファイルの解除**のボタンをクリックします。

   ▶ 患者ファイルのロックが解除されます。

23 SICAT FUNCTIONのユーザーインターフェース

SICAT Functionのユーザーインターフェースは、以下のアイテムから構成されています。



1 **ワークフローのツールバー**

2 **画像のツールバー**

3 ワークスペースの切替用ボタン

4 **オブジェクトバー**

5 **ワークスペースのツールバー**

- **ワークフローのツールバー**は、複数のワークフロー・ステップから構成されますが、その中には、アプリケーションのワークフローで使用する主要ツールが用意されています。これには、診断オブジェクトおよび計画オブジェクトを追加およびインポートすることのできるツールが含まれます。これに関する情報は*ワークフローのツールバー [▶ページ 122]*を参照してください。
- **ワークスペースエリア**は、**ワークフローのツールバー**の下側にあって、ユーザーインターフェースの一部を構成します。この部分には、SICAT Functionで開いているワークスペースを表示します。各ワークスペースに特定のビュー構造が含まれています。これに関する情報は*ワークスペース [▶ページ 132]*を参照してください。
- 有効なビューにのみ**画像のツールバー**が表示されます。付属のビューの表示を調整するツールがあります。これに関する情報は*ビューの調整 [▶ページ 142]* と *3Dビューの調整 [▶ページ 156]*を参照してください。
- **オブジェクトバー**には、診断や治療計画のそれぞれで対象とするもの（オブジェクト）を管理するための各種ツールが用意されています。これに関する情報は*オブジェクトバー [▶ページ 124]*を参照してください。
- **ワークスペースのツールバー**には、各種ツールが用意されていますが、これらのツールで、ワークスペースの一般的な各種設定や、含まれる画像のすべてに対して変更を加えたり、ワークスペースの内容を記録したりすることができます。これに関する情報は*十字線およびフ*

*レームの移動、非表示、表示 [▶ページ 150]、ビューをリセットする [▶ページ 154]、アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット [▶ページ 139]と ワークスペースのスクリーンショットを作成する [▶ページ 140]*を参照してください。

23.1 ワークフローのツールバー

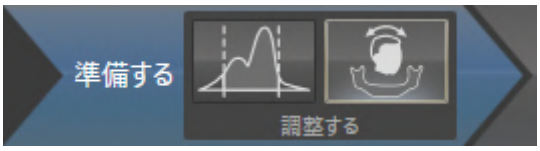
SICAT Functionでは、**ワークフローのツールバー**は3つのワークフローステップで構成されています：

1. **準備する**
2. **診断する**
3. **注文する**

ワークフローステップの開閉

以下の各アイコンをクリックすると、ワークフロー・ステップを展開させたり畳み込んだりすることができます。

1．ワークフロー・ステップ「準備する」



ワークフロー・ステップ「**準備する**」では、以下のツールが使用できます。

- **グレースケール値を調整する** - これに関する情報は*グレースケール値を調整する [▶ページ 170]*を参照してください。このツールが使用でき、また、必要になるのは、シロナ社製以外の機器で表示するボリュームに限ります。

- **ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整します** - これに関する情報は*ボリュームの配置を調整する [▶ページ 174]*と*パノラマ エリアを調整する [▶ページ 179]* を参照してください。

2．ワークフロー・ステップ「診断する」

ワークフロー・ステップ「**診断する**」では、以下のツールが使用できます。

- **顎運動データをインポートして記録する** - これに関する情報は*顎運動データをインポートして記録する [▶ページ 185]*を参照してください。

- **下顎と顆状突起をセグメントする** - これに関する情報は*セグメンテーション [▶ページ 190]*を参照してください。

- **光学印象をインポートし記録する** - これに関する情報は*光学印象 [▶ページ 197]*を参照してください。

- **距離測定を追加する(D)** - これに関する情報は*距離測定を追加する [▶ページ 235]*を参照してください。

- **角度測定を追加する(A)** - これに関する情報は*角度測定を追加する [▶ページ 236]*を参照してください。

3. ワークフロー・ステップ「注文する」

ワークフロー・ステップ「**注文する**」では、以下のツールが使用できます。

- **スプリントを注文します** - これに関する情報は*スプリントをショッピングカートに入れる [▶ページ 247]*を参照してください。

23.2 オブジェクトバー

1 **オブジェクトブラウザ**

2 **オブジェクトバーを非表示にする**のボタンまたは**オブジェクトバーを表示する**のボタン

3 **オブジェクトツールバー**

4 **プロパティ**エリア

オブジェクトバーには、以下のアイテムが用意されています。

- **オブジェクトブラウザ**には、診断や治療計画の対象 (オブジェクト) として、現時点のスタディに追加したりインポートしたりしたものをもれなく、カテゴリ分類して列挙したリストを表示します。**オブジェクトブラウザ**は、複数のオブジェクトを自動でグループ分けします。例えば、**測定**のグループには、測定対象のオブジェクトがもれなく含まれています。オブジェクトグループを開閉する、オブジェクトおよびオブジェクトグループをアクティブにする、オブジェクトおよびオブジェクトグループを非表示または表示にすることができます。オブジェクトブラウザに関する内容は、 *オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 126]*の節をご覧ください。
- **オブジェクトツールバー**には、各種のツールが用意されていますが、これらのツールにより、オブジェクトへの合焦、オブジェクトやオブジェクトグループの削除、オブジェクトまたはオブジェクトグループに対して行った操作の取り消し、再度実行などができます。これに関する情報は*オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 128]*を参照してください。
- **プロパティ**エリアには、作業対象として選択しているオブジェクトについて、その詳細を表示します。

オブジェクトバーの視点を**オブジェクトバー**の右側の2つのボタンで変更することができます。
オブジェクトバーを非表示にするおよび**オブジェクトバーを表示する**

SICAT Function で作業対象として選択可能なオブジェクトは、*SICAT Functionオブジェクト [ページ 130]*の節をご覧ください。

23.3 オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理

オブジェクトグループの開閉

オブジェクトグループを展開したり畳み込んだりするときは、以下の手順に沿って操作を行ってください。

☑ 現在、希望のオブジェクトグループが開いています。

1. 畳み込みたいオブジェクトグループの横にある**グループを閉じる**のアイコンをクリックします。

   ▶ オブジェクトグループの畳み込みが行われます。

2. 畳み込みたいオブジェクトグループの横にある**グループを開く**のアイコンをクリックします。

▶ オブジェクトグループが展開します。

オブジェクトおよびオブジェクトグループをアクティブにする

ツールによっては、作業対象として選択しているオブジェクトやオブジェクトグループ以外では、利用できないものが、いくらかあります。

オブジェクトまたはオブジェクトグループを有効にするには、次のように行います。

☑ 現在、希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループが無効になっています。

- 希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループをクリックします。

▶ SICAT Function は、それまで有効であったオブジェクトまたはオブジェクトグループを無効にします。

▶ SICAT Function は希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループを有効にします。

▶ SICAT Function は、**オブジェクトブラウザ**と画像のそれぞれで、オブジェクトやオブジェクトグループに色を付けてハイライト表示します。

オブジェクトをクリックすることによって、2Dビューで特定のオブジェクトも有効にすることができます。

オブジェクトおよびオブジェクトグループの表示/非表示

この機能は、特定のオブジェクトタイプを除いて利用できません。

オブジェクトやオブジェクトグループを非表示/表示にするには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 現在、希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループは表示されています。

1. お好みのオブジェクトまたはオブジェクトグループの横にある**表示**のアイコンか、または**一部表示**のアイコンをクリックします。

► SICAT Functionはオブジェクトまたはオブジェクトグループを非表示にします。

► SICAT Functionでは、オブジェクトまたはオブジェクトグループの横に**非表示**アイコンが表示されます。

2. お好みのオブジェクトまたはオブジェクトグループの横にある**非表示**アイコンをクリックします。

► SICAT Functionはオブジェクトまたはオブジェクトグループを表示します。

► SICAT Functionでは、オブジェクトまたはオブジェクトグループの横に**表示**アイコンが表示されます。

23.4 オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理

この機能は、特定のオブジェクトタイプを除いて利用できません。

オブジェクトに焦点を合わせる

この機能は、画像内でオブジェクトを探す目的で使用してください。

あるオブジェクトに焦点を合わせるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 希望のオブジェクトはすでにアクティブになっています。オブジェクトブラウザに関する内容は、 *オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 126]*の節をご覧ください。

☑ オブジェクトに焦点を合わせることができます。

- **アクティブ オブジェクトを合わせる(F)**のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Functionは、ビューの焦点をアクティブなオブジェクトに移動させます。

▶ SICAT Functionには、ビュー内でアクティブなオブジェクトが表示されます。

オブジェクトへの合焦は、**オブジェクトブラウザ**からか、または、ビューで、オブジェクトをダブルクリックしても同様に可能です。ただし、**3D**画像を除きます。

オブジェクトおよびオブジェクトグループの除去

オブジェクトまたはオブジェクトグループを削除するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 希望のオブジェクトまたはオブジェクトグループは既にアクティブにしています。オブジェクトブラウザに関する内容は、 *オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 126]*の節をご覧ください。

- **アクティブ オブジェクト/アクティブ グループを削除する(Del)**のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Functionはオブジェクトまたはオブジェクトグループを削除します。

オブジェクトアクションを元に戻し、もう一度実行する

オブジェクトまたはオブジェクトグループに対して直前に行った操作を取り消して元に戻したり、再度、実行したりするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. **前回のオブジェクト アクションを元に戻す（Ctrl+Z）**のアイコンをクリックします。

► SICAT Functionは、最後のオブジェクトアクションまたはグループアクションを元に戻します。

2. **オブジェクト/グループ アクションを再実行する（Ctrl+Y）**のアイコンをクリックします。

► SICAT Functionは、前回戻したオブジェクトアクションまたはグループアクションをもう一度実行します。

SICATアプリケーションで撮影結果を開いている間のみ、元に戻してもう一度実行することができます。

23.5 SICAT FUNCTIONオブジェクト

SICAT Functionでは、**オブジェクトブラウザ**で、アプリケーション固有のオブジェクトが以下のグループに分類されます。

- **顎運動データ**
- **ボリューム-部位**
  - **下顎骨**
- **光学印象**

顎運動データ-オブジェクト

顎運動データのインポートを完了すると、SICAT Functionでは、**オブジェクトブラウザ**に、**顎運動データ**オブジェクトを表示します。

ボリューム-部位-オブジェクトおよび 下顎骨-オブジェクト

下顎骨をセグメントした後、SICAT Functionがオブジェクト**ボリューム-部位**を**オブジェクトブラウザ**に表示します。**ボリューム-部位**オブジェクトは**下顎骨**オブジェクトを含んでいます。**下顎骨**のオブジェクトは、以下の下位オブジェクトから構成されます。

- **下顎の左側**
- **下顎の右側**
- **下顎の正面**

下位オブジェクトのいずれか1つにピントを合わせると、SICAT Functionでは、いずれの2Dビューでも、選択しているオブジェクトにピントが合います。

光学印象オブジェクト

光学印象のインポートと登録が完了すると、SICAT Functionが**光学印象**オブジェクトを**オブジェクトブラウザ**に表示します。**光学印象**のオブジェクトは、以下の下位オブジェクトから構成されます。

- **上顎骨**
- **下顎骨**

下位オブジェクトのいずれか1つにピントを合わせると、SICAT Functionでは、いずれの2Dビューでも、選択しているオブジェクトにピントが合います。

上顎骨のオブジェクトや**下顎骨**のオブジェクトを削除すると、SICAT Functionでは、既存の光学印象がもれなくスタディから削除されます。

24 ワークスペース

SICATのアプリケーションでは、スタディを複数のビューで表示し、ワークスペースに画像をまとめて配置します。

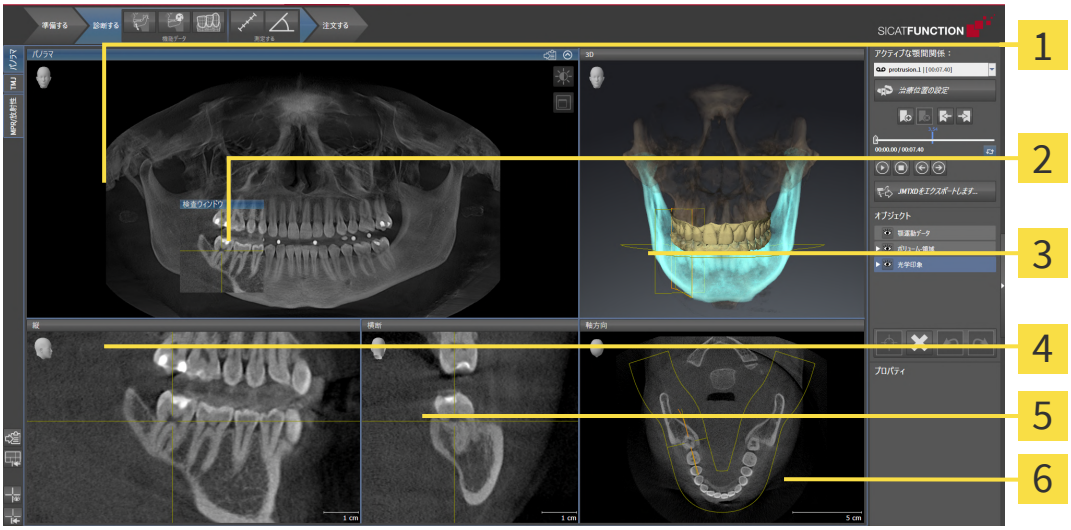
SICAT Functionでは、異なる3種類のワークスペースが用意されています。

- **パノラマ**-ワークステーション-これに関する情報は*パノラマワークスペースの概要 [▶ページ 133]*を参照してください。
- **TMJ**-ワークステーション-これに関する情報は*TMJワークスペースに関する概要 [▶ページ 135]*を参照してください。
- **MPR/放射性**-ワークステーション-これに関する情報は*MPR/放射性ワークスペースの概要 [▶ページ 137]*を参照してください。

ワークスペースおよびそれに含まれるビュー用として、以下の操作を行うことができます。

- *ワークスペースを切り替える [▶ページ 138]*。
- *アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット [▶ページ 139]*。
- *ビューの調整 [▶ページ 142]*。
- **3D**ビューを調整することもできます。これに関する情報は*3Dビューの調整 [▶ページ 156]*を参照してください。
- アクティブなワークスペースは、その内容を記録することができます。これに関する情報は*ワークスペースのスクリーンショットを作成する [▶ページ 140]*を参照してください。

24.1 パノラマワークスペースの概要



1 **パノラマ**-ビュー

2 **検査ウィンドウ**

3 **3D**-ビュー

4 **縦**-ビュー

5 **横断**-ビュー

6 **軸方向**-ビュー

パノラマビュー

パノラマビューは、仮想的なオルソパントモグラフ（OPG）に相当します。これは、正射影を特定の太さのパノラマ曲線上に表示します。パノラマ曲線および太さを両顎に調整することができます。この調整に関する内容は、*パノラマエリアを調整する [▶ページ 179]*の節をご覧ください。

検査ウィンドウ

検査ウィンドウは、**パノラマ**ビューに埋め込まれています。レイヤーをパノラマ曲線に対して平行にすることによって、**パノラマ**ビューに、3次元の画像が追加されることになります。**検査ウィンドウ**を移動、非表示、表示および最大化できます。これに関する情報は*検査ウィンドウの移動、非表示、表示、および最大化 [▶ページ 151]*を参照してください。

3Dビュー

3Dビューには、開いている3D治療計画スタディの3Dビューを表示します。

縦ビュー

縦ビューには、パノラマ歯列弓に対して接線をなすレイヤーを表示します。

横断ビュー

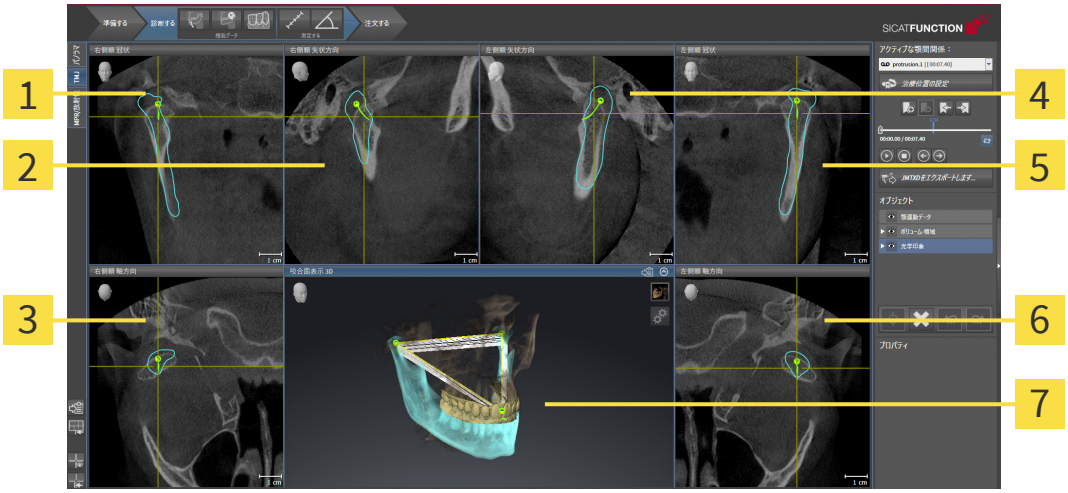
横断ビューには、パノラマ歯列弓に対して矢状断のレイヤーを表示します。

軸方向ビュー

デフォルトの**軸方向**ビューでは、上方からみたレイヤーを表示します。**軸方向**ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、*可視化設定の変更 [▶ページ 269]*の節をご覧ください。

ビューの機能に関しては、*ビューの調整 [▶ページ 142]*および*3Dビューの調整 [▶ページ 156]*をご参照ください。

24.2 TMJワークスペースに関する概要



1 **右顆状突起 冠状**ビュー

2 **右顆状突起 矢状方向**ビュー

3 **右顆状突起 軸方向**ビュー

4 **左顆状突起 矢状方向**ビュー

5 **左顆状突起 冠状**ビュー

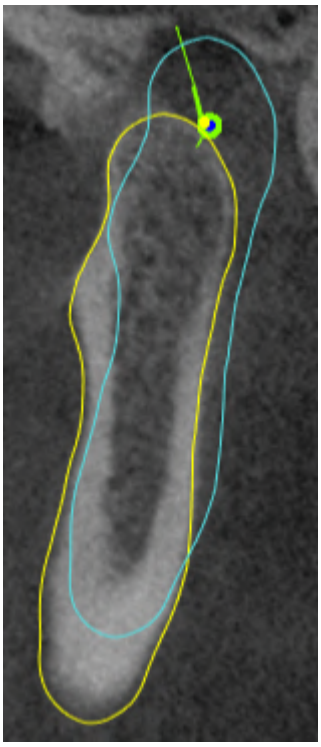
6 **左顆状突起 軸方向**ビュー

7 **咬合面表示 3D**

患者個別の解剖学的な咬合は、**アクティブな顎間関係**で選択して、ビューを検討することが可能です。JMTエリアに関する情報は、*顎運動と連携する [▶ページ 214]*をご覧ください。

TMJワークスペースには、下顎頭を左側と右側とで同時に表示します。使用されるDVT装置に応じて、両方の顎関節の直接比較が可能になります。また、顎関節の運動や形態の上で非対称性があれば、この比較を利用して特定できます。

SICAT Functionでは、下顎頭が移動しても、その位置の違いを識別表示します。

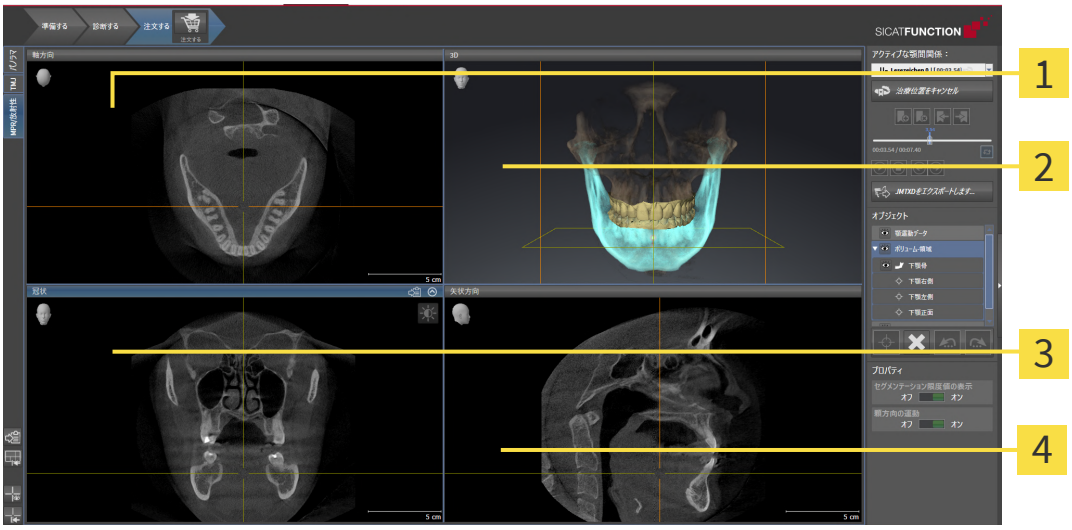


- SICAT Functionでは、下顎頭が移動すると、それをレイヤービューで青色の輪郭により、表示します。
- SICAT Functionでは、セグメント化した境界線を、レイヤービューで黄色の輪郭により、表示します。
- SICAT Functionでは、下顎頭が移動すると、それを**3D**ビューで青色の3Dオブジェクトとして表示します。

頭部を正中矢状面（鏡像対称面）で分割した方向に、各画像を揃えると、左側の顎関節と右側の顎関節とが互いに比較しやすくなります。3D X線撮影画像の撮影中に位置決めを誤り、それを調整するときは、**ボリュームの配置を調整する**の機能を利用してください。これに関する情報は*ボリュームの配置を調整する [▶ページ 174]*を参照してください。ボリュームの配置を調整するには、顎関節が正中矢状面に対して、可能な限り対称な位置で表示されるようにしてください。

TMJワークスペースでは、顎運動データとボリューム-部位の分析用に追加のオプションが用意されています。これに関する情報は*TMJワークスペースの各種機能 [▶ページ 220]*、*Bonwillの三角を利用する [▶ページ 223]*、*セグメンテーション限度の表示 [▶ページ 224]*および*下顎頭方向の運動を表示する [▶ページ 225]*を参照してください。

24.3 MPR/放射性ワークスペースの概要



1 **軸方向**- ビュー

2 **3D**- ビュー

3 **冠状**- ビュー

4 **矢状方向**- ビュー

軸方向ビュー

デフォルトの**軸方向**ビューでは、上方からみたレイヤーを表示します。**軸方向**ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、*可視化設定の変更 [▶ページ 269]*の節をご覧ください。

3Dビュー

3Dビューには、開いている3D治療計画スタディの3Dビューを表示します。

冠状ビュー

冠状ビューには、前方から見たレイヤーを表示します。

矢状方向ビュー

デフォルトの**矢状方向**ビューでは、右側から見たレイヤーを表示します。**矢状方向**ビューでは、視線方向の切替が可能です。この切替に関する内容は、*可視化設定の変更 [▶ページ 269]*の節をご覧ください。

ビューの機能については以下をご覧ください。 *ビューの調整 [▶ページ 142]* および *3Dビューの調整 [▶ページ 156]*。

24.4 ワークスペースを切り替える

ワークスペースを切り替えるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- ワークスペースエリアの左上の隅にある任意のワークスペースタブをクリックします。

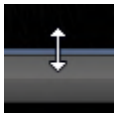
► 選択したワークスペースが開きます。

24.5 アクティブなワークスペースのレイアウトの調整およびリセット

アクティブなワークスペースのレイアウトを調整する

アクティブなワークスペースのレイアウトのレイアウトを調整するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを二つ以上のビューの間を境界線上に移動させます。
   ▶ マウスポインターの形状が切り替わります。



2. マウスの左ボタンをクリックしたら、その左ボタンを押したままにします。
3. マウスを動かします。
   ▶ 境界線の位置が変わります。
   ▶ 境界線の全側面でビューの大きさが変わります。
4. マウスの左ボタンを放します。

▶ SICAT Function では、境界線の現在位置、および、ビューの現在のサイズが、境界線のすべての側で維持されます。

アクティブなワークスペースのレイアウトをリセットする

アクティブなワークスペースのレイアウトをデフォルトに復元するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- **ワークスペースのツールバー** で、**アクティブなワークスペースのレイアウトをリセットする**のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function は、アクティブなワークスペースを標準のレイアウトにリセットします。これは、ソフトウェアがすべてのビューを標準サイズに表示することを意味しています。

24.6 ワークスペースのスクリーンショットを作成する

ワークスペースのスクリーンショットは、Windowsのクリップボードにコピーして、文書を作成する目的で使用することができます。

ワークスペースのスクリーンショットをWINDOWSのクリップボードにコピーする

ワークスペースのスクリーンショットをWindowsのクリップボードに追加するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ ご希望のワークスペースはすでにアクティブです。これに関する情報は*ワークスペースを切り替える [▶ページ 138]*を参照してください。

- ワークスペースのツールバーから、**アクティブなワークスペースのスクリーンショットをクリップボードにコピーする**のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function では、ワークスペースのスクリーンショットがWindowsのクリップボードにコピーされます。

クリップボードからスクリーンショットを貼り付けることができるアプリケーションは、例えば、画像処理やワープロのソフトウェアなど多数あります。貼り付けのショートカットキーは、大半のアプリケーションで「Ctrl＋V」を使用します。

25 ビュー

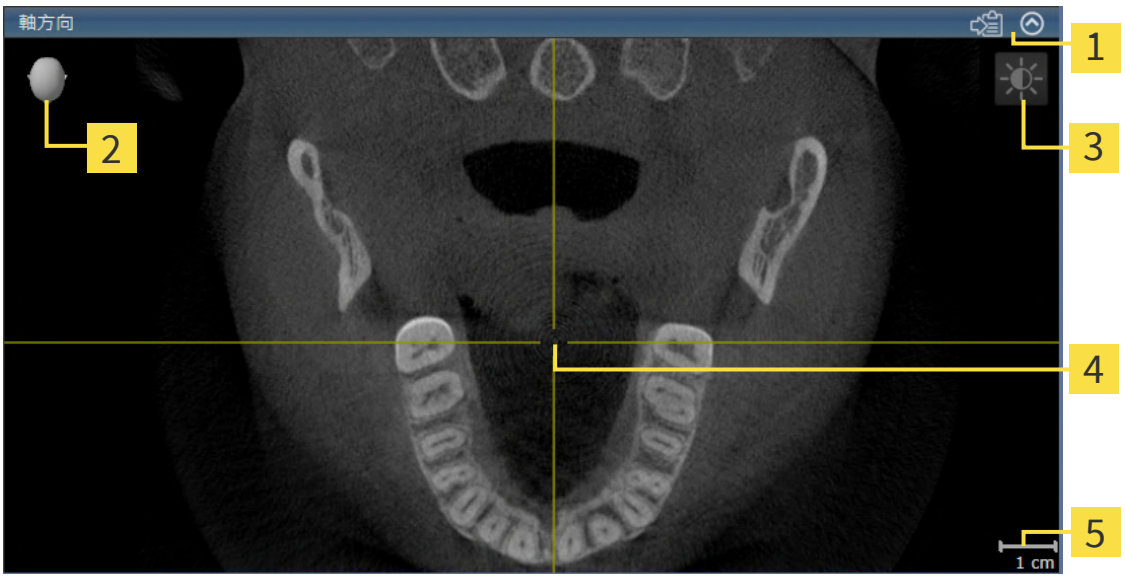
ビューはワークスペースに含まれています。ワークスペースとビューは、各種ありますが、その詳細は以下の節をご覧ください。 *ワークスペース [▶ページ 132].*

ビューを調整することができます。これに関する情報は*ビューの調整 [▶ページ 142]* と *3Dビューの調整 [▶ページ 156]*を参照してください。

25.1 ビューの調整

ビューの調整に用いるツールによっては、アクティブな画像以外では、使用できないものが、いくらかあります。ビューを作業対象として選択する手順は、*アクティブなビューの切り替え [▶ ページ 144]*の節をご覧ください。

アクティブなビューに含まれる要素：



1 タイトルバー

2 オリエンテーションヘッド

3 画像のツールバー

4 十字線

5 尺度

2Dレイヤービューには十字線が表示されます。十字線は別のレイヤービューとの交差線です。SICAT Functionは全てのレイヤービューを互いに同期させます。これは、全ての十字線が3D X線データ内で同じ位置に表示されることを意味します。これにより、円弧構造をビュー超しに割り当てることができます。

3Dビューでは、フレームを表示して、2Dレイヤービューの現在位置を表示します。

ビューの調整には、次の操作が使用できます：

- *アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*
- *ビューの最大化および復元 [▶ページ 145]*
- *2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット [▶ページ 146]*
- *ビューのズームおよび切り抜きの移動 [▶ページ 148]*
- *レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール [▶ページ 149]*
- *十字線およびフレームの移動、非表示、表示 [▶ページ 150]*
- *検査ウィンドウの移動、非表示、表示、および最大化 [▶ページ 151]*
- *ビューの傾斜 [▶ページ 153]*
- *ビューをリセットする [▶ページ 154]*

3Dビューを調整することもできます。これに関する情報は*3Dビューの調整 [▶ページ 156]*を参照してください。

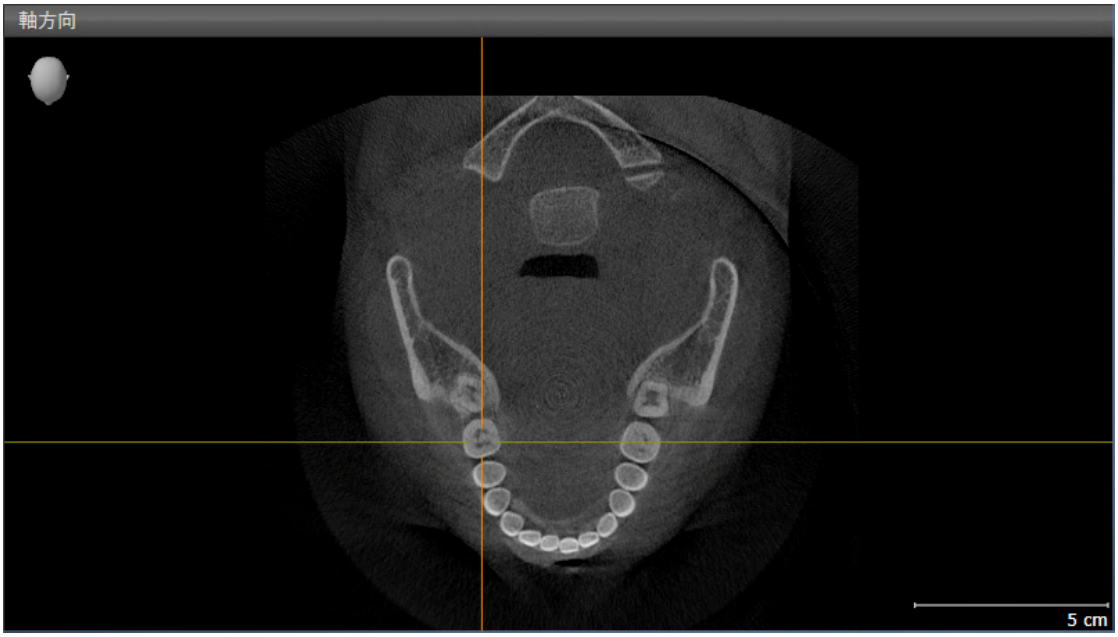
アクティブなビューの内容を記録することができます。これに関する情報は*画像のスクリーンショットを作成する [▶ページ 155]*を参照してください。

25.2 アクティブなビューの切り替え

画像のツールバーとタイトルバーが表示されるのは、アクティブなビューに限ります。

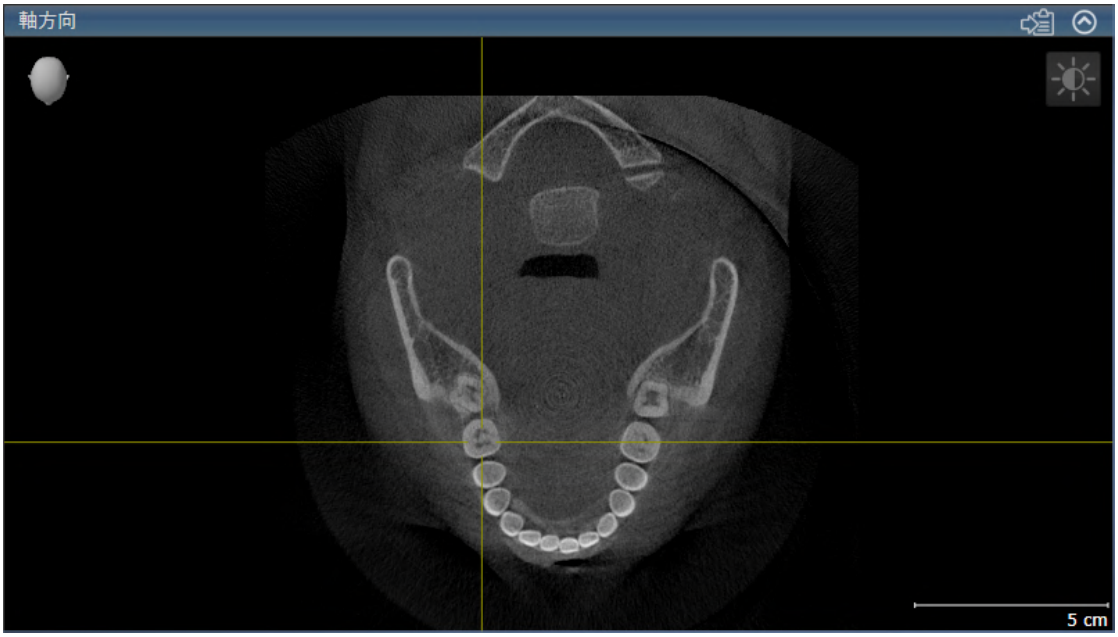
ビューをアクティブにするには、次のように行います。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。



2. 希望のビューをクリックします。

► SICAT Functionがビューを有効にします。



作業対象として選択したビューは、タイトルバーが青色になりますので、それとわかります。

25.3 ビューの最大化および復元

ビューの最大化および前回のサイズの復元は、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください *アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*。

☑ 希望のビューは最大化していません。

1. 希望のビューのタイトルバーにある**最大化する**のアイコンをクリックします。

   ▶ SICAT Function がビューを最大化します。

2. 最大化したビューのタイトルバーにある、**戻す**のアイコンをクリックします。

   ▶ SICAT Function では、ビューが元のサイズに戻ります。

ビューの最大化および前回のサイズの復元のために、次の代替操作を使用できます。

- ビューを最大化するために、希望のビューのタイトルバーをダブルクリックすることができます。
- ビューの前回のサイズを復元するために、最大化したビューのタイトルバーをダブルクリックすることができます。

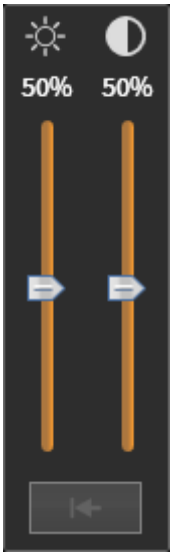
25.4 2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット

2Dビューで、明るさとコントラストを調整するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 希望の2Dビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は*アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*を参照してください。

1. 2Dビューの**画像のツールバー**に**輝度およびコントラストの調整**のアイコンがありますので、それにマウスポインタを重ねます。

   ▶ **輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウが開きます。



2. マウスポインタを**輝度**のスライダーに重ねます。
3. 左マウスボタンをクリックしたら、押したままにして、マウスポインタを上下方向に移動させます。

   ▶ SICAT Function では、2Dビューを**輝度**のスライダー位置に応じた明るさに調整します。

4. マウスの左ボタンを放します。

   ▶ SICAT Function は2Dビューの現在の輝度を保持します。

5. マウスポインタを**コントラスト**のスライダーに重ねます。
6. 左マウスボタンをクリックしたら、左マウスボタンを押したままにして、マウスポインタを上下方向に移動させます。

   ▶ SICAT Function では、2Dビューを**コントラスト**のスライダー位置に応じたコントラストに調整します。

7. マウスの左ボタンを放します。

   ▶ SICAT Function は2Dビューの現在のコントラストを保持します。

8. マウスポインタを、**輝度およびコントラストの調整**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

► **輝度およびコントラストの調整** の透明なウィンドウが閉じます。

2Dビューの明るさとコントラストをデフォルトに復元するときは、**明るさとコントラストをリセットする**のアイコンをクリックしてください。

全2Dレイヤービューの輝度とコントラストは相互に関連しています。

25.5 ビューのズームおよび切り抜きの移動

ビューのズーム

ズーム機能は、ビューの内容を拡大または縮小します。

ビューをズーミングするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。
2. マウスホイールを前に回します。
   ▶ ビューがズームインします。
3. マウスホイールを後ろに回します。

▶ ビューがズームアウトします。

上記の手順に代えて、マウスホイールをクリックして、マウスを上下方向に移動させても、ズームインやズームアウトができます。

ビューの切り抜きを移動する

トリミング部分を移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望のビュー上に動かします。
2. マウスの右ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
   ▶ マウスポインタの形が切り替わります。
3. マウスを動かします。
   ▶ ビューの切り抜きは、マウスポインタの動きに応じて移動します。
4. マウスの右ボタンを放します。

▶ SICAT Function では、移動後のトリミング部分がそのまま維持されます。

25.6 レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール

2Dレイヤービューで、レイヤーをスクロールするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
   ▶ マウスポインタは双方向の矢印になります。
3. マウスを上下方向に移動させます。
   ▶ **横断**のレイヤーを除き、レイヤーは、平行に移動します。
   ▶ **横断**のレイヤーは、パノラマ歯列弓に沿って移動した状態が表示されます。
   ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
   ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
4. マウスの左ボタンを放します。

▶ SICAT Function では、スクロールしてからのレイヤーが維持されます。

25.7 十字線およびフレームの移動、非表示、表示

十字線の移動

2Dレイヤービューで、十字線を移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 現在、すべての字線とフレームが表示されています。

1. マウスポインタを希望のビューで十字線の中心に動かします。
   ▶ マウスポインタが下記の十字線に切り替わります。

2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスを動かします。
   ▶ ビューの十字線は、マウスポインタの動きに従います。
   ▶ SICAT Function は別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
   ▶ SICAT Function では、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
4. マウスの左ボタンを放します。

▶ SICAT Function では、十字線が移動後の位置を維持します。

十字線をすぐにマウスポインタの位置へ移動させる場合、2Dビューでダブルクリックすることができます。

十字線およびフレームの非表示/表示

十字線およびフレームを非表示/表示にするには、次のように行います。

☑ 現在、すべての字線とフレームが表示されています。

1. **ワークスペースのツールバー** で、**十字線とフレームを非表示にする**のアイコンをクリックします。
   ▶ SICAT Function では、すべての2Dレイヤービューで十字線が隠れます。
   ▶ SICAT Function では、**3D**ビューででフレームが隠れます。

2. **十字線とフレームを表示する**のアイコンをクリックします。
   ▶ SICAT Function では、すべての2Dレイヤービューで十字線が表示されます。
   ▶ SICAT Function では、**3D**ビューでフレームが表示されます。

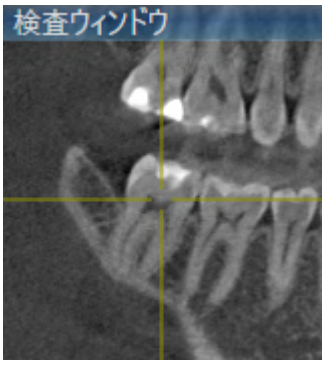
25.8 検査ウィンドウの移動、非表示、表示、および最大化

検査ウィンドウの移動

検査ウィンドウを移動させるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ **パノラマ**ワークスペースはすでに開いています。この切替に関する内容は、*アクティブなワークスペースの切り替え [▶ページ 138]*の節をご覧ください。

☑ **検査ウィンドウ**は、隠さずに表示しておきます。



1. **パノラマ**ビューで、**検査ウィンドウ**のタイトルバーにマウスポインタを重ねます。
   ▶ マウスポインタは手のマークになります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスを動かします。
   ▶ **検査ウィンドウ**は、マウスポインタの動きに追随します。
   ▶ SICAT Functionは別のビューのレイヤーおよび十字線を現在の焦点に応じて調整します。
   ▶ SICAT Functionでは、**3D**ビューで、その時点の焦点でピントが合うようにフレームの調整が行われます。
4. マウスの左ボタンを放します。

▶ SICAT Functionでは、**検査ウィンドウ**が移動後の位置を維持します。

検査ウィンドウを非表示、表示、および最大化する

シンボル**検査ウィンドウを設定する**は、同時にステータス表示とスイッチです。

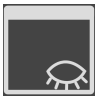
検査ウィンドウを非表示、表示、最大化するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ **パノラマ**ワークスペースはすでに開いています。これに関する情報は*ワークスペースを切り替える [▶ページ 138]*を参照してください。

☑ **検査ウィンドウ**は、隠さず表示しておきます。

1. **画像のツールバー**の**パノラマ**ビューで**検査ウィンドウを設定する**のアイコンにマウスポインタを重ねます。

   ▶ SICAT Functionは検査ウィンドウを設定するためのアイコンを表示します。



2. **検査ウィンドウを非表示にする**のアイコンをクリックします。

   ▶ SICAT Functionでは、**検査ウィンドウ**が非表示になります。

3. **検査ウィンドウを標準サイズで表示**のアイコンをクリックします。

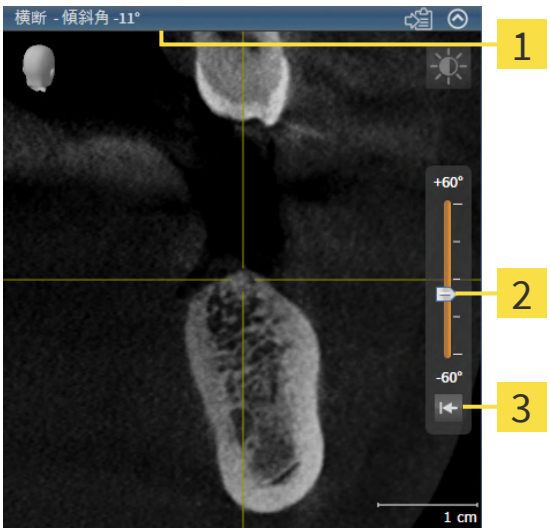
   ▶ SICAT Functionでは、**検査ウィンドウ**が表示されます。

4. **検査ウィンドウの最大化**のアイコンをクリックします。

   ▶ SICAT Functionは、検査ウィンドウを最大化します。

25.9 ビューの傾斜

パノラマワークスペースで**縦**ビュー、および**横断**を傾けることができます。これにより、特定の解剖学的構造 (歯など) または計画オブジェクトを表示するために、両方のビューで配置を最適化することができます。



1 現在設定されている傾斜

2 傾きを調整するためのスライダー

3 **傾斜をリセットする**のボタン

☑ **パノラマ**ワークスペースはすでに開いています。これに関する情報は*ワークスペースを切り替える [▶ページ 138]*を参照してください。

☑ **縦**ビュー、もしくは**横断**ビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は*アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*を参照してください。

- 傾斜を調整するには、マウスボタンを押したままスライダーを希望する傾斜まで上下に動かします。スライダーをクリックして矢印キーを**アップ**と**ダウン**することにより、傾斜を変更することもできます。

▶ SICAT Functionアクティブビューを傾斜させ、現在設定されている傾斜をアクティブビューのタイトルバーに表示します。

▶ SICAT Functionは**縦**もしくは**横断**ビュー内の十字線を更新します。

▶ SICAT Functionは**3D**ビュー内の対応するフレームを傾けます。

傾斜をリセットするのボタンをクリックすることにより、傾斜を0°に戻すことができます。

25.10 ビューをリセットする

すべてのビューをリセットするときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- **ワークスペースのツールバー**で、**ビューをリセットする**のアイコンをクリックします。

► SICAT Functionでは、すべてのビューで、ズーミング、トリミング部分の移動、スクロール、十字線の移動、**検査ウィンドウ**の移動のそれぞれがデフォルト値に復元されます。

► SICAT Functionでは、**3D**ビューで視線方向がデフォルト値に復元されます。

► SICAT Functionはビューの傾きを0°にリセットします。

25.11 画像のスクリーンショットを作成する

画像のスクリーンショットを作成し、以下の手順で出力すると、文書作成を目的として使用することができます。

- Windowsのクリップボードにコピーする

画像のスクリーンショットをWINDOWSのクリップボードにコピーする

画像のスクリーンショットをWindowsのクリップボードに追加するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 希望のビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は*アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*を参照してください。

- ビューのタイトルバーから、**スクリーンショットをクリップボードにコピーする（Ctrl＋C）**のアイコンをクリックします。

▶ SICAT Function では、画像のスクリーンショットがWindowsのクリップボードにコピーされます。

クリップボードからスクリーンショットを貼り付けることができるアプリケーションは、例えば、画像処理やワープロのソフトウェアなど多数あります。貼り付けのショートカットキーは、大半のアプリケーションで「Ctrl＋V」を使用します。

26 3Dビューの調整

3Dビューでは、随時、視線方向を変更することが可能です。視線方向の変更に関する内容は、*3Dビューで視線方向を変更する [▶ページ 157]*の節をご覧ください。

3Dビューの構成設定を行うときは、以下の操作を行うことができます。

- *3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ページ 162]*
- *3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する [▶ページ 163]*
- *切り抜きを移動する [▶ページ 165]*
- *光学印象のカラー表示をオフ、およびオンにする [▶ページ 167]*

26.1 3Dビューの目線を変更する

3Dビューの視線方向を変更するには2つの方法があります。

- インタラクティブ方式により変更を行う
- 標準目線を選択する

インタラクティブ方式により3Dビューの目線を変更する

3Dビューの視線方向をインタラクティブ方式により変更するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. マウスポインタを**3D**ビューに重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
   ▶ マウスポインタは手のマークになります。
3. マウスを動かします。
   ▶ 目線はマウスの動きに合わせて変化します。
4. マウスの左ボタンを放します。

▶ SICAT Functionでは、**3D**ビューで変更後の視線方向をそのまま維持します。

標準目線を選択する

3Dビューで、デフォルトの視線方向を選択するときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. **3D**ビューで左上隅にある、オリエンテーションヘッドのアイコンにマウスポインタを重ねます。
   ▶ **目線**の透明なウィンドウが開きます。

   ▶ **目線**の透明なウィンドウ中央部でオリエンテーションヘッドのハイライト表示されているものがありますが、それが現時点の視線方向です。
2. オリエンテーションヘッドのアイコンのうち、デフォルトにしたい視線方向を示しているものをクリックします。

► **3D**ビューの視線方向が、選択した視線方向に切り替わります。

3. マウスポインタを、**目線**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

► **目線**の透明なウィンドウが閉じます。

26.2 3Dビューの表示タイプ

3Dビューに関する一般的な情報は*3Dビューの調整 [▶ページ 156]*に記載されています。

SICAT Function では、**3D**画像の表示タイプとして、異なる2種類が用意されています。

- **概要**の表示タイプでは、3D X線撮影画像全体の概要を表示します。

- **セグメント**の表示タイプでは、3D X線撮影画像のトリミング部分に限りますが、移動自在です。

3D画像の表示タイプを選択する手順は、*3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ページ 162]*の節をご覧ください。

有効な表示タイプを調整する手順は、*3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する [▶ページ 163]*の節をご覧ください。

26.3 3Dビューの表示タイプを切り替える

> いずれの表示タイプも、すべてのワークスペースで使用できます。

3D画像の表示タイプを切り替えるときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ **3D**画像を作業対象として選択しておきます。これに関する情報は以下を参照してください *アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*。

1. **3D**ビューの**画像のツールバー**で、 **表示モードを切り替える**のアイコンにマウスポインタを重ねます。

   ▶ **表示モードを切り替える**の透明なウィンドウが開きます。

2. 任意の表示タイプのアイコンをクリックします。

   ▶ SICAT Function は希望の表示タイプをアクティブにします。

3. マウスポインタを、**表示モードを切り替える**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

▶ **表示モードを切り替える** の透明なウィンドウが閉じます。

26.4 3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する

アクティブな表示モードを設定するのアイコンを表示する表示タイプは、構成設定が可能なものに限られています。**アクティブな表示モードを設定する**の透明なウィンドウで表示される設定内容は、 選択した表示タイプに適用されるものに限られています。

3Dビューで選択している表示タイプについて、構成設定を行うときは、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ **3D**ビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は*アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*を参照してください。

☑ 希望の表示タイプはすでにアクティブになっています。これに関する情報は*3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ページ 162]*を参照してください。

☑ アクティブな表示タイプは設定可能です。

1. **3D**ビューの**画像のツールバー**の**アクティブな表示モードを設定する**アイコンにマウスポインタを重ねます。

   ▶ **アクティブな表示モードを設定する**の透明なウィンドウが開きます。

2. 希望のスライダーを動かします。

   ▶ SICAT Functionでは、**3D**ビューに対して、スライダーの位置に応じた調整が行われます。

3. 表示があれば、**詳細設定**の横にある矢印アイコンをクリックします。

   ▶ **詳細設定**エリアが開きます。

4. 使用できるチェックボックスをアクティブまたは無効にします。

   ▶ SICAT Functionでは、**3D**ビューに対して、チェックボックス内のチェックマーク有無に応じた調整が行われます。

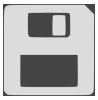
5. 希望のスライダーを動かします。

► SICAT Functionでは、**3D**ビューに対して、スライダーの位置に応じた調整が行われます。

6. マウスポインタを、**アクティブな表示モードを設定する**の透明なウィンドウから外れた位置まで移動させます。

► **アクティブな表示モードを設定する**の透明なウィンドウが閉じます。

現在の設定内容は、**現在の表示タイプの設定をデフォルト設定にリセットする**のボタンをクリックすると、変更前にプリセットしていた設定内容へ戻して復元することができます。



現在の設定内容は、**現在の表示タイプの設定をデフォルト設定として保存する**のボタンをクリックすると、プリセットの設定内容として保存できます。

利用できる場合、処理速度が低速のコンピュータでは、**表示速度**のスライダーの位置を左の方向へスライドさせてください。

26.5 切り抜きを移動する

3Dビューに関する一般的な情報は以下に記載されています。 *3Dビューの調整 [▶ページ 156]*.

セグメントの表示タイプを利用すると、**3D**ビューで、立体画像の一部を隠すことができます。その後、SICAT Functionはボリュームの切り抜きデスクのみ表示し、その位置でSICAT Functionが十字線と同期します。切り抜きデスクを移動するには、次のように行います：

☑ **セグメント**の表示タイプはすでにアクティブになっています。これに関する情報は以下を参照してください *3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ページ 162]*。

- **軸方向**画像、**冠状**画像、**矢状方向**画像のいずれかで、お好みのレイヤーへスクロールします。これに関する情報は*レイヤーによる2Dレイヤービューのスクロール [▶ページ 149]*を参照してください。

▶ SICAT Functionは選択したレイヤーに応じて切り抜きデスクを移動します：

26.6 光学印象のカラー表示をオフ、およびオンにする

光学印象は、カラーの光学印象を以前にインポートしており、カラー表示が有効になっている場合は、**3D**ビューで自動的にカラーで表示されます。

形状とジオメトリの正確な認識だけが重要な場合は、光学印象のカラー表示をモノクロ表示に切り替えることができます。

☑ **3D**ビューはすでにアクティブになっています。これに関する情報は*アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*を参照してください。

1. **画像のツールバー**で、**光学印象のカラー表示をオフにする**のアイコンをクリックします。

   ▶ SICAT Functionはカラー表示をモノクロ表示に切り替えます。

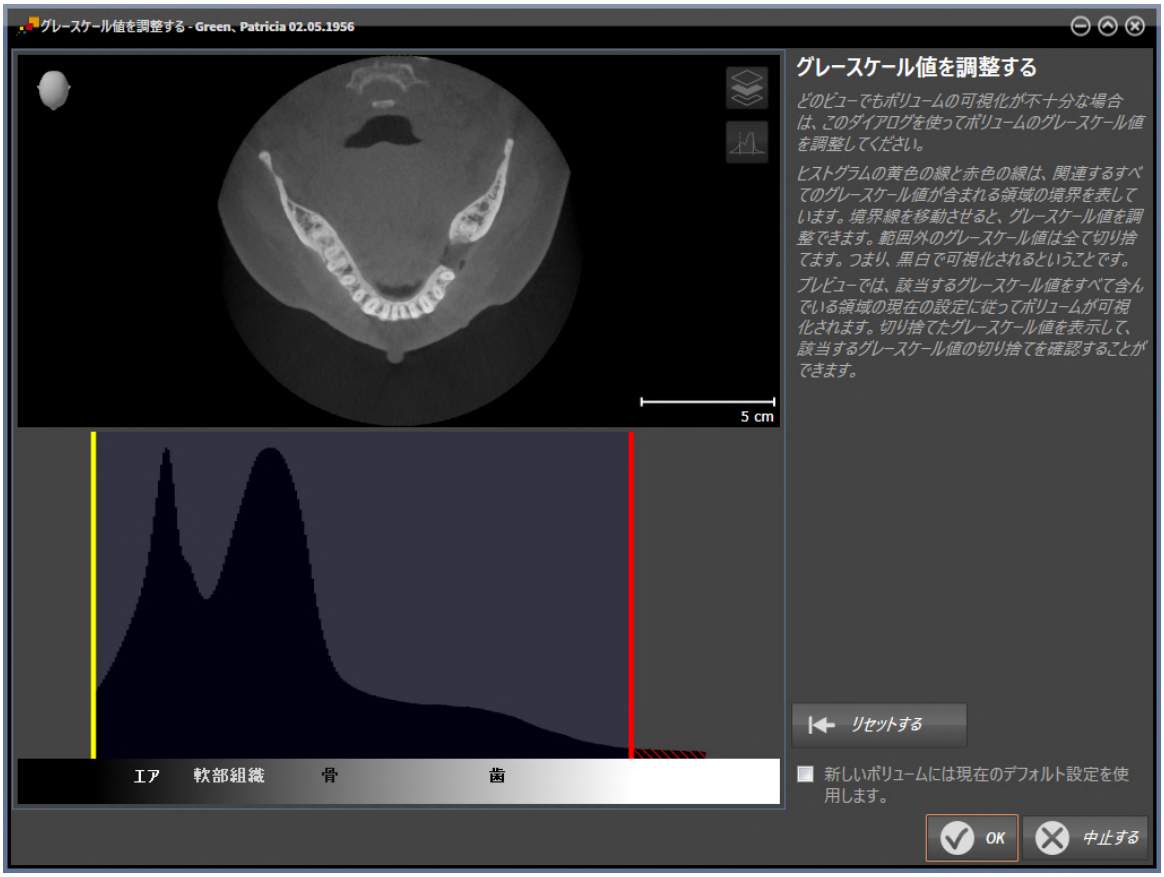
2. **画像のツールバー**で、**光学印象のカラー表示をオンにする**のアイコンをクリックします。

   ▶ SICAT Functionはモノクロ表示をカラー表示に切り替えます。

27 グレースケール値

グレースケール値を他社製3D X線機器によって作成されたボリューム用としてのみ調整することができます。

ボリュームの表示が不十分な場合、ボリュームのグレースケール値を**グレースケール値を調整する**ウインドウで調整することができます。



グレースケール値を調整するウインドウは二つの部分で構成されています。

- 上側は**軸方向**レイヤービューまたは**冠状**投影ビューを示しています。
- 下側は、グレースケール値の度数分布を含むヒストラムを示しています。

ヒストグラムでは黄色い線と赤い線が、関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアの境界を表しています。境界を移動することによって、グレースケール値を調整することができます。SICAT Function エリア外のグレースケール値を全て切り捨てます。これは、ソフトウェアがこれらを黒または白で表示することを意味しています。

SICAT Function ボリュームを**軸方向**レイヤービューまたは**冠状**投影ビューで、関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアに応じて表示します。SICAT Functionに関連するビュー情報が隠れていないことを確認するために、ソフトウェアは切り捨てたグレースケール値を表示することができます。

軸方向レイヤービューでは、レイヤーをスクロールし、これらを個別に切り捨てたグレースケール値でチェックすることができます。

冠状投影ビューでは、全てのレイヤーを一度に切り捨てたグレースケール値でチェックすることができます。

グレースケール値の調整は、全てのビューでボリュームの表示が不十分な場合にのみ行います。これに関する情報は*グレースケール値を調整する [▶ページ 170]*を参照してください。

例えば、特定の解剖学的組織をハイライト表示するときは、2Dビューの明るさやコントラストを調整して、一時的に変更することができます。これに関する情報は*2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット [▶ページ 146]*を参照してください。

その他、**3D**ビューの表示を調整することができます。これに関する情報は*3Dビューの表示タイプを切り替える [▶ページ 162]*、*3Dビューのアクティブな表示タイプを設定する [▶ページ 163]*と3Dビューの切り抜きモードの切り替えを参照してください。

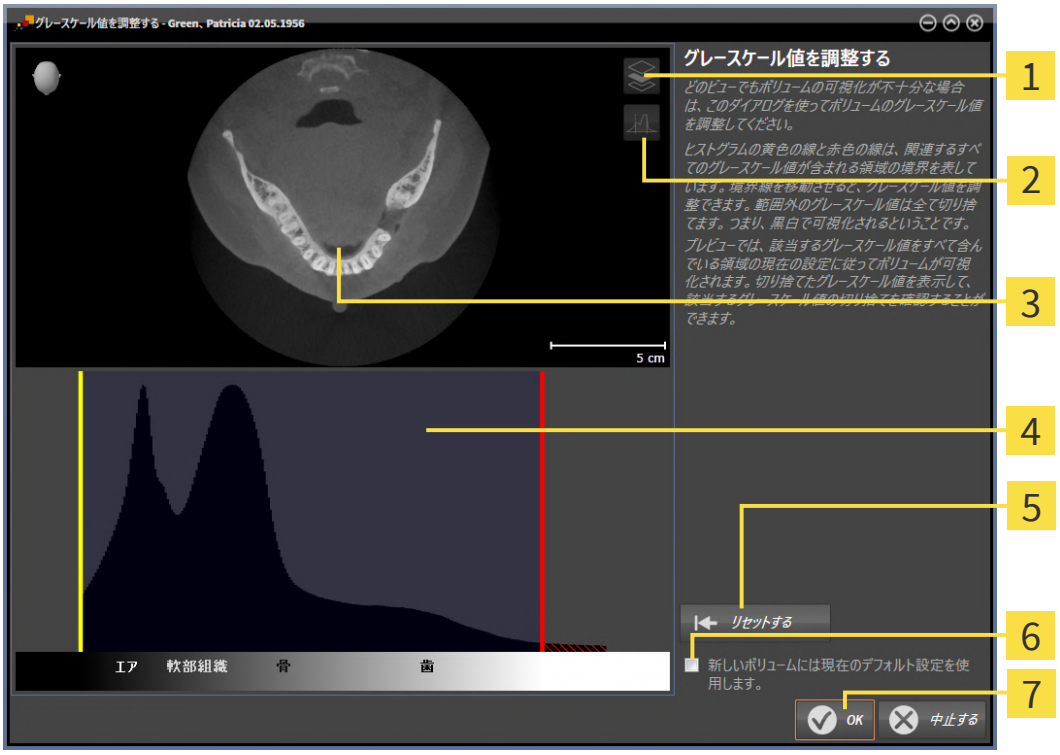
27.1 グレースケール値を調整する

*グレースケール値 [▶ページ 168]*に関する一般的な情報は、の節をご覧ください。

ボリュームのグレースケール値を調整するには、次の手順で行います。

☑ ワークフロー ステップの**準備する**は、すでに開いています。

1. **グレースケール値を調整する**のアイコンをクリックします。
   ▶ **グレースケール値を調整する**のウィンドウが開きます。



1 **冠状の投影モードをアクティブにする**アイコンまたは**軸方向レイヤーモードをアクティブにする**アイコン

2 **切り捨てたグレースケール値を表示しない**アイコンまたは**切り捨てたグレースケール値を表示する**アイコン

3 **軸方向**レイヤービューまたは**冠状**投影ビュー。

4 ヒストグラム

5 **リセットする**のボタン

6 **新しいボリュームには現在のデフォルト設定を使用します。**のチェックボックス

7 **OK**のボタン

2. 軸方向レイヤーモードがアクティブであることを確認してください。必要に応じて、**軸方向レイヤーモードをアクティブにする**アイコンをクリックします。

3. 関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアの下限を調整するには、黄色い線を移動させます。
   ▶ SICAT Functionは**軸方向**レイヤービューで全てのグレースケール値を適度に調整します。
   ▶ SICAT Functionは関連する最低グレースケール値より低い全てのグレースケール値を黄色で表示します。
4. 軸方向レイヤーをスクロールします。関連する全てのグレースケール値が黄色で表示されていないことを確認します。必要に応じて、黄色い線をもう一度移動させます。
5. 関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアの上限を調整するには、赤色の線を移動させます。
   ▶ SICAT Functionは**軸方向**レイヤービューで全てのグレースケール値を適度に調整します。
   ▶ SICAT Functionは関連する最高グレースケール値より高い全てのグレースケール値を赤色で表示します。
6. 軸方向レイヤーをスクロールします。関連する全てのグレースケール値が赤色で表示されていないことを確認します。必要に応じて、赤色の線をもう一度移動させます。
7. **OK**をクリックします。

▶ **グレースケール値を調整する**ウインドウが閉じ、SICAT Functionが調整されたグレースケール値に応じてすべてのビューでボリュームを表示します。

記載されている手順に加え、以下の操作が**グレースケール値を調整する**ウインドウで使用できます：

- **冠状の投影モードをアクティブにする**アイコンをクリックして、すべてのレイヤーを一度に判断することもできます。**軸方向レイヤーモードをアクティブにする**アイコンをクリックすることにより、**軸方向**レイヤービューを再び切り替えることができます。
- 両方の境界を一度に移動させるには、関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアをクリックして移動させます。
- 関連する全てのグレースケール値が含まれるエリアを標準設定にリセットするには、**リセットする**のボタンをクリックします。
- 切り捨てられたグレースケール値を表示したくない場合、**切り捨てたグレースケール値を表示しない**アイコンをクリックします。
- 設定した範囲を今後のインポートボリュームのデフォルトとして使用するには、**新しいボリュームには現在のデフォルト設定を使用します。**チェックボックスを有効にします。
- 変更内容を保存しない場合、**中止する**をクリックします。

28 ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する

ボリュームの配置の調整が必要な場合は、作業開始に3D X線ビューでこれを実行してください。ボリュームの配置を後で調整する場合は、診断または計画の一部を場合によっては繰り返す必要があります。

ボリュームの配置

すべてのビューのボリューム配置は、3本の主軸にボリュームを回して調整できます。これは、次のような場合に必要になることがあります。

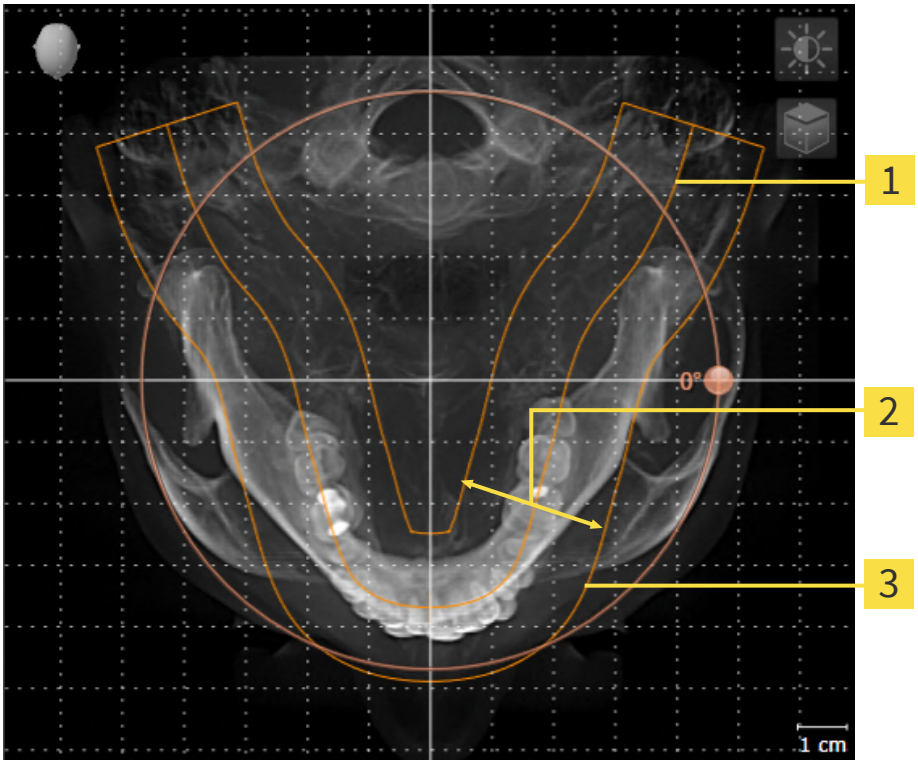
- 3D X線撮影の際に、患者の位置決めが最適ではなかった
- 軸方向レイヤーの配置がフランクフルト水平に平行または咬合平面に平行などの用途後の配置
- **パノラマ**ビューの最適化

音量調整をSICAT Functionに合わせると、SICAT Functionは現在開いている計画の設定を引き継ぎます。

ボリュームの配置を調整する手順は、*ボリュームの配置を調整する [▶ページ 174]*の節をご覧ください。

パノラマ エリア

SICAT Functionでは、ボリュームとパノラマ エリアをベースとして計算を行い、**パノラマ**ビューを出力します。**パノラマ**ビューを最適化するには、パノラマ エリアが患者の両顎と合致するように調整を行うとよいでしょう。これは、効果的かつ効率的な診断および治療計画のために重要となります。



1 パノラマ曲線

2 厚さ

3 パノラマ エリア

パノラマ エリアは次の二つの要素によって確定されています。

- パノラマ歯列弓の形状と位置
- パノラマ エリアの幅

最適な調整結果を得るために、パノラマ エリアは、以下の2項目の条件をいずれも満たしておいてください。

- パノラマ エリアは、全ての歯と両顎が完全に含まれていなくてはなりません。
- パノラマ エリアは、できるだけ薄くしてください。

パノラマ エリアをSICAT Functionに合わせると、SICAT Functionは現在開いている計画の設定を転送します。

パノラマ エリアを調整する手順は、*パノラマ エリアを調整する [▶ページ 179]*の節をご覧ください。

28.1 ボリュームの配置を調整する

ボリュームの配置に関する一般的な情報は*ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する [▶ページ 172]*に記載されています。

ボリュームの配置は、以下の手順で調整を行います。

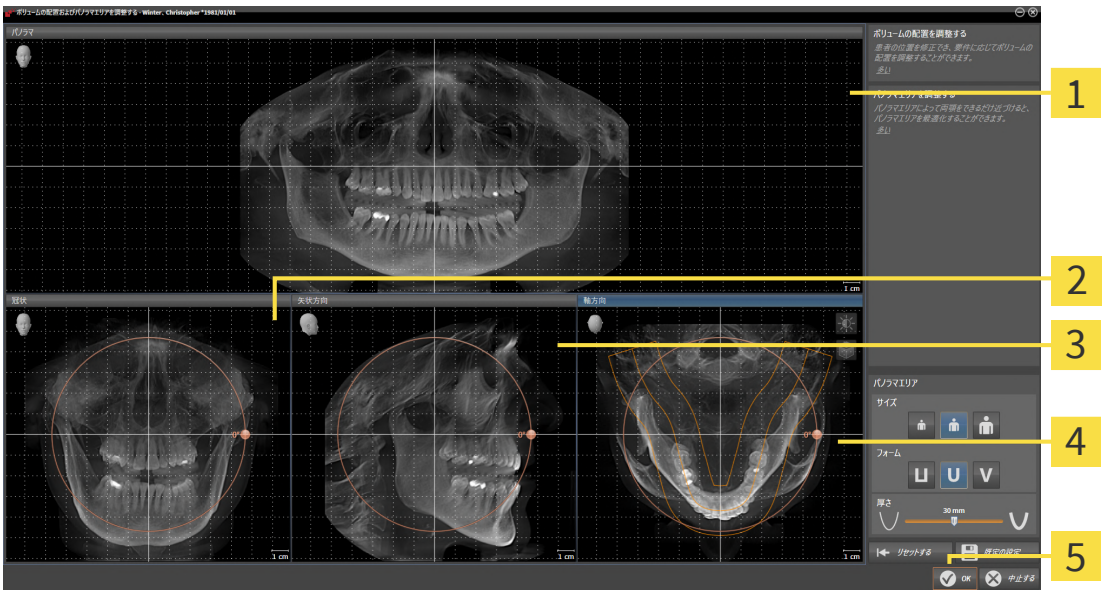
- **ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する**のウィンドウを開く
- **冠状**ビューでボリュームを回す
- **矢状方向**ビューでボリュームを回す
- **軸方向**ビューでボリュームを回す

「ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する」のウィンドウを開く

☑ ワークフロー ステップの**準備する**は、すでに開いています。

- **ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整します**のアイコンをクリックします。

▶ **ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する**のウィンドウが開きます。



1 **パノラマ**ビュー

2 **冠状**ビューと**回転**スライダー

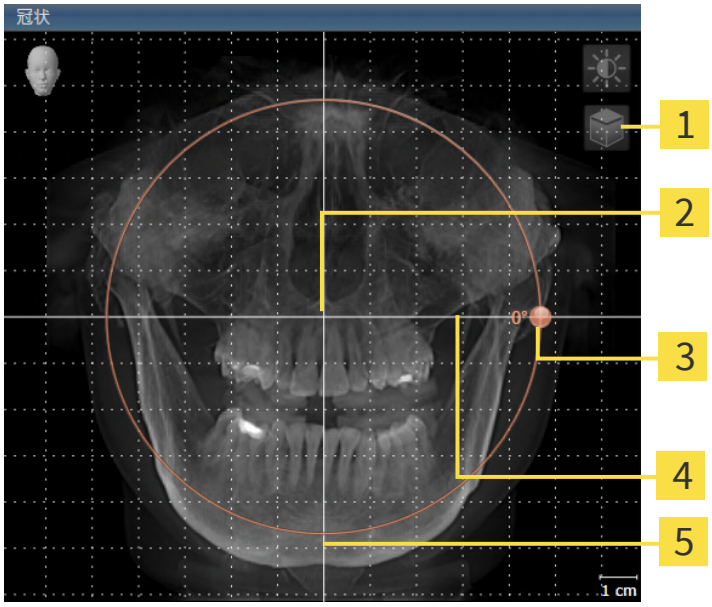
3 **矢状方向**ビューと**回転**スライダー

4 **軸方向**ビューと**回転**スライダー

5 **OK**のボタン

冠状ビューでボリュームを回す

1. **冠状**ビューを有効にします。



1 **レイヤーモードをアクティブにする**アイコンまたは**投影モードをアクティブにする**アイコン

2 回転中心

3 **回転**スライダー

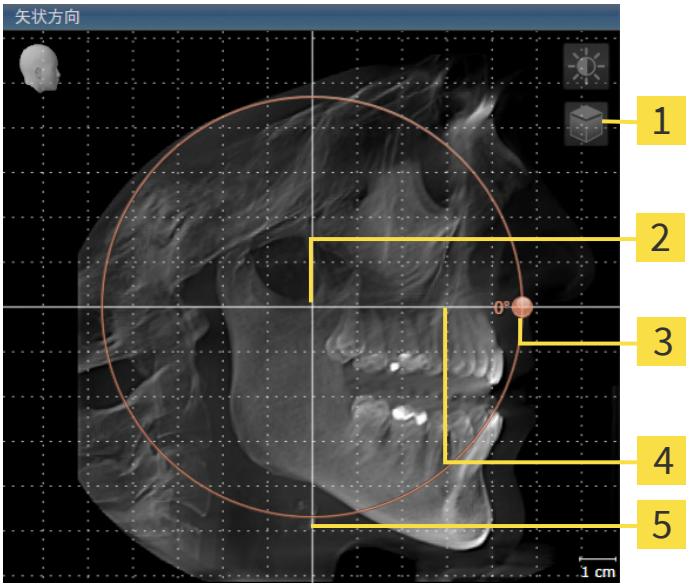
4 水平基準線

5 垂直基準線

2. 投影モードがアクティブであることを確認してください。レイヤーモードが有効になっている場合は、**投影モードをアクティブにする**アイコンをクリックしてください。
3. マウスポインタを**回転**スライダーに重ねます。
4. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
5. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転**スライダーを移動させます。
   ▶ SICAT Functionでは、**冠状**ビューで立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
6. 希望するボリュームの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。

矢状方向ビューでボリュームを回す

1. **矢状方向**ビューを有効にします。



1 **レイヤーモードをアクティブにする**アイコンまたは**投影モードをアクティブにする**アイコン

2 回転中心

3 **回転**スライダー

4 水平基準線

5 垂直基準線

2. 投影モードがアクティブであることを確認してください。レイヤーモードが有効になっている場合は、**投影モードをアクティブにする**アイコンをクリックしてください。

3. マウスポインタを**回転**スライダーに重ねます。

4. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。

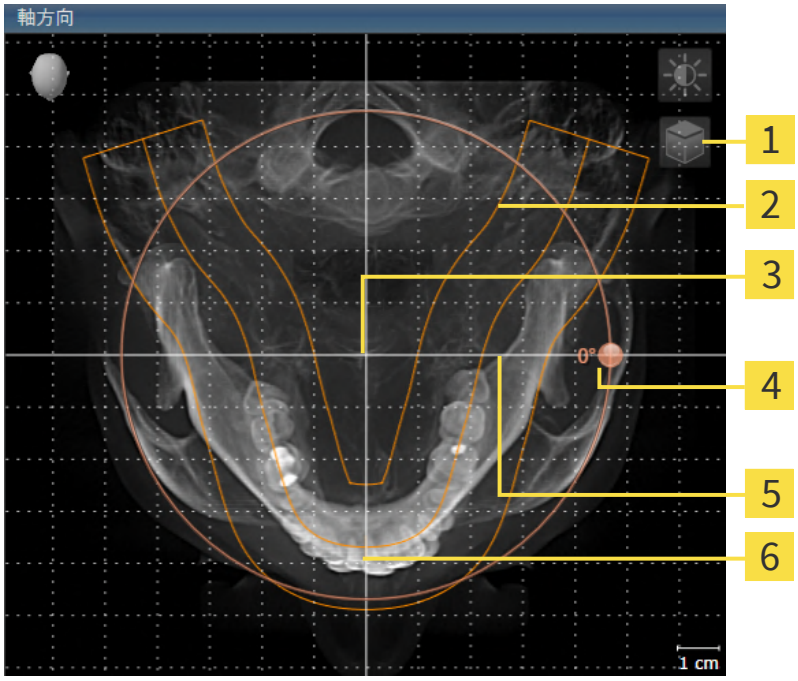
5. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転**スライダーを移動させます。

   ▶ SICAT Functionでは、**矢状方向**ビューで立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。

6. 希望するボリュームの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。

軸方向ビューでボリュームを回す

1. **軸方向**ビューを有効にします。



1	**レイヤーモードをアクティブにする**アイコンまたは**投影モードをアクティブにする**アイコン	4	**回転**スライダー
2	パノラマ エリア	5	水平基準線
3	回転中心	6	垂直基準線

2. 投影モードがアクティブであることを確認してください。レイヤーモードが有効になっている場合は、**投影モードをアクティブにする**アイコンをクリックしてください。

3. その必要があれば、パノラマ エリアの移動は、**軸方向**ビューで行います。このときは、パノラマ エリア上で左マウスボタンをクリックしたら、左マウスボタンを押したまま、マウスを移動させます。SICAT Functionでは、パノラマ エリアが移動すれば、それに応じて、回転中心、水平基準線、垂直基準線がいずれも移動します。

4. マウスポインタを**回転**スライダーに重ねます。

5. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。

6. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転**スライダーを移動させます。
   ▶ SICAT Functionでは、**軸方向**ビューで立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。

7. 希望するボリュームの回転がなされた場合はマウスの左ボタンを放します。パノラマ エリア、水平基準線、垂直基準線、格子線は、位置や方向の確認に利用します。

8. 調整した後の内容を保存するときは、**OK**をクリックします。

▶ SICAT Functionは調整されたボリュームの配置を保存し、配置に応じてボリュームをすべてのビューで表示します。

説明のある手順に加えて、**ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する**ウィンドウでは、以下の各操作が可能です。

- 2Dビューでは、明るさやコントラストを調整できます。このときは、希望のビューを有効にし、**輝度およびコントラストの調整**のアイコンをクリックしてください。これに関する情報は*2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット [▶ページ 146]*を参照してください。
- ビューでズーミングすることができます。SICAT Functionは、**冠状**ビュー、および**矢状方向**ビューの間でズームを同期します。
- **デフォルト設定を保存する**のボタンをクリックして、立体画像の現時点の方向や現時点のパノラマ エリアを、プリセットの設定内容として保存します。
- ボリュームの向きとパノラマ エリアを最後に保存したプリセットにリセットするには、**リセットする**のボタンをクリックします。
- 調整した後の内容を保存する必要がないときは、**中止する**をクリックしてください。
- ビューアモードでデータを開いていた場合、データを閉じた後はカスタマイズが有効になりません。

28.2 パノラマ エリアを調整する

パノラマ エリアに関する一般的な情報は、*ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する [▶ページ 172]*の節をご覧ください。

パノラマ エリアの調整は、以下の手順で調整を行います。

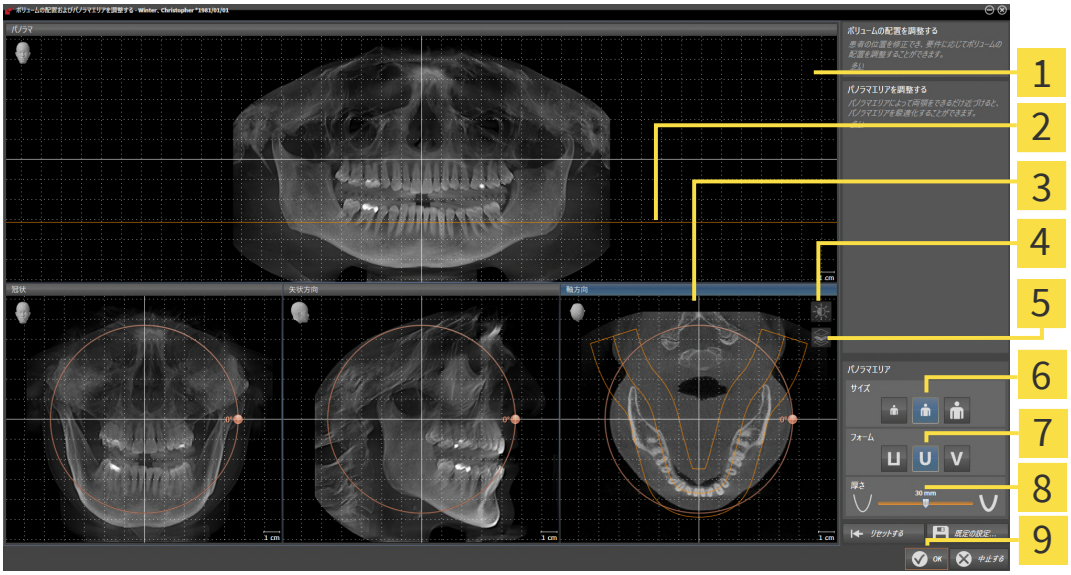
- **ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する**のウィンドウを開く
- **軸方向**ビューのレイヤー位置を調整する
- パノラマ エリアを移動する
- **軸方向**ビューでボリュームを回す
- **サイズ**、**フォーム**および**厚さ**のパノラマ エリアを調整する

「ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する」のウィンドウを開く

☑ ワークフロー ステップの**準備する**は、すでに開いています。

- **ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整します**のアイコンをクリックします。

▶ **ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する**のウィンドウが開きます。



1 **パノラマ**ビュー

2 軸方向基準線

3 **軸方向**ビューと**回転**スライダー

4 **輝度およびコントラストの調整**アイコン

5 **投影モードをアクティブにする**アイコンまたは**レイヤーモードをアクティブにする**アイコン

6 **サイズ**のボタン

7 **フォーム**のボタン

8 **厚さ**スライダー

9 **OK**のボタン

軸方向ビューのレイヤー位置を調整する

1. **軸方向**ビューで、レイヤーモードが選択されていることを確認します。投影モードが有効になっている場合は、**レイヤーモードをアクティブにする**アイコンをクリックします。
2. **パノラマ**ビューで、軸方向基準線にマウスポインタを重ねます。軸方向基準線は、**軸方向**ビューの現在のレイヤー位置を示しています。
3. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
4. マウスを上下方向に移動させます。
   ▶ **軸方向**ビューのレイヤーは、**パノラマ**ビューで、水平断面の基準線がある位置に合わせて、調整が行われます。
5. 軸方向基準線が下顎骨/歯の根に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。
   ▶ **軸方向**ビューでは、調整後のレイヤーが表示されて維持されます。

パノラマ エリアを移動する

1. **軸方向**ビューで、マウスポインタをパノラマ エリアに重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
   ▶ マウスポインタの形が切り替わります。
3. マウスを動かします。
   ▶ SICAT Function では、マウスポインタの位置に合わせて、パノラマ エリアの調整が行われます。
4. パノラマ エリアの中央の曲線が下顎骨/歯の根に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。
   ▶ パノラマ エリアは現在位置を保持します。

軸方向ビューでボリュームを回す

1. **軸方向**ビューで、マウスポインタを**回転**調整つまみに重ねます。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. 円形に沿って、お好みの方向へ**回転**調節つまみを移動させます。
   ▶ SICAT Function では、**軸方向**ビューで、回転調整つまみに合わせて、立体画像が回転中心を中心に円を描いて回転しますが、他のビューでも、それに同期して回転が行われます。
4. 下顎骨/歯の根がパノラマ エリアの中央の曲線に来たら、マウスの左ボタンから指を放します。

パノラマ エリアのサイズ、フォームおよび厚さを調整する

1. 投影モードがアクティブであることを確認してください。レイヤーモードが有効になっている場合は、**投影モードをアクティブにする**アイコンをクリックしてください。

2. パノラマ エリアの**サイズ**は、患者の下顎骨と合致が最も良好なものを選択します。このときは、そのサイズに該当する、**サイズ**のボタンをクリックします。

3. パノラマ エリアの**フォーム**は、患者の下顎骨と合致が最も良好なものを選択します。このときは、そのサイズに該当する、**フォーム**のボタンをクリックします。

4. パノラマ エリアの**厚さ**を選択は、**厚さ**のスライダー位置を移動させて行います。パノラマ エリアに全ての歯と両顎が完全に含まれていることを確認します。厚さは、できるだけ薄くしてください。

5. 調整した後の内容を保存するときは、**OK**をクリックします。

▶ SICAT Functionでは、ボリュームの配置とパノラマ エリアについて、いずれも調整した後のものが保存され、 **パノラマ**ビューは、その調整後のデータにより表示されます。

説明のある手順に加えて、**ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する**ウィンドウでは、以下の各操作が可能です。

- 2Dビューでは、明るさやコントラストを調整できます。このときは、希望のビューを有効にし、**輝度およびコントラストの調整**のアイコンをクリックしてください。これに関する情報は*2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット [▶ページ 146]*を参照してください。
- ビューでズーミングすることができます。SICAT Functionは、**冠状**ビュー、および**矢状方向**ビューの間でズームを同期します。
- **デフォルト設定を保存する**のボタンをクリックして、立体画像の現時点の方向や現時点のパノラマ エリアを、プリセットの設定内容として保存します。
- ボリュームの向きとパノラマ エリアを最後に保存したプリセットにリセットするには、**リセットする**のボタンをクリックします。
- 調整した後の内容を保存する必要がないときは、**中止する**をクリックしてください。
- ビューアモードでデータを開いていた場合、データを閉じた後はカスタマイズが有効になりません。

29 顎運動データ

顎運動や顎の位置は、患者別で固有ですが、これらより患者の咀嚼動作に関する情報が得られます。これらの情報は、患者の分析および診断のために利用することができます。さらに、これらのデータを患者の治療計画に組み込むこともできます。

SICAT Functionは、患者固有の顎運動と顎位置を可視化します。アプリケーションは、以下の顎運動データソースを使用します。

- 顎運動撮影機器からの顎運動データ
- 顎運動撮影機器の静的位置
- 口内カメラで撮影した頬の咀嚼位置

顎運動データを収集する機器として、ソフトウェアを使用できるもののリストは、*互換性のある顎運動撮影機器 [▶ページ 184]*の節をご覧ください。

頬の咀嚼位置光学印象と共にインポートすることができます。これに関する情報は*光学印象 [▶ページ 197]*を参照してください。

顎運動データを表示するための準備をするには、顎運動データのインポートの他に、その他のステップを実施する必要があります。これに関する情報は*SICAT Functionの標準ワークフロー [▶ページ 52]*を参照してください。

必要なデータがすべて準備できたら、顎運動データに関する次の操作を行うことができます：

- *顎運動と連携する [▶ページ 214]*
- *3Dビューで運動の軌跡を表示する [▶ページ 217]*
- *検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する [▶ページ 218]*
- *レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する [▶ページ 219]*

顎運動データに関する表示の正確性	0.6 mm以下

29.1 互換性のある顎運動撮影機器

⚠ **注意**

使用目的に適合しない顎運動撮影機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

必ずSICAT Functionで顎運動データの利用をカバーするという使用目的に適合する顎運動撮影機器を使用してください。

⚠ **注意**

対応していない顎運動撮影機器または互換性のない記録装置を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

顎運動データの記録にあたり、顎運動の記録機器（例えば、SICAT JMT⁺）と、これに適合する、採得用の器具（例えば、SICAT Fusion Bite）をコンビにしますが、これは、SICAT Functionがサポートするものを使用し、また、それ以外の機器や器具によるデータは、利用しないでください。

必ず互換性のある顎運動撮影機器と対応している記録装置の組み合わせて取得した顎運動データを使用してください。互換性のある顎運動撮影機器で撮影した顎運動データのみSICAT Functionにインポートしてください。SICAT JTIフォーマットV1.0インターフェースに対応している顎運動撮影機器で撮影した顎運動撮影データのみSICAT Functionにインポートすることができます。

現在、SICAT Functionは、次の顎運動撮影機器と顎運動記録装置の組合せに対応しています。

- SICAT JMT⁺とSICAT Fusion Biteの組合せ。製造元は、次のとおりです：SICAT GmbH & Co. KG
- SICAT JMTブルーとSICAT Fusion Biteの組み合わせ、製造元：zebris Medical GmbH

29.2 顎運動データをインポートして記録する

⚠ 注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。

⚠ 注意

不適切な顎運動データ用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の顎運動データを使用してください。

⚠ 注意

間違って撮影された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データおよび3D X線撮影画像は、各機器のメーカーの指示に従って撮影してください。指定されたタイプの参照オブジェクトを使用してください。

⚠ 注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない顎運動データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。

⚠ 注意

顎運動データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした顎運動データのインテグリティと品質を確認してください。

⚠ 注意

顎運動データの品質、正確性、解像度が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質、解像度、正確性の顎運動データを利用してください。

⚠ 注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または3D X線撮影画像の品質が十分でない場合、マーカーおよび参照オブジェクトを認識するメカニズムにエラーが生じるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確なマーカー/参照オブジェクト認識を可能にする3D X線撮影画像を使用してください。

⚠ 注意

参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が間違っていると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

JMTウィザードが参照オブジェクトを認識した後、3D X線撮影画像を考慮しながら、参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が正しいか確認してください。

⚠ 注意

間違って記録された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された顎運動データが3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

注記

顎運動データを正確に記録するために、SICATは次のパラメーターを含む3D X線データを使用することを推奨します。

1. レイヤーの厚さ：0.7mm以下
2. ボクセルサイズ：全3次元で0.7mm以下

撮影した顎運動データをSICAT Functionにインポートする前に、顎運動データ用機器のソフトウェアからデータをエクスポートする必要があります。SICAT Functionに適合しているファイルのエクスポートについては、顎運動データ用機器の取扱説明書に記載されています。

開いている撮影結果がすでに記録済みの顎運動データを含んでいる場合、**顎運動データをインポートして記録する**を再度開く際に、SICAT Functionがこれらのデータを削除することを確認する必要があります。

顎運動データのインポート中に、SICAT Functionが後で認識できるように、**軸方向**の**顎運動データをインポートして記録する**ビュー内に3個のボールマーカーを識別表示する必要があります。

顎運動データに関しての一般的な内容は以下の節をご覧ください。 *顎運動データ [▶ページ 183]*.

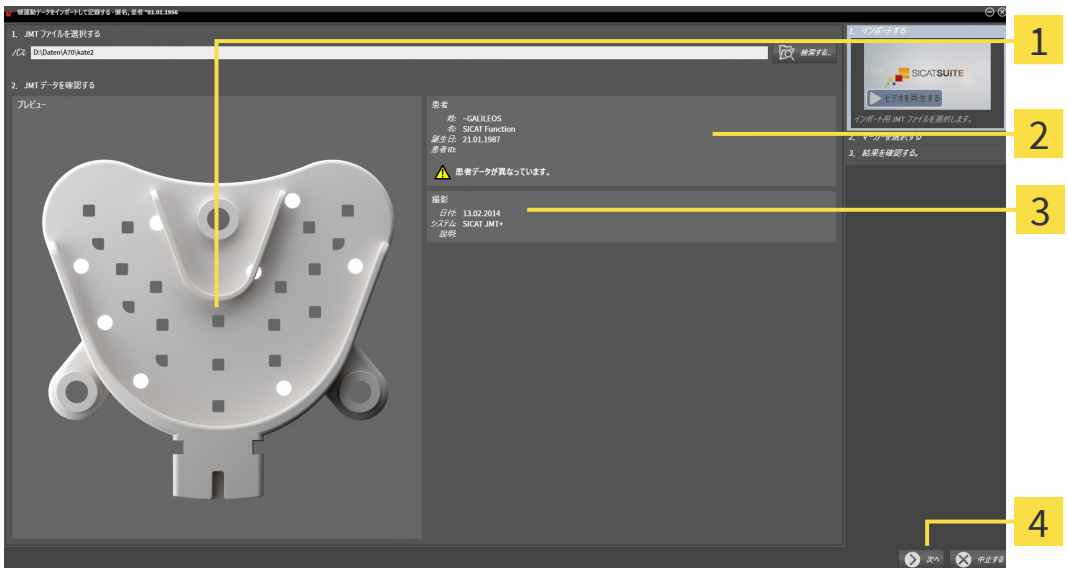
顎運動データのインポートおよび記録は、次のように行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する** は、展開させておきます。これに関する情報は*ワークフローのツールバー [▶ページ 122]*を参照してください。

1. **顎運動データをインポートして記録する**のアイコンをクリックします。
   ▶ のステップで、アシスタント機能**顎運動データをインポートして記録する**が開いています。

2. アシスタントの **顎運動データをインポートして記録する** で、**検索する**のボタンをクリックします。
   ▶ **JMT エクスポートファイルを読み込む** のウィンドウが開きます。

3. **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウで、顎運動データを保存してある、お好みのファイルに変更したら、そのファイルをハイライト表示にして、**開く**をクリックします。
   ▶ **JMT エクスポートファイルを読み込む**のウィンドウが閉じ、 SICAT Functionは、 顎運動データを保存してある、お好みのファイルへのパスを、**パス**のボックスへ転送します。
   ▶ **バイトフォーク**ビューには、顎運動データを記録する間に使用した咬合ピースのプレビューを表示します。
   ▶ **患者** エリアと **撮影** エリアには、顎運動データのファイルに保存してある情報を表示します。

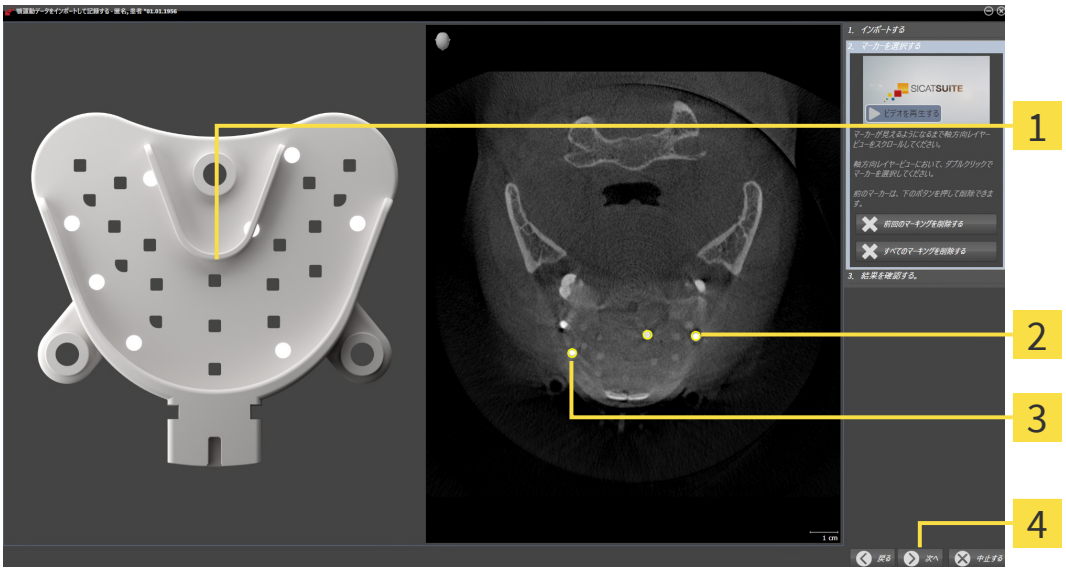


1	SICAT Fusion Biteのビュー	3	エリア **撮影**
2	エリア **患者**	4	ボタン **次へ**

4. 顎運動データを含むファイルが現在のスタディに適合するか確認します。

5. **次へ**をクリックします。

▶ のステップが開きます。



1 **バイトフォーク**- ビュー

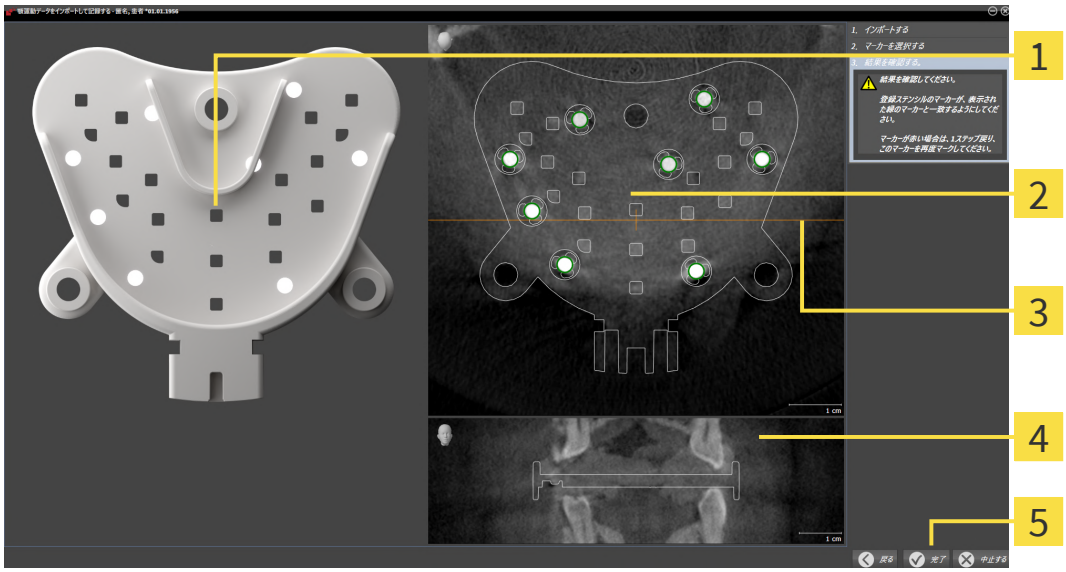
2 **軸方向**- ビュー

3 選択されたマーキング

4 ボタン **次へ**

6. **軸方向**のレイヤービューにボールマーカーが1個以上表示されるまで、軸方向レイヤーをスクロールします。
7. **軸方向**のレイヤービューで、ボールマーカーをダブルクリックします。
   ▶ SICAT Function がボールマーカーにマークを付けます。
8. 3個のボールマーカーにマークが付けられるまで、最後の手順を繰り返します。
9. **次へ**をクリックします。
   ▶ SICAT Function は顎運動データを記録します。

▶ のステップが開きます。



1 **バイトフォーク**- ビュー

2 **軸方向**-レイヤービュー

3 冠状の基準線

4 **冠状**- ビュー

5 ボタン **完了**

10. ボールマーカーが **バイトフォーク**上と**軸方向**レイヤービュー内で一致していることを確認してください。

11. SICAT Functionでは、咬合ピースの位置が正確に認識されていることを、**冠状**ビューで確認します。**軸方向**ビューで、冠状断の基準線を移動させるか、または、**冠状**ビューで、断層面をスクロールします。

12. **完了**をクリックします。

▶ SICAT Function は記録済みの顎運動データをインポートします。

▶ アシスタント機能の **顎運動データをインポートして記録する** が閉じます。

▶ SICAT Function では、**オブジェクトブラウザ**で、**顎運動データ**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は*SICAT Functionオブジェクト [▶ページ 130]*を参照してください。

記載されている手順に加え、以下の操作が**顎運動データをインポートして記録する**で使用できます。

- 前回セットしたマーカーを取り消したいときは、**前回のマーキングを削除する**のボタンをクリックします。
- **バイトフォーク**がX線データに正確に合わせられていない場合、**戻る**ボタンをクリックし、別の位置にあるマーカーでの手順を繰り返します。
- 顎運動データのインポートおよび記録を中断する場合、**中止する** をクリックすることができます。

30 セグメンテーション

⚠ **注意**	**3D X線撮影画像の過度なアーチファクトまたは不十分な解像度は、セグメンテーションプロセスの失敗または不十分な結果につながるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトの可能性があります。** 解剖学的構造関連のセグメンテーションの品質が十分である3D X線撮影画像のみ使用してください。

⚠ **注意**	**セグメンテーションの品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。** セグメンテーションの品質が使用目的に対して十分であるか確認してください。

下顎骨の運動を表示するときは、下顎骨と背景の境界線を指定してください。これがセグメンテーションと呼ばれます。**下顎のセグメンテーション**で、患者の下顎と窩の両方ともセグメントすることができます。SICAT Functionでは、セグメンテーションは半自動プロセスです。

半自動プロセスとは、下顎と窩のパーツを描画ツールにより手動で **下顎のセグメンテーション** に描かなくてはならないことを意味します。マークを付けると、セグメンテーションアシストは類似のエリアを自動指定します。

下顎と窩のセグメンテーション用として、以下の操作を行うことができます。

- *下顎骨をセグメントする [▶ページ 191]*
- *窩をセグメントする [▶ページ 194]*

下顎をセグメントした後、以下の操作を行うことができます。

- **3D**ビューでの患者の解剖学的動作の可視化および再生。これに関する情報は*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。
- **3D**ビューでの患者の解剖学的運動経路の可視化および再生。これに関する情報は*3Dビューで運動の軌跡を表示する [▶ページ 217]*を参照してください。
- **TMJ**のワークスペースで、移動後の顎関節をビジュアル化する。これに関する情報は*TMJワークスペースの各種機能 [▶ページ 220]*を参照してください。

30.1 下顎骨をセグメントする

アシスタント機能の **下顎と顆状突起をセグメントする**は、起動時に毎回セグメントの事前計算を実行します。事前計算の時間は、使用するコンピューターの性能によって異なります。

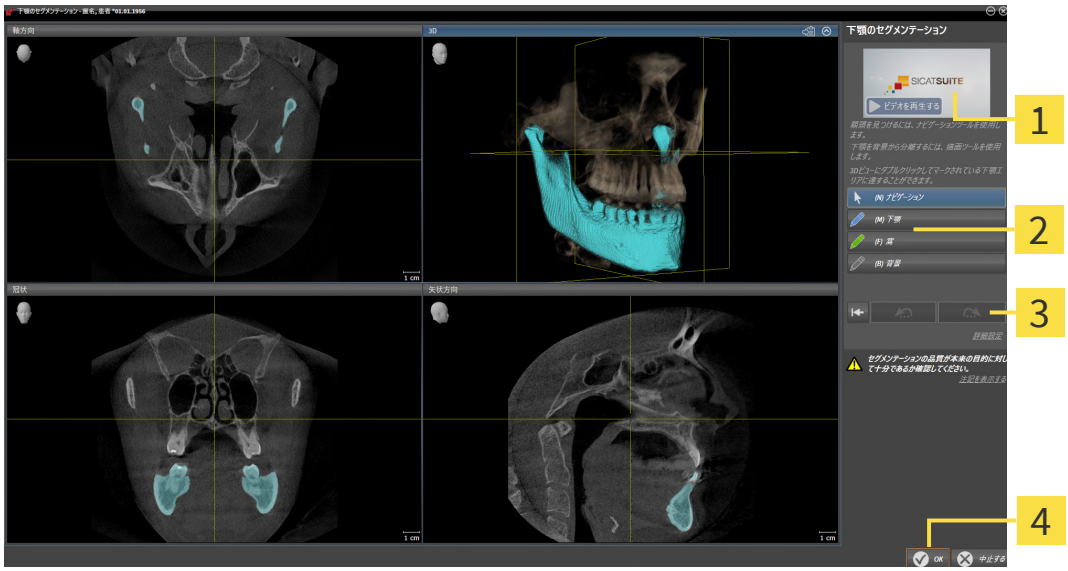
SICAT Function のセグメンテーションは解剖学的輪郭の代わりにエリアで作業します。従って、解剖学的輪郭を正確にトレースする必要はあまりありません。それに代えて、そのエリアの内部にラインを引いて、セグメント化に関係するエリアを指定してください。

セグメンテーションに関する内容は、*セグメンテーション [▶ページ 190]*の節をご覧ください。

下顎骨をセグメントするには、次のように行います。

☑ ワークフロー・ステップの**診断する** は、展開させておきます。これに関する情報は*ワークフローのツールバー [▶ページ 122]*を参照してください。

1. **下顎と顆状突起をセグメントする**のアイコンをクリックします。
   ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が開きます。



1	事例ビデオ	3	ボタン**リセットする**、ボタン**戻す**、およびボタン **繰り返す**
2	エリア **描画ツール**	4	ボタン **OK**

   ▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** は、セグメントの事前計算を実行します。

2. **軸方向**ビュー、**冠状**ビュー、**矢状方向**ビューを下顎と窩が見えるように調整します。

3. **下顎**のボタンをクリックします。

4. マウスポインタを希望の2Dレイヤービューで下顎骨上に動かします。
   ▶ マウスポインタはペンになります。

5. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
6. 下顎骨の内側の部分でマウスをドラッグします。
   ▶ SICAT Function に、青色の線によるマーキングが表示されます。
7. マウスの左ボタンを放します。
   ▶ SICAT Function はマーキングに従って下顎骨をセグメントします。
8. 補助エリアを下顎骨に追加する場合、**ナビゲーション**アイコンをクリックし、2Dビュー内で希望の構造に移動し、これらに上記の手順でマークを付けます。
9. セグメンテーションが希望通りの場合、**OK** ボタンをクリックします。

▶ アシスタント機能の **下顎のセグメンテーション** が閉じます。

▶ SICAT Function では、**オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は*SICAT Functionオブジェクト [▶ページ 130]*を参照してください。

▶ **3D**ビューにセグメンテーション結果が表示されます

背景描画ツールは、範囲に背景としてマークを付ける、または半自動セグメンテーションの大き過ぎる範囲を修正する際に使用することができます。

セグメント作業は、後からの時点でも、再開したり、修正したりすることが可能です。

ナビゲーションモードに切り替えると、2Dレイヤービューをスクロールすることができます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**下顎と顆状突起をセグメントする**のウィンドウでは、以下の操作を行うことができます。

- **下顎と顆状突起をセグメントする**ウインドウで使用できます。これに関する情報は*ショートカットキー [▶ページ 279]*を参照してください。
- **3D**ビューで、セグメントしたエリアに含まれる1箇所をダブルクリックすると、すべての2Dレイヤービューで、それに帰属する断層面が表示されます。SICAT Functionでは、さらに、このダブルクリックした箇所に十字線の中心が移動します。この誘導アシストツールを使用すれば、例えば、はみ出た部分を補正したり、穴を塞いだりすることができます。
- セグメンテーションが解剖学的条件と一致している場合、**戻す**ボタンをクリックしてください。
- 取り消した実行アクションを再度行いたい場合は、**繰り返す**ボタンをクリックします。
- すべてのステップを元に戻したいときは、**リセットする**タンをクリックします。
- データセットの事前計算が最適な結果を示さない場合もあります。事前に行った計算で最適な結果が得られないときは、**詳細設定**をクリックして、**背景を自動的に検出**のチェックボックスからチェックマークを外してください。その後、**背景**のツールを利用して、下顎と窩のいずれからも外れた箇所で、1本以上のラインを引いて、エリア指定を行います。
- 下顎頭や下顎骨部分のセグメンテーションを中断する場合、**中止する**をクリックします。

30.2 窩をセグメントする

TMJのワークスペースを導入すると、大半のケースで、窩のセグメントが不可欠ではなくなります。また、**TMJ**のワークスペースを利用すると、窩のセグメントをすることなく、下顎と窩の動的な相互関係についても、評価を行うことができるようになります。

アシスタント機能の **下顎と顆状突起をセグメントする**は、起動時に毎回セグメントの事前計算を実行します。事前計算の時間は、使用するコンピューターの性能によって異なります。

SICAT Function のセグメンテーションは解剖学的輪郭の代わりにエリアで作業します。従って、解剖学的輪郭を正確にトレースする必要はあまりありません。それに代えて、そのエリアの内部にラインを引いて、セグメント化に関係するエリアを指定してください。

セグメンテーションに関する内容は、*セグメンテーション [▶ページ 190]*の節をご覧ください。

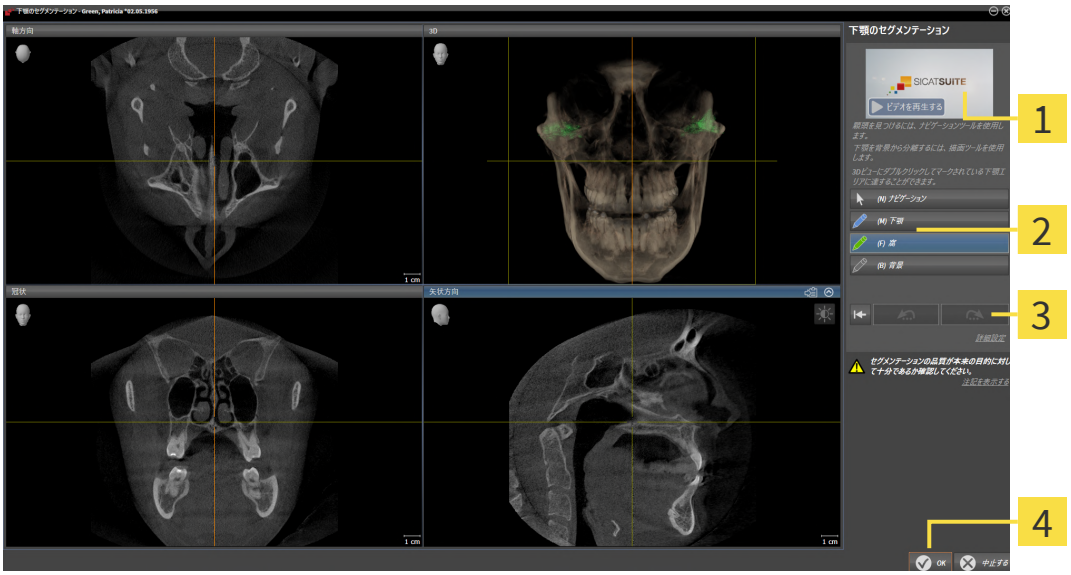
窩をセグメントするには、次のように行います。

☑ ワークフロー ステップの**診断する**は、すでに開いています。これに関する情報は*ワークフローのツールバー [▶ページ 122]*を参照してください。

☑ DVT画像は窩を含みます。

1. **下顎と顆状突起をセグメントする**のアイコンをクリックします。

   ▶ アシスタント機能の**下顎のセグメンテーション**が開きます。



1	事例ビデオ	3	**リセットする**のボタン、**戻す**のボタン、および**繰り返す**のボタン
2	**描画ツール**エリア	4	**OK**のボタン

   ▶ アシスタント機能の**下顎のセグメンテーション**は、セグメントの事前計算を実行します。

2. **軸方向**ビュー、**冠状**ビュー、または**矢状方向**ビューを下顎と窩が見えるように調整します。

3. **窩**のボタンをクリックします。
4. マウスポインタを希望の2Dレイヤービューで窩上に動かします。
   ▶ マウスポインタはペンになります。
5. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
6. 窩の内側部分でマウスをドラッグします。
   ▶ SICAT Functionに、緑色の線によるマーキングが表示されます。
7. マウスの左ボタンを放します。
   ▶ SICAT Functionはマーキングに従って窩をセグメントします。
8. 補助エリアを窩に追加する場合、**ナビゲーション**アイコンをクリックし、2Dビュー内で希望の構造に移動し、これらに上記の手順でマークを付けます。
9. セグメンテーションが希望通りの場合、**OK**のボタンをクリックします。

▶ アシスタント機能の**下顎のセグメンテーション**が閉じます。

▶ SICAT Functionでは、**オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位**のオブジェクトを表示します。これに関する情報は*SICAT Functionオブジェクト [▶ページ 130]*を参照してください。

▶ **3D**ビューにセグメンテーション結果が表示されます。

背景描画ツールは、範囲に背景としてマークを付ける、または半自動セグメンテーションの大き過ぎる範囲を修正する際に使用することができます。

セグメント作業は、後からの時点でも、再開したり、修正したりすることが可能です。

ナビゲーションモードに切り替えると、2Dレイヤービューをスクロールすることができます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**下顎と顆状突起をセグメントする**のウィンドウでは、以下の操作を行うことができます。

- **下顎と顆状突起をセグメントする**ウインドウで使用できます。これに関する情報は*ショートカットキー [▶ページ 279]*を参照してください。
- **3D**ビューで、セグメントしたエリアに含まれる1箇所をダブルクリックすると、すべての2Dレイヤービューで、それに帰属する断層面が表示されます。SICAT Functionでは、さらに、このダブルクリックした箇所に十字線の中心が移動します。この誘導アシストツールを使用すれば、例えば、はみ出た部分を補正したり、穴を塞いだりすることができます。
- セグメンテーションが解剖学的条件と一致している場合、**戻す**ボタンをクリックしてください。
- 取り消した実行アクションを再度行いたい場合は、**繰り返す**ボタンをクリックします。
- すべてのステップを元に戻したいときは、**リセットする**タンをクリックします。
- データセットの事前計算が最適な結果を示さない場合もあります。事前に行った計算で最適な結果が得られないときは、**詳細設定**をクリックして、**背景を自動的に検出**のチェックボックスからチェックマークを外してください。その後、**背景**のツールを利用して、下顎と窩のいずれからも外れた箇所で、1本以上のラインを引いて、エリア指定を行います。
- 下顎頭や下顎骨部分のセグメンテーションを中断する場合、**中止する**をクリックします。

31 光学印象

同じ患者について、SICAT Functionは3D X線撮影画像と光学印象の対応が相互にとれていれば、その両者を重ね合わせることが (記録することが) できます。表示の重ね合わせは、計画および実施のための追加情報を提供します。これにより、光学印象に基づいて治療を実施することができます。

光学印象を使用するには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. 以下のインポートルートによる光学印象のインポート。
   - *Hubから光学印象をダウンロードする [▶ページ 200]*
   - *ファイルから光学印象をインポートする [▶ページ 204]*
   - *SICATアプリケーションからの光学印象を再使用する [▶ページ 207]*
2. 3D X線データによる光学印象の記録 (重ね合わせ)。 *光学印象の記録と確認 [▶ページ 209]*

SICATアプリケーションからの光学印象を再利用する場合、記録は必要ありません。

SICAT Functionは、次の光学印象用ファイル形式に対応しています。

- SIXD上顎と下顎の光学的印象を含むデータセット (それぞれ顎弓全体)。SIXDフォーマットをサポートするCERECシステムを使用している場合は、このフォーマットを使用してください。
- SSI上顎と下顎の光学的印象を含むデータセット (それぞれ顎弓全体)。SIXDフォーマットをサポート**していない**CERECシステムを使用している場合は、このフォーマットを使用してください。
- STL上顎、**または**下顎の光学印象を含むデータセット* (それぞれ顎弓全体)。STLフォーマットをサポートする他のCAD/CAMシステムを使用している場合は、このフォーマットを使用してください。

*STLデータセットには、有効になっている**SICAT Suite STLインポート**ライセンスが必要です。さらに、インポートするための追加の手順に従う必要があります。これに関する情報は*STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順 [▶ページ 206]*を参照してください。

STLデータセットにおける光学印象の以下の制限に注意してください。

- STLデータセットは頬側咬合位をサポートしていません。**アクティブな顎間関係**エリアでは、**アクティブな顎関係：**リストに頬側顎間関係の入力は表示されません。
- STLデータセットをベースに顎運動データをエクスポートすることはできません。JMTエリアの**JMTXDをエクスポートします**のボタンをクリックすると、SICAT Functionは適切なメッセージを表示します。

次のアクションは光学印象に使用することができます。

- 光学印象を有効化、非表示、および表示する。*オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 126]*
- 光学印象に焦点を合わせて削除する。*オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 128]*
- カラーの光学印象の表示を設定する。*光学印象のカラー表示をオフ、およびオンにする [▶ページ 167]*

31.1 光学印象をインポートする

⚠ 注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。

⚠ 注意

不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。

⚠ 注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。

⚠ 注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。

⚠ 注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。

31.1.1 HUBから光学印象をダウンロードする

光学印象をHubからSIXDフォーマットでダウンロードし、SICAT Functionにインポートできます。

☑ Hubへの接続が確立されました。これに関する情報は*Hubの使用を有効または無効にする [▶ ページ 267]*を参照してください。

☑ Hubを使用するためのライセンスが有効になります。これに関する情報は*ライセンス [▶ ページ 64]*を参照してください。

☑ ワークフロー ステップの**診断する**は、展開させておきます。

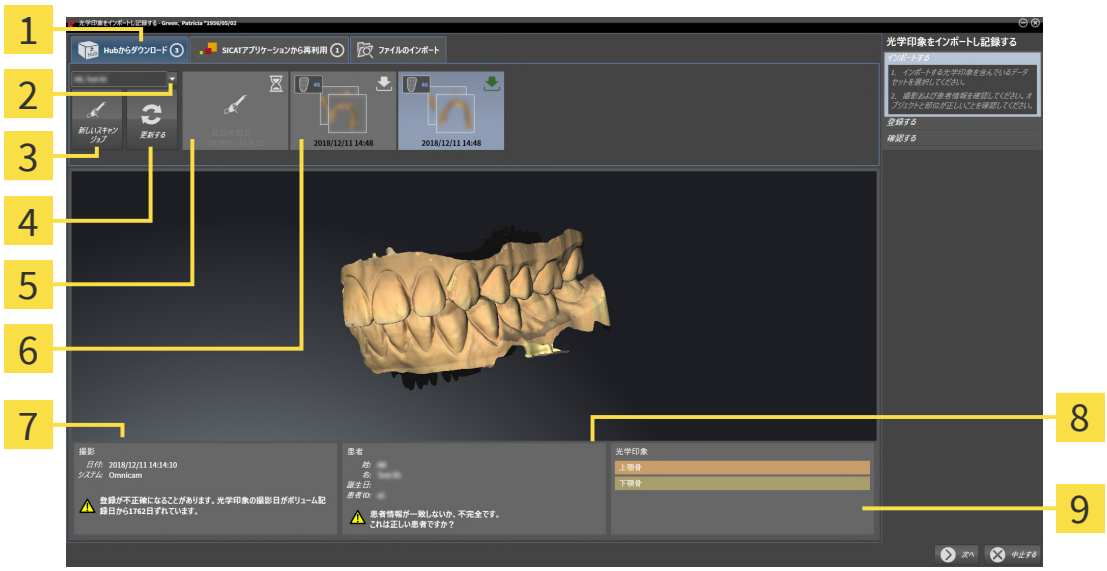
1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。

   ▶ SICAT Functionは、**光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能を**インポートする**ステップで開きます。

2. **Hubからダウンロードする**のタブをクリックします。

3. 患者1名を選択してください。

▶ SICAT Function保留中のスキャンジョブと使用できる光学印象を表示します。



1	**Hubからダウンロードする**タブ	6	ステータス付きの使用できる光学印象。 は、まだダウンロードされていません は、ダウンロード済みです
2	**患者選択**のボタン	7	撮影図情報
3	**新しいスキャンジョブ**のボタン	8	患者情報
4	**更新する**のボタン	9	**光学印象**エリア
5	ステータス付きのスキャンジョブ。 は保留中 は、まだダウンロードされていません		

4. 希望する光学印象をクリックしてください。

   ▶ SICAT Function は、印象がまだダウンロードされていない場合は、光学印象をダウンロードします。印象がダウンロードされると、SICAT Functionは印象を**3D**ビューで表示します。

5. 記録の選択を確認してください。

6. 撮影画像情報と患者情報が一致するか確認してください。

7. 顎を**光学印象**エリアで確認します。

8. **次へ**をクリックします。

▶ 3D X線撮影画像内と光学印象内の患者データが一致しない場合、SICAT Functionが**異なる患者情報**ウィンドウを開きます。

9. 患者情報を比較してください。異なる患者情報にも関わらず光学印象が現在の患者に合わせて調整されていることを確認したら**はい**ボタンをクリックしてください。

▶ **登録する**ステップが最初の光学印象用に開きます。*光学印象の記録と確認 [▶ページ 209]* セクションの手順に従ってください。

これにより、3D X線撮影画像と光学印象が互いに適合しているかどうか確認することができ、**光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能が患者データを常時表示し、**匿名にする**設定を無視します。

- 希望する光学印象が表示されない場合は、**更新する**のボタンをクリックして概要を更新できます。あるいは、Hubに光学印象を記録するジョブを送ることができます。これに関する情報は*光学印象のスキャンジョブを作成する [▶ページ 203]*を参照してください。
- デフォルトでは、Hubへの接続は切断されています。接続の設定に関する情報は、*Hubの使用を有効または無効にする [▶ページ 267]*を参照してください。
- Hubを使用するための適切なライセンスを有効にしていれば、Hubを使用できます。これに関する情報は*ライセンス [▶ページ 64]*を参照してください。

31.1.1.1 光学印象のスキャンジョブを作成する

Hubに光学印象をスキャンするジョブを送ることができます。

☑ Hubへの接続が確立されました。これに関する情報は*Hubの使用を有効または無効にする [▶ページ 267]*を参照してください。

☑ Hubを使用するためのライセンスが有効になります。これに関する情報は*ライセンス [▶ページ 64]*を参照してください。

☑ ワークフロー ステップの**診断する**は、すでに開いています。

1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。
   ▶ **光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能は**インポートする**ステップで開きます。

2. **Hubからダウンロードする**のタブをクリックします。

3. 患者1名を選択してください。
   ▶ SICAT Function保留中のスキャンジョブと使用できる光学印象を表示します。

4. **新しいスキャンジョブ**のアイコンをクリックします。
   ▶ SICAT Functionは、**新しいスキャンジョブ**ウィンドウを表示します。スキャンジョブの情報を指定できます。

5. 医師を選択します。

6. 必要に応じて、例えば、スキャンの指示といった追加情報を入力してください。

7. スキャンジョブをHubに送信するには、**スキャンジョブの作成**をクリックし、照会を**OK**で確定します。

▶ SICAT FunctionはスキャンジョブをHubに送信し、保留中のスキャンジョブを**Hubからダウンロードする**タブに⧖アイコンで表示します。

▶ CERECでスキャンジョブを編集し、CERECで光学印象を記録できます。

31.1.2 ファイルから光学印象をインポートする

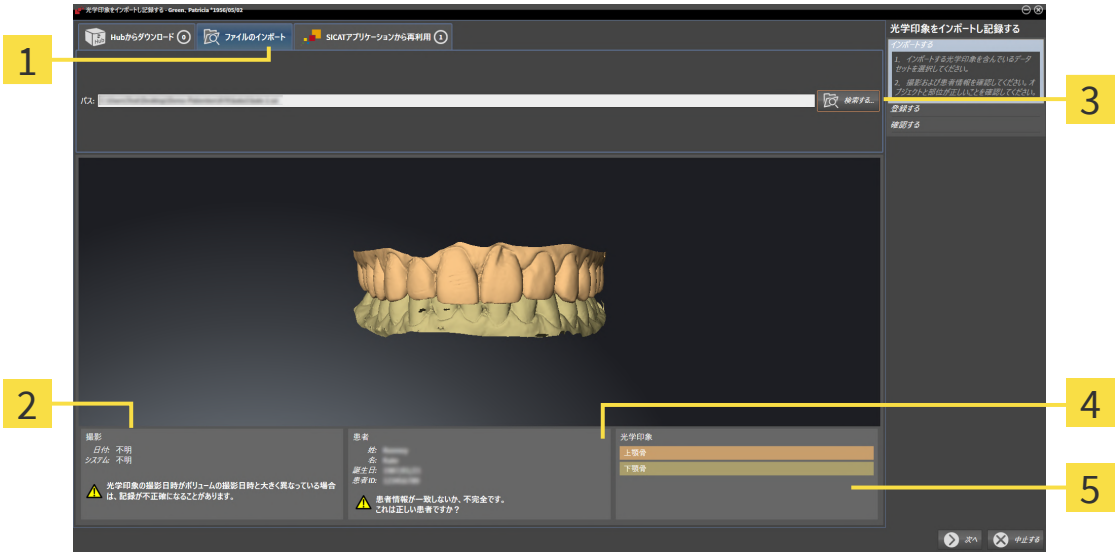
光学印象付きの1つ以上のファイルをインポートできます。

STLデータセットにおける光学印象の以下の制限に注意してください。

- STLデータセットは頬側咬合位をサポートしていません。**アクティブな顎間関係**エリアでは、**アクティブな顎関係：**リストに頬側顎間関係の入力は表示されません。
- STLデータセットをベースに顎運動データをエクスポートすることはできません。JMTエリアの**JMTXDをエクスポートします**のボタンをクリックすると、SICAT Functionは適切なメッセージを表示します。

☑ ワークフロー ステップの**診断する**は、展開させておきます。

1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。
   ▶ **光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能は**インポートする**ステップで開きます。
2. **ファイルのインポート**のタブをクリックします。



1 **ファイルのインポート**タブ
2 撮影図情報
3 **検索する**のボタン
4 患者情報
5 **光学印象**エリア

3. **検索する**のボタンをクリックします。
4. **ファイルを光学印象で開く**ウィンドウで、光学印象を含む任意のファイルに切り替え、ファイルを選択し、**開く**をクリックします。
   ▶ SICAT Functionは、選択したファイルを開きます。

5. **STLファイルで顎の割り当てと向きを指定します。**上顎または下顎の光学印象付きのSTLファイルを選択すると、顎の割り当てと向きを調整できることにより、SICAT Functionがウィンドウを1つ開きます。*STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順 [▶ページ 206]*の手順に従ってください。
   欠如していた上顎または下顎の別のSTLファイルを選択し、顎の割り当てと方向を調整することができます。続いて、次のステップに進んでください。

6. 記録の選択を確認してください。

7. 撮影画像情報と患者情報を確認してください。

8. 顎を**光学印象**エリアで確認します。

9. **次へ**をクリックします。
   ▶ 3D X線撮影画像内と光学印象内の患者データが一致しない場合、SICAT Functionが**異なる患者情報**ウィンドウを開きます。

10. 患者情報を比較してください。異なる患者情報にも関わらず光学印象が現在の患者に合わせて調整されていることを確認したら**はい**ボタンをクリックしてください。
    ▶ **登録する**ステップが最初の光学印象用に開きます。*光学印象の記録と確認 [▶ページ 209]* セクションの手順に従ってください。

> これにより、3D X線撮影画像と光学印象が互いに適合しているかどうか確認することができ、**光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能が患者データを常時表示し、**匿名にする**設定を無視します。

31.1.2.1 STLフォーマットの光学印象の場合の追加手順

STLファイルに光学印象の位置と向きに関する情報は含まれていません。そのため、位置と向きを必要に応じて調整する必要があります。

☑ **SICAT Suite STL Import**ライセンスは既に有効化済みです。

1. STL形式のファイルから光学印象を開きます。これに関する情報は*ファイルから光学印象をインポートする [▶ページ 204]*を参照してください。

   ▶ ウィンドウ**STL Import-Assistent**が開きます。

1 顎の選択

2 向きの変更

3 内側と外側の交換

2. **顎**エリアで光学印象が**上顎骨**か**下顎骨**のいずれを含んでいるか、対応するアイコンをクリックして選択してください。

3. 大まかな事前配置のために、**方向**エリアで矢印アイコンまたは回転アイコンをクリックすることで、必要に応じて光学印象の向きを変更してください。

4. **パラメータ**エリアで光学印象表示をクリックすることで、光学印象の内側と外側を必要に応じて交換してください。

5. **OK**のボタンをクリックします。

6. 必要に応じて二つ目のSTLファイルに同様の手順を行ってください。SICAT Functionは、2つ目のSTFファイルをそれぞれ異なる顎に割り当てます。

   ▶ SICAT Functionは、インポートした光学印象を**光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能に表示します。

7. 光学印象のインポートに進みます。これに関する情報は*ファイルから光学印象をインポートする [▶ページ 204]*を参照してください。

31.1.3 SICATアプリケーションからの光学印象を再使用する

SICATアプリケーションから光学印象を再利用することができます。

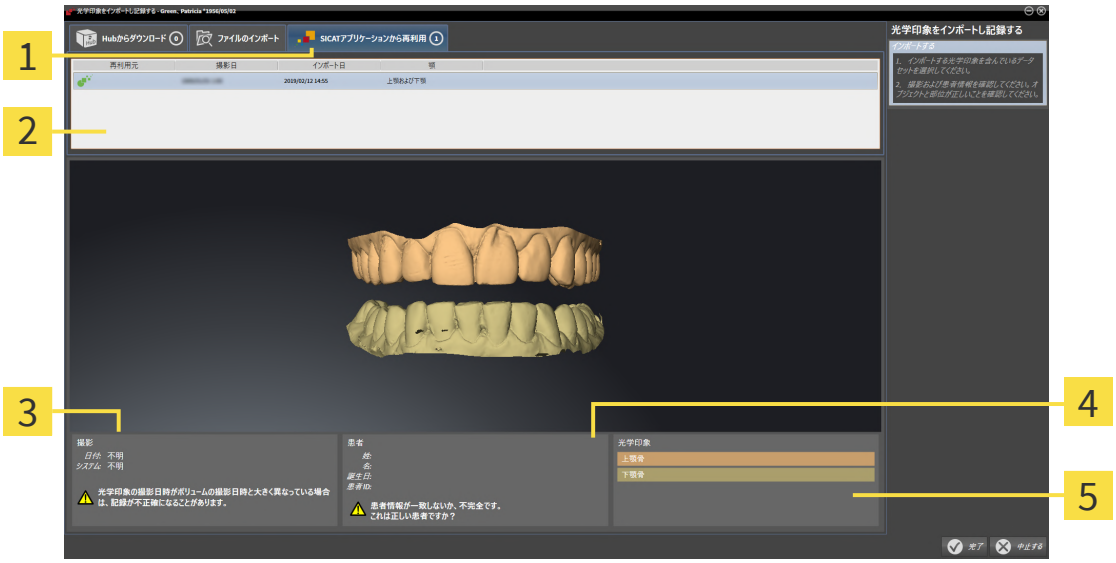
STLデータセットにおける光学印象の以下の制限に注意してください。

- STLデータセットは頬側咬合位をサポートしていません。**アクティブな顎間関係**エリアでは、**アクティブな顎関係：**リストに頬側顎間関係の入力は表示されません。
- STLデータセットをベースに顎運動データをエクスポートすることはできません。JMTエリアの**JMTXDをエクスポートします**のボタンをクリックすると、SICAT Functionは適切なメッセージを表示します。

☑ 開いているスタディのために、SICAT Functionでまだ使用していない、適合する複数の光学印象をSICATアプリケーションにすでにインポートしました。

☑ ワークフロー ステップの**診断する**は、展開させておきます。

1. **光学印象をインポートし記録する**のアイコンをクリックします。
   ▶ **光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能は**インポートする**ステップで開きます。
2. **SICATアプリケーションから再利用**のタブをクリックします。
3. 上のエリアにある再利用したい複数の光学印象のラインをクリックします。
   ▶ SICAT Functionに選択した複数の光学印象が表示されます。



1 **SICATアプリケーションから再利用**タブ
2 再利用可能な光学印象の一覧
3 撮影図情報
4 患者情報
5 **光学印象**エリア

4. 撮影画像情報と患者情報を確認してください。

5. 顎を**光学印象**エリアで確認します。

6. **完了**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Functionは**光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能を閉じます。

▶ SICAT Functionは選択した複数の光学印象を**オブジェクトブラウザ**に追加します。

▶ SICAT Functionは選択した複数の光学印象を表示します。

これにより、3D X線撮影画像と光学印象が互いに適合しているかどうか確認することができ、**光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能が患者データを常時表示し、**匿名にする**設定を無視します。

31.2 光学印象の記録と確認

⚠ **注意**

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

⚠ **注意**

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または記録のための点の欠如は、光学印象の記録に失敗する原因になるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず精確な記録を可能にする光学印象と3D X線撮影画像のみを使用してください。

⚠ **注意**

互いに一致しない光学印象の記録プロセスでマークを選択すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

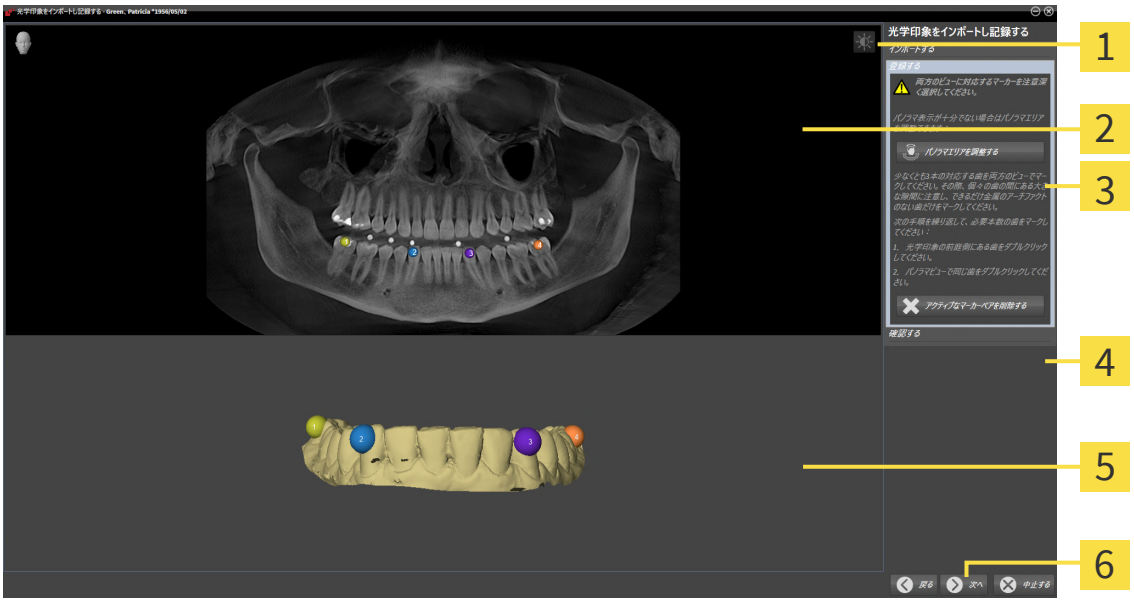
光学印象データを記録する場合、3D X線撮影画像と光学印象に一致するマーキングで慎重に選択します。

光学印象がX線データに正確に配置されているか検査するには、**検査ウィンドウ**を使用することができます。**検査ウィンドウ**を移動し、**検査ウィンドウ**でレイヤーをスクロールすることができます。

カラー光学印象は**インポートする**ステップで、3Dプレビューに自動的にカラーで表示されます。**登録する**ステップ、および**確認する**ステップでは、カラーの光学印象はモノクロで表示され、形状とジオメトリをより正確に確認できます。

光学印象を記録および確認するには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ **光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能は**登録する**ステップで開いています。



1 **輝度およびコントラストの調整**アイコン	4 **アクティブなマーカーペアを削除する**のボタン
2 **パノラマ**ビュー	5 **3D**ビューは、最初の光学印象を表示します
3 **パノラマ エリアを調整する**のボタン	6 **次へ**のボタン

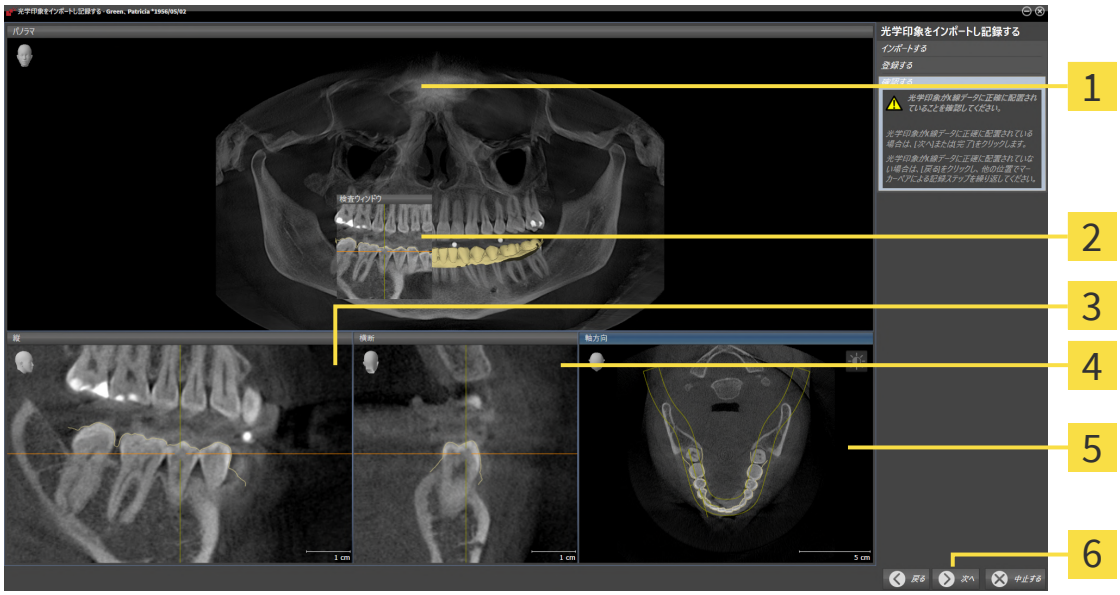
1. **パノラマ**ビューと**3D**ビューの光学印象の前庭側の両方で、同じ歯をダブルクリックします。その際、個々の歯の間にある大きな間隔に注意し、金属アーチファクトのない歯だけをマークしてください。両方のビューで一致する歯が**3本**以上識別表示されるまで、この手順を繰り返します。

   ▶ 両方のビューにある様々な色と番号のマークは、光学印象の割り当てられた歯を示しています。

2. **次へ**をクリックします。

   ▶ SICAT Functionは、X線データによる光学印象の記録を計算します。

▶ **確認する**のステップが開きます。



1 **パノラマ**ビュー	4 **横断**ビュー
2 **検査ウィンドウ**	5 **軸方向**ビュー
3 **縦**ビュー	6 **完了**のボタン

3. 光学印象がX線データに正確に配置されているか2Dビューを確認してください。レイヤーを**各レイヤービュー**でスクロールし、表示されている輪郭をチェックしてください。
4. 光学印象がX線データに正確に配置されていない場合、**戻る**のボタンをクリックし、別の位置にあるマーカーのペアで**登録する**の手順を繰り返します。
5. 最初の光学印象がX線データに正確に配置されている場合は、**次へ**のボタンをクリックします。2回目の光学印象について前の手順を繰り返します。
6. 2回目の光学印象がX線データに正確に配置されている場合は、**完了**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Functionは**光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能を閉じます。

▶ SICAT Functionは選択した複数の光学印象を**オブジェクトブラウザ**に追加します。

▶ SICAT Functionに記録されている光学印象が表示されます。

記載されている手順に加え、以下の操作が**光学印象をインポートし記録する**アシスタント機能で使用できます。

- **輝度およびコントラストの調整**アイコンをクリックして、2Dビューの輝度およびコントラストを調整することができます。これに関する情報は*2Dビューの輝度およびコントラストの調整およびリセット [▶ページ 146]*を参照してください。
- パノラマ エリアは、**パノラマ エリアを調整する**アイコンをクリックして調整することができます。これに関する情報は*パノラマ エリアを調整する [▶ページ 179]*を参照してください。
- **登録する**で特定のマーカーペアを削除する場合、両方のビューでペアのマーカーをマウスクリックで選択し、**アクティブなマーカーペアを削除する**のボタンをクリックします。
- 光学印象のインポートおよび記録を中断する場合、**中止する**をクリックします。

32 解剖学的な咬合

SICAT Functionは患者の解剖学的な咬合をビジュアル化できます。すなわち、測定機器で顎運動を記録し、ソフトウェアがその顎運動データと3D X線撮影画像とを同期させます。これを解剖学的な咬合と呼びます。下顎骨をセグメントすると、顎関節に至るまで、患者の顎運動をもれなく再現できます。

SICAT Functionには解剖学的な咬合に以下のデータが必要です。

- セグメントされた3D X線撮影データ - これに関する情報は、*セグメンテーション [▶ページ 190]*を参照してください。
- 記録された顎運動データ - これに関する情報は、*顎運動データ [▶ページ 183]*を参照してください。

SICAT Functionは、光学印象を追加の情報源として利用するこができます。例えば、顎を完全に閉じる咬合までの顎運動が、光学印象を利用して解析できます。これに関する情報は*光学印象 [▶ページ 197]*を参照してください。

これらのツールを使用して、患者の個々の下顎運動を判定することができます。

- **アクティブな顎間関係**エリア - これに関する情報は*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。**アクティブな顎間関係**エリアでは、動画再生ボタンを押すと、**3D**ビュー内で、患者の下顎骨の運動を個別に再生できます。さらに、**アクティブな顎間関係**エリアでは、顎運動データをエクスポートできるボタンが用意されています。
- **3D**ビュー - これに関する情報は*3Dビューの調整 [▶ページ 156]*を参照してください。
- **検査ウィンドウ** - これに関する情報は*検査ウィンドウの移動、非表示、表示、および最大化 [▶ページ 151]*を参照してください。

患者の下顎骨の個々の動作を判定するために、2Dレイヤービューで十字線を下顎骨の選択した位置にセットします。 SICAT Functionはその後、**3D**ビューで、選択しておいた位置に、その位置に対応する運動の軌跡を表示します。これに関する情報は*十字線およびフレームの移動、非表示、表示 [▶ページ 150]*を参照してください。

また、**検査ウィンドウ**を下顎骨の選択した位置にセットすることもできます。これに関する情報は*3Dビューで運動の軌跡を表示する [▶ページ 217]*を参照してください。

3Dビューでは、SICAT Functionは、選択した位置がセグメントされた下顎骨上または外側にあるか、様々な色で表示します。これに関する情報は*検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する [▶ページ 218]*と *レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する [▶ページ 219]*を参照してください。

32.1 顎運動と連携する

顎運動データを管理するために、SICAT Functionでは、**アクティブな顎間関係**エリアが用意されています。

1 **アクティブな顎関係：**のリスト

2 **治療位置の設定**のボタン

3 ブックマークボタン

4 スライダー付きシークバー

5 **再生モードを切り替える**アイコン

6 動画再生ボタン

7 **JMTXDをエクスポートします**のボタン

アクティブな顎間関係エリアでは、これで次の操作を行うことができます。

- 静的な顎関係または顎運動を選択する。
- 顎運動と連携する。
- ブックマークを管理する。
- 治療位置を設定する。これに関する情報は*治療位置の設定 [▶ページ 245]*を参照してください。
- 顎運動データをエクスポートする。

静的な顎関係または顎運動を選択する

静的な顎関係や**動的な顎関係**を選択するには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. **アクティブな顎関係：**リストをクリックします。

   ▶ **アクティブな顎関係：**リストが開きます。

2. 希望の**静的な顎関係**または、**動的な顎関係**を選択します。

▶ **アクティブな顎関係：**リストが閉じます。

▶ **アクティブな顎間関係**エリアでは、顎の相対関係のうち、選択したものの名称を表示します。

▶ 3Dビューに選択した顎関係が表示されます。

顎運動と連携する

顎運動と連携するには、次のように行います：

☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は*顎運動データをインポートして記録する [▶ページ 185]*を参照してください。

1. 動画の再生を開始するときは、**開始**アイコンをクリックします。

2. 動画の再生を停止するときは、**停止**アイコンをクリックします。

3. フレームを早送りには、**次に進む**アイコンをクリックします。

4. フレームを巻き戻すには、**前に戻る**アイコンをクリックします。

5. 再生モードをシングルとエンドレスの間で切り替える時は、**再生モードを切り替える**アイコンをクリックします。

6. 時間軸上の位置を手動で変更する時は、JMTエリアのスライダーをクリックし、マウスを動かし、希望の位置でマウスの左ボタンから指を放します。

JMTエリアでブックマークを管理する

JMTエリアでブックマークを管理するには、次の手順で行います。

1. 時間軸上の現在の位置にブックマークを追加するには、**ブックマークを追加**アイコンをクリックします。

2. 時間軸上の現在の位置からブックマークを削除するには、**ブックマークを削除**アイコンをクリックします。

3. スライダーを次のブックマークの位置に移動させるには、**次のブックマークに進む**アイコンをクリックします。

4. スライダーを前のブックマークの位置に移動させるには、**前のブックマークに戻る**アイコンをクリックします。

以下の場合は、ブックマークを削除することができません。

- 治療位置として指定したブックマークがあり、その治療位置に関係する注文がカートに入っている場合です。そのブックマークを削除するときは、注文を完了するか、または、注文を削除するかのいずれかを行ってください。
- 削除するために選択したブックマークが、顎の相対関係で、表示中のものにセットしてある場合。そのブックマークを削除するときは、運動の軌跡か、または、静止した状態の顎の相対関係で、該当するものを選択して、**次のブックマークに進む**アイコンをクリックします。

顎運動データをエクスポートします

顎運動データをエクスポートには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 顎運動データはすでにインポートされ、記録されています。

☑ 両顎の光学印象はすでにインポートされ、記録されています。

1. **JMTXDをエクスポートします**のボタンをクリックします。

   ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。

2. ディレクトリを選択し、必要に応じてファイル名を変更してください。

3. **保存**のボタンをクリックします。

▶ SICAT FunctionはWindowsファイルエクスプローラーウィンドウを閉じます。

▶ SICAT Functionは指定したファイルへ顎運動データと光学印象をエクスポートします (ファイル形式は、JMTXDで、CEREC 4.4以降やInLab 15以降で使用できます)。

事前に設定で匿名化をアクティブにすると、顎運動データを匿名でエクスポートすることができます。

32.2 3Dビューで運動の軌跡を表示する

顎運動の軌跡では、動きの3次元推移を下顎骨の各点個別に表示します。従来式のアキシオグラフ装置で描く軌跡と類似しています。運動の軌跡を表示する各点は、軌跡点と呼びます。SICAT Functionでは、軌跡点を任意に選択できます。JMTエリアで患者の個々の運動を選択し、**3D**ビューで判定することができます。JMTエリアに関する内容は、*顎運動と連携する [▶ページ 214]*の節をご覧ください。

運動経路を**3D**ビューで表示させるには、次の手順を実行する必要があります。

- 3D X線撮影画像を含む顎運動データを記録します。これに関する情報は、*顎運動データ [▶ページ 183]*の節をご覧ください。
- セグメントされた3D X線撮影画像 - これに関する情報は、*セグメンテーション [▶ページ 190]*の節をご覧ください。

顎運動データをインポートし、3D X線撮影画像を3セグメントした後、**3D**ビューは、次に3D X線撮影図の元の関係を示します。撮影された動作を選択すると、**3D**ビューに運動経路が表示されます。

SICAT Function 様々な色によって運動経路の位置を識別表示します。

- SICAT Functionでは、運動の軌跡が患者の下顎骨上にあるときは、この軌跡を緑色で表示します。
- SICAT Functionでは、運動の軌跡が患者の下顎骨上にないときは、この軌跡を赤色で表示します。

解剖学的運動経路は、患者の下顎骨上にセットすることができます。これに関する情報は*検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する [▶ページ 218]*と*レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する [▶ページ 219]*を参照してください。

3Dビューの表示タイプを選択し、これを需要に応じて調整することができます。これに関する情報は*3Dビューの調整 [▶ページ 156]*を参照してください。

軌跡点は、異なる3点を結んで表示させることができます。これに関する情報は*Bonwillの三角を利用する [▶ページ 223]*を参照してください。

セグメントした部分の境界線は、表示したり隠したりの切替ができます。これに関する情報は*セグメンテーション限度の表示 [▶ページ 224]*を参照してください。

顎運動は、下顎頭を中心にして表示させることができますこれに関する情報は*下顎頭方向の運動を表示する [▶ページ 225]*を参照してください。

32.3 検査ウィンドウにより運動の軌跡を調整する

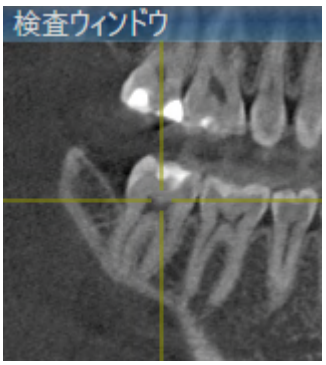
下顎骨全体で患者の顎運動を個別に解析する目的で、**検査ウィンドウ**を利用するには、次の手順で行います：

☑ **パノラマ**ワークスペースはすでにアクティブです。これに関する情報は*ワークスペースを切り替える [▶ページ 138]*を参照してください。

☑ **パノラマ**画像を作業対象として選択しておきます。これに関する情報は*アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*を参照してください。

☑ **検査ウィンドウ** は、隠さず表示しておきます。これに関する情報は*検査ウィンドウの移動、非表示、表示、および最大化 [▶ページ 151]*を参照してください。

- **検査ウィンドウ**を希望の部位に動かします。



▶ SICAT Function 運動経路の位置を**3D**ビューで**検査ウィンドウ**の位置に応じて更新します。その時点で最新の軌跡点は、検査ウィンドウの十字線で囲まれています。

▶ 運動経路は新しい位置にあります。

軌跡点が患者の下顎骨を外れた箇所にあるときは、運動経路を患者の下顎骨上に位置決めすることが可能です。これに関する情報は*レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する [▶ページ 219]*を参照してください。

検査ウィンドウを直ちに希望の解剖学的部位に移動させるには、**パノラマ**ビューで希望の位置をダブルクリックします。

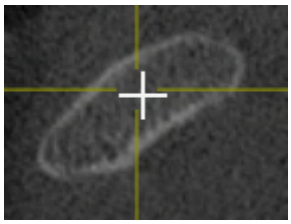
32.4 レイヤービューで十字線により運動の軌跡を調整する

下顎骨全体で患者の顎運動を個別に解析する目的で、十字線を利用するには、次の手順で行います：

☑ 十字線は現在2Dレイヤービューに表示されています。これに関する情報は*十字線およびフレームの移動、非表示、表示 [▶ページ 150]*を参照してください。

1. 任意の2Dレイヤービューをアクティブにします。これに関する情報は*アクティブなビューの切り替え [▶ページ 144]*を参照してください。

2. 十字線を希望の解剖学的部位に動かします。これに関する情報は*十字線およびフレームの移動、非表示、表示 [▶ページ 150]*を参照してください。



▶ SICAT Function 運動経路の位置を**3D**ビューで十字線の位置に更新します。

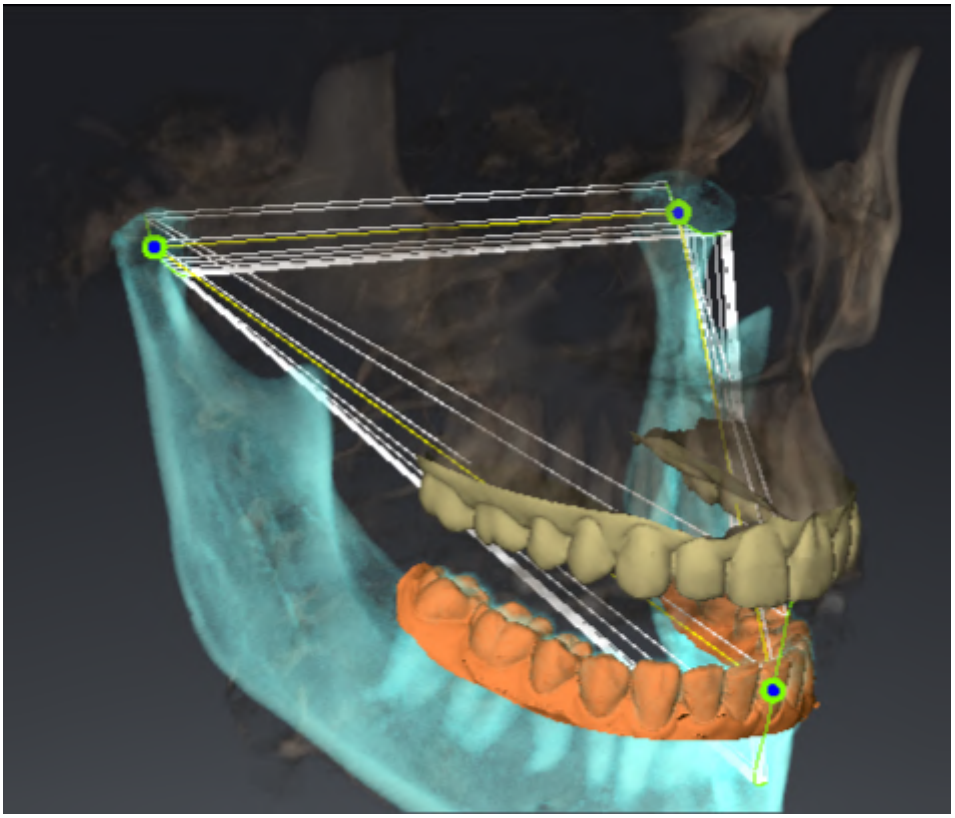
3Dビューでは、SICAT Functionは患者の下顎骨以外の位置を選択すると、運動経路を赤色で識別表示します。

十字線をすぐにマウスポインタの位置へ移動させる場合、2Dビューでダブルクリックすることができます。

33 TMJワークスペースの各種機能

TMJワークスペースは、顎関節機能障害の診断と治療計画の立案を行うときに役立ちます。ＤＶＴ画像に応じて、**TMJ**ワークスペースでは、形態と運動の面から、顎関節を左側と右側とで互いに比較できます。

TMJワークスペースでは、1つの顎運動ごとで3種類の異なる、運動経路を表示できます。



- 左側の下顎頭の軌跡
- 右側の下顎頭の軌跡
- 咬合上にある1点の軌跡。例えば、上下顎中切歯の交点

TMJワークスペースのレイヤービューでは、左側と右側のそれぞれについて、下顎頭の軌跡点を移動させることができます。これに関する情報は*軌跡点を移動する [▶ページ 221]*を参照してください。

3Dビューでは、ダブルクリックにより、上下顎中切歯の交点の軌跡点をセットできます。これに関する情報は*上下顎中切歯の交点をセットする [▶ページ 222]*を参照してください。

患者の解剖学的咬合について、個別に所見の検討を行うにあたっては、**TMJ**ワークスペースにオプションとして追加されているアイテムがいくらかあります。これに関する情報は*セグメンテーション限度の表示 [▶ページ 224]*、*下顎頭方向の運動を表示する [▶ページ 225]*および*Bonwillの三角を利用する [▶ページ 223]*を参照してください。同様にBonwillの三角は咬合器値の読み取りに使用できます。これに関する情報は*咬合器値 [▶ページ 226]*を参照してください。

33.1 軌跡点を移動する

SICAT Function では、下顎頭の左側と右側とで互いに対応する軌跡点の軌跡を同時に表示します。この軌跡を利用すると、顎関節の運動全体を左右相互で比較することができます。

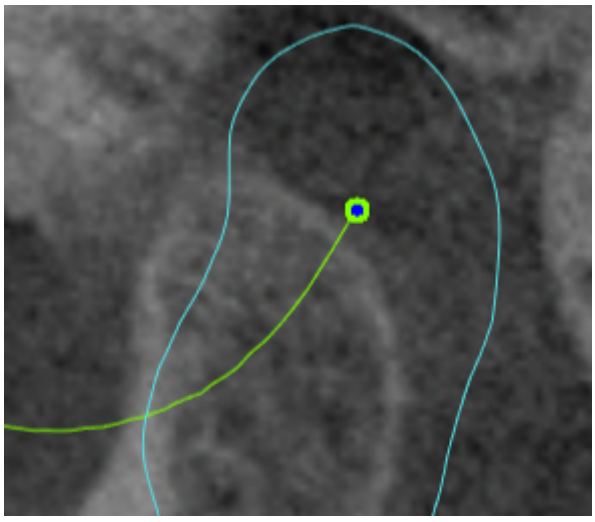
レイヤービューで、下顎頭の左側と右側の各軌跡点を移動させるには、次の手順で行います。

☑ **TMJ**ワークスペースはすでに開いています。**TMJ**ワークスペースに関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能 [▶ページ 220]*と*TMJワークスペースに関する概要 [▶ページ 135]*の節をご覧ください。

☑ 既に動的顎関係が選択されています。

1. マウスポインタを希望の軌跡点上に動かします。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の軌跡点の位置に動かします。
4. マウスの左ボタンを放します。

   ▶ SICAT Function レイヤービューで、選択しておいた位置へ下顎頭の左側と右側の各軌跡点が移動します。



33.2 上下顎中切歯の交点をセットする

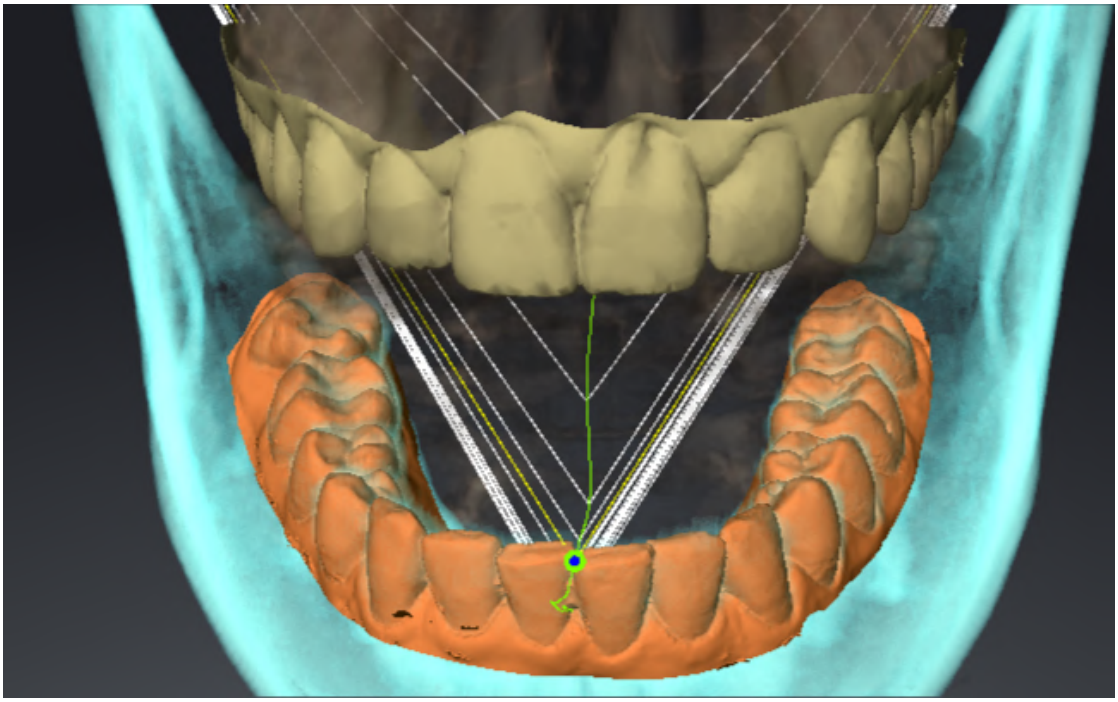
3Dビューで、上下顎中切歯の交点をセットするには、次の手順で行います。

☑ **TMJ**ワークスペースはすでに開いています。**TMJ**ワークスペースに関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能 [▶ページ 220]*と*TMJワークスペースに関する概要 [▶ページ 135]*の節をご覧ください。

☑ 既に動的顎関係が選択されています。

- **3D**ビューでマウスポインタをお好みの位置に重ねたら、左マウスボタンをダブルクリックします。

► SICAT Function では、光学印象上で選択した位置を軌跡点として利用します。



上下顎中切歯の交点を正面から見ると、下顎の側方運動が識別できてより詳細な観察が可能になります。

33.3 BONWILLの三角を利用する

BONWILLの三角を表示する

SICAT Functionでは、**Bonwillの三角**により、3点の軌跡点を結んで表示します。顎運動に非対称性や急激な変動があれば、この表示により、それらがより特定しやすくなります。

Bonwillの三角を表示するには、次の手順で行います：

☑ **TMJ**ワークスペースはすでに開いています。**TMJ**ワークスペースに関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能 [▶ページ 220]*と*TMJワークスペースに関する概要 [▶ページ 135]*の節をご覧ください。

☑ 既に動的顎関係が選択されています。

- **オブジェクトブラウザ**で、**顎運動データ**をクリックします。

► SICAT Function **プロパティ**の下に**Bonwillの三角**を表示します。

BONWILLの三角の構成設定を行う

Bonwillの三角の表示個数を設定するには、次の手順で行います。

1. **オブジェクトブラウザ**で、**顎運動データ**をクリックします。
2. **プロパティ** エリアにある**ステップ幅**横の上下矢印キーのいずれかをクリックします。

► SICAT Function では、**ステップ幅**のボックスの数値が切り替わります。

► **3D**ビューでは、選択した個数でBonwillの三角が表示されます。

上記の個数は、顎運動に非対称性があったときに、それが検出しやすくなる数値に設定してください。

33.4 セグメンテーション限度の表示

セグメンテーション限度の表示ようにしておくと、セグメント化の質を3D X線撮影画像と比較することができます。セグメントした部分の境界線が3D X線撮影画像と異なるときは、**下顎と顆状突起をセグメントする**のウィンドウで、セグメントした部分を修正することができます。

青色の輪郭線は、現時点での運動に基づく下顎頭の位置を表示します。そのため、通常、この青色の輪郭線が3D X線撮影画像と重なって一致することはなく、セグメントの質をチェックする目的には、適切ではありません。代わりに黄色い輪郭をセグメンテーション限度のチェックに使用してください。

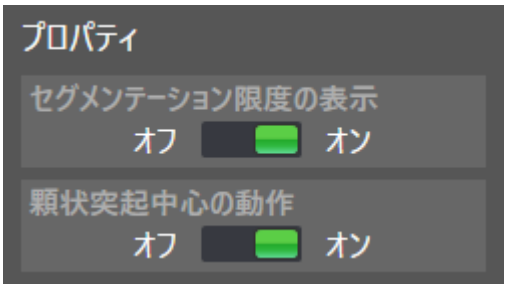
セグメンテーション限度の表示には、次の手順で行います。

☑ **TMJ**ワークスペースはすでに開いています。**TMJ**ワークスペースに関する一般的な情報は、以下の節をご覧ください。 *TMJワークスペースの各種機能 [▶ページ 220]* および *TMJワークスペースに関する概要 [▶ページ 135]*。

☑ 既に動的または静的顎関係を選択しています。

1. **オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位**をクリックします。

   ▶ SICAT Function **プロパティ**に、**セグメンテーション限度の表示**のオプションが表示されます：



2. **セグメンテーション限度の表示**のオプションで、スライダーを**オン**の位置に移動させます。

   ▶ 2Dビューでは、セグメントした部分の境界線を黄色の輪郭で表示します。

SICAT Function 咬合でセグメントした位置を色違いで識別表示します。

- SICAT Functionでは、セグメントした位置にあって運動中の下顎頭を青色で識別表示します。
- 3D X線撮影画像の元来のセグメンテーションはSICAT Functionをチェックラインで表示します。 SICAT Function チェックラインを黄色で識別表示します。

33.5 下顎頭方向の運動を表示する

両方の下顎頭が3D X線撮影画像で検出された場合は、下顎頭方向の動きを使用して、窩に関連して動く下顎頭を表示できます。下顎を中心とする顎運動を起動すると、のレイヤービューで顎運動が開始して終了するまでの間、下顎にある点のすべてを**TMJ**ワークスペースに表示させることができます。下顎を中心とする顎運動を停止すると、のレイヤービューで顎運動が開始して終了するまでの間、窩にある点のすべてを**TMJ**ワークスペースに表示させることができます。

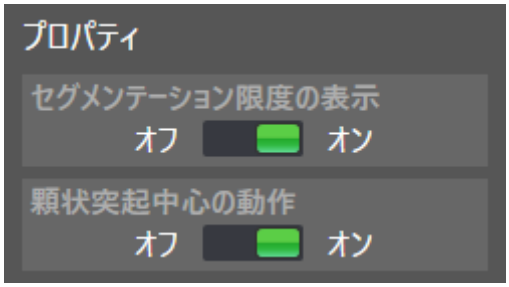
下顎を中心とする顎運動を表示するには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ **TMJ**ワークスペースはすでに開いています。**TMJ**ワークスペースに関する一般的な情報は、*TMJワークスペースの各種機能 [▶ページ 220]*および*TMJワークスペースに関する概要 [▶ページ 135]*の節をご覧ください。

☑ 既に動的または静的顎関係を選択しています。

1. **オブジェクトブラウザ**で、**ボリューム-部位**をクリックします。

   ▶ SICAT Functionは**プロパティ**で**顆状突起中心の動作**のオプションを表示します。



2. **顆状突起中心の動作**のオプションで、スライダーを**オン**の位置に移動させます。

   ▶ **3D**ビューで、下顎を中心とする顎運動を表示します。

34 咬合器値

⚠ 注意

誤ったボリュームの配置や切歯点の固定は、誤った診断および治療につながるおそれがあります。

1. 3DX線撮影画像の方向が上顎骨の咬合平面が軸レイヤーと平行になるようになっているか確認してください。
2. 患者の歯が上顎骨と下顎骨の咬合平面が一致する咬合状態にある顎関係を選択していることを確認してください。
3. 切歯点がソフトウェア内で下顎中切歯間の解剖学的に正しい位置に設置されているか確認してください。

⚠ 注意

正確性に欠けるボンウィル三角の定義は間違った診断および治療につながるおそれがあります。

1. 正確な解剖学的指標に応じたボンウィル三角の定義を採用したことを確認してください。
2. ボンウィル三角の定義が本来の使用目的に対して適切かどうか確認してください。

⚠ 注意

不適切な顎運動データの使用は誤った蝶番軸の算出につながるおそれがあります。

蝶番軸の算出には実際の開口運動または閉口運動を使用してください。

SICAT Functionは患者固有の咬合器値を決定する際、サポートします。咬合器上の値を送信することにより、個別の義歯修復を構成し、完了することができます。現時点では咬合平面を基準平面として使用する咬合器のパラメータの決定は最適化されています。

咬合平面を基準平面として使用する咬合器の例はCEREC-Software (Dentsply Sirona)の仮想咬合器です。CEREC咬合器を個々の値を使ってプログラムする手順はCERECの取扱説明書をご覧ください。

必要な顎運動データ

最大の咬合器値を顎運動の記録を基に決定することができます。値を決定するには特定の種類の顎運動データが必要です。

咬合器値	必要な顎運動データ
左右の顎関節の矢状顆路角	突起
左右のベネット角および左右の即時切替	左右のラテロトルージョン
蝶番軸	実際の開口運動または閉口運動

CEREC咬合器用の値

SICAT Functionを使用してCEREC咬合器用の以下の値を決定することができます。

CEREC咬合器のパラメータ	説明
辺	辺とは下顎中切歯間の左または右の下顎頭から切歯点までの距離です。SICAT Functionはボンウィル三角の辺の長さを直接示します。
基準	基準は左右の下顎頭間の距離です（下顎頭間距離）。SICAT Functionはボンウィル三角の基準の長さを直接示します。
バルクウィル角	バルクウィル角は咬合平面とボンウィル三角の間の角です。SICAT Functionはボンウィル三角でバルクウィル角を直接示します。
左右の矢状顆路角	矢状顆路角は左の突起部または右の下顎頭と咬合平面の間の角です。この角を**TMJ**ワークスペースの矢状ビューで突起部を使って測定することができます。3DX線撮影画像が上顎骨の咬合平面に対して水平方向を向いていることを確認してください。この点についてボリュームの配置についての安全指示に必ず留意してください。左右の顎関節の突起部と水平面の間の角を測定してください。
左右のベネット角	ベネット角は突起部運動とラテロトルージョンの間の角です。この角を**TMJ**ワークスペースの軸方向ビューでラテロトルージョンを使って右側および左側で測定することができます。3DX線撮影データが上顎骨の咬合平面に対して水平方向を向いていることを確認してください。この点についてボリュームの配置についての安全指示に必ず留意してください。ラテロトルージョン突起と矢状平面の間の角を測定してください。
左右の即時切替	

3DX線撮影画像における視認可能な下顎頭

咬合器値は主に顎運動の記録をもとに決定することができます。下顎頭間距離 (CEREC咬合器でのボンウィル三角の「基準」長さ) を顎運動データのみで決定することはできません。

3DX線撮影画像で顎関節が見えない場合、ボンウィル三角の「基準」辺長さを蝶番軸を使って決定することができます。蝶番軸は実際の開口または閉口運動から決定することができます。その際に重要なのは下顎骨は純粋な回転運動を行い、前進はしないことです。

両方の下顎頭が3D X線撮影画像に記録されている場合は、3Dレントゲン写真を使用して下顎頭間距離を決定できます。どの咬合器値にどの顎運動データが必要かは以下の表を参照してください。

	下顎頭が3DX線撮影画像で視認可能	下顎頭が3DX線撮影画像で視認不可能
原因	■ 大きなField of View (FOV)付の3DX線撮影用のX線装置を持っています。	小さなField of View (FOV)付の3DX線撮影用のX線装置を持っています。 石膏模型の3DX線撮影画像を作成しました。
結果	3DX線撮影画像では下顎頭に左右のトレースポイントを配置することができます。	3DX線撮影画像では下顎頭に左右のトレースポイントを配置することができません。
必要な手順	TMJワークスペースのレイヤービューに左右のトレースポイントを配置してください。その際、3DX線撮影画像内で下顎頭の位置を参照してください。	蝶番軸の算出には実際の開口運動または閉口運動の画像が必要です。患者が顎を数ミリメートル開けるか閉めるかすること、およびお客様が下顎骨 が前進しないように下顎頭をLauritzenグリップまたはDawsonグリップで操作することにより、実際の開口運動または閉口運動の特徴が決まります。 SICAT Functionは、両方のトレースポイントが顎関節の蝶番軸上に来るように左右のトレースポイントを配置します。

SICAT FUNCTIONのボンウィル三角

以下の咬合器値を決定する際、SICAT Function内でボンウィル三角をサポートしてください。

- 左右の辺 [mm]
- 基準 [mm]
- バルクウィル角 [°]

ボンウィル三角の3つの頂点が正確に配置されている必要があります。

- 左トレースポイント
- 右トレースポイント
- 切歯点

TMJワークスペース内で**3D**ビューで解剖学的に正確な点をダブルクリックすることで、切歯点を配置することができます。下顎頭が3DX線撮影画像内で見えるかどうかによって左右両方のトレースポイントが異なる配置になるかどうかが決まります。

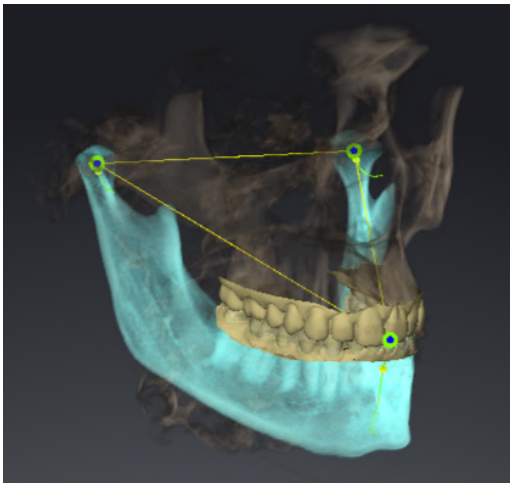
咬合器値を読み取る手順は、*下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む [▶ ページ 230]*または*下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む [▶ ページ 232]*の節をご覧ください。

34.1 下顎頭が視認可能な時に咬合器値を読み込む

下顎頭が視認可能な場合のボンウィル三角の設定

以下の手順には**TMJ**ワークスペース内でレイヤービューを使用してください。

1. 左右いずれかのトレースポイントをクリックし、マウスの左ボタンを押したまま各下顎頭にトレースポイントを配置します。
2. 解剖学的に正確な位置をダブルクリックして下顎の切歯間に切歯点を配置します。下顎骨の切歯間に切歯点が見えない場合は開口運動を選択し、顎を少しだけ開いてください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。



スクリーンショットは3D X線撮影画像を大きなField of View (FOV)で示します。その中ではボンウィル三角が患者の解剖学的構造と整合しています。下顎頭が視認可能です。左右のトレースポイントは視認可能な下顎頭の中央に配置されています。SICAT Functionの切歯点は、中央下顎切歯の間にあります。

SICAT Functionはボンウィル三角の辺の長さをmmで表示します。咬合器に対して直接値を記録することができます。SICAT機能が同様にバルクウィル角を表示します。バルクウィル角は閉じた顎と咬合平面が水平に向いているときにだけ適用されます。

下顎頭が可視の場合の咬合器値の決定

咬合器値を決定するには、次のように行います。

☑ 上顎骨の咬合平面が水平に向き、顎が正中矢状面に対して可能な限り対称になるように3DX線撮影画像の位置を調整済みです。正確なデータを収集し、咬合器に転送するには、正確な調整が必要です。これに関する情報は*ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する [▶ページ 172]*を参照してください。

☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は*顎運動データ [▶ページ 183]*を参照してください。

☑ **TMJ**ワークスペースはすでに開いています。これに関する情報は*TMJワークスペースに関する概要 [▶ページ 135]*を参照してください。

☑ **アクティブな顎関係：**リストで既に動的顎関係が選択されています。これに関する情報は*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。

1. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト**顎運動データ**を選択します。

   ▶ **プロパティ**エリアにSICAT Functionはボンウィル三角を表示します。

2. セグメンテーションされた下顎上で解剖学的に正確な位置または光学印象をダブルクリックして**3D**ビューで下顎中切歯間に切歯点をセットします。下顎から切歯までの切歯点が隠れている場合、下顎から切歯までが表示されるまで、顎の運動を再開して開きます。ダブルクリックで切歯点を配置し、顎を再び閉じてください。

3. トレースポイントを冠状、矢状、および事項方向に動かして下顎頭の中央に左右のトレースポイントをセットしてください。

4. ベース値、バルクウィル角、辺の長さの値を書き留めます。使用されている咬合によっては、辺の値を1つだけ入力できることに注意してください。

5. 選択した突起部運動の際は顎が閉じている時点を選択してください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。

6. 歯がしっかり閉じていることを確認してください。

7. **角度測定を追加する(A)**ツールを使って矢状ビューで左右の顎関節での矢状顆路角を測定してください。値を記録しておきます。

8. 左へのラテロトルージョンを選択してください。**角度測定を追加する(A)**ツールを使って軸方向ビューで右の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。

9. もしある場合は、右の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

10. 右へのラテロトルージョンを選択してください。**角度測定を追加する(A)**ツールを使って軸方向ビューで左の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。

11. もしある場合は、左の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

34.2 下顎頭が視認不可能な時に咬合器値を読み込む

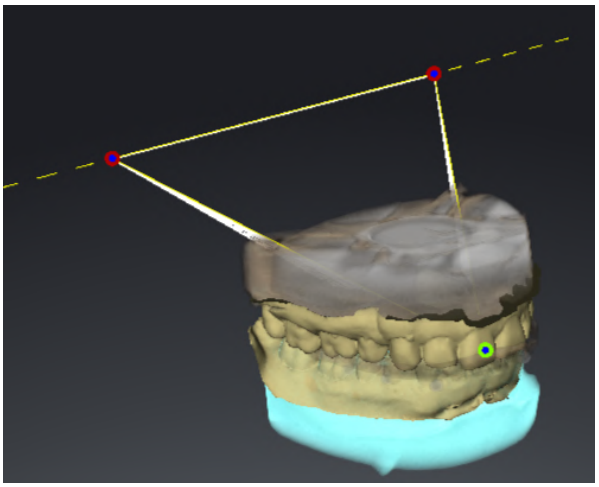
下顎頭が視認不可能な場合のボンウィル三角の設定

以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. **アクティブな顎関係：**リストから実際の開口または閉口運動を選択します。
2. **軸を計算する**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Functionは**3D**ビューで算出された軸を破線で示します。SICAT Functionは、**TMJ**ワークスペースで両方のトレースポイントが算出された蝶番軸上に来るように、左のトレースポイントと右のトレースポイントを自動的に配置します。

▶ **オブジェクトブラウザ**で**顎運動データ**オブジェクトを選択すると、SICAT Functionが算出された軸を**プロパティ**エリアに表示します。



スクリーンショットは例として下顎頭が見えない石膏模型のスキャンを示しています。蝶番軸は実際の開口運動から決定されました。破線は算出された軸を意味しています。SICAT機能は自動的に左右のトレースポイントを両方が算出された軸上に来るように配置します。SICAT Functionの切歯点は、中央下顎切歯の間にあります。

SICAT Functionはボンウィル三角の辺の長さをmmで表示します。咬合器に対して直接値を記録することができます。SICAT機能が同様にバルクウィル角を表示します。バルクウィル角は閉じた顎と咬合平面が水平に向いているときにだけ適用されます。

下顎頭が不可視の場合の咬合器値の決定

咬合器値を決定するには、次のように行います。

☑ 上顎骨の咬合平面が水平に向き、顎が正中矢状面に対して可能な限り対称になるように3DX線撮影画像の位置を調整済みです。正確なデータを収集し、咬合器に転送するには、正確な調整が必要です。これに関する情報は*ボリュームの配置およびパノラマエリアを調整する [▶ページ 172]*を参照してください。

☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は*顎運動データ [▶ページ 183]*を参照してください。

☑ **TMJ**ワークスペースはすでに開いています。これに関する情報は*TMJワークスペースに関する概要 [▶ページ 135]*を参照してください。

☑ **アクティブな顎関係：**リストで既に動的顎関係が選択されています。これに関する情報は*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。

1. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト**顎運動データ**を選択します。

   ▶ **プロパティ**エリアにSICAT Functionはボンウィル三角を表示します。

2. セグメンテーションされた下顎上で解剖学的に正確な位置または光学印象をダブルクリックして**3D**ビューで下顎中切歯間に切歯点をセットします。下顎から切歯までの切歯点が隠れている場合、下顎から切歯までが表示されるまで、顎の運動を再開して開きます。ダブルクリックで切歯点を配置し、顎を再び閉じてください。

3. **アクティブな顎関係：**リストから実際の開口または閉口運動を選択します。

4. **プロパティ**エリアで、**軸を計算する**のボタンをクリックします。必要に応じて基準の長さを100mmの平均値にセットします。

5. **オブジェクトブラウザ**でオブジェクト**顎運動データ**を選択します。

   ▶ SICAT Functionは、**プロパティ**エリアに基準、辺、およびバルクウィル角の値を表示します。

6. ベース値、バルクウィル角、辺の長さの値を書き留めます。使用されている咬合によっては、辺の値を1つだけ入力できることに注意してください。

7. 突起部運動を選択します。突起部運動の際は顎が閉じている時点を選択してください。顎運動データ内で特定の位置を選択する方法に関する情報は*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。

8. 歯がしっかり閉じていることを確認してください。

9. **角度測定を追加する(A)**ツールを使って矢状ビューで左右の顎関節での矢状顆路角を測定してください。値を記録しておきます。

10. 左へのラテロトルージョンを選択してください。**角度測定を追加する(A)**ツールを使って軸方向ビューで右の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。

11. もしある場合は、右の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

12. 右へのラテロトルージョンを選択してください。**角度測定を追加する(A)**ツールを使って軸方向ビューで左の顎関節のベネット角を測定してください。値を記録しておきます。

13. もしある場合は、左の顎関節内での即時切替を測定してください。値を記録しておきます。

35 距離/角度測定

SICAT Functionには2種類の測定タイプがあります：

- 距離測定

- 角度測定

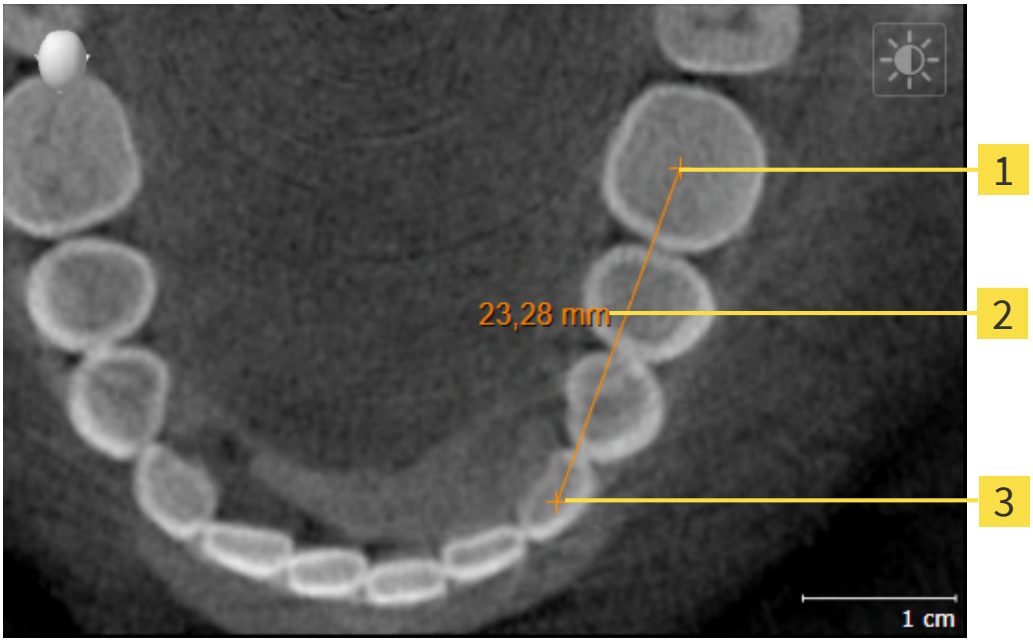
測定を追加するツールは、**ワークフローのツールバー**の**診断する**に記載されています。すべての2Dレイヤービューに測定を追加することができます。測定を追加する度に、SICAT Functionはその測定を**測定**のグループ**オブジェクトブラウザ**にも追加します。

> **検査ウィンドウ**には、測定対象のオブジェクトを追加できません。

測定に使用できる操作：

- *距離測定を追加する [▶ページ 235]*
- *角度測定を追加する [▶ページ 236]*
- *測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する [▶ページ 238]*
- 測定のアクティベーション、非表示および表示に関する情報は*オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 126]*をご覧ください。
- 測定に焦点を当てる、測定を削除する、測定操作を元に戻して再度実行する手順に関する情報は、*オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 128]*の節をご覧ください。

35.1 距離測定を追加する



1 始点

2 測定値

3 終点

距離測定を追加するには、次の手順で行います。

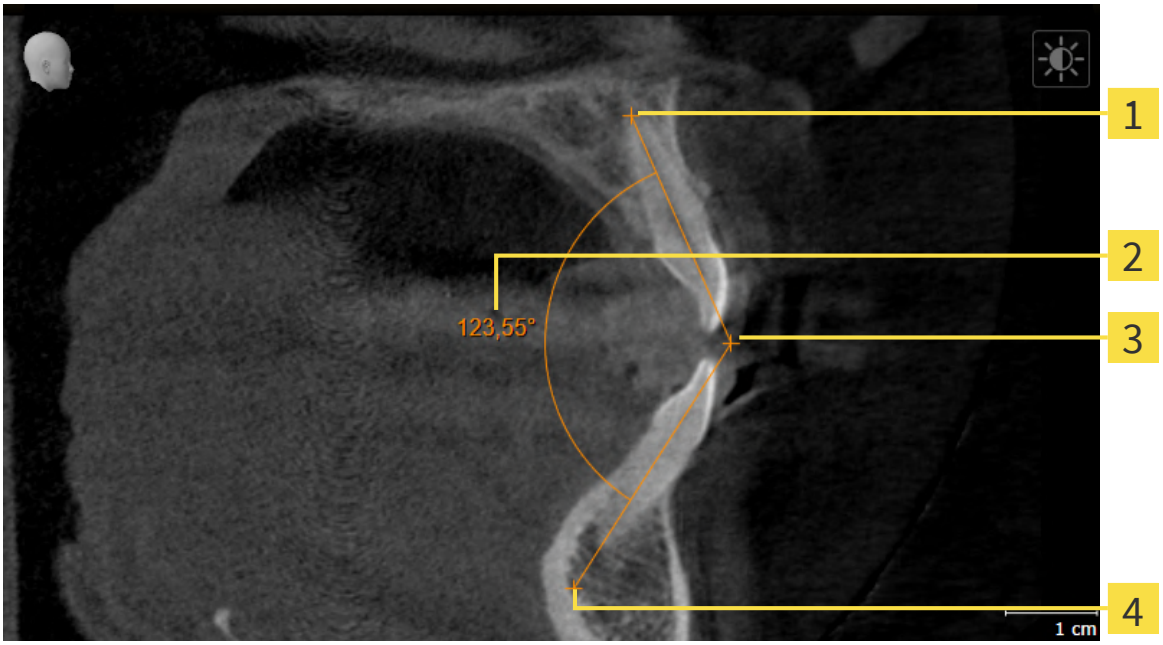
☑ ワークフロー・ステップの**診断する** は、展開させておきます。

1. ワークフローステップ **診断する** で **距離測定を追加する(D)** アイコンをクリックします。
   ▶ SICAT Function 新しい距離測定を**オブジェクトブラウザ**に追加します。
2. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
   ▶ マウスポインタは十字になります。
3. 距離測定の始点をクリックします。
   ▶ SICAT Function は小さい十字で始点を表します。
   ▶ SICAT Function は始点とマウスポインタ間に距離線を表示します。
   ▶ SICAT Function 距離線の中央および **オブジェクトブラウザ**に始点とマウスポインタ間の現在の距離を表示します。
4. マウスポインタを距離測定の終点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。

▶ SICAT Function は小さい十字で終点を表します。

測定の追加は、**ESC**を押すことによっていつでも中断することができます。

35.2 角度測定を追加する



1 始点

2 測定値

3 頂点

4 終点

角度測定を追加するには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ ワークフロー ステップの**診断する**は、すでに開いています。

1. ワークフローステップ**診断する**で**角度測定を追加する(A)**アイコンをクリックします。
   ▶ SICAT Functionは新しい角度測定を**オブジェクトブラウザ**に追加します。
2. マウスポインタを希望の2Dレイヤビュー上に動かします。
   ▶ マウスポインタは十字になります。
3. 角度測定の始点をクリックします。
   ▶ SICAT Functionは小さい十字で始点を表します。
   ▶ SICAT Functionは、角度測定の1本目の辺を始点からマウスポインタまでの線で表します。
4. マウスポインタを角度測定の頂点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。
   ▶ SICAT Functionは小さい十字で頂点を表します。
   ▶ SICAT Functionは、角度測定の2本目の辺を頂点からマウスポインタまでの線で表します。

▶ SICAT Functionは角度測定の2本の辺の間および**オブジェクトブラウザ**に現在の角度を表示します。

5. マウスポインタを2本目の辺の終点に移動させ、マウスの左ボタンをクリックします。

▶ SICAT Functionは小さい十字で終点を表します。

測定の追加は、**ESC**を押すことによっていつでも中断することができます。

35.3 測定、個々の測定ポイント、測定値を移動する

測定を移動する

測定を移動させるには、次の手順で行います。

☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は*オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 126]* と *オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 128]*を参照してください。

1. マウスポインタを測定の線上に動かします。
   ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタを任意の測定位置に動かします。
   ▶ 測定はマウスポインタの動きに従います。
4. マウスの左ボタンを放します。

▶ SICAT Function は現在の測定ポイントを保持します。

個々の測定ポイントを移動する

個々の測定ポイントを移動するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は*オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 126]* と *オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 128]*を参照してください。

1. マウスポインタを希望の測定ポイント上に動かします。
   ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の測定ポイントの位置に動かします。
   ▶ 測定ポイントはマウスポインタの動きに従います。
   ▶ マウスを動かすと、測定値は変化します。
4. マウスの左ボタンを放します。

▶ SICAT Function は現在の測定ポイントの位置を保持します。

測定値を移動する

測定値を移動するには、次の手順で行います。

☑ SICAT Function はすでに希望の測定をいずれかの2Dレイヤービューに表示しています。これに関する情報は*オブジェクトブラウザを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 126]* と *オブジェクトツールバーを使用したオブジェクトの管理 [▶ページ 128]*を参照してください。

1. マウスポインタを希望の測定値上に動かします。
   ▶ マウスポインタは十字になります。
2. マウスの左ボタンをクリックし、そのまま押し続けます。
3. マウスポインタをご希望の測定値の位置に動かします。
   ▶ 測定値はマウスポインタの動きに従います。
   ▶ SICAT Function は、測定値と付属の測定間に点線を表示します。
4. マウスの左ボタンを放します。

▶ SICAT Function は現在の測定値の位置を保持します。

1回の測定の値を移動すると、SICAT Functionはその値を1つの絶対位置に設定します。その数値の位置を、そのときの測定ツールに対する相対位置に戻すときは、その数値をダブルクリックします。

36 データエクスポート

データをエクスポートすることができます。

現在開いている患者ファイルのスタディをエクスポートすることができます。

SICAT Suiteは以下のデータをエクスポートすることができます。

- 患者ファイル（DICOM）
- 3Dスタディ
- 文書

エクスポートしたデータには次の要素が含まれています。

データタイプ	エクスポートフォーマット
3D撮影画像	DICOM
3Dスタディ	SICAT所有者
文書	PDF

SICAT Suiteでは、3D X線撮影画像とスタディのエクスポートにあたって、ZIP形式の圧縮ファイルか、または、DICOMディレクトリのいずれかを利用します。必要な場合、SICAT Suiteは患者ファイルをエクスポートのために匿名化することができます。

文書をエクスポートするには、**3D撮影図と計画プロジェクト**エリアの文書を選択し、**データを共有する**のボタンをクリックします。その後、Windows ファイルエクスプローラーウインドウが開き、エクスポート先のディレクトリを選択することができます。その後、デフォルトのPDFビューアでドキュメントを表示できます。

データをエクスポートするには、次の操作を規定の手順で実行します。

- **データを共有する**ウインドウを開く。これに関する情報は*「データの転送」ウィンドウを開く [▶ページ 241]*を参照してください。
- 希望のデータをエクスポートします。これに関する情報は*データのエクスポート [▶ページ 242]*を参照してください。

36.1 「データの転送」ウィンドウを開く

データをエクスポートするにはまず**データを共有する**ウィンドウを開く必要があります。

データを共有するウィンドウを開くには、次のいずれかの操作を行います。

- 患者ファイルが現在計画のために開いている場合は、**ナビゲーションバー**の**データを共有する**アイコンをクリックします。

  ▶ **データを共有する**のウィンドウが開きます。

- **患者ファイルの概要**ウインドウで患者ファイルを選択し、選択した患者ファイルを転送する**データを共有する**のボタンをクリックします。

  ▶ **データを共有する**のウィンドウが開きます。

- **患者ファイルの概要**ウインドウで3D X線撮影図、スタディまたは計画プロジェクトを選択し、**データを共有する**のボタンをクリックします。

  ▶ **データを共有する**のウィンドウが開きます。

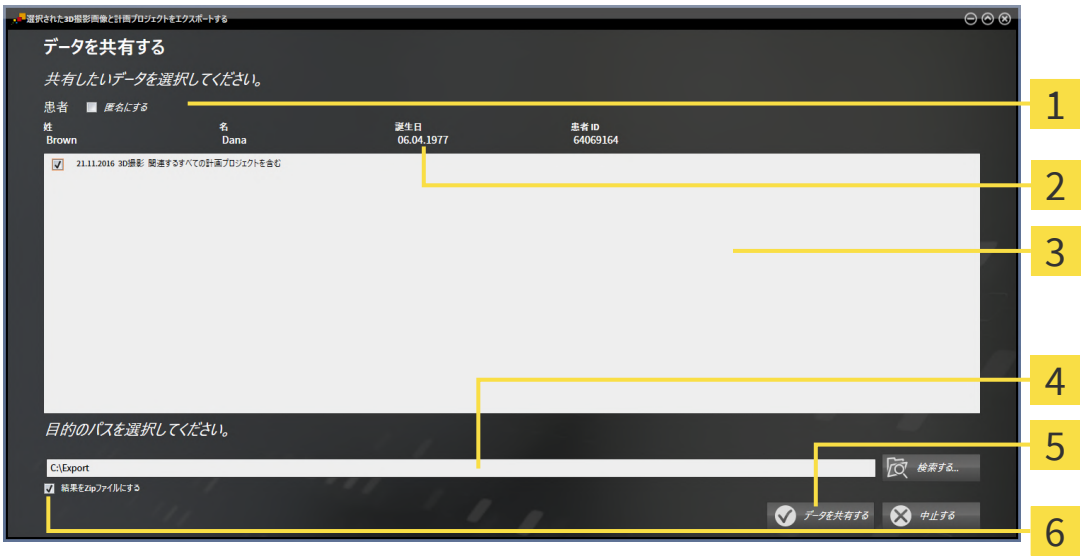
SICAT Suiteは、選択した患者ファイルの3D X線撮影画像と計画プロジェクトのみをエクスポートします。

*データのエクスポート [▶ページ 242]*で続行してください。

36.2 データのエクスポート

3D治療計画スタディをエクスポートするには、次の手順で行います。

☑ **データを共有する**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は *「データの転送」ウィンドウを開く [▶ページ 241]*を参照してください。



1 **匿名にする**のチェックボックス	4 **目的のパスを選択してください。**欄
2 患者ファイルの特性	5 **データを共有する**のボタン
3 3Dスタディのリスト	6 **結果をZipファイルにする**のチェックボックス

1. 希望する場合、 **データを共有する**ウインドウでの**匿名にする**チェックボックスにチェックを入れます。

   ▶ エクスポートした患者ファイルの特性は、**患者**（**姓**）、**匿名**（**名**）、1月1日（**誕生日**が誕生年月）に変わります。患者データバンク内の患者ファイルの特性は変更されません。

2. 希望の患者の任意の3Dスタディが選択されていることを確認してください。

3. **検索する**のボタンをクリックします。

   ▶ **フォルダを検索する**のウィンドウが開きます。

4. **フォルダを検索する**ウインドウでエクスポート先フォルダを選択し、**OK**をクリックします。

   ▶ **フォルダを検索する**ウインドウが閉じ、SICAT Suiteが任意のフォルダへのパスを**目的のパスを選択してください。**欄に転記します。

5. **結果をZipファイルにする**チェックボックスを有効または無効にします。

6. **データを共有する**のボタンをクリックします。

► SICAT Suiteは選択したスタディをZIP形式の圧縮ファイルか、または、選択したフォルダにエクスポートします。エクスポートの間、患者ファイルはロックされます。

ZIP形式の圧縮ファイルとフォルダの両者いずれにおいても、それぞれで保存されるのは、DICOM形式の3D X線撮影画像、および、ファイル形式がプロプライエタリ・フォーマットの治療計画データです。3D X線撮影画像は、すべてのDICOMビューワで確認できますが、治療計画データは、SICATの各種アプリケーションのうち、そのデータが関係するものを使用します。

37 注文プロセス

希望の製品を注文するには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

- SICAT Functionで、治療位置を設定し、スプリントのための希望する計画データをショッピングカートに入れます。これに関する情報は*治療位置の設定 [▶ページ 245]* と *スプリントをショッピングカートに入れる [▶ページ 247]*を参照してください。
- ショッピングカートを確認し、注文を開始します。これに関する情報は*カートをチェックして、注文プロセスを完了する [▶ページ 252]*を参照してください。
- 注文は、SICAT Suiteが作動しているコンピューターで直接終了するか、インターネットに接続されている別のコンピューターで終了します。これに関する情報は*インターネット接続を使用した注文の終了 [▶ページ 253]*もしくは*インターネット接続を使用しない注文の終了 [▶ページ 257]*を参照してください。

	様々な患者、3D X線撮影図およびアプリケーションに属する注文をショッピングカートに追加することができます。ショッピングカートの内容は、SICAT Suite終了時も保持されます。

	注文プロセス中に、患者データを患者ファイルに保存する必要があります。そのため、他のユーザーが患者ファイルをロックしないでください。そうしないと、患者ファイルのロックが再び解除されるまで、注文プロセスを続けることができません。ロックされた患者ファイルの詳細については、*患者ファイル [▶ページ 100]*および*Abgelaufene Sperre einer Patientenakte aufheben [▶ページ 119]*を参照してください。

37.1 治療位置の設定

治療位置を設定するには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 顎運動データはすでにインポートされています。これに関する情報は*顎運動データをインポートして記録する [▶ページ 185]*を参照してください。

☑ 光学印象はすでにインポートされています。これに関する情報は*光学印象をインポートする [▶ページ 199]*を参照してください。

1. 治療位置をベースにして静的な顎関係に設定する場合は、**アクティブな顎関係：**のリストから静的な顎関係を選択します。これに関する情報は*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。

2. 治療位置をベースにして顎運動に設定する場合は、**アクティブな顎関係：**のリストから、顎運動を1件選択し、お好みの位置へ移動します。これに関する情報は*顎運動と連携する [▶ページ 214]*を参照してください。

3. **治療位置**のボタンをクリックします。

▶ 顎運動に基づく治療位置を選択したら、SICAT Functionでは、その該当する位置にブックマークがセットされます。

▶ **治療位置**のボタンが、**治療位置をキャンセルする**のボタンに切り替わります。

▶ SICAT Functionは選択した治療位置をスプリントの注文のために保存します。

治療位置をキャンセルする

指定した治療位置をキャンセルするには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 顎の静的な相対関係か、または、顎運動のブックマークのうち、治療位置の指定でベースとしたものを選択しておきます。

1. **治療位置をキャンセルする**のボタンをクリックします。

   ▶ SICAT Functionは通知ウィンドウを開き、以下の内容をお知らせします。 **治療位置を本当に取り消しますか？**

2. 治療位置を削除する場合は、**継続する**をクリックしてください。

治療位置に上書きする

指定した治療位置に上書きするには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

☑ 治療位置はすでに設定されています。

1. 顎の静的な相対関係か、または、顎運動の位置のうち、指定した治療位置に該当しないものを選択します。

2. **治療位置**のボタンをクリックします。

   ▶ SICAT Functionは通知ウィンドウを開き、以下の内容をお知らせします。 **治療位置はすでに設定されました。続行する場合は、位置が上書きされます。**

3. 治療位置に上書きする場合は、**継続する**をクリックしてください。

*スプリントをショッピングカートに入れる [▶ページ 247]*で続行してください。

37.2 スプリントをショッピングカートに入れる

注意

注文に誤ったデータがあると、誤った注文となる可能性があります。

注文をするときには、注文のための正しいデータの選択と転送を確認してください。

注意

注文を誤ると誤った治療の原因となるおそれがあります。

1. 注文を送信する前にご注文内容をご確認ください。
2. 注文の適切な治療計画を確認してください。

注文プロセスに関する一般的な情報は、*注文プロセス [▶ページ 244]*の節をご覧ください。

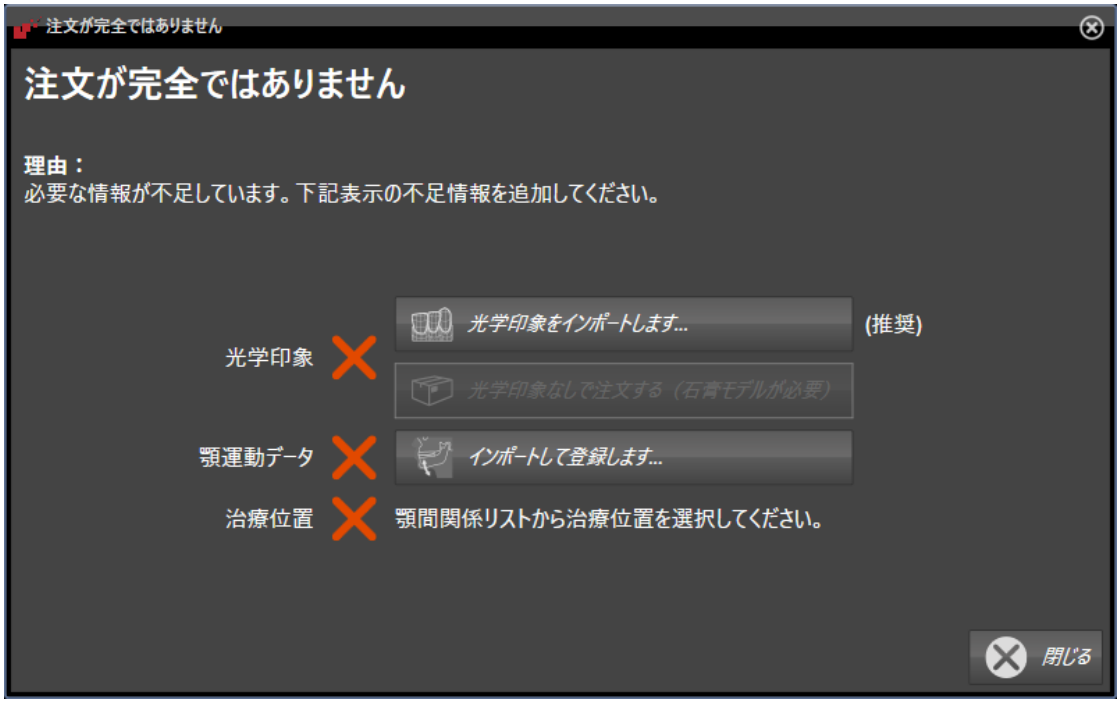
SICAT Functionで最初の注文プロセスのスプリントをショッピングカートに入れます。スプリントをショッピングカートに入れるには、特定の条件を満たす必要があります。すべての条件をまだ満たしてない場合は、SICAT Functionを参照してください。

充足されていない前提条件があるとき

☑ ワークフロー・ステップの**注文する** は、展開させておきます。これに関する情報はワークフローのツールバー *[▶ページ 122]*を参照してください。

1. **スプリントを注文します**のアイコンをクリックします。

   ▶ **注文が完全ではありません** のウィンドウが開きます。



2. 光学印象をまだインポートしていない場合は、**インポートして記録します**ボタンをクリックし、3D X線撮影図のための適切な光学印象をインポートします。これに関する情報は*光学印象 [▶ページ 197]*を参照してください。

3. 顎運動データをまだインポートしていない場合は、**インポートして記録します**ボタンをクリックし、顎運動データをインポートします。これに関する情報は*顎運動データをインポートして記録する [▶ページ 185]*を参照してください。

4. 治療位置をまだ設定していない場合は、**注文が完全ではありません**ウインドウを閉じ、治療位置を設定します。これに関する情報は*治療位置の設定 [▶ページ 245]*を参照してください。

場合によっては、光学印象をインポートする前にボリュームの配置およびパノラマ曲線を調整する必要があります。**ボリュームの配置およびパノラマ エリアを調整する**ウィンドウを**光学印象をインポートし記録する**ウィンドウからステップ **登録する**で直接呼び出すことができます。直接呼び出すにはボタン**パノラマ エリアを調整する**をクリックします。これに関する情報は*パノラマ エリアを調整する [▶ページ 179]*を参照してください。

光学印象の代わりにギブスをSICATに送信したい場合は、**注文が完全ではありません**ウインドウの**光学印象なしで注文する（石膏モデルが必要）**ボタンをクリックし、スプリントを光学印象なしでショッピングカートに入れることができます。その後、ステップ**スプリントを注文する**は情報**この注文には光学印象は含まれていません。該当する石膏モデルをSICATまでお送りください。**のを示します。

前提条件がすべて充足されているとき

☑ 光学印象はすでにインポートされています。

☑ 顎運動データはすでにインポートされています。

☑ 治療位置はすでに設定されています。

☑ ワークフロー・ステップの**注文する** は、展開させておきます。これに関する情報は*ワークフローのツールバー [▶ページ 122]*を参照してください。

- **スプリントを注文します**のアイコンをクリックします。

► **スプリントを注文する** のウィンドウが開きます。

「スプリントを注文する」ウインドウの注文を確認してください

☑ **スプリントを注文する**ウインドウはすでに開いています：

1. 患者情報と撮影図情報が正しいかどうか**患者**エリアと**注文への詳細**エリアを確認してください。
2. **3D**ビューで治療位置が正しいかどうか確認してください。
3. 希望する場合、**追加情報**欄にSICATの追加情報を入力します。

4. **ショッピングカートに**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Function スプリントに適用する治療計画のデータで、お好みのものがSICAT Suiteのカートに入ります。

▶ **スプリントを注文する**ウイドウが閉じます。

▶ SICAT Function SICAT Suiteのカートが開きます。

注文がショッピングカート内にある間は、計画の光学印象、顎運動データおよび治療位置に上書きすることはできません。これは、注文を終了するか削除した場合において初めて可能です。計画の光学印象、顎運動データおよび治療位置に上書きまたは削除した場合は、同じスプリントを再度注文することはできません。

中止するをクリックすると、注文をキャンセルできます。

*カートをチェックして、注文プロセスを完了する [▶ページ 252]*で続行してください。

37.3 カートを開く

カートアイコンでは、カート内にあるアイテムの数量を示しています。

☑ カートには、製品を1個以上、入れておきます。

- ショッピングカートをまだ開いていない場合、**ナビゲーションバー**の**カート**のボタンをクリックします。

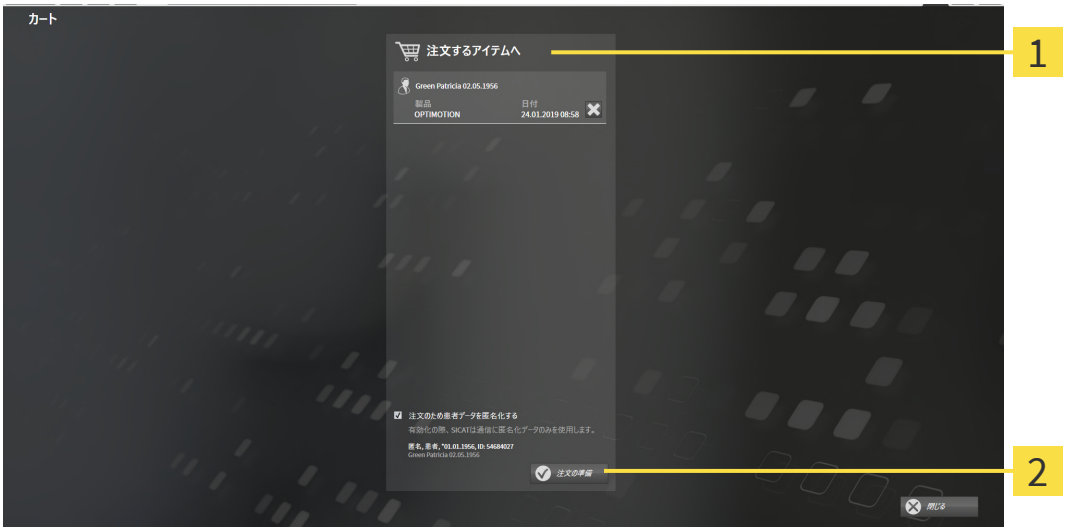
▶ **カート**のウィンドウが開きます。

以下の操作で、処理を続けてください。

- *カートをチェックして、注文プロセスを完了する [▶ページ 252]*

37.4 カートをチェックして、注文プロセスを完了する

☑ **カート**のウィンドウはすでに開いています。これに関する情報は*カートを開く [▶ページ 251]*を参照してください。



1 **注文するアイテムへ**のリスト

2 **注文の準備**のボタン

1. **カート**ウィンドウで、希望の製品が含まれてるか確認します。
2. **注文のため患者データを匿名化する**のチェックボックスを有効または無効にします。
3. **注文の準備**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteは注文状況を**準備中**にし、さらに、SICAT WebConnector経由で、SICATサーバーに接続します。

▶ インターネットに接続して注文した場合、注文の変更はSICATポータルでのみ可能です。

注文を準備している患者ファイルは、注文が最終的に完了するまでロックされます。

以下の操作を続行します：

- *インターネット接続を使用した注文の終了 [▶ページ 253]*
- *インターネット接続を使用しない注文の終了 [▶ページ 257]*

37.5 インターネット接続を使用した注文の終了

Windowsのバージョンによっては、注文プロセスを行うために、標準的なWebブラウザに設定しなければならないときがあります。

☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されています。

☑ チェックボックス**注文のためにインターネットへのアクセスを許可する**は有効になっています。これに関する情報は*一般設定の使用 [▶ページ 262]*を参照してください。

☑ SICATポータルは自動的にブラウザで開かれました。

1. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
   ▶ 注文一覧が開き、含まれている製品および価格が患者毎にグループ分けして表示されます。
2. *SICATポータルでの注文手順 [▶ページ 254]*の指示に従ってください。

▶ SICAT Suiteはアップロード用の注文データを準備します。

▶ 準備が完了すると、SICAT WebConnectorは注文データを暗号化された接続経由でSICATサーバーに転送します。

▶ ショッピングカートの注文状況が**アップロードする**に変わります。

SICAT Suiteでは、アップロードが完了するまで、注文内容の表示を続けます。複数のコンピュータで、アクティブな患者データバンクを使用しているときは、注文をアップロードしているのが別のコンピュータであっても、すべてのコンピュータで、その注文内容が表示されます。注文内容のアップロードを開始したコンピュータであれば、そのコンピュータで、注文プロセスを一時停止する、再開する、キャンセルするの各操作を行うことができます。

アップロード中にWindowsをログオフすると、SICAT WebConnectorはアップロードを一時停止します。ソフトウェアは再度ログオン後に、自動的にアップロードを続行します。

37.6 SICATポータルでの注文手順

SICAT Suiteで注文プロセスを実行して完了したら、お手元の標準ブラウザでSICAT Portalのページが開きます。SICAT Portalでは、ご自分の注文内容をカスタマイズして、製作依頼先にする、有資格の歯科技工所を選択し、製品の価格を確認できます。

SICAT Portalで注文プロセスを実行するには、次の手順で行います。

1. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。
2. 希望の製品が含まれてるか確認します。
3. 必要に応じて、患者および付属の全製品を注文一覧から除去してください。注文を完了すると、SICAT Suiteでは、SICAT Portalで実施した変更内容が適用されます。
4. 請求書送付先と配送先住所が正しいか確認してください。正しくない場合修正してください。
5. 希望の配達方法を選択してください。
6. 一般条件を承認し、注文を提出してください。

患者を選択し、患者の削除のボタンをクリックすることにより、患者および全ての付属スプリントをSICATポータルから除去することができます。その後、ショッピングカートでは再び製品の構成にフルアクセスすることができます。

37.7 SICAT WEBCONNECTOR

SICAT WebConnectorはSICATサーバーとの通信用に特定のポートを必要とします。これに関する情報は*システム要件 [▶ページ 11]*を参照してください。

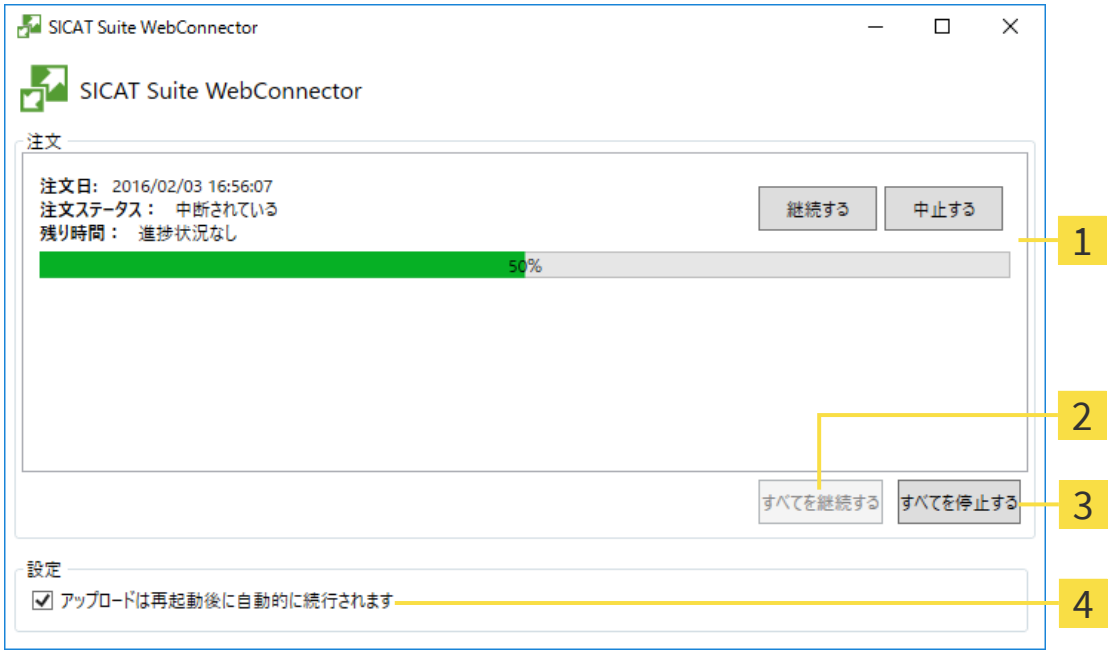
Windowsのバージョンによっては、注文プロセスを行うために、標準的なWebブラウザに設定しなければならないときがあります。

SICAT Suiteを実行させているコンピュータがインターネットに接続できるときは、SICAT Suiteで、ご自分の注文内容がバックグラウンドで暗号化され、WebConnector経由で送信されます。SICAT Function 直接、カートから送信のステータスを表示しますので、SICAT WebConnectoを一時停止させることがあります。SICAT WebConnectorが送信を再開するのは、SICAT Suiteを閉じて終了させた後になります。ご希望に沿ってアップロードが行われないことがありますが、そのときは、SICAT WebConnectorのユーザーインターフェースを開いてください。

「SICAT SUITE WEBCONNECTOR」のウィンドウを開く

- タスクバーの通知ウィンドウで、**SICAT Suite WebConnector**アイコンをクリックします。

► **SICAT Suite WebConnector** のウィンドウが開きます。



1 リスト **注文**

2 ボタン **すべて再開する**

3 ボタン **すべて停止する**

4 チェックボックス **再起動後にアップロードを自動で再開する**

注文 のリストには、処理待機中の注文内容が表示されます。

アップロードの中断および続行

アップロードの処理は、中断させることができます。この操作は、例えば、お使いのインターネット接続で負荷が過大なときに役立ちます。設定内容で制御する対象は、SICAT WebConnectorでのアップロード処理に限定されています。Webブラウザを利用するアップロード処理は、この操作の影響を受けません。

☑ **SICAT Suite WebConnector**ウインドウはすでに開いています：

1. **すべて停止する**のボタンをクリックします。

   ▶ SICAT WebConnectorでは、すべての注文について、アップロードを中断します。

2. **すべて再開する**のボタンをクリックします。

   ▶ SICAT WebConnectorでは、すべての注文について、アップロードを再開します。

再起動後の自動アップロード再開をオフにする

Windowsを再起動しても、SICAT WebConnectorでアップロードが自動で再開することがないようにすることができます。

☑ **SICAT Suite WebConnector**ウインドウはすでに開いています：

- **再起動後にアップロードを自動で再開する**のチェックボックスで、チェックマークを外します。

▶ お手元のコンピュータを再起動させても、SICAT WebConnectorでは、ご自分の注文のアップロードが自動で再開することは、なくなります。

37.8 インターネット接続を使用しない注文の終了

SICAT Suiteを起動しているコンピューターにSICATサーバーとの接続が確立できない場合、SICAT Suiteが**SICAT Suite - SICAT サーバーに接続できない**ウィンドウを開きます。ウィンドウは問題に対する以下の原因を表示します。

- **インターネット接続が利用できません。SICAT WebConnectorはSICATサーバーへの接続を確立できません。**
- **SICATポータルにアクセスできません。**
- **「SICATWebConnector」サービスがインストールされていません。**
- **「SICATWebConnector」サービスが起動していません。**
- **未知のエラーが発生しました。SICAT WebConnectorはSICATサーバーへの接続を確立できません。**

この章ではインターネット接続が使用できない場合のみを対象にスクリーンショットを示しています。

その原因の下で可能な問題を解決できる手順を発見します。

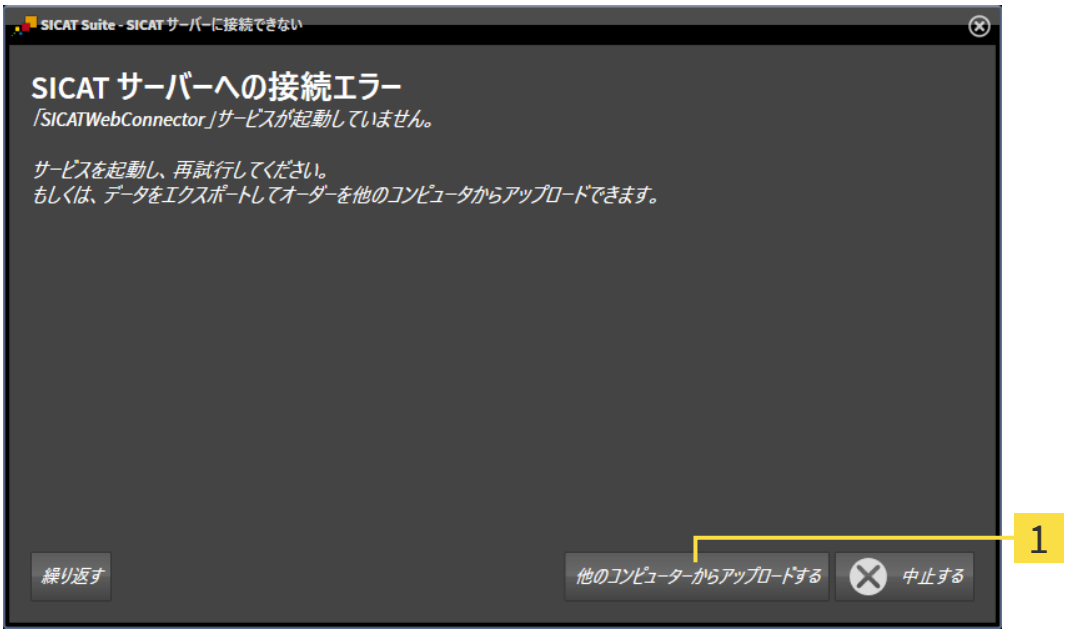
一般タブの設定で、チェックボックス**注文のためにインターネットへのアクセスを許可する**を無効にした場合は、**他のコンピューターからオーダーをアップロードする**ウィンドウが直接開きます。

トラブルシューティングの代わりとして、またはインターネットへのアクセスを無効にしている場合は、インターネットに接続されている別のコンピュータのWebブラウザから注文をアップロードできます。ウェブブラウザによる注文に対して、SICAT Suiteは一度に全ての製品をショッピングカートにエクスポートし、患者毎に一つのサブフォルダを作成します。各サブフォルダには注文情報付のXMLファイルと製造に必要なデータが付いているZIPアーカイブがあります。SICATポータルではXMLファイルとZIPアーカイブを連続してアップロードすることができます。この送信は、暗号化して行われます。

インターネット接続を利用しない注文プロセスを完了するには、次の手順で行います。

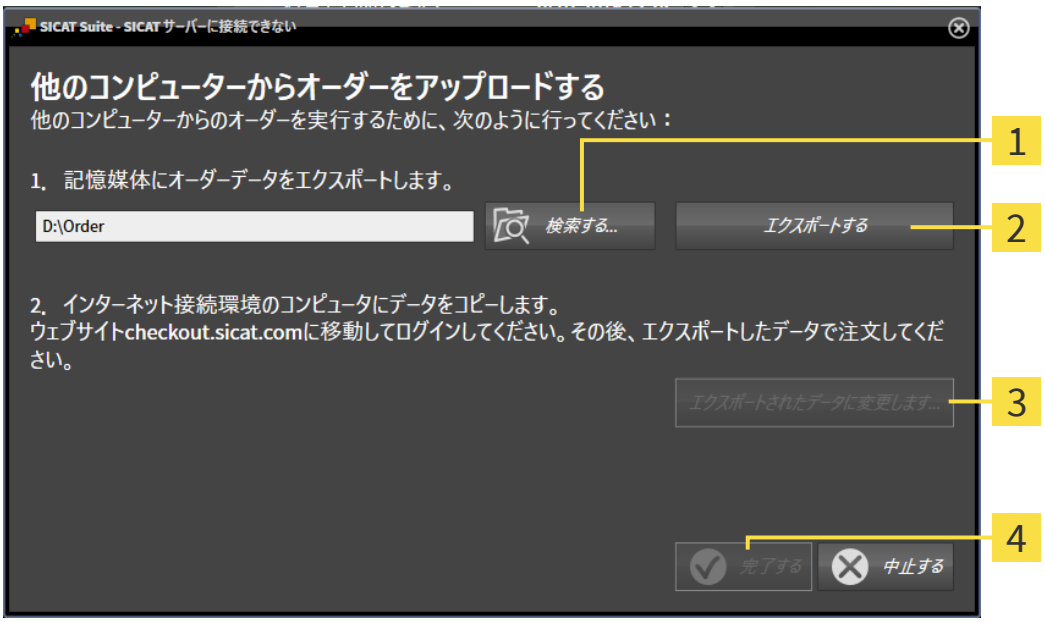
☑ SICAT Suiteが作動しているコンピューターは、インターネットに接続されていません。

☑ ウインドウに表示されるメッセージ： **SICAT サーバーへの接続エラー**



1 **他のコンピューターからアップロードする**のボタン

1. **他のコンピューターからアップロードする**のボタンをクリックします。
   ▶ **他のコンピューターからオーダーをアップロードする**のウィンドウが開きます。



1 **検索する**のボタン

2 **エクスポートする**のボタン

3 **エクスポートされたデータに変更します**のボタン

4 **完了する**のボタン

2. **検索する**のボタンをクリックします。
   ▶ Windowsエクスプローラのウィンドウが開きます。

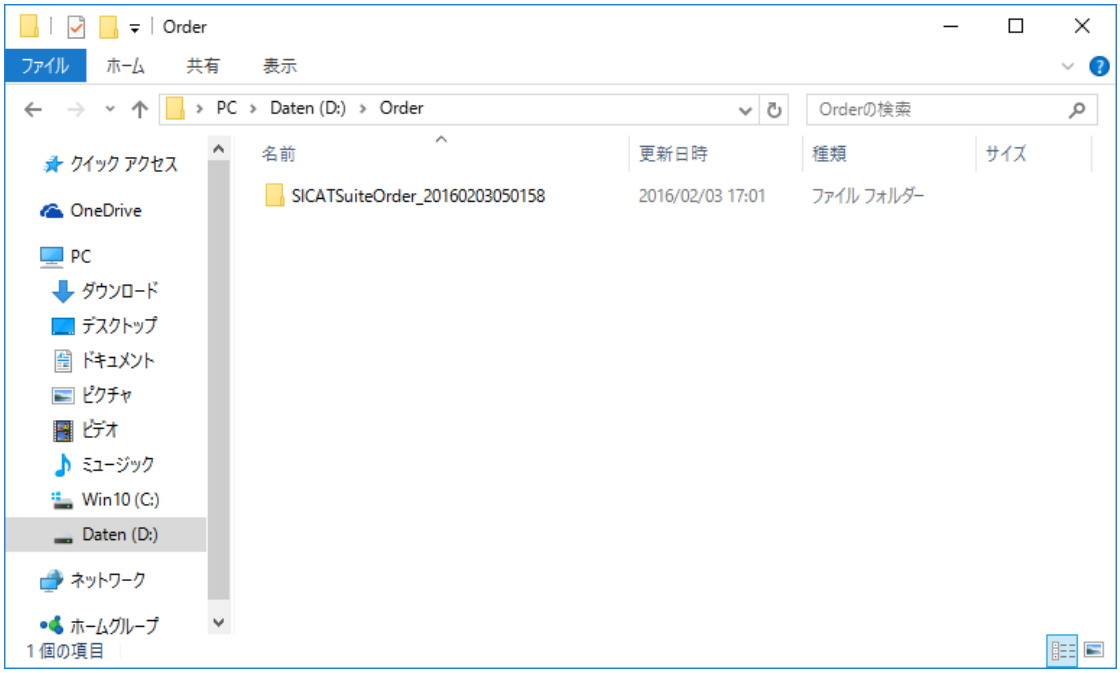
3. 既存のディレクトリを選択するか、新しいディレクトリを作成して、**OK**をクリックします。ディレクトリのパス名は、字数を160字以下にしておく必要がありますので、ご注意ください。

4. **エクスポートする**のボタンをクリックします。

   ▶ SICAT Suiteは、ショッピングカートの内容の注文に必要な全データを指定のフォルダにエクスポートします。この時、SICAT Suiteは患者毎に一つのサブフォルダを作成します。

5. **エクスポートされたデータに変更します**のボタンをクリックします。

   ▶ Windowsファイルエクスプローラーウインドウが開き、エクスポートしたデータのあるディレクトリが表示されます：



6. USBスティックなどの補助ツールを使用して、インターネットに接続しているコンピューターに希望のスプリントのデータが含まれるフォルダをコピーします。

7. **他のコンピューターからオーダーをアップロードする**ウィンドウの**完了する**をクリックします。

   ▶ SICAT Suiteは**他のコンピューターからオーダーをアップロードする**ウィンドウを閉じます。

   ▶ SICAT Suiteは、注文に含まれる全ての製品をショッピングカートから除去します。

8. インターネットに接続されたコンピューター上でウェブブラウザを開き、インターネットページwww.sicat.comを開きます。

9. SICATポータルへのリンクをクリックします。

   ▶ SICATポータルが開きます。

10. SICATのポータルページが開かないときは、ご自分のユーザー名とパスワードを使用して、SICATのポータルページへログインします。

11. 注文をアップロードするためのリンクをクリックします。

12. インターネットに接続したコンピューターで希望の注文を選択します。これは、ファイル名が**SICATSuiteOrder**で始まるXMLファイルです。

    ▶ 注文一覧が開き、含まれている患者、付属の製品および価格が表示されます。

13. *SICATポータルでの注文手順 [▶ページ 254]*の指示に従ってください。

14. 製品の治療計画データをアップロードするためのリンクがありますので、それをクリックします。

15. インターネットに接続したコンピューターで適切な製品データを選択します。これは、以前アップロードしてXMLファイルと同じフォルダ内にあり、ファイル名が**SICATSuiteExport**で始まるZipアーカイブです。

▶ 注文を実行した場合、ブラウザは製品データが含まれるアーカイブを暗号化された接続経由でSICATサーバーに転送します。

SICAT Suiteは、エクスポートしたデータを自動的に削除しません。注文プロセスが完了したら、セキュリティ上の理由により、エクスポートしたデータを手動で削除する必要があります。

38 設定

設定ウインドウで一般設定を変更または閲覧することができます。**設定**アイコンをクリックすると、**設定**ウインドウの左側のページにあるオプションバーに次のタブが表示されます。

- **一般** - これに関する情報は*一般設定の使用 [▶ページ 262]*を参照してください。
- **患者データバンク** - 患者データベースへの接続を設定することができます。これに関する情報は*患者データバンク [▶ページ 76]*を参照してください。
- **ライセンス** - これに関する情報は*ライセンス [▶ページ 64]*を参照してください。
- **プラクティス** - クリニックのロゴおよび情報テキストを表示または変更します (例えば、プリントアウトして使用するため)。これに関する情報は*歯科医院情報の使用 [▶ページ 266]*を参照してください。
- **SIDEXIS 4** - が該当するのは、SIDEXIS 4がシステムにインストールされている場合のみです。
- **Hub** - Hubの使用を有効または無効にします。これに関する情報は*Hubの使用を有効または無効にする [▶ページ 267]*を参照してください。
- **可視化** – ビジュアル化に関連する、一般的な設定内容を変更します。これに関する情報は*可視化設定の変更 [▶ページ 269]*を参照してください。
- **SICAT Function** – SICAT Functionで、アプリケーション固有の設定内容を変更します。これに関する情報は*SICAT Function設定の変更 [▶ページ 271]*を参照してください。

設定を変更した場合、SICAT Functionが変更をすぐに反映し、お客様のユーザープロフィールに設定を保存します。

38.1 一般設定の使用

一般的な設定内容を開くには、以下の手順に沿って、操作を行ってください。

1. **ナビゲーションバー** で、 **設定**のアイコンをクリックします。
   ▶ **設定** のウィンドウが開きます。

2. **一般**タブをクリックします。
   ▶ **一般** のウィンドウが開きます。

1 **一般**のタブ

2 **局所設定**エリア

3 **患者**エリア

4 **ツール**エリア

5 **ディレクトリ**エリア

6 **注文**エリア

以下の設定を変更することができます。

- **局所設定**エリアでは、**言語**リストからユーザーインターフェースの言語を変更することができます。
- **局所設定**エリアでは、**歯式**で現在の歯型図を変更できます。
- **患者**エリアでは、**患者情報を匿名で表示する**のチェックボックスのステータスを変更または閲覧できます。チェックボックスが選択されている場合、SICAT Suiteでは患者ファイルの属性は**ナビゲーションバー**に**患者**は**姓**、**匿名**は**名**、および**誕生日**では**01.01.**と誕生年で表示されます。**SICAT Suiteホーム**ウィンドウで、SICAT Suiteは**最後の患者ファイル**リストを表示しません。
- **ディレクトリ**エリアでは、**テンポラリ エクスポート ディレクトリ**欄にSICAT Suiteが注文データを保存するフォルダを指定することができます。このフォルダには、フルアクセスできなくてはなりません。
- **注文**エリアでは、**注文のためにインターネットへのアクセスを許可する**のチェックボックスのステータスを変更または閲覧できます。このボックスがチェックされていると、SICAT Suiteはインターネットに接続して注文します。

一般設定の表示または変更の他に、SMPTEテスト画像を開いて、モニターをキャリブレーションすることもできます。

- **ツール、モニターキャリブレーション**で**SMPTE テストパターンを表示する**のボタンをクリックして、モニターをキャリブレーションします。これに関する情報はSMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーションを参照してください。

対応している歯型図はFDIとADAです。

38.2 SMPTEテスト画像によるモニターのキャリブレーション

注意

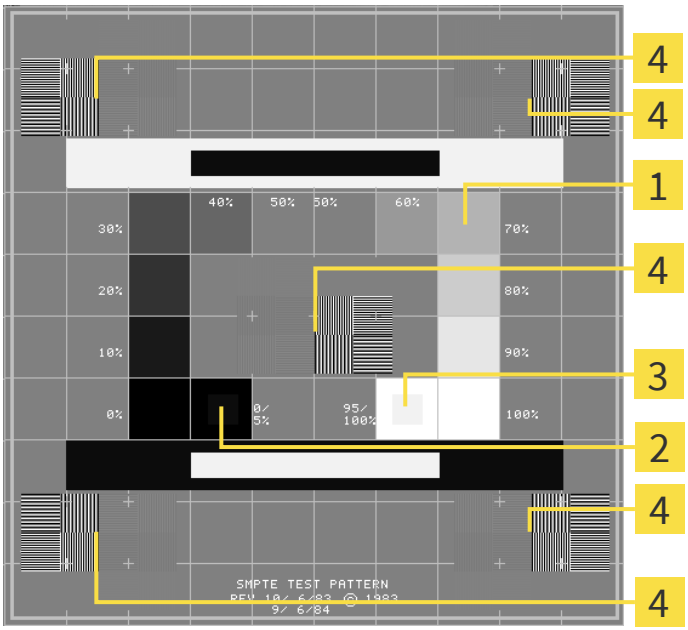
環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

4個のメインプロパティが、SICATアプリケーションのデータを表示させるモニターの特性を決定します。

- 輝度
- コントラスト
- 空間分解能（直線性）
- ひずみ（エイリアシング）

SMPTEテスト画像は参照画像であり、モニターのプロパティをチェックする際に使用します。



1 グレースケールスクエア

2 0%スクエア

3 100%スクエア

4 高コントラストのバーパターンが含まれるスクエア

輝度およびコントラストの点検

SMPTEテスト画像の中央では、一連のスクエアが黒（輝度0%）～白（輝度100%）のグレースケールを示しています。

- 0%スクエアには、0% ～ 5%間の輝度の違いを示す小さ方のスクエアが含まれます。
- 100%スクエアには、95% ～ 100%間の輝度の違いを示す小さ方のスクエアが含まれます。

モニターを点検または設定するには、次のように行います。

☑ SMPTEテスト画像はすでに開いています。

- 0%スクエアおよび100%スクエアで、内側のスクエアと外側のスクエア間に視覚的違いが見えるか点検してください。必要に応じて、モニターの設定を変更してください。

多くのモニターは、100%スクエア内の輝度の相違のみ表示され、0%スクエア内には表示されません。0%スクエア内の様々な輝度レベルの相違を改善するために、アンビエントライトを減らすことができます。

空間分解能およびひずみの点検

SMPTEテスト画像の角および中央では、6個のスクエアに高コントラストのバーパターンが表示されます。空間分解能およびひずみについては、様々な幅の、黒と白で切り替わる、垂直の線で区別できる必要があります。

- 幅が広い～狭い（6ピクセル、4ピクセル、2ピクセル）
- 水平および垂直

モニターを点検または設定するには、次のように行います。

- 高コントラストのバーパターンが表示される6個のスクエアで、全ての線が区別できるかどうか点検します。必要に応じて、モニターの設定を変更してください。

SMPTEテスト画像を閉じる

SMPTEテスト画像を閉じるには、次の手順で行います。

- **ESC**ボタンを押します。

▶ SMPTEテスト画像が閉じます。

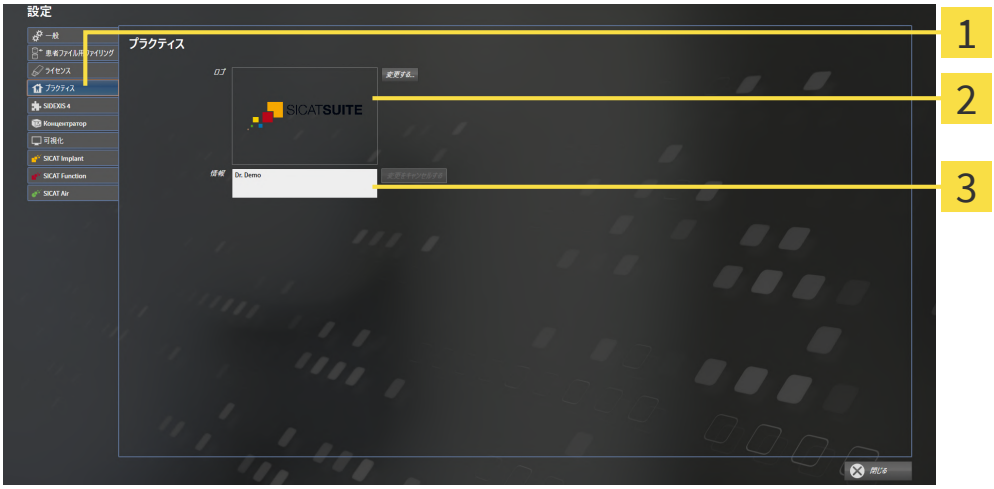
38.3 歯科医院情報の使用

SICAT Suiteの各種アプリケーションでは、このページで表示する説明文を利用して、印刷物やPDFファイルをカスタマイズします。

歯科クリニックの説明文を開くには、次の手順で行います。

1. **ナビゲーションバー** で、 **設定**のアイコンをクリックします。
   ▶ **設定** のウィンドウが開きます。

2. **プラクティス**タブをクリックします。
   ▶ **プラクティス** のウィンドウが開きます。



1 **プラクティス**のタブ

2 **ロゴ**エリア

3 **情報**エリア

以下の設定を変更することができます。

- **ロゴ**エリアでは、歯科医院のロゴを設定することができます。**変更する**ボタンで歯科医院のロゴを選択することができます。SICAT Suiteは指定のファイルをSICAT Suiteユーザーディレクトリにコピーします。
- **情報**エリアでは、歯科医院を識別するテキスト（名前、住所など）を入力することができます。**Enter**ボタンを押して、行数を最大5行まで増やすことができます。**変更をキャンセルする**ボタンをクリックして、情報テキストの変更を元に戻すことができます。

38.4 HUBの使用を有効または無効にする

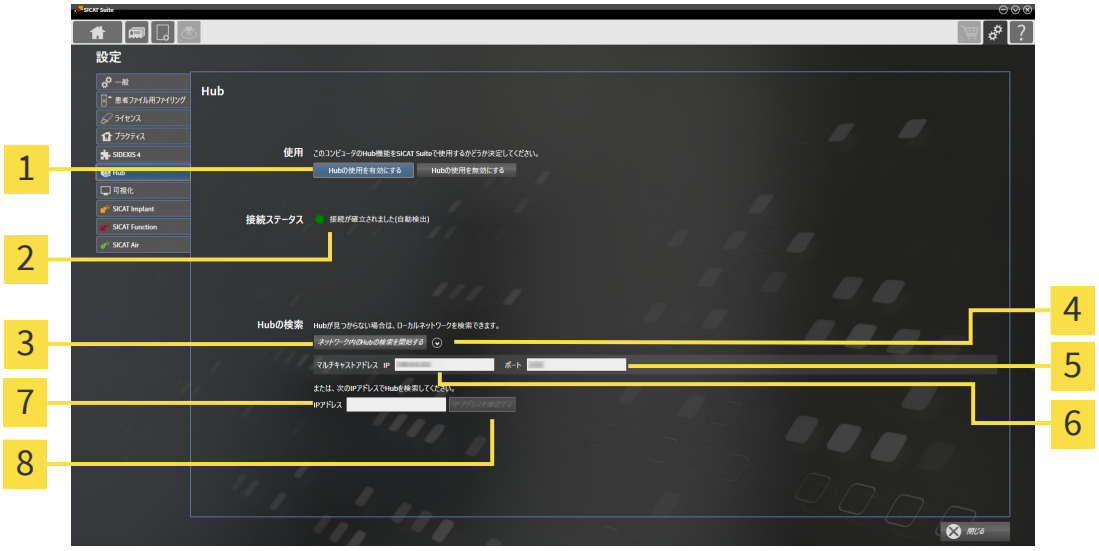
設定ではHubの使用を有効または無効にして接続設定を確認します。デフォルトでは、Hubの使用は無効になっています。

HUBの使用を有効にする

☑ Hubを使用するためのライセンスが有効になります。これに関する情報は *ライセンス [▶ページ 64]*を参照してください。

1. **ナビゲーションバー**で、**設定**のアイコンをクリックします。
   ▶ **設定**のウィンドウが開きます。

2. **Hub**のタブをクリックします。
   ▶ **Hub**ウィンドウが開きます。



1	**Hubの使用を有効にする**および**Hubの使用を無効にする**	5	**ポート**入力欄
2	**接続状況**	6	**マルチキャストアドレス**入力欄 IP
3	**ネットワーク内のHubの検索を開始する**のボタン	7	**IPアドレス**入力欄
4	表示および非表示する	8	**IP アドレスを確認する**のボタン

3. **Hubの使用を有効にする**のボタンをクリックします。
   ▶ SICAT SuiteはHubへの接続を試みます。
   ▶ **接続状況**の他に緑色のアイコンが表示されている場合、SICAT SuiteはHubへの接続を確立できています。
   ▶ **接続状況**の他に赤いアイコンが表示されている場合、SICAT SuiteはHubへの接続を確立できませんでした。

4. SICAT SuiteがHubに接続できなかった場合は、ここに表示されているものとは別のマルチキャストアドレスがHubに設定されているかどうかを確認してください。
   ネットワーク内のHubの検索を開始するのボタンの横にあるのアイコンをクリックします。
   - **マルチキャストアドレス**フィールドにHubに設定されているマルチキャストアドレスを入力します。デフォルトでは、マルチキャストアドレスは239.0.0.222です。
   - **ポート**フィールドにHubに設定されているポートを入力します。デフォルトでは、ポートは2222です。
   -**ネットワーク内のHubの検索を開始する**のボタンをクリックします。SICAT SuiteがHubを見つけると、緑色のアイコンが表示され、そのHubを使用できるようになります。

5. SICAT Suiteがマルチキャストアドレス経由でHubに接続できなかった場合は、HubのIPアドレスを直接入力して接続してみてください。
   - **IPアドレス**フィールドにHubのIPアドレスを入力して**IP アドレスを確認する**ボタンをクリックします。SICAT Suiteが指定のIPアドレスでHubを見つけた場合は、そのHubを使用できます。

6. SICAT SuiteがHubのマルチキャストアドレスまたはIPアドレスを介してHubに接続できなかった場合は、Hubのサポートに連絡してください。

HUBの使用を無効にする

1. **ナビゲーションバー**で、**設定**のアイコンをクリックします。

2. **設定**ウィンドウで**Hub**をクリックします。
   ▶ **Hub**ウィンドウが開きます。

3. **Hubの使用を無効にする**のボタンをクリックします。
   ▶ SICAT SuiteはHubの使用を無効にします。

38.5 可視化設定の変更

> ⚠ **注意**
>
> **表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。**
>
> SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。

> ⚠ **注意**
>
> **環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。**
>
> 1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
> 2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

可視化設定は、すべてのSICATアプリケーションのボリューム、診断オブジェクト、計画オブジェクトの可視化を決定します。

可視化 ウィンドウを開くには、次の手順で行います。

1. **設定**のアイコンをクリックします。
   ▶ **設定** のウィンドウが開きます。

2. **可視化**タブをクリックします。
   ▶ **可視化** のウィンドウが開きます。

1 タブ **可視化**

2 エリア **画質**

3 エリア **他のビューの更新**

4 エリア **線の太さ**

5 エリア **目線**

設定：

- **レイヤーの画質を向上させます。** - ソフトウェアが隣接するレイヤーを検知することにより、レイヤーの表示品質を改善します。高効率なコンピューターに限り、この設定をアクティブにしてください。
- **他のビューの更新** - 遅延更新は、別のレイヤーの遅延更新を犠牲にして作業に使用しているビューのインタラクティブ性を向上させます。遅延更新は、コンピューターにインタラクティブ性の不具合が確認された場合のみアクティブにします。
- **線の太さ** - 線の太さを変更します。太めの線は、プロジェクターでのプレゼンテーションに使用します。
- **目線** – **軸方向**レイヤービューと**矢状方向**レイヤービューの目線を切り替えます。

38.6 SICAT FUNCTION設定の変更

SICAT Functionの各種設定では、SICAT Functionの**TMJ**ワークスペースにおけるパニングやズーミングの同期を定義します。

SICAT Function設定を変更するには、次の手順で行います。

1. **設定**のアイコンをクリックします。
   ▶ **設定** のウィンドウが開きます。

2. **SICAT Function**タブをクリックします。
   ▶ **SICAT Function** のウィンドウが開きます。

1 タブ **SICAT Function**

2 エリア **TMJワークスペースのための設定をここでセットしてください。**

設定：

- **パンの同期**
- **ズームの同期**

SICAT Functionの**TMJ**ワークスペースでは、下顎頭を左側と右側とで同期させながら、ビューをパニングしたりズーミングしたりができますが、この同期のオンとオフは、上記の設定内容で切り替えることができます。

39 サポート

SICATでご利用いただけるサポート態勢を以下に挙げます。

- PDFドキュメント
- 連絡先情報
- SICAT SuiteやSICATの各種アプリケーションで、インストール済みのものに関するご案内

以下の操作で、処理を続けてください。

- *サポート態勢のページを開く [▶ページ 273]*

39.1 サポート態勢のページを開く

サポートウィンドウは、**サポート**のアイコンを**ナビゲーションバー**でクリック、またはF1のボタンを押すことによって開くことができます。

SICAT Suite**サポート**ウィンドウは次のタブで構成されます。

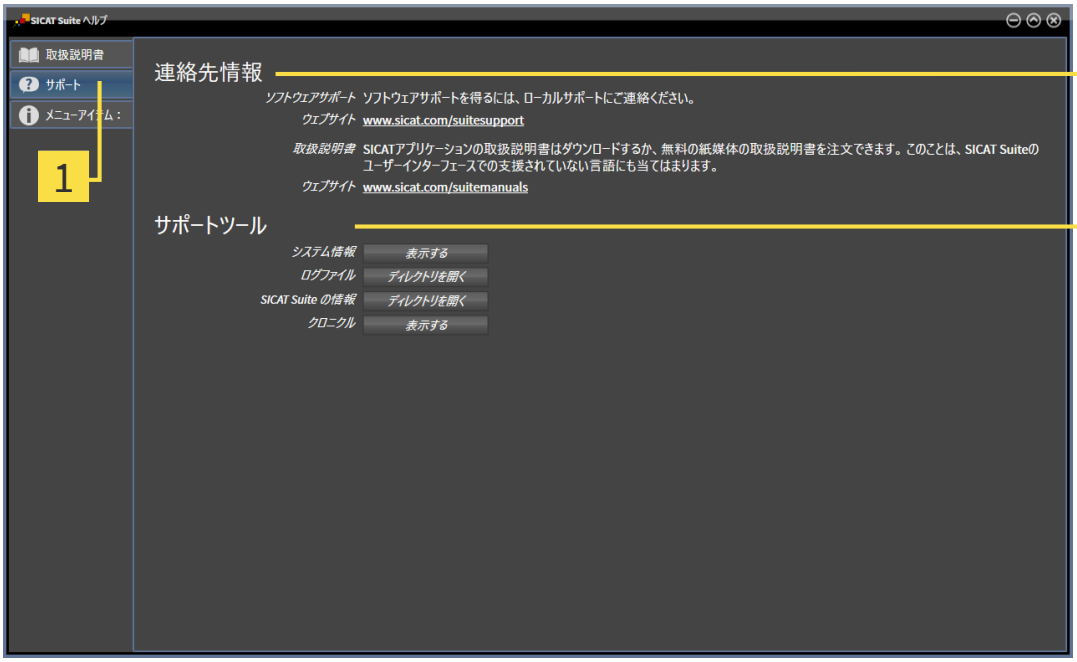
- **取扱説明書** - これに関する情報は*取扱説明書を開く [▶ページ 63]*を参照してください。

- **サポート** - これに関する情報は*連絡先情報およびサポートツール [▶ページ 274]*を参照してください。

- **メニューアイテム：** - これに関する情報はインフォメーションを参照してください。

39.2 連絡先情報およびサポートツール

サポートウインドウには、SICATサポートの補助をうけられるように、関連する全ての情報およびツールが含まれています。



1 **サポート**のタブ

3 **サポートツール**エリア

2 **連絡先情報**エリア

各種の取扱説明書を入手するときのお問い合わせ先は、**連絡先情報**エリアをご覧ください。

次のツールは**サポートツール**エリアで使用することができます。

- SICAT Function では、**システム情報**エリアで、**表示する**ボタンをクリックすると、OSのシステムに関する情報が開きます。
- SICAT Functionでは、**ログファイル**エリアで、**ディレクトリを開く**ボタンをクリックすると、Windowsエクスプローラのウィンドウで、SICAT Suiteのログディレクトリが開きます。
- SICAT Function では、**SICAT Suite の情報**エリアで、**ディレクトリを開く**ボタンをクリックすると、現時点でのインストール状況に関する情報をテキストファイルとしてエクスポートします。
- **SICAT Suite の情報**エリアでボタン**通知を表示する**をクリックするとSICAT Functionが通知ウィンドウを表示します。

39.3 インフォメーション

メニューアイテム：タブでは、複数のタブにSICAT Suiteおよびインストールされている全SICATアプリケーション経由で情報が表示されます。

40 データを書き込み禁止で開く

データを書き込み禁止で開くことができます。

スタンドアロンバージョンで変更を加えることなく、保存せずに閲覧ができるデータタイプは、ライセンスステータスによって異なります。

SICAT FUNCTIONライセンスの種類	変更せずに参照することはできますか？
なし	有、SICATデータ用
ビューア	有
フルバージョン	有、患者記録がロックされている場合

SICAT Functionのフルバージョンライセンスを有効にした場合にのみ、DICOMデータを表示できます。

を参照してください

▶ 患者ファイルを扱う [▶ 104]

41 SICAT FUNCTIONを閉じる

SICAT Functionを閉じるには、次の手順で行います。

X

- アクティブな患者ファイルのエリアで**閉じる**ボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteはアクティブな患者ファイルを保存します。

▶ SICAT Suiteはすべての SICATアプリケーションを閉じます。

▶ SICAT Suiteはアクティブな患者ファイルを閉じます。

42 SICAT SUITEを閉じる

- SICAT Suiteの右上の隅にある**閉じる**ボタンをクリックします。

► SICAT Suiteがフルバージョンで作動し、編集権限があり、スタディを開いている場合、全ての計画プロジェクトを保存します。

► SICAT Suiteが閉じます。

43 ショートカットキー

マウスポインタを特定の機能上に動かすと、SICAT Functionは機能の名称に加えて括弧内にショートカットキーを表示します。

次のショートカットキーはすべてのSICATアプリケーションで使用できます。

ショートカットキー	説明
A	角度測定を追加する
D	距離測定を追加する
F	アクティブなオブジェクトに焦点を合わせる
Ctrl + C	アクティブなビューの内容をクリップボードにコピーする
Ctrl + Z	前回のオブジェクト アクションを元に戻す
Ctrl + Y	前回戻したオブジェクト アクションをもう一度実行する
Del	アクティブなオブジェクトまたはオブジェクトグループを削除する
ESC	現在の操作を中断する（測定の追加など）
F1	有効なSICATアプリケーションで取扱説明書が開いている場合、**サポート**ウィンドウが開きます。

次のショートカットキーはSICAT Functionの**下顎のセグメンテーション**ウインドウで使用することができます。

ショートカットキー	説明
N	ナビゲーション
M	下顎骨をセグメントする
F	窩をセグメントする
B	背景をセグメントする

44 SICAT SUITEのアンインストール

SICAT Suiteアンインストールプログラムは、コンピューターに有効なライセンスを保持します。そのため、SICAT Suiteインストールプログラムはアンインストール前に、ライセンスを自動的に削除しないように警告します。SICAT Suiteを特定のコンピューターで使用するのをやめる場合、アンインストールする前にライセンスを無効にしてください。これに関する情報は*ワークステーションライセンスをライセンスプールへ返却する [▶ページ 72]*に記載されています。

アンインストールプログラムは、SICAT WebConnectorを自動的に閉じてしまうため、SICAT Suiteをアンインストールする前に、SICAT WebConnectorがすべての注文を完全にアップロードしているかを確認してください。SICAT WebConnectorに関する内容は、*SICAT WebConnector [▶ページ 255]*の節をご覧ください。

SICAT Suiteをアンインストールするには、次のように行います。

☑ SICAT WebConnector はすべての注文を正常にアップロードしました。

1. Windows**コントロールパネル**で**プログラムおよび機能**をクリックします。
   ▶ **プログラムおよび機能**のウィンドウが開きます。
2. リストから、SICAT Suiteのバージョンが含まれる**SICAT Suite**項目を選択します。
3. **アンインストール**ボタンをクリックし、確認メッセージで確認してください。
   ▶ アンインストールプログラムが起動します。
   ▶ アンインストールが終了すると、**確認**ウインドウが開きます。
4. **終了する**のボタンをクリックします。

▶ SICAT Suiteアンインストールプログラムが閉じます。

SICAT Suiteアンインストールプログラムを開くために、SICAT-Suiteインストールプログラムを SICAT Suiteがすでにインストールされているコンピューター上で起動することができます。

SICAT Suiteアンインストールプログラムは、SICAT Suiteと一緒にインストールされたいくつかの前提ソフトウェアのアンインストールプログラムを呼び出します。別のアプリケーションが引き続き前提ソフトウェアを必要としている場合、これらは保持されます。

45 SICAT SUITE患者データベースをアンインストールする

SICAT Suite患者データベースをアンインストールするには、次の手順で行います：

☑ SICAT Suiteは事前にアンインストールされています。

1. Windows**コントロールパネル**で**プログラムおよび機能**をクリックします。

   ▶ **プログラムおよび機能**のウィンドウが開きます。

2. リストから**SICAT Suite患者データベース**項目を選択します。この項目には、SICAT Suite患者データベースのバージョン番号が含まれています。

   ▶ SICAT Suite患者データベースのアンインストールプログラムが起動します。**オプション**のウィンドウが開きます。

3. SICAT Suite患者データベースを完全にアンインストールするには、**完全にアンインストールします**オプション欄を選択するか、**アプリと機能から削除します**オプション欄を選択して、**プログラムおよび機能**にあるSICAT Suite患者データベースの項目のみを削除します。

4. SICAT Suite患者データベースを完全にアンインストールする場合は、患者データを保存したときや不要になったときに**これにより、私は、患者データバンクのバックアップがあるか患者データバンクが必要とされないことを確認します。**チェックボックスを有効にします。

5. **アンインストール**ボタンをクリックして、プロンプトを確認します。

   ▶ **進捗状況**のウィンドウが開きます。

► SICAT Suite患者データベースがアンインストールされます。

► アンインストールが完了すると、**要約**のウィンドウが開きます。

6. **終了する**のボタンをクリックします。

► SICAT Suite患者データベースのアンインストールプログラムが終了します。

46 安全に関する注意事項

3D X線撮影図

⚠ **注意**

不適切なX線機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、医療機器として承認されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

⚠ **注意**

不適切な3D X線撮影画像は、結果として、誤診や誤った処置を招くことになりかねません。

3D X線撮影画像を表示したら、画質、精度、方向が正しいことを必ず確認してください。

⚠ **注意**

DICOMに適合していないX線機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

利用する3D X線撮影画像は、DICOM規格に適合することが証明されているX線撮影装置で撮影したものに限定してください。

表示条件

⚠ **注意**

表示品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

SICATアプリケーションを使用する前に、表示品質が十分であるか確認してください（例えば、SMPTEテストビューで）。

⚠ **注意**

環境の表示条件が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

1. 環境条件が十分な表示品質を可能にする場合のみ、計画を実行してください。例えば、照明が十分であるか確認してください。
2. SMPTEテスト画像を使用して、表示品質が十分か確認してください。

データ管理

⚠ **注意**

患者名や3D X線撮影画像の突き合わせでミスがあると、結果として、患者を撮影した画像の取り違えを招くことになりかねません。

3D X線撮影ビューで、インポートしようとしているものや、すでにSICATのアプリケーションに読込済みのものがあれば、突き合わせる先の患者名が正しいこと、突き合わせる撮影画像に関する情報が正しいことをいずれもチェックしてください。

⚠ 注意

オリジナルデータを削除すると、データを消失するおそれがあります。

インポートした後にオリジナルデータを削除しないでください。

⚠ 注意

患者ファイリングのデータバックアップシステムが故障すると、患者データが完全に消失するおそれがあります。

定期的に全ての患者ファイリングのデータバックアップを取ってください。

⚠ 注意

患者ファイルを削除すると、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルも全て削除されます。

患者ファイルの削除は、それに含まれる3D X線撮影画像、計画プロジェクトまたはPDFファイルが全て再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

⚠ 注意

削除した患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトは元に戻すことができません。

患者ファイル、撮影結果、3D X線撮影画像、計画プロジェクトの削除は、これらのデータが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

⚠ 注意

3D X線撮影画像を削除すると、それに依存する計画プロジェクトも全て削除されます。

3D X線撮影画像の削除は、それに依存する全計画プロジェクトが再び必要となることはないことが確実な場合のみ行ってください。

ネットワーク

⚠ 注意

SICATアプリケーションデータを信頼できないネットワークファイルシステムに保存すると、データの損失につながるおそれがあります。

ネットワーク管理者と共に、SICATアプリケーションデータを希望のネットワークファイルシステムに保存できるようにしてください。

⚠ 注意

SICAT Suiteおよび付属のSICATアプリケーションを他の機器と一つのコンピューターネットワークまたはメモリーネットワーク内で供用すると、患者、ユーザー、その他の人に未知の危険が及ぶおそれがあります。

ネットワークに関連する危険を特定、分析、判断するため、各組織内で規則を作成してください。

⚠ 注意

ネットワーク環境を変更すると、新しい危険につながるおそれがあります。例えば、ネットワーク構成の変更、追加機器またはコンポーネントのネットワークへの接続、機器またはコンポーネントのネットワークからの分離、ネットワーク機器またはコンポーネントのアップデートまたはアップグレードなどです。

ネットワークを変更する度に、新たなネットワークリスク分析を実施してください。

オペレーターの資格

⚠ 注意

資格のない者が本ソフトウェアを使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

ソフトウェアの使用は、必ず専門の知識のある有資格者が行ってください。

安全性

⚠ 注意

情報システムにあるセキュリティの脆弱性は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

1. 情報処理のシステム環境において、セキュリティ上の脅威を発見し、それらを回避するために、組織内部で指針を定めて周知するよう、徹底してください。
2. 最新のウィルススキャナをインストールし、ウィルススキャンを実行してください。
3. ウィルススキャナの定義ファイルを定期的に更新してください。

⚠ 注意

ワークステーションへの不正なアクセスは、患者データの秘密情報およびインテグリティに関するリスクにつながるおそれがあります。

ワークステーションへのアクセスは資格のある人に限定してください。

⚠ 注意

サイバーセキュリティの問題は、患者データへの不正なアクセスにつながり、患者データのセキュリティまたはインテグリティに関するリスクの原因になるおそれがあります。

お手元のSICATアプリケーションにおいて、サイバーセキュリティにかかわるトラブルの疑いがあるときは、直ちにテクニカルサポートまで、ご連絡ください。

ソフトウェアインストール

⚠ **注意**

ソフトウェアに改変を加えると、結果として、このソフトウェアが起動しなかったり、または正常に機能しない可能性があります。

1. ソフトウェアのインストールに変更を加えないでください。
2. ソフトウェアのインストールディレクトリにあるコンポーネントを削除または変更しないでください。

⚠ **注意**

お手元のシステムがシステム要件を満たしていない場合は、結果として、このソフトウェアが起動しなくなったり、または正常に機能しない可能性があります。

ソフトウェアをインストールする前に、ご使用のシステムが最小ソフトウェア/ハードウェア要件を満たしているか確認してください。

⚠ **注意**

不十分な承認は、ソフトウェアインストールまたはソフトウェアアップデートが失敗する原因になる場合があります。

ソフトウェアをインストールまたはアップデートする場合、使用するシステムに十分な承認があることを確認してください。

注文

⚠ **注意**

注文に誤ったデータがあると、誤った注文となる可能性があります。

注文をするときには、注文のための正しいデータの選択と転送を確認してください。

⚠ **注意**

注文を誤ると誤った治療の原因となるおそれがあります。

1. 注文を送信する前にご注文内容をご確認ください。
2. 注文の適切な治療計画を確認してください。

顎運動データ

⚠ **注意**

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。

⚠ **注意**

不適切な顎運動データ用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の顎運動データを使用してください。

⚠ **注意**

使用目的に適合しない顎運動撮影機器を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

必ずSICAT Functionで顎運動データの利用をカバーするという使用目的に適合する顎運動撮影機器を使用してください。

⚠ **注意**

対応していない顎運動撮影機器または互換性のない記録装置を使用すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

顎運動データの記録にあたり、顎運動の記録機器（例えば、SICAT JMT⁺）と、これに適合する、採得用の器具（例えば、SICAT Fusion Bite）をコンビにしますが、これは、SICAT Functionがサポートするものを使用し、また、それ以外の機器や器具によるデータは、利用しないでください。

⚠ **注意**

間違って撮影された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データおよび3D X線撮影画像は、各機器のメーカーの指示に従って撮影してください。指定されたタイプの参照オブジェクトを使用してください。

⚠ **注意**

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない顎運動データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

顎運動データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。

⚠ **注意**

顎運動データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした顎運動データのインテグリティと品質を確認してください。

⚠ **注意**

顎運動データの品質、正確性、解像度が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質、解像度、正確性の顎運動データを利用してください。

⚠ 注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または3D X線撮影画像の品質が十分でない場合、マーカーおよび参照オブジェクトを認識するメカニズムにエラーが生じるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず正確なマーカー/参照オブジェクト認識を可能にする3D X線撮影画像を使用してください。

⚠ 注意

参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が間違っていると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

JMTウィザードが参照オブジェクトを認識した後、3D X線撮影画像を考慮しながら、参照オブジェクトの位置、タイプ、配置が正しいか確認してください。

⚠ 注意

間違って記録された顎運動データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された顎運動データが3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

光学印象

⚠ 注意

3D X線撮影画像以外のデータを唯一の情報源として使用すると、結果として、診断や治療を誤ることになりかねません。

1. 診断や治療計画の立案にあたって利用する情報源としては、3D X線撮影画像を優先させてください。
2. 光学印象データなどの他のデータは、補助的な情報源としてのみ利用してください。

⚠ 注意

不適切な光学印象用機器を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず医療機器として承認されている機器の光学印象データを使用してください。

⚠ 注意

3D X線撮影画像の患者と日付が一致しない光学印象データを使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

患者データの患者と日付が、表示された3D X線撮影画像の患者および日付と一致していることを確認してください。

⚠ 注意

光学印象データのインテグリティまたは品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

インポートした光学印象データのインテグリティと品質を確認してください。

⚠ 注意

光学印象データの品質および正確性が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

必ず目的とする診断および治療のために十分な品質および正確性の光学印象データを利用してください。

⚠ 注意

過度なアーチファクト、不十分な解像度、または記録のための点の欠如は、光学印象の記録に失敗する原因になるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトです。

必ず精確な記録を可能にする光学印象と3D X線撮影画像のみを使用してください。

⚠ 注意

互いに一致しない光学印象の記録プロセスでマークを選択すると、間違った診断および治療につながるおそれがあります。

光学印象データを記録する場合、3D X線撮影画像と光学印象に一致するマーキングで慎重に選択します。

⚠ 注意

間違って記録された光学印象データおよび3D X線撮影画像を使用すると、間違った診断および治療になるおそれがあります。

記録された光学印象が3D X線撮影画像に対して正確に配置されているか確認してください。

セグメンテーション

⚠ 注意

3D X線撮影画像の過度なアーチファクトまたは不十分な解像度は、セグメンテーションプロセスの失敗または不十分な結果につながるおそれがあります。例：3D X線撮影画像の過度なアーチファクトは、モーション/メタルアーチファクトの可能性があります。

解剖学的構造関連のセグメンテーションの品質が十分である3D X線撮影画像のみ使用してください。

⚠ 注意

セグメンテーションの品質が十分でない場合、間違った診断および治療になるおそれがあります。

セグメンテーションの品質が使用目的に対して十分であるか確認してください。

47 精度

次の表はすべてのSICATアプリケーションの精度を示しています。

距離測定の精度	< 100 µm
角度測定の精度	< 1度
表示精度	< 20 µm

顎運動データに関する表示の正確性	0.6 mm以下

用語集

3D X線撮影画像

3D X線撮影画像とは容積測定タイプのX線画像のことです。

ADA

American Dental Association（米国歯科医師会）

FDI

Fédération Dentaire Internationale（国際歯科連盟）

Hub

サーバーとして機能し、ローカルネットワーク上の異なるデバイス間でデータを交換できるようにする外付けストレージ。

SICAT JMT⁺

SICAT JMT⁺は下顎の動きを記録します。

SICATポータル

SICATポータルは、SICATにスプリントを注文することのできるインターネットページです。

SIXD

光学印象を交換するためのファイルフォーマット。

SMPTE

Society of Motion Picture and Television Engineers（映画テレビ技術者協会）

SSI

光学印象を交換するためのファイルフォーマット。

STL

Surface Tessellation Language、メッシュデータを交換するための標準ファイルフォーマット（例えば、光学印象を含む）。

アプリケーション

SICATの各種アプリケーションは、いずれもSICAT Suiteに付属するプログラムです。

ナビゲーションバー

SICAT Suiteの上部にあるナビゲーションバーには、SICAT Suiteの最も重要なアイコンが含まれます。患者ファイルがアクティブになっている場合、ナビゲーションバーを使用して患者ファイルと各種アプリケーション間で切り替えることができます。

バイトフォーク

バイトフォークは、SICATが3D X線撮影画像のデータと顎運動データを一致させるために使用するX線不透過性マーカー付きバイトプレートです。

フレーム

3Dビューでは、フレームに2Dレイヤービューの位置が表示されます。

患者ファイリング

患者ファイリングには患者ファイルが含まれています。バージョン2.0.20までのSICAT Suiteは、患者ファイリングをローカルファイルシステムまたはネットワークファイルシステム上のフォルダ内に保存します。

患者ファイル

患者ファイルには、特定の患者に属するすべての3D撮影画像および計画プロジェクトが含まれます。SICAT Suiteは、患者ファイルを患者データバンクに保存します。

計画プロジェクト

計画プロジェクトは、SICATアプリケーションの3D X線撮影画像をベースにした計画データで構成されます。

光学印象

光学印象は、歯、印象材または石膏モデルの3D表面撮影の結果です。

撮影結果

3D治療計画スタディは、3D X線撮影画像と、それに関係する治療計画プロジェクトとで構成されます。

十字線

十字線は別のレイヤービューとの交差線です。

通知ウィンドウ

通知ウィンドウとは、完了した手順に関するメッセージを、モニター画面の右下端に表示するものをいいます。

索引

アイコン

ビュー 141
　トリミング部分を移動させる 148
　十字線、フレーム 150
　輝度およびコントラスト 146
　最大化と復元 145
　スクリーンショットの作成 155
　スクロール 149
　ズーミング 148
　リセットする 154
アプリケーションを切り替える 62
ワークスペース
　調整する 139
　ワークスペースのツールバー 120
　MPR/放射性 137
　パノラマ 134
　スクリーンショットの作成 140
　リセットする 139
ユーザーインターフェース
　SICAT Function 120
　SICAT Suite 58
このバージョンの特徴 49
注文
　再起動後の自動アップロード 256
　アップロードの中断および続行 256
　SICATポータル 254
　スプリントをショッピングカートに入れる 247
運動の軌跡
　検査ウィンドウにより調整する 218
運動経路
　十字線により調整する 219
CEREC
　咬合器値 226
CEマーキング 298
データを書き込み禁止で開く 276
データエクスポート 240
　「データの転送」ウィンドウを開く 241
データインポート
　インポート関係の設定内容 95
　新規患者ファイルに帰属させる 96
設定
　SICAT Function設定の表示または変更 271
　可視化設定の変更 269
Firewallの設定
　WebConnector 12
グレースケール値 168
Hub
　使用を有効または無効にする 267
JMTエリア 214
　ブックマークを管理する 215
顎運動データ 183
　機器 184
　インポートして記録する 186
下顎骨をセグメントする 191
測定
　距離測定を追加する 235
　測定点を移動する 238
　測定値を移動する 238
　概要 234
　移動 238
モニターキャリブレーション 264
オブジェクト
　SICAT Functionオブジェクト 130
閉じる 278
スクリーンショット
　ビューで作成する 155
　ワークスペースを使って作成する 140
セグメンテーション 190
　下顎骨をセグメントする 191
SICAT Function
　ユーザーインターフェース 120
　閉じる 277
SICAT Functionのスタディ
　スタンドアロン版内 112
SICATポータル 254
SICAT Suite
　ユーザーインターフェース 58
　閉じる 278
　インストールする 22, 39
　開始する 57
　更新する 48
　修理する 48
SICAT Suite Homeウィンドウ 60
SICAT Suiteの概要 19
SICAT Suite患者データベース
　アンインストールする 281
　インストールする 30
SICAT Suite患者データベースのアンインストール 281

SICAT WebConnector 255
安全に関する情報 14
危険レベル 15
オペレーターの資格 16
SMPTEテストパターン 264
スタンドアロン版
SICAT Functionのスタディ 112
STLインポート 206
サポート 272
TMJワークスペース
Bonwillの三角を利用する 223
上下顎中切歯の交点をセットする 222
セグメンテーション限度の表示 224
軌跡点を移動する 221
TMJワークスペース 136
一般的なお知らせ 135
下顎頭を中心に顎運動を表示する 225
機能 220
咬合器値 226
UDI 298
切替
アプリケーション 62
バージョン
様々な 49
WebConnector
Firewallの設定 12
ワークフロー・ステップ
注文する 123
診断する 123
準備する 122
ワークフローのツールバー 122
運動経路 213
3D ビューで表示する 217
横長ビュー
傾斜 153
解剖学的な咬合 213
開始する
SICAT Suite 57
顎運動データ
エクスポートする 216
解剖学的運動経路を再生する 214
静的な顎関係または顎運動を選択する 214
患者データバンク 77
「患者データバンク」ウィンドウを開く 78
サーバーへの接続を追加する 82
ローカル接続を追加する 81
患者ファイリングを転送する 87
接続を削除します。 86
接続を追加します 79
別の患者データバンクを有効にする 84
患者の対象グループ 7
患者ファイリング 77
転送 87
患者ファイル 100
「患者ファイル概要」ウインドウを開く 101
3D X線撮影画像および計画プロジェクトを削除する 117
ブロック 100, 114, 119
ブロック解除 114, 119
患者ファイルを扱う 104
患者ファイル概要から開く 108
検索 103
更新する 102
削除 115
属性を変更する 106
適用 87
並び替え分類を行う 103
編集する 100
保存 100
禁忌 7
傾斜
ビュー 153
検査ウィンドウ
パノラマワークスペースで 133
最大化する 151
非表示/表示 151
言語 19
光学印象
CERECのスキャンジョブをHubに送信する 203
Hubからダウンロードする 200
STLインポート 206
インポートルート 197
インポート形式 197
カラー表示する 167
ファイルからインポート 204
概要 197
記録と確認 209
計画および実施の基礎として 197
他のSICATアプリケーションから再使用する 207
更新
SICAT Suite 48
更新する
SICAT Suite 48
最初のステップ 53
最大化する
検査ウィンドウ 151

削除する
オブジェクト 128
使用目的 7
取扱説明書
開く 63
記号、スタイル 17
取扱説明書の概要 18
修理する
SICAT Suite 48
縦長ビュー
傾斜 153
切替
光学印象のカラー表示 167
接続設定
WebConnector 12
設定
クリニック情報を表示または変更する 266
一般的な設定内容を確認する、変更する 262
概要 261
測定
角度測定を追加する 236
対象ユーザー 7
注文
カートをチェックする 252
データを別のコンピュータから送信する 257
バックグランドでのデータ送信 253
ワークフローの概要 244
治療位置に上書きする 245
治療位置の設定 245
治療位置をキャンセルする 245
調整する
パノラマ エリア 179
ボリュームの配置 174
適応症 7
非表示
オブジェクト 127
検査ウィンドウ 151
表示
オブジェクト 127
検査ウィンドウ 151
変更
パノラマ エリア 179
ボリュームの配置 174
無効にする
Hubの使用 267
有効にする
Hubの使用 267
容量
配置する 174
用途 7
臨床的有用性 8
咬合器値
一般的なお知らせ 226
下顎頭が視認可能な時に読み込む 230
下顎頭が視認不可能な時に読み込む 232
窩をセグメントする 194

数字

3D X線データ
配置する 174
3Dビュー
切り抜きを移動する 165
表示モードを切り替える 162
表示タイプ 160
3Dビュー 156
光学印象のカラー表示を切り替える 167
構成設定を行う 163
視線方向を変更する 157

あ

アイコン 298
アンインストール 280

い

インストール
SICAT Suite 39
SICAT Suiteのセットアップ 22
SICAT Suite患者データベース 30
SICAT Suite患者データベースのアンインストール 281
アンインストール 280
システム要件 11
インストールする
SICAT Suite 39
SICAT Suiteのセットアップ 22
SICAT Suite患者データベース 30
システム要件 11
インストールの概要 21

お

オブジェクト
オブジェクトアクションを元に戻し、もう一度実行する 128

オブジェクトおよびオブジェクトグループの表示/非表示 127
オブジェクトおよびオブジェクトグループをアクティブにする 126
オブジェクトグループの開閉 126
オブジェクトツールバー 128
オブジェクトバー 124
削除する 128
焦点を合わせる 128

か

カート
開く 251

く

グレースケール値
調整する 170

さ

サーバー 26, 34
サーバーに基づく患者データバンク 26, 34
サポート
サポートウィンドウを開く 273
ツール 274
ヘルプを開く 63
製品情報 275
連絡先情報 274

し

システムの必要条件 11
システム要件 11
ソフトウェア要件 12
ハードウェア要件 11
ショートカットキー 279
シングルユーザー 24, 31

せ

セグメンテーション
窩をセグメントする 194

そ

ソフトウェアインストール
SICAT Suite 22, 39
SICAT Suite患者データベース 30

て

データインポート 89
データを選択する 93
既存の患者ファイルに追加する 97
データエクスポート
データのエクスポート 242

は

パノラマ エリア 173
調整する 179

ひ

ビュー
画像のツールバー 142
傾斜 153
検査ウィンドウの移動 151
検査ウィンドウを非表示、表示、および最大化する 151
切替 144
ビルド番号 298

ふ

ブロック 100, 114, 119

ほ

ボリュームの配置 172
調整する 174

ゆ

ユーザーインターフェース
SICAT Suite Homeウィンドウ 60

ら

ライセンス 64
ライセンスプールに返却する 72
自動アクティベート 68
手動でアクティブ化する 70
表示する 67

ろ

ローカルな患者データ管理 24, 31
ロックアイコン 100, 114, 119
ロット番号 298, 298

わ

ワークステーション 27
ワークスペース 132
TMJ 135
切り替える 138
ワークフロー 53

記号の説明

アイコン

注意！添付書類を参照してください。

www.sicat.com/suitemanualsで使用するための電子指示に従ってください。

ビルド ビルド番号

UDI 機器固有識別子（Unique Device Identifier）

メーカー

ロット番号

医療機器

CE 0197

TÜVRheinland LGA Products GmbH、Tillystrasse 2、90431ニュルンベルクの届出機関番号を含むCEマーキング

ソフトウェアのロット番号

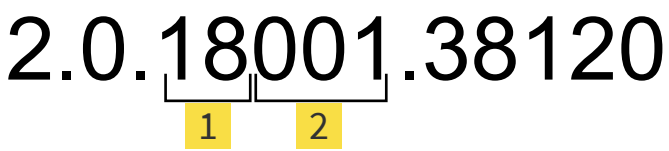
ソフトウェアに表示されているソフトウェアロット番号。これに関する情報は*インフォメーション [▶ページ 275]*を参照してください。

V2.0.40

生産データ

ソフトウェアの製造日は、ソフトウェアに表示されているビルド番号から読み取ることができます。これに関する情報は*インフォメーション [▶ページ 275]*を参照してください。

ビルド番号の例：



1 ソフトウェアの製造年 (18は2018年を表します)

2 ソフトウェアの製造日 (001は1月を表します)

状態: 2025-07-10

お問い合わせ先

メーカー

SICAT GMBH & CO. KG

FRIESDORFER STR. 131-135

53175 BONN、ドイツ

WWW.SICAT.COM

CE 0197

文書ID： DA70IFU014

世界各地のサポート

WWW.SICAT.COM/SUITESUPPORT

© 2021 SICAT GmbH & Co. KG

全ての権利は当社に帰属します。この取扱説明書につきましては、翻訳を含め、全部または一部の別を問わず、複写をお断りいたします。ただし、SICAT社が書面により承諾している場合を除きます。

本取扱説明書に記載されている情報は発行当時のものであり、予告なしに変更される場合があります。

言及または表示されたすべての製品、ブランド、およびロゴはそれらの各所有者に帰属します。

医療機器製造販売認証番号：227AABZI00055000	
販売名　：シーキャット　ＪＭＴ＋	
一般的名称　：歯科用下顎運動測定器	
分類　：管理医療機器　特定保守管理医療機器	
選任外国製造医療機器等製造販売業者 デンツプライシロナ株式会社 東京都港区麻布台1-8-10　麻布偕成ビル	外国特例認証取得者 Sirona Dental Systems GmbH （ドイツ連邦共和国） 外国製造業者 SICAT GmbH & Co. KG （ドイツ連邦共和国）

SICAT